



取扱説明書

よくお読みになってご使用ください。
取扱説明書は車の中に保管しましょう。

GR *COROLLA*

 **TOYOTA**

イラスト目次

イラストから検索

安全・安心のために

お客様に**必ずお読みいただきたいこと**
(主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置)

1

走行に関する情報表示

走行に関する情報を表示する計器類の見方
(主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ)

2

運転する前に

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整
(主な項目：キー、ドア、シート)

3

運転

運転に必要な操作やアドバイス
(主な項目：エンジン始動のしかた、給油のしかた)

4

室内装備・機能

室内装備の使い方など
(主な項目：エアコン・収納装備の使い方)

5

お手入れのしかた

車のお手入れ・メンテナンスの方法
(主な項目：内装・外装の手入れ、電球の交換)

6

万一の場合には

故障したときや、緊急時などの対処
(主な項目：バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処)

7

車両情報

車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報
(主な項目：指定燃料、各オイル量、タイヤ空気圧)

8

さくいん

症状から検索

音から検索

アルファベットで検索

五十音で検索

知っておいていただきたいこと	5
本書の見方	10
検索のしかた	11
イラスト目次	12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために	
運転する前に	22
安全なドライブのために	23
シートベルト	25
SRS エアバッグ	28
排気ガスに対する注意	34
1-2. お子さまの安全	
お子さまを乗せるときは	35
チャイルドシート	36
1-3. 盗難防止装置	
エンジンイモビライザーシステム	50

2 走行に関する情報表示

2-1. 計器の見方	
警告灯／表示灯	52
計器類	56
マルチインフォメーションディスプレイ	61
ヘッドアップディスプレイ	69
燃費画面	73

3 運転する前に

3-1. キー	
キー	76
デジタルキー	79
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
ドア（フロントドア・リヤドア）	82
バックドア	86
スマートエントリー&スタートシステム	89

3-3. シートの調整	
フロントシート	94
リヤシート	95
ヘッドレスト	96
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	99
インナーミラー	100
ドアミラー	101
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウインドウ	103
3-6. お好み設定	
マイセッティング	106

4 運転

4-1. 運転にあたって	
運転にあたって	110
荷物を積むときの注意	118
4-2. 運転のしかた	
エンジン（イグニッション）スイッチ	120
オートマチックトランスミッション	125
マニュアルトランスミッション	129
方向指示レバー	131
パーキングブレーキ	132
4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方	
ランプスイッチ	133
AHB（オートマチックハイビーム）	136
リヤフォグランプスイッチ	139
ワイパー&ウォッシャー（フロント）	140
ワイパー&ウォッシャー（リヤ）	141
4-4. 給油のしかた	
給油口の開け方	143

4-5. 運転支援装置について

ソフトウェアアップデートを確認する	145
Toyota Safety Sense	147
PCS (プリクラッシュセーフティ)	153
LTA (レーントレーシングアシスト)	162
LDA (レーンディパーチャーアラート)	166
PDA (プロアクティブドライビングアシスト)	171
RSA (ロードサインアシスト)	176
レーダークルーズコントロール (停止保持機能無し)	179
レーダークルーズコントロール	188
クルーズコントロール	196
発進遅れ告知機能	199
BSM (ブラインドスポットモニター)	200
クリアランスソナー	205
RCTA (リヤクロストラフィックアラート)	211
PKSB (パーキングサポートブレーキ)	216
パーキングサポートブレーキ (前後方静止物)	220
パーキングサポートブレーキ (後方接近車両)	222
安心降車アシスト	223
ドライブモードセレクトスイッチ	227
ローンチコントロール (オートマチック車)	228
4WD モードセレクトスイッチ	230
サーキットモード	231
運転を補助する装置	233

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	240
--------	-----

5 室内装備・機能

5-1. エアコンとデフォグガーの使い方

オートエアコン	244
ステアリングヒーター/シートヒーター	249

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	251
-------	-----

5-3. 収納装備

収納装備一覧	253
ラゲージルーム内装備	256

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備	258
----------	-----

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	268
内装の手入れ	272
ウルトラスエード® の手入れ	274

6-2. マットクリア塗装のお手入れのしかた

マットクリア塗装とは	276
洗車のしかた	280
よくあるご質問	283

6-3. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	286
ガレージジャッキ	288
ウォッシャー液の補充	289
タイヤについて	290
タイヤの交換	292
タイヤ空気圧について	296
エアコンフィルターの交換	297
電子キーの電池交換	299
ヒューズの点検・交換	301
電球 (バルブ) の交換	303

7 万ーの場合には

7-1. まず初めに

故障したときは	308
非常点滅灯（ハザードランプ）...	309
発炎筒	309
車両を緊急停止するには.....	310
水没・冠水したときは	311
車中泊が必要なときは	312

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	313
フューエルポンプシャットオフシステム	317
警告灯がついたときは	318
警告メッセージが表示されたときは	324
パンクしたときは	329
エンジンがかからないときは.....	339
キーをなくしたときは	340
電子キーが正常に働かないときは	341
バッテリーがあがったときは.....	343
オーバーヒートしたときは.....	347
スタックしたときは	349

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....	352
-----------------------------	-----

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧	357
----------------------	-----

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）	370
車から音が鳴ったときは（音さくいん）	372

アルファベット順さくいん	374
--------------------	-----

五十音順さくいん	376
----------------	-----

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- 1 トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 1 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

また、このような改造は Toyota Safety Sense のような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をする恐れがあり危険です。

- 1 ハンドルの改造は絶対にしない

でください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 1 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。

- ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換

異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。

- ・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし

電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

RF 送信機の取り付けについては、P.8 も参照してください。

- 1 フロントウィンドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

サイバー攻撃のリスクについて

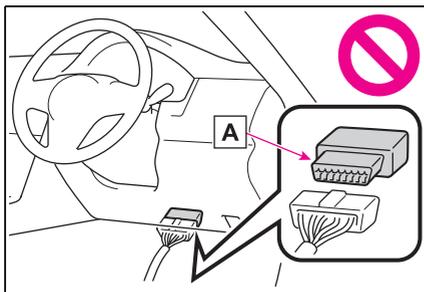
電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通じてサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出などにつながるおそれがあります。

トヨタ純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関してトヨタは保証いたしません。

故障診断コネクタなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクタ^Aなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けしないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装着されています。

n コンピュータに記録されるデータ^{※1}

^{※1}グレード/オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- l 車両の挙動に関する基本的なデータ（エンジン回転数・アクセルペダルの操作状況・ブレーキペダルの操作状況、車速など）
- l 運転支援システムの作動状況（システムの作動に付随して記録される車両の挙動に関する基本的なデータも含まれます）
- l 運転支援システムのセンサーのデータ

l 画像データ（前方・後方・周辺カメラの画像）^{※2}

^{※2}車両には複数のカメラが付いています。どのカメラが画像を記録しているかはトヨタ販売店にお問い合わせください。

l 位置情報

コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

また、お客様個人を特定できる種類のデータ（氏名・性別・年齢など）は車両に記録されません。

n Toyota Safety Sense によるデータの記録・個人情報の取り扱いについて

トヨタ自動車は Toyota Safety Sense により車両に記録された各システムの作動状況・各センサーのデータ・画像データ（前方・後方カメラの画像）・位置情報を次の場合に該当するときに限り、お客様が販売店に入庫されたときに取得するほか、トヨタ自動車のサーバーに送信する形で取得します。

- l 一定の衝突や衝突に近い状態が発生した場合
- l 渋滞や悪路、悪天候などの特定の交通環境にある道路を走行している場合
- l 新規開通道路、拡張された道路などの特定の道路を走行している場合
- l エンジン始動後の一定のタイミング

Toyota Safety Sense によって記録され、トヨタ自動車取得したデータの取り扱いについての詳細は、T-Connect ご契約時にご署名いただいた留意事項説明をご覧ください。

n データの利用目的と第三者提供について

コンピューターに記録されたデータは、事故解析・故障診断、自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術・商品開発、品質向上など）、データを利用した商品・サービス（自動運転・先進安全技術用の地図の提供、走行状況の分析・道路インフラなど走行環境の分析・交通状況の配信など）があります。以下、これらを「個別サービス」といいます）および事故に関するお客様対応、事故の解決のための協議を目的に利用することがあります。

なお、次の場合に、トヨタ自動車は、取得したデータを第三者へ開示または提供することがあります。

- ┆ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ┆ 警察／裁判所／政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ┆ トヨタ自動車が訴訟で使用する場合
 - ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

Toyota Safety Sense によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータについては、上記に加え、次の場合に第三者に提供することがあります。

- ┆ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合。トヨタ以外の第三者が提供する車両記録データを利用する個別サービスに申し込みされた場合などであって、第三者がトヨタに代わり、トヨタから第三者へのデータの提供についてお客様の同意を取得した場合も含みます。
- ┆ 自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術／商品開発／品質向上など）の目的で、自動運転ソフト

ウェア関連の会社などの第三者に提供する場合

- ┆ 地図関連技術のための研究開発の目的で、地図作成会社などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合
- ┆ 道路整備などの目的で、地方自治体などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合
- ┆ 交通状況配信などの個別サービスの申込者に対して、画像データと位置情報を加工した情報を提供する場合
- ┆ トヨタと別途契約を締結した各自治体の消防組織に対して、火災発生時または救急出動時に、現場付近の画像データを提供する場合

□ 知識

車両に記録されている画像情報は、トヨタ販売店にて、消去することが可能です。また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

Toyota Safety Sense によって研究開発、および個別サービスの提供を目的としてトヨタのサーバーに送信する形で取得しているデータの取得と利用を停止したい場合は、My TOYOTA より停止いただけます。詳細は、My TOYOTA のマイページをご覧ください。

T-Connect によるデータの取り扱いについて

お客様が T-Connect をご利用の場合、記録データとその使用について、T-Connect 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。

す。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせ使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

Ⅰ EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- Ⅰ EFI コンピュータ
 - Ⅰ Toyota Safety Sense
 - Ⅰ ABS（アンチロックブレーキシステム）
 - Ⅰ SRS エアバッグ
 - Ⅰ シートベルトプリテンショナー
- 悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載

載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

アクセサリパーツ・用品について

下記サイトより取扱説明書（デジタル配信）をご確認いただけます。ご購入いただきましたアクセサリパーツの取扱説明書をご使用前にお読みいただき、記載された内容に従って正しくお使いください。

商品の使用方法や安全にお使いいただく上での注意点を記載しております。

なお、デジタル配信により印刷や輸送にともなうCO₂排出量の低減が見込まれます。持続可能な社会を構築するためにトヨタはこれからも取扱説明書のあり方を見直してまいります。

アクセサリパーツ取扱説明書掲載サイト：

お持ちのスマートフォンやタブレット、携帯電話等にてQRコードを読み取りいただくか、URLより閲覧してください。

URL：

<https://manual-accessories.toyota/CAWeb/index.html>



QRコードは（株）デンソーウェブの登録商標です。

なお、紙面で必要な場合はサイトより印刷いただくか、トヨタ販売店にご相談ください。

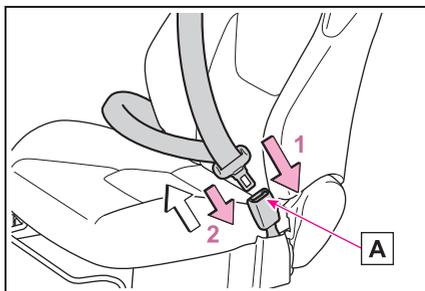
本書の見方

本書で使用している、記号について説明します。

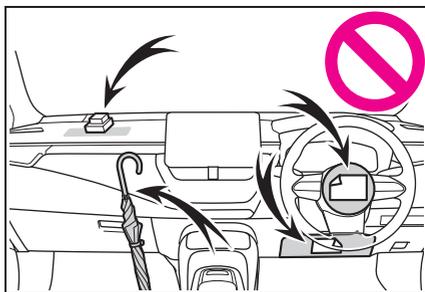
本文の記号について

記号	意味
	警告： お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。
	注意： お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。
1 2 3...	操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。
	機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト上の記号について



記号	意味
	押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。
	フタが開くなど、操作後の作動を示しています。

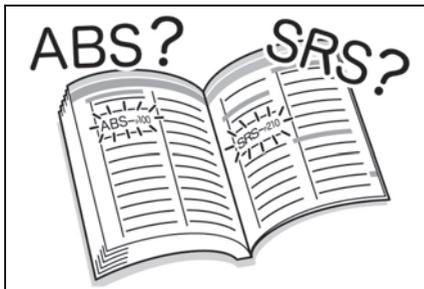


記号	意味
	説明の対象となるもの・場所を示しています。
	してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでくださいという意味です。

検索のしかた

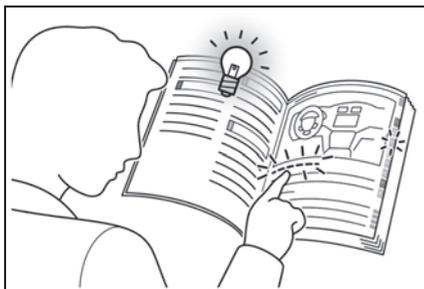
n 名称から探す

- l 五十音順さくいん：P.376
- l アルファベット順さくいん：P.374



n 取り付け位置から探す

- l イラスト目次：P.12



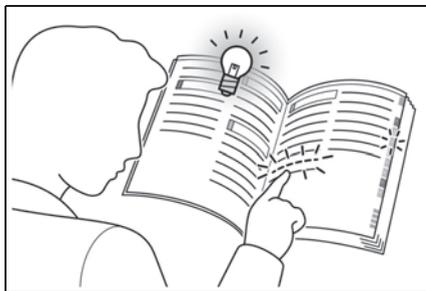
n 症状や音から探す

- l こんなときは（症状別さくいん）：
P.370
- l 車から音が鳴ったときは（音さくいん）：
P.372



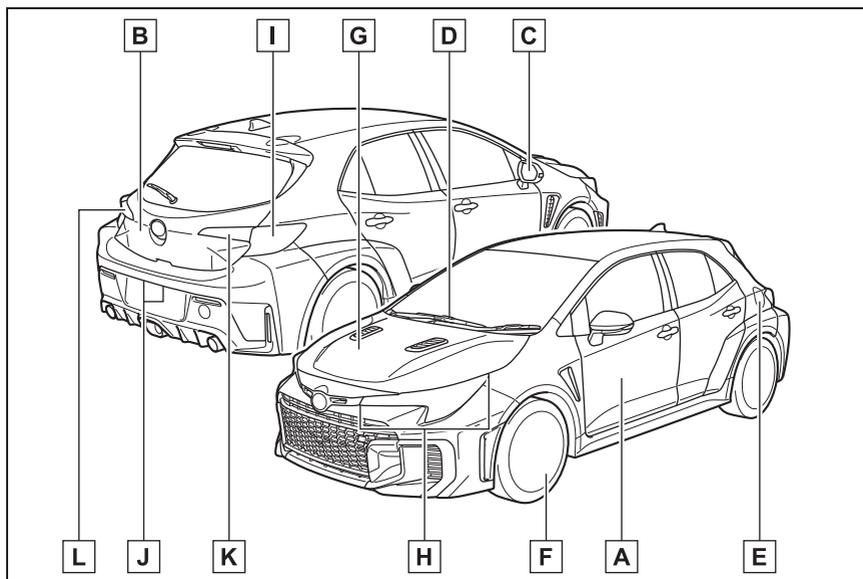
n タイトルから探す

- l 目次：P.2



イラスト目次

n 外観



A	ドア	P.82
	施錠／解錠	P.82
	ドアガラスの開閉	P.103
	メカニカルキーでの施錠／解錠	P.341
	警告ブザー	P.85
B	バックドア	P.86
	施錠／解錠	P.87
	警告ブザー	P.88
C	ドアミラー	P.101
	鏡面の角度調整	P.101
	ミラーの格納	P.102
	曇りを取る（ミラーヒーター）	P.245
D	ワイパー	P.140
	冬季の注意	P.240
	凍結防止（フロントワイパーデアイサー）★	P.247

E	給油口	P.143
	給油方法	P.144
	燃料の種類・燃料タンク容量	P.352
F	タイヤ	P.290
	サイズ・空気圧	P.356
	冬用タイヤ・タイヤチェーン	P.240
	点検・ローテーション	P.290
	パンク時の対処	P.329
G	ボンネット	P.286
	開け方	P.286
	エンジンオイル	P.352
	オーバーヒート時の対処	P.347

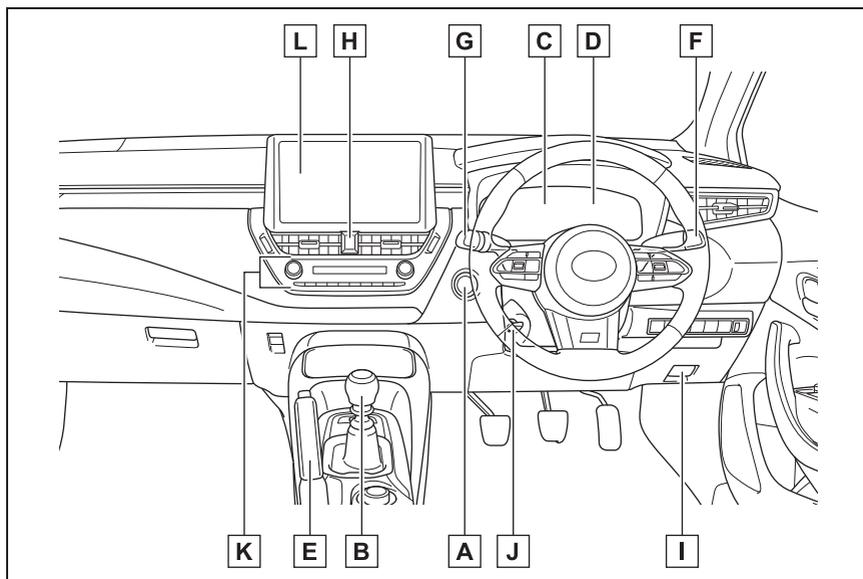
走行に関わる外装のランプバルブ

(交換要領：P.303, ワット数：P.356)

H	ヘッドランプ・車幅灯・LED デイライト ・方向指示灯	P.131, 133
I	尾灯・制動灯・方向指示灯	P.131, 133
J	番号灯	P.133
K	尾灯・リヤフォグランプ★	P.133, 139
	後退灯★ シフトポジションを R にする	P.126, 129
L	尾灯	P.133
	後退灯 シフトポジションを R にする	P.126, 129

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

n インstrumentパネル



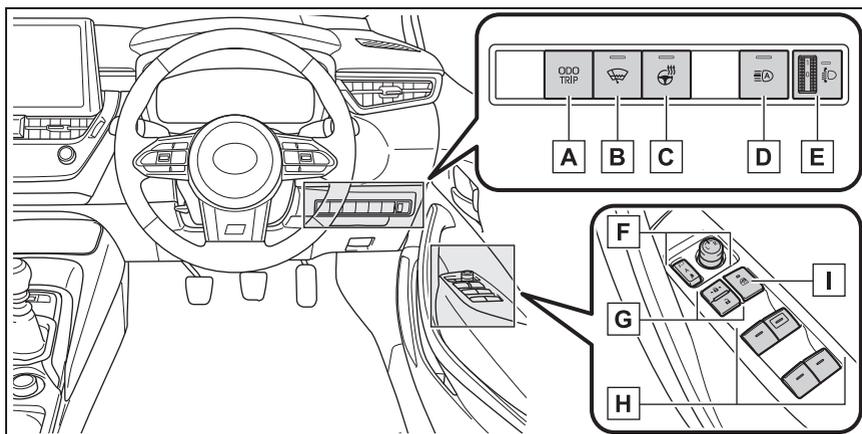
- A エンジンスイッチ** P.120
 エンジンの始動・モード切りかえ P.120
 エンジンの緊急停止 P.310
 エンジンが始動できないときの対処 P.339
 警告メッセージ P.324
- B シフトレバー** P.125, 129
 シフトポジションの切りかえ P.126, 129
 けん引時の注意 P.313
 シフトレバーが動かないときの対処★ P.126
- C メーター** P.56
 見方・明るさの調整 P.56, 60
 警告灯／表示灯 P.52
 警告灯点灯時の対処 P.318
- D マルチインフォメーションディスプレイ** P.61
 表示内容 P.61

	警告メッセージ表示時の対処.....	P.324
E	パーキングブレーキ	P.132
	かける・解除する	P.132
	冬季の注意.....	P.241
	警告ブザー・警告メッセージ.....	P.132, 324
F	方向指示レバー	P.131
	ランプスイッチ	P.133
	ヘッドランプ・車幅灯・LED デイライト・尾灯	P.133
	リヤフォグランプ★	P.139
G	ワイパー&ウォッシャースイッチ	P.140, 141
	使い方	P.140, 141
	ウォッシャー液の補充	P.289
H	非常点滅灯スイッチ	P.309
I	ボンネット解除レバー	P.286
J	ハンドル位置調整レバー	P.99
K	エアコン	P.244
	操作方法.....	P.244
	リヤウインドウの曇り取り（リヤウインドウデフォグガー）.....	P.245
L	オーディオ ※	
	音楽を聴く ※	
	電話をかける・受ける（ハンズフリー） ※	

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

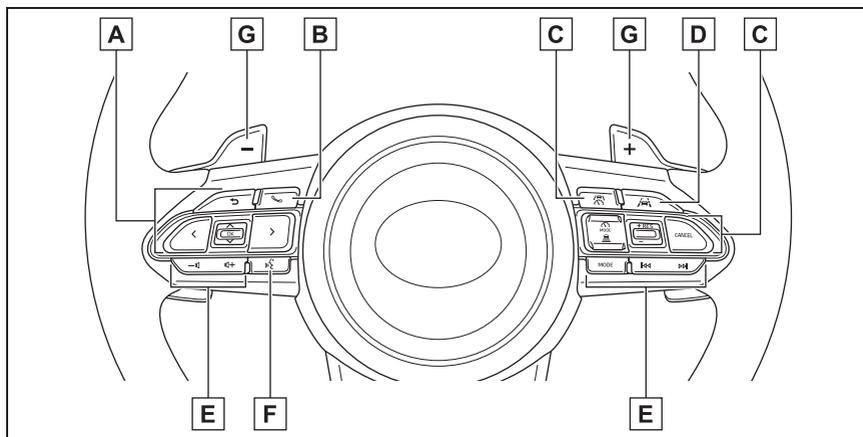
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

n スイッチ類



- A** ODO TRIP スイッチ P.59
- B** フロントワイパーデアイサースイッチ★ P.247
- C** ステアリングヒータースイッチ★ P.250
- D** オートマチックハイビームスイッチ P.136
- E** 手動光軸調整ダイヤル P.135
- F** ドアミラースイッチ P.101
- G** ドアロックスイッチ P.85
- H** パワーウィンドウスイッチ P.103
- I** ウィンドウロックスイッチ P.105

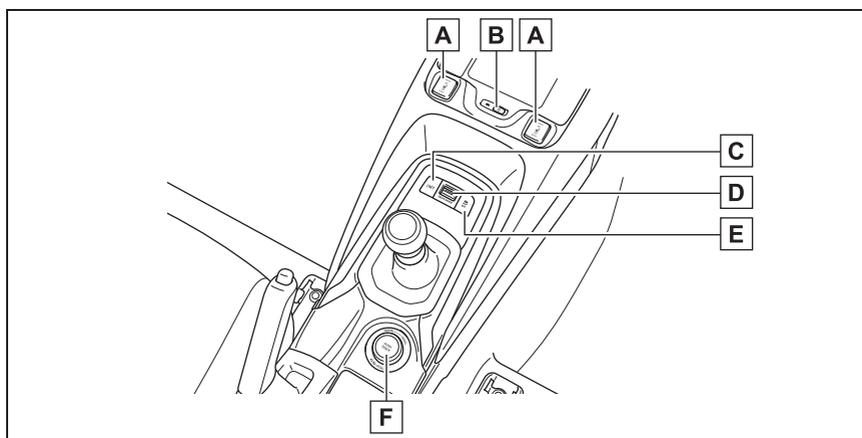
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



- A** メーター操作スイッチ P.61
- B** 電話スイッチ ※
- C** クルーズコントロールスイッチ
 レーダークルーズコントロール P.179, 188
 クルーズコントロール P.196
- D** LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ P.162
- E** オーディオスイッチ ※
- F** トークスイッチ ※
- G** パドルシフトスイッチ★ P.127

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

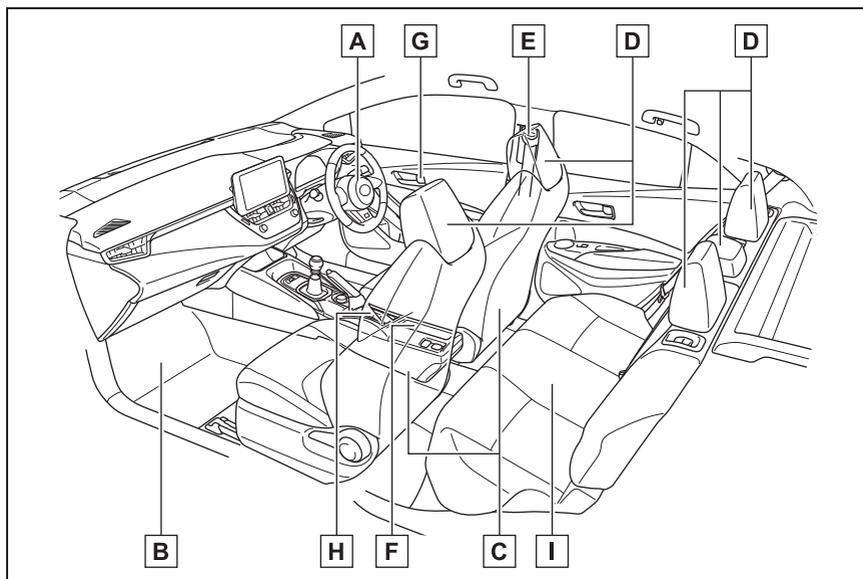
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



- A** シートヒータースイッチ★ P.250
- B** 電源スイッチ（ワイヤレス充電器）★ P.258
- C** iMT（インテリジェントマニュアルトランスミッション）スイッチ★P.130
- D** ドライブモードセレクトスイッチ P.227
- E** VSC OFF スイッチ P.234
- F** 4WD モードセレクトスイッチ P.230

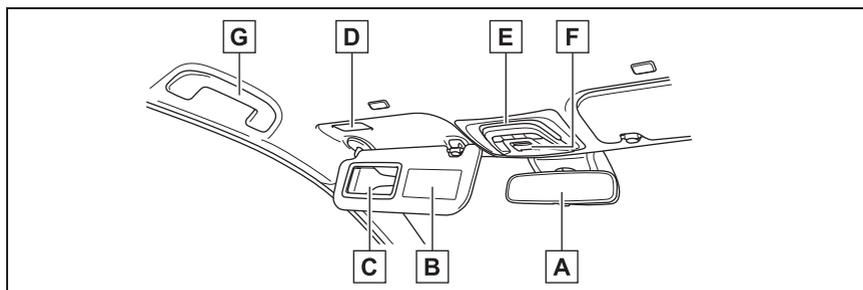
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

n 室内



A	SRS エアバッグ	P.28
B	フロアマット	P.22
C	フロントシート	P.94
D	ヘッドレスト	P.96
E	シートベルト	P.25
F	オープントレイ	P.255
G	ロックレバー	P.85
H	カップホルダー	P.254
I	リヤシート	P.95

n 天井



A	インナーミラー	P.100
B	サンバイザー ※ ¹	P.266
C	バニティミラー	P.266
	チケットホルダー	P.255
D	バニティミラーランプ	P.266
E	インテリアランプ／パーソナルランプ	P.251
F	ヘルプネットボタン ※ ²	
G	アシストグリップ	P.265

※¹やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(→P.38)



※²別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

- 1-1. 安全にお使いいただくために
 - 運転する前に 22
 - 安全なドライブのために 23
 - シートベルト 25
 - SRS エアバッグ 28
 - 排気ガスに対する注意 34
- 1-2. お子さまの安全
 - お子さまを乗せるときは 35
 - チャイルドシート 36
- 1-3. 盗難防止装置
 - エンジンイモビライザーシステム
..... 50

運転する前に

お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

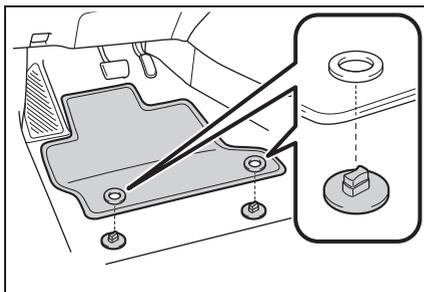
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、トヨタ販売店ですべて点検整備を受けてください。

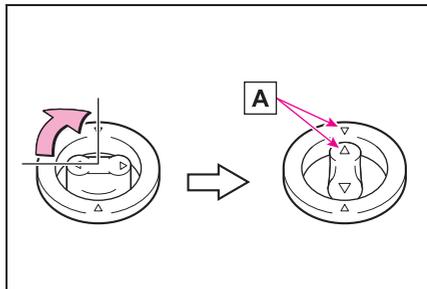
フロアマット

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する



△ マーク **A** を必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

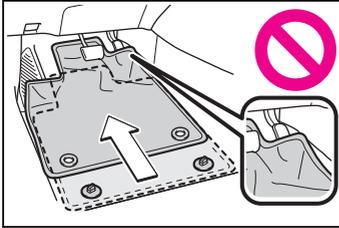
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n 運転席にフロアマットを敷くとき

- ┆ トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- ┆ 運転席専用のフロアマットを使用する
- ┆ 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- ┆ 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- ┆ フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

警告**■ 運転する前に**

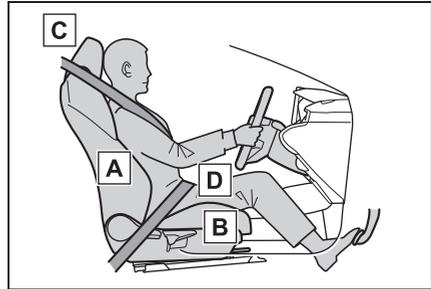
- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う



- エンジン停止およびシフトレバーがP（オートマチック車）またはN（マニュアル車）の状態、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

- A** まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P.94）
- B** ペダルがしっかりと踏み込み、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P.94）
- C** ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→P.96）
- D** シートベルトを正しく着用する（→P.25）

警告**■ 安全な運転のために**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

- | 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- | 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- | フロントシートの下にもものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- | 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- | 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- | 飲酒運転は絶対にしないでください。
お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- | 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。
周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- | 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。(→P.25)

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。(→P.36)

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。
(→P.100, 101)

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

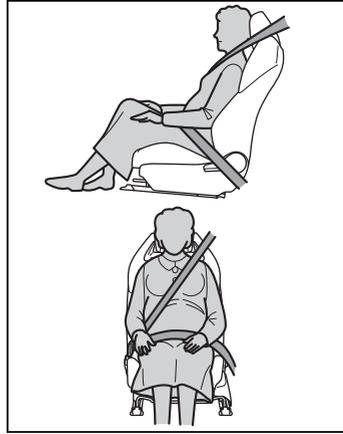
⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n シートベルトの着用について

- l 全員がシートベルトを着用する
- l シートベルトを正しく着用する
- l シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- l お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- l 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- l 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- l 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

n 妊娠中の女性の場合



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P.26)
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n 疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

n お子さまを乗せるとき

→P.46

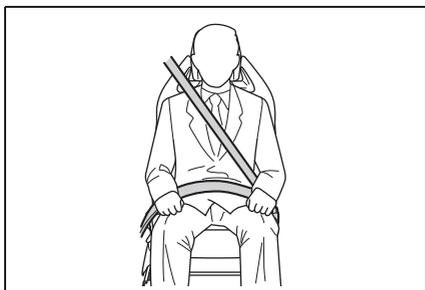
n シートベルトの損傷・故障について

- l ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- l シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

警告

- 1 プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- 1 もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- 1 プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動なくなるおそれがあります。

正しく着用する



- 1 肩部ベルトを肩に十分かける首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 1 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 1 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- 1 ねじれないようにする

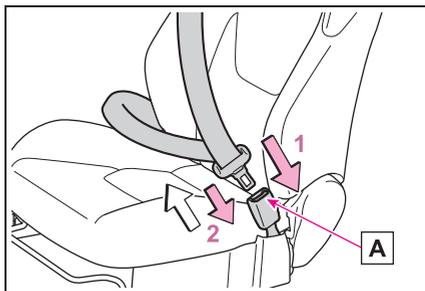
知識

n お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- 1 シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合った子供専用シートを使用してください。(→P.36)
- 1 シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。

着け方・はずし方



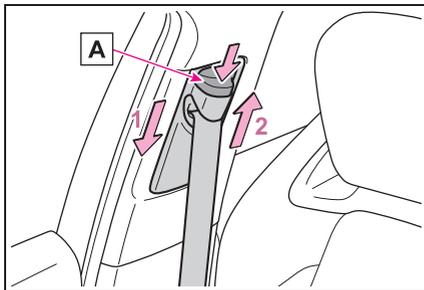
- 1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む
- 2 ベルトを解除するには、解除ボタン[A]を押す

知識

n シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

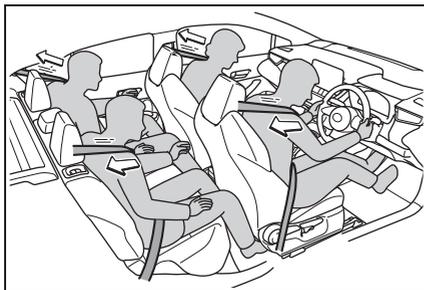
シートベルトの高さ調節（フロント席）



- 1 解除ボタン[A]を押しながら、アジャスターを下げる
- 2 解除ボタン[A]を押しながら、アジャスターを上げる

“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）



前方・側方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。

知識

n シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

n 予防連携機能について

プリクラッシュセーフティによって車両との衝突の可能性が高いと判断されたとき、シートベルトプリテンショナーの作動準備を整えます。

警告

n プリテンショナー付きシートベルトについて

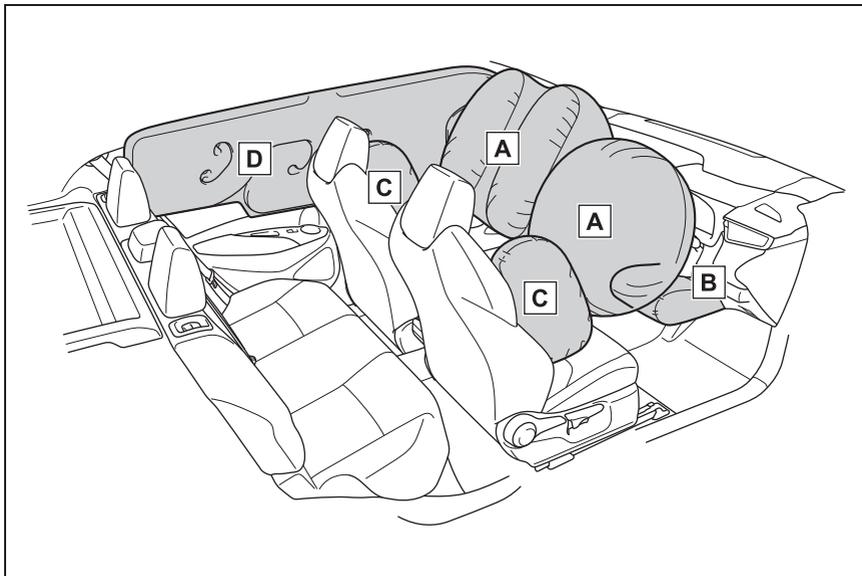
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRSエアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

SRS エアバッグシステム



A 運転フロント SRS エアバッグ（運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ）

運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和

B SRS ニーエアバッグ

運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助

C SRS フロントサイドエアバッグ

フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和

D SRS カーテンシールドエアバッグ

フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和



知識

n SRS エアバッグが作動すると

l SRS エアバッグは高温のガスにより非

常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

l 作動音と共に白いガスが発生します。

- l エアバッグ近辺の部品の一部などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- l フロントウインドウガラスが破損することがあります。
- l 自動的にブレーキと制動灯を制御します。（→P.234）
- l 室内灯が自動で点灯します。（→P.252）
- l 非常点滅灯が自動で点滅します。（→P.309）
- l 燃料供給を停止します。（→P.317）
- n **緊急通報について**
- l T-Connect の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。
 - ・ SRS エアバッグが作動した
 - ・ シートベルトプリテンショナーが作動した
 - ・ 車両に一定以上の衝撃を受けた
 - ・ オペレーターからの呼びかけに応答がなくても、緊急車両などを手配することがあります。詳しくは「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。
- n **正面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき**
- l 次のエアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20～30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
 - ・ フロント SRS エアバッグ
 - ・ SRS ニーエアバッグ
- l 次の場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
 - ・ 駐車している車や標識のような衝撃に

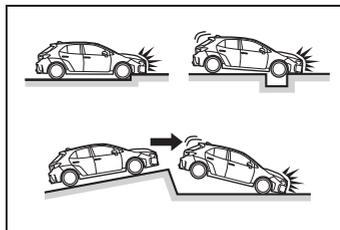
よって移動や変形するものに衝突した場合

- ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- l 衝突条件によっては次の部品のみが作動する場合があります。
 - ・ シートベルトプリテンショナー
 - ・ SRS ニーエアバッグ
- l 前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。
- n **側面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき**

- l 次の SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20～30 km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
 - ・ SRS サイドエアバッグ
 - ・ SRS カーテンシールドエアバッグ

n 車両下部からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

- l 次の SRS エアバッグは、車両下部が固いものにぶつかったときなどの状況で作動する場合があります。
 - ・ フロント SRS エアバッグ
 - ・ SRS ニーエアバッグ
 - ・ SRS サイドエアバッグ
 - ・ SRS カーテンシールドエアバッグ

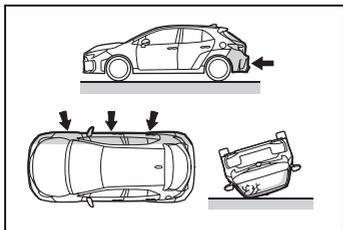


n SRS エアバッグが作動しないとき

- l 次の SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方

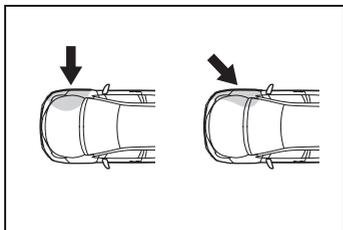
からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、作動することがあります。

- ・ フロント SRS エアバッグ
- ・ SRS ニーエアバッグ



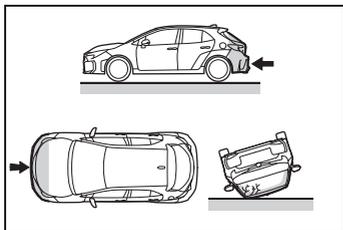
↓ 次の SRS エアバッグは、斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときに作動しない場合があります。

- ・ SRS サイドエアバッグ
- ・ SRS カーテンシールドエアバッグ



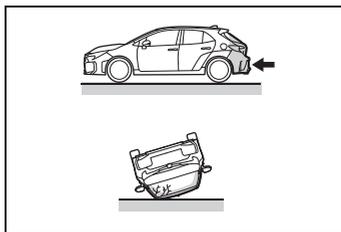
↓ 次のエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- ・ SRS サイドエアバッグ



↓ 次のエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

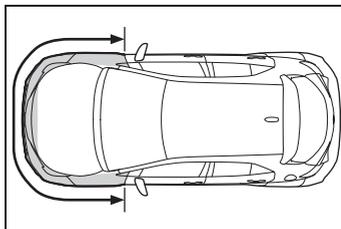
- ・ SRS カーテンシールドエアバッグ



n トヨタ販売店に連絡が必要な場合

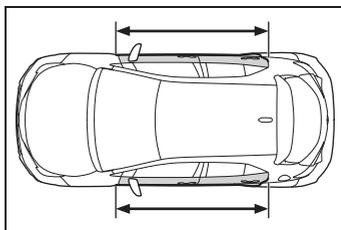
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

- ↓ いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき
- ↓ 次のエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき
- ・ フロント SRS エアバッグ
- ・ SRS ニーエアバッグ



↓ 次のエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形・穴あきなどがあるとき

- ・ SRS サイドエアバッグ
- ・ SRS カーテンシールドエアバッグ



↓ ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・イン

ストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

- | SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき
- | SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

警告

n SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

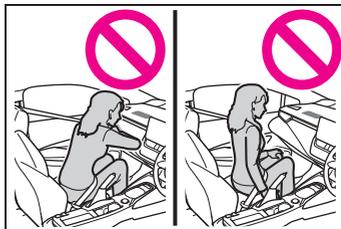
- | 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- | 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。

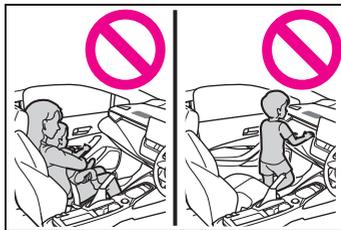
お子さまはリヤ席に乘坐せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。

(→P.36)

- | シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- | お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない



- | 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

警告

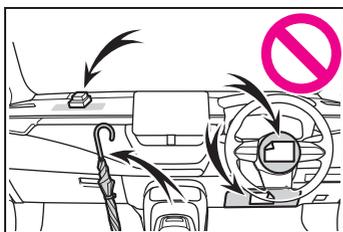
- ドアやフロントピラー・センターピラー・リアピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



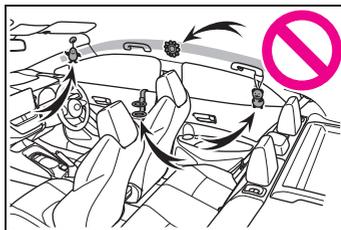
- ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



- ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリアピラー、ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く →P.330）



- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- エアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

警告

- | SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- | SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- | SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

n 改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。

SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- | SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- | 次の部品周辺の修理・取りはずし・改造
 - ・ ハンドル
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
 - ・ シート
 - ・ シート表皮
 - ・ フロントピラー
 - ・ センターピラー
 - ・ リヤピラー
 - ・ ルーフサイドレール

- ・ フロントドアパネル
- ・ フロントドアトリム
- ・ フロントドアスピーカー
- | フロントドアパネルの穴あけなどの改造
- | 次の部品やその周辺の修理・改造
 - ・ フロントフェンダー
 - ・ フロントバンパー
 - ・ 車内側面部
- | 次の部品、または装置の取り付け
 - ・ グリルガード
 - ・ 除雪装置
 - ・ ウインチ
- | サスペンションの改造
- | CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n 走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。

バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

n 駐車するとき

- | 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- | 長時間エンジンをかけたままにしないでください。やむを得ないときは、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- | 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

n 排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- 1 お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。(→P.36)
- 1 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 1 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター(→P.85)・ウィンドウロックスイッチ(→P.105)をご使用ください。
- 1 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。(→P.36)

警告

n お子さまを乗せるときは

- 1 お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

目次

知っておいていただきたいこと：
P.36

チャイルドシートを使用するとき：
P.37

シート位置別チャイルドシートの
適合性について：P.39

チャイルドシートの取り付け方
法：P.44

- ・ シートベルトで固定する：P.45
- ・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する：P.47
- ・ トップテザーアンカレッジを使用する：P.48

知っておいていただきたいこと

- 1 チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。

- 1 お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- 1 お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- 1 すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。
(→P.39)

警告

n お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 1 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- 1 トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- 1 お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウィンドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

警告**n チャイルドシートについて**

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ❶ 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いいため、再使用しないでください。
- ❷ チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→P.39）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ❸ チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けられた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- ❹ チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

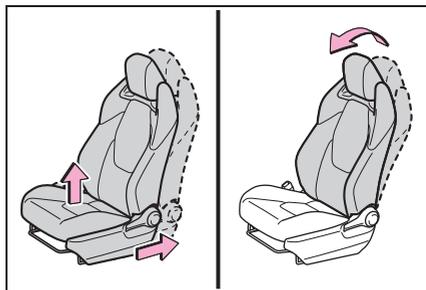
チャイルドシートを使用するとき**n 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき**

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルド

シートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

- ❶ シートをいちばんうしろに下げる
- ❷ シートの高さをいちばん高い位置まで上げる
- ❸ 背もたれを可能な限り起こす
背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように調整してください。
- ❹ ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

**警告****n チャイルドシートを使用するとき**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

警告

警告

やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



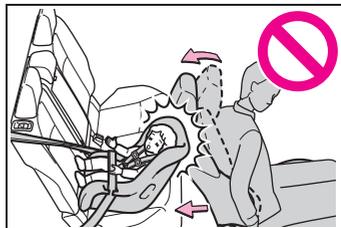
チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。



助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

n シート位置別チャイルドシートの適合性一覧表について

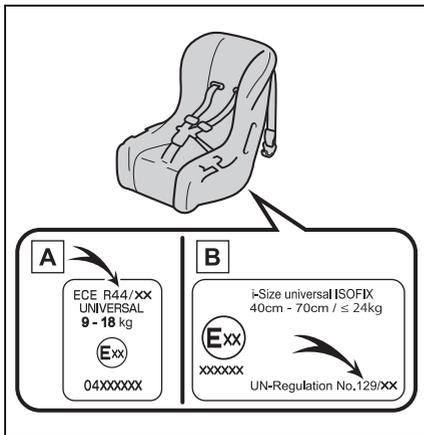
シート位置別チャイルドシートの適合性(→P.40)は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

n シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

1 チャイルドシートの規格を確認する

UN(ECE) R44※¹ または、UN(ECE) R129※¹ に適合したチャイルドシートを使用してください。

適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。
チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。



法規番号の表示例

A UN(ECE) R44 認可マーク ※2
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

B UN(ECE) R129 認可マーク ※2

対象となるお子さまの身長範囲および使用可能な体重が記載されています。

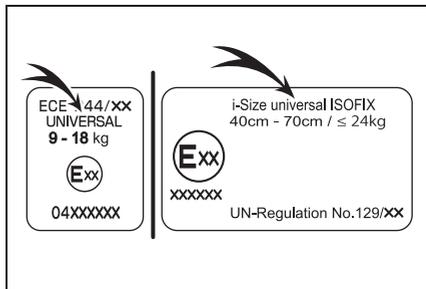
2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

- ・ユニバーサル「universal (汎

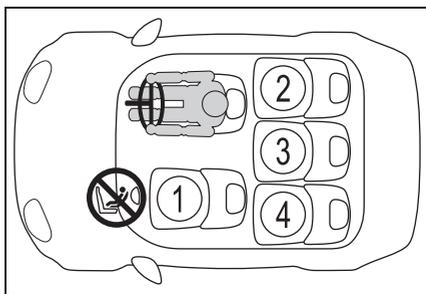
- 用)」
- ・セミユニバーサル
「semi-universal (準汎用)」
- ・リストラクティッド
「restricted (限定)」
- ・ビークルスペシフィック
「vehicle specific (特定車両)」



※1 UN(ECE) R44、UN(ECE) R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※2 表示されているマークは、商品により異なります。

n シート位置別チャイルドシートの適合性



① ※1, 2, 3	UF ※4
② ※3	U  
③ ※3	U
④ ※3	U  

U 車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

UF 車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取付けるユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

 ISOFIX チャイルドシートに適しています。

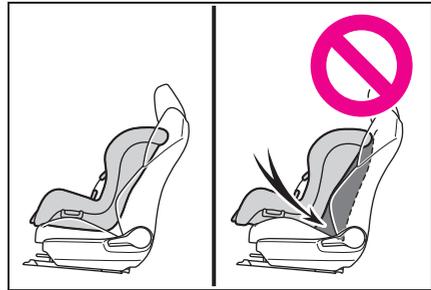
 トップテザーアンカレッジが装備されています。

 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。

※1シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2背もたれを可能な限り起こしてくだ

さい。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にはすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※3ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

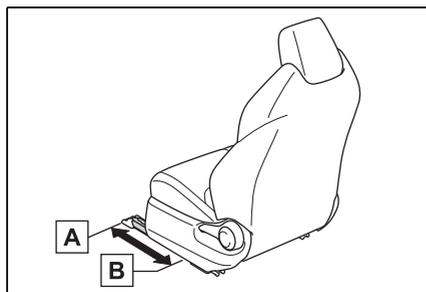
※4チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

n チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置				
シート位置の番号	①	②	③	④
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有 / 無）	有 前向きのみ	有	有	有
アイサイズ着座位置（有 / 無）	無	無	無	無
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1/L2）	×	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1/R2X/R2/R3）	×	R1 ^{*1} , R2X ^{*1} , R2 ^{*1}	×	R1 ^{*2} , R2X ^{*3} , R2 ^{*3}
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X/F2/F3）	×	F2X, F2, F3	×	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2/B3）	×	B2, B3	×	B2, B3

*¹ 運転席をいちばん高い位置に調整してください。（→P.94）

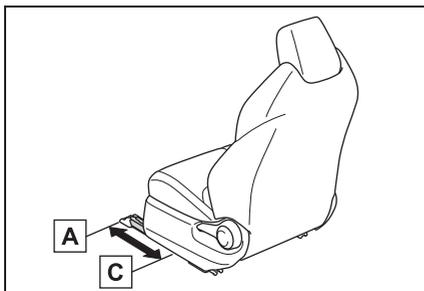
*² 助手席の前後位置を 1 段目から 11 段目（後ろから 15 段目）の範囲で調整してください。



A 1 段目

B 11 段目

*³ 助手席の前後位置を 1 段目から 8 段目（後ろから 18 段目）の範囲で調整してください。



A 1 段目

C 8 段目

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にある）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルド

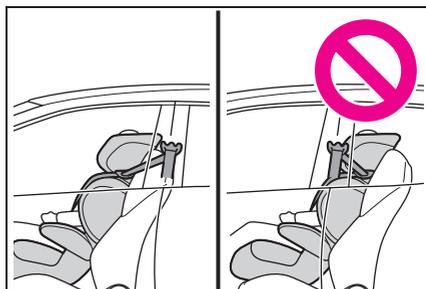
シートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用でき

ず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- I リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- I サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- I シートベルトのショルダーアン

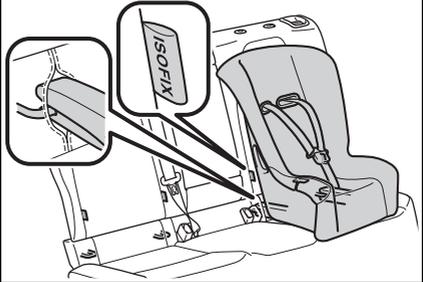
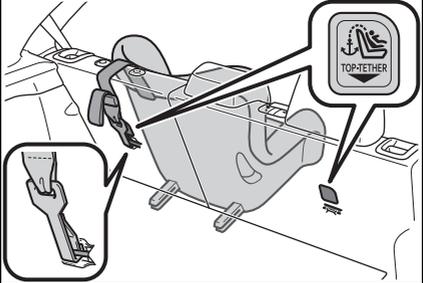
カーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



- I ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかかり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

	固定方法	ページ
シートベルトで固定する		P.45
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する		P.47
テザーベルトを固定する		P.48

チャイルドシートをシートベルトで固定する

n シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシート

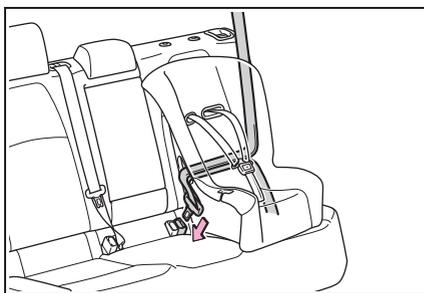
メーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.39, 40）

- 1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→P.37）
- 2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合

は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。(→P.96)

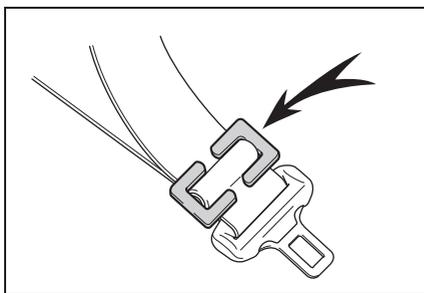
- 3** チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



- 4** チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ(別売)を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。(ロッキングクリップ品番: 73119-22010)



- 5** 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと

と固定されていることを確認してください。(→P.46)

n チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がる場合があります。

チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

警告

n チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

シートベルトのプレートとバックルがしっかりと固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。

チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかりと固定されているか確認してください。

チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

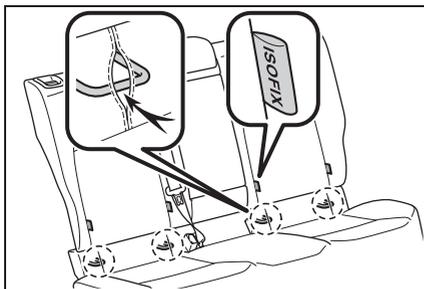
警告

- 1 ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 2 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

n ISOFIXロアアンカレッジについて

この車はリヤ外側席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。(ロアアンカレッジが装備されていることを示すマークがシートに付いています)



n ISOFIXロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない(または必要な情報が表の中にない)場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者

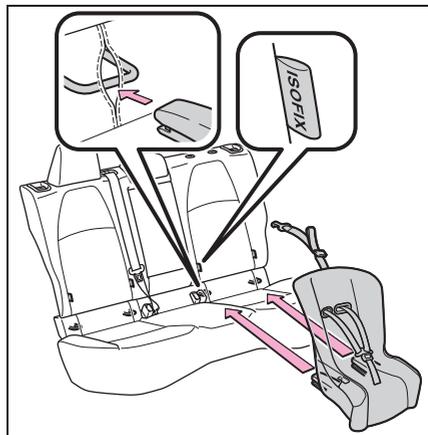
へお問い合わせの上、適合性を確認してください。(→P.39, 40)

- 1 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。(→P.96)

2 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ(取り付け金具)をロアアンカレッジに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



- 3 取り付けしたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する(→P.46)

警告

n チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

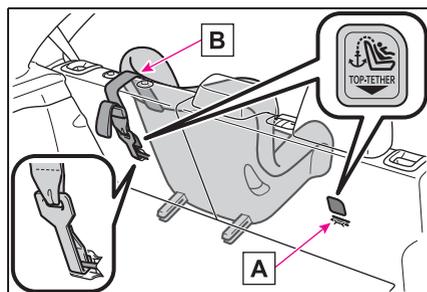
- 1 チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 1 ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 1 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

n トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。



A トップテザーアンカレッジ

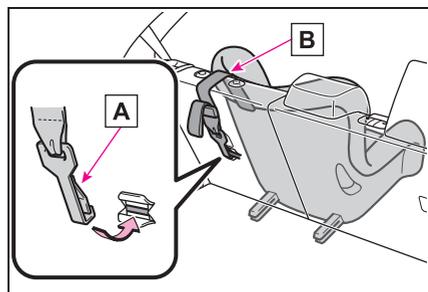
B テザーベルト

n テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

- 1 ヘッドレストを取りはずす
(→P.96)
- 2 トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。(→P.46)



A フック

B テザーベルト

警告

n チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 1 テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- 1 テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外に掛けないでください
- 1 チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

 **警告**

- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

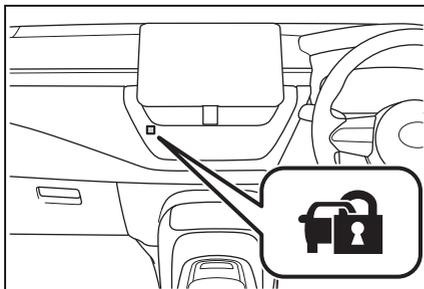
エンジンイモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

システムを作動させるには



エンジンスイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチを ACC または ON にするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

n メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

n システムが正常に作動しないとき

- l キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- l キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

⚠ 注意

n エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

2-1. 計器の見方

警告灯／表示灯	52
計器類	56
マルチインフォメーションディスプレイ	61
ヘッドアップディスプレイ	69
燃費画面	73

警告灯／表示灯

メーター・センターパネル・ドアミラーの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。

メーターの警告灯／表示灯

次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。



警告灯一覧

システム異常などを警告します。



ブレーキ警告灯 ※1
(→P.318)



高水温警告灯 ※2 (→P.318)



充電警告灯 ※2 (→P.318)



油圧警告灯 ※2 (→P.318)



エンジン警告灯 ※1
(→P.319)

SRS エアバッグ／プリテン



ショナー警告灯 ※1
(→P.319)



ABS & ブレーキアシスト警告
灯 ※1 (→P.319)



ペダル誤操作警告灯 ※2
(→P.319)



(赤色)

パワーステアリング警告灯 ※1
(→P.320)



(黄色)

パワーステアリング警告灯 ※1
(→P.320)



燃料残量警告灯 (→P.320)



運転席・助手席シートベルト
非着用警告灯 (→P.320)



リヤ席シートベルト非着用警
告灯 (→P.320)

 クリアランスソナー OFF 表示灯★※¹ (→P.321)

 PCS 警告灯 ※¹ (→P.321)

 LTA 表示灯 (→P.321)
(黄色)

 LDA 表示灯 (→P.321)
(黄色)

 PDA 表示灯★ (→P.321)
(黄色)

 レーダークルーズコントロール表示灯 (→P.322)
(黄色)

 クルーズコントロール表示灯 (→P.322)
(黄色)

 運転支援情報表示灯 ※¹ (→P.322)
(黄色)

 スリップ表示灯 ※¹ (→P.322)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※¹ 作動確認のためにエンジンスイッチをONにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※² マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

警告

n 安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がエンジンスイッチをONにしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯
(→P.131)



尾灯表示灯 (→P.133)



ハイビーム表示灯
(→P.135)



オートマチックハイ
ビーム表示灯
(→P.136)



リヤフォグランプ表示
灯★ (→P.139)



クリアランスソナー
OFF 表示灯★※^{1,2}
(→P.206)



クリアランスソナー検
知表示灯★※⁷
(→P.205)



PCS 警告灯 ※^{1,2}
(→P.161)



レーダークルーズコン
トロール表示灯
(→P.179, 188)



レーダークルーズコン
トロール表示灯
(→P.179, 196)

(緑色)

	クルーズコントロール表示灯 (→P.196) (白色)		運転支援情報表示灯 ※1,2 (→P.200, 211, 216, 223)
	クルーズコントロール表示灯 (→P.196) (緑色)		スマートエントリー&スタートシステム表示灯※4 (→P.120)
	LDA 表示灯 (→P.169) (緑色)		エコドライブインジケータランプ★ (→P.65)
	LDA 表示灯 (→P.169) (黄色 [点滅])		制動灯表示灯 (→P.55)
	LDA OFF 表示灯※2 (→P.169) (黄色)		エコドライブモード表示灯 (→P.227)
	LTA 表示灯 (→P.165) (白色)		スポーツモード表示灯 (→P.227)
	LTA 表示灯 (→P.165) (緑色)		カスタムモード表示灯 (→P.227)
	LTA 表示灯 (→P.165) (黄色 [点滅])		GR-FOUR NORMAL 表示灯 (→P.230)
	PDA 表示灯★ (→P.171) (白色)		GR-FOUR TRACK 表示灯 (→P.230)
	PDA 表示灯★ (→P.171) (緑色)		GR-FOUR GRAVEL 表示灯 (→P.230)
	ドアミラーインジケータ★※1,3 (→P.200, 211, 223)		エキスパートモード表示灯 (→P.235)
	パーキングブレーキ表示灯 (→P.132)		iMT 表示灯★ (→P.130) (緑色)
	スリップ表示灯※1 (→P.234) (点滅)		セキュリティ表示灯※5 (→P.50)
	VSC OFF 表示灯※1,2 (→P.234) OFF		低温表示灯※6 (→P.56)
	TRC OFF 表示灯※1,2 (→P.234) TRC OFF		

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 作動確認のためにエンジンスイッチをONにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- ※2システムが OFF のときに点灯します。
- ※3ドアミラーに表示されます。
- ※4マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。
- ※5センターパネルに表示されます。
- ※6外気温が約 3° C 以下のとき、約 10 秒間点滅後に点灯します。
- ※7マルチメディアディスプレイまたはリヤカメラ非装着車

知識

n クリアランスソナー OFF 表示灯について

マルチメディアまたはリヤカメラ非装着車は、クリアランスソナー機能の ON/OFF の状態に関わらずシフトポジションを R にすると消灯します。

n 制動灯表示灯について

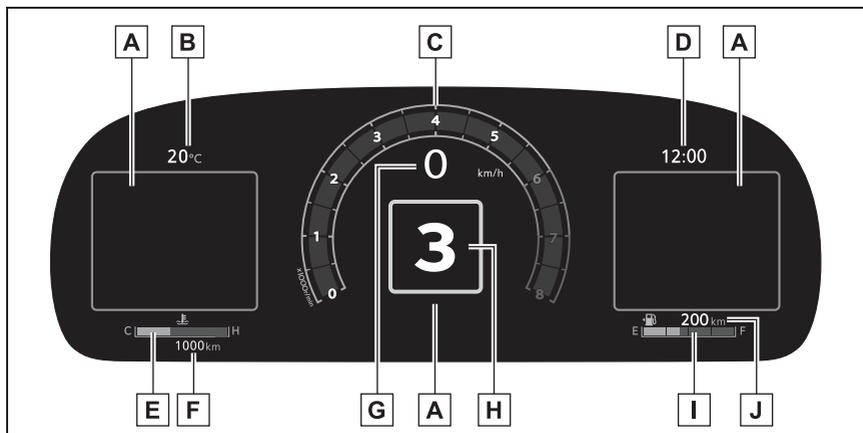
ブレーキペダルの操作や運転支援システムの作動により、制動灯が点灯したときに点灯します。

計器類

メーターの表示について

n 計器類の位置

▶ ダイヤル表示有り

**A** マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→P.61)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.324)

B 外気温

外気温度を -40°C ~ 60°C のあいだで表示します。

C タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

計器類の表示を変更できます。(→P.357)

D 時計 (→P.60)**E** 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

F オドメーター／トリップメーターディスプレイ (→P.59)**G** スピードメーター**H** シフトポジション表示灯 (→P.125, 129)**I** 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

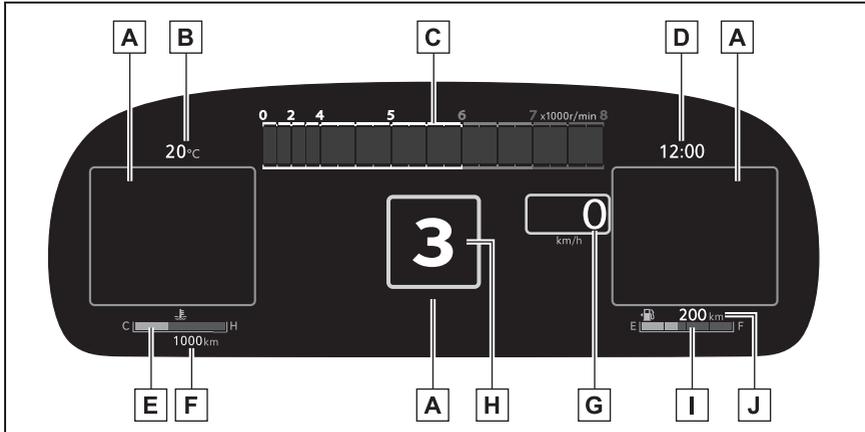
- ・ 少量給油を行ったとき

- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
- ・ 坂道やカーブを走行したとき

J 航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。

▶ ダイヤル表示無し



A マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→P.61)
 車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.324)

B 外気温

外気温度を -40° C ~ 60° C のあいだで表示します。

C タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。
 計器類の表示を変更できます。(→P.357)

D 時計 (→P.60)

E 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

F オドメーター／トリップメーターディスプレイ (→P.59)

G スピードメーター

H シフトポジション表示灯 (→P.125, 129)

I 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

- ・ 少量給油を行ったとき
- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき

・坂道やカーブを走行したとき

J 航続可能距離

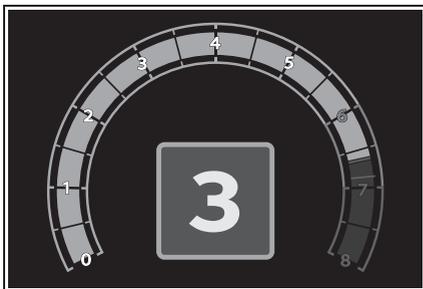
現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。

n REV インジケーター

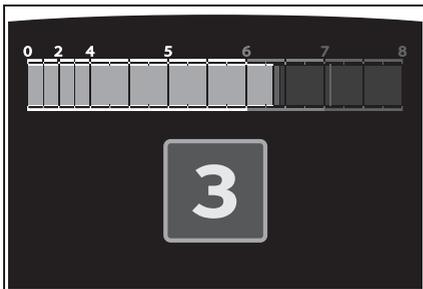
設定したエンジン回転数またはレッドゾーンに到達すると、タコメーターを強調表示します。

設定したエンジン回転数に到達したときは橙色、レッドゾーンに到達したときは赤色で表示されます。

▶ ダイヤル表示有り



▶ ダイヤル表示無し



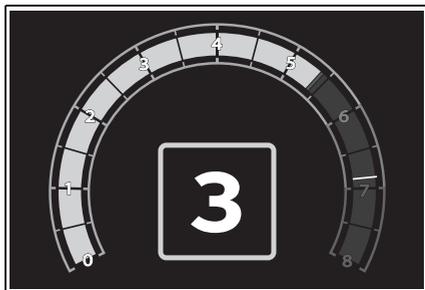
REV インジケーターの表示を開始するエンジン回転数は、マルチインフォメーションディスプレイの  で設定することができます。(→P.63)

n REV ピーク

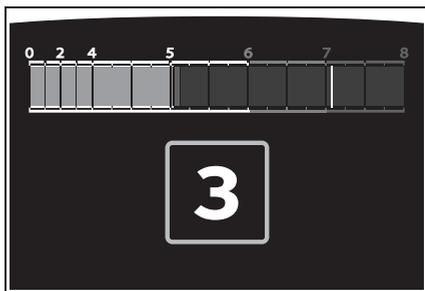
5000r/min 以上の回転域で、エンジン回転数の最高値にタコメーターの残像を約 1 秒間表示しま

す。

▶ ダイヤル表示有り



▶ ダイヤル表示無し



□ 知識

n 外気温表示について

↓ 次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- ・ 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
- ・ 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

↓ “-” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

n 燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

- 1 車両を平坦な場所に停車させる
- 2 ODO TRIP スイッチを押してオドメーター／トリップメーターディスプレイをオドメーター表示に切りかえる
- 3 エンジンスイッチを OFF にする
- 4 ODO TRIP スイッチを押したまま、エンジンスイッチを ON にする
- 5 そのまま約 5 秒間 ODO TRIP スイッチを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす

オドメーターが約 5 秒間点滅したあと通常の表示にもどれば、更新は終了です。

n 液晶ディスプレイについて

→P.61

n フリー／オープンソースソフトウェア情報について

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

<https://www.denso.com/global/en/open-source/meter/toyota/>

n カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイの  で、計器類の表示を変更できます。(→P.61)

警告

n 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばギヤ段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにギヤ段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

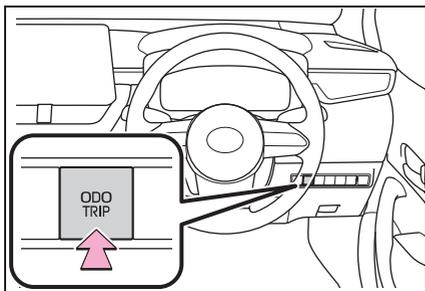
n エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

- ! タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- ! 水温計の針が H のレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。(→P.347)

オドメーター／トリップメーターディスプレイ

n 表示の切りかえ

スイッチを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中にスイッチを押し続けると、走行距離を 0 にすることができます。



n 表示項目

l オドメーター

走行した総距離を表示します。

l トリップメーター A / トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けすることができます。

リセットするには、リセットしたい方のトリップメーターを表示中にスイッチを長押しします。



知識

n 音声対話サービスでの操作

音声対話サービスを使用してオドメーター / トリップメーターを表示することができます。

ハンズフリーシステムについて詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

メーターの明るさを調整するには

マルチインフォメーションディスプレイの  からメーターの明るさを調整することができます。

- 1 マルチインフォメーションディスプレイの  を選択する

- 2 メーター操作スイッチの  または  を押して “メーター輝度調整” を選択する
- 3 メーター操作スイッチの OK を長押しする
- 4  または  を押して明るさを調整する

時計の調整をするには

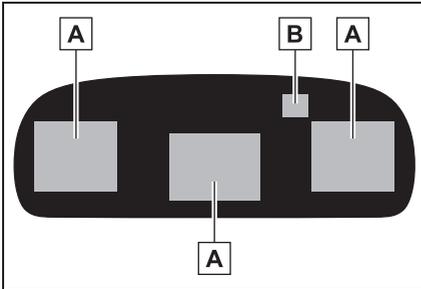
GPS の時刻情報 (GPS 時計) を利用して、時刻を自動で調整します。

詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

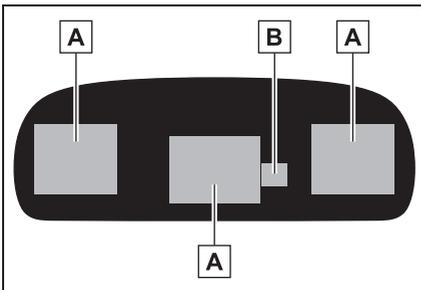
マルチインフォメーションディスプレイ

ディスプレイの表示

▶ ダイヤル表示有り



▶ ダイヤル表示無し



A コンテンツ表示エリア

メニューアイコンを選択し、走行に関するさまざまな情報を表示したり、車両設定を変更することができます。

また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

B 走行支援システム表示エリア

コンテンツ表示エリアで運転支援システム情報を表示していないときに運転支援システムが作動していると、システムの作動状況を表示します。

- ・ LTA (レーントレーシングアシスト) (→P.162)
- ・ LDA (レーンディパーチャーアラート) (→P.166)

- ・ レーダークルーズコントロール (→P.179, 188)
- ・ PDA (プロアクティブドライビングアシスト) ★ (→P.171)

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

n 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

警告

n 運転中の使用について

マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。

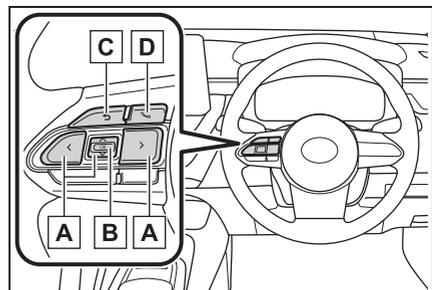
マルチインフォメーションディスプレイを見続けしないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

n 低温時の画面表示について

→P.59

表示を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。



- A** </> : マルチインフォメーションディスプレイの切りかえ
 ^/▼ : 表示項目の切りかえ・ページ送り・カーソル移動

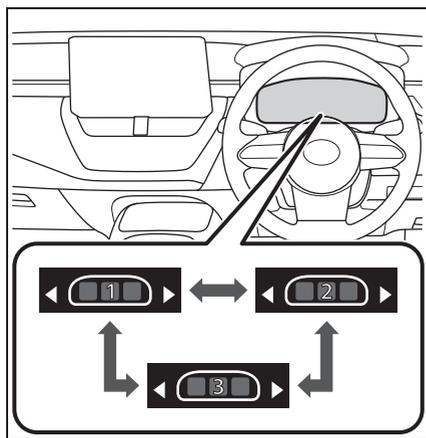
- B** 短押し : 決定
 長押し : リセット/詳細項目表示

- C** ひとつ前の画面にもどる

- D** 電話の発着信・履歴表示
 ハンズフリーシステムと連携して、発着信の表示や操作を行うことができます。ハンズフリーシステムについて詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

n メーターのページ切りかえ

メーター操作スイッチの < または > を押してページを切りかえる



マルチインフォメーションディスプレイの表示項目について (中央画面)

n 表示項目

- l シフトポジション

- l 運転支援システム情報 (→P.62)

- l ナビゲーションシステム連携表示 (→P.63)

- l 設定 (→P.68)

- l 警告メッセージ (→P.324)

- l ブランク (非表示)

n ページ内の表示項目の切りかえ

ページ内の設定モード画面から表示させる項目を選択します。

- 1 メーター操作スイッチの < または > を押してページを選択する

- 2 OK を長押しして設定モード画面にする

- 3 メーター操作スイッチの < または > を押して変更する表示画面を選択する

- 4 メーター操作スイッチの ^ または ▼ を押して表示項目を選択する

- 5 設定完了後、↵ を押す

n 運転支援機能情報表示について

次のシステムの作動状況を表示します。

- l PCS (プリクラッシュセーフティ) (→P.153)

- l LTA (レーントレーシングアシスト) (→P.162)

- l LDA (レーンディパーチャーアラート) (→P.166)

- l PDA (プロアクティブドライビ

ングアシスト)★ (→P.171)

l RSA (ロードサインアシスト)
(→P.176)

l レーダークルーズコントロール
(→P.179, 188)

l クルーズコントロール
(→P.196)

l 発進遅れ告知機能 (→P.199)

★: グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

n ナビゲーションシステム連携表示

マルチインフォメーションディスプレイに次の情報を表示します。

l 地図表示

ナビゲーションシステムと連動して、地図情報を表示します。OK を押すごとに表示の大きさを切りかえることができます。

l 目的地案内

l コンパス

n 変更できる項目 (メーター表示)

メーター表示の設定を  から変更することができます。

l 言語

表示される言語を選択することができます。

l 単位

燃費単位を選択することができます。

l メータータイプ

メーターのダイヤル表示の有無を選択することができます。

ドライブモード連動を選択すると、ドライブモードセレクトスイッチで選択した走行モードに連動してダイヤル表示の有

無が切りかわります。

l 燃費グラフ

燃費情報の表示を変更することができます。

l ドライブインフォ項目

1 行目と 2 行目の項目を別々に、平均車速/走行距離/走行時間から選択することができます。

l TRIP A/B の表示項目

TRIP A/B のドライブインフォ情報を変更することができます。

l REV インジケーター/REV ピーク

表示・非表示を選択することができます。

REV インジケーターの表示を開始するエンジン回転数を変更することができます。

l 割り込み表示

割り込み表示される項目の表示・非表示を、項目ごとに変更することができます。

l 初期化

メーターの表示設定をもとにもどすことができます。

マルチインフォメーションディスプレイの表示項目について (サイド画面)

n 表示項目

l 燃費グラフ (→P.64)

l エコドライブインジケーター★
(→P.65)

l 運転支援システム情報
(→P.65)

l ナビゲーションシステム連携表示 (→P.65)

l オーディオシステム連携表示

(→P.66)

- l ドライブインフォメーション (→P.66)
- l TRIP A/B のドライブインフォメーション情報 (→P.66)
- l 4WD 作動状態表示 (→P.66)
- l スポーツゲージ (→P.66)
- l ブーストメーター (→P.67)
- l G モニター (→P.67)
- l ブランク (非表示)

表示項目は変更することができます。(→P.64)

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

n ページ内の表示項目の切りかえ

→P.62

n サイド画面に表示させる項目の変更

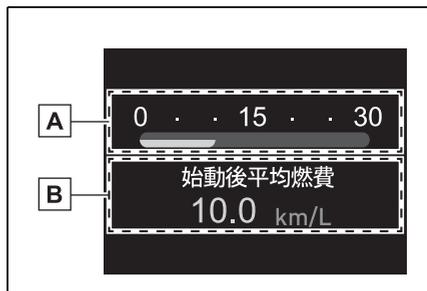
- 1 メーター操作スイッチの ◀ または ▶ を押してページを選択する
- 2 OK を長押しして設定モード画面にする
- 3 メーター操作スイッチの ◀ または ▶ を押して変更する表示画面を選択する
- 4 (⊕) が表示されている画面でメーター操作スイッチの ◀ または ▶ を押すと、各項目の表示・非表示を選択できる画面に移動します。

- 5 メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押して表示させる項目を選択し OK を押す

n 燃費グラフ

燃費グラフ

表示される数値は参考として利用してください。



A 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

B 平均燃費

・ 始動後平均燃費

エンジン始動後の平均燃費を表示します。

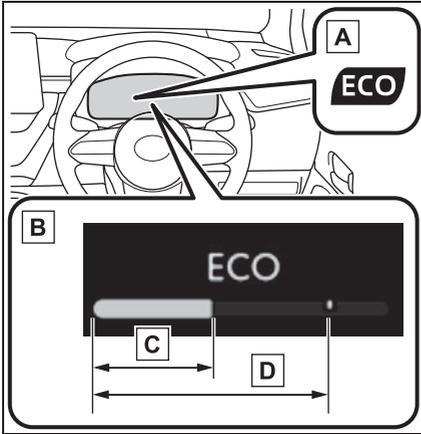
・ リセット後平均燃費

リセット後の平均燃費を表示します。

平均燃費をリセットするには、メーター操作スイッチの OK を長押しします。

平均燃費の表示は ⚙ から変更することができます。(→P.63)

n エコドライブインジケーター★



A エコドライブインジケーターランプ

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

B エコドライブインジケーターゾーン表示

エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。

C 現状のアクセル開度

現状のアクセル開度がエコ運転の範囲をこえたとき、エコドライブインジケーターゾーン表示の右側が点灯します。このとき、エコドライブインジケーターランプは消灯します。

D エコ運転の範囲

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



知識

n エコドライブインジケーターについて★

次の場合、エコドライブインジケーターは作動しません。

- l シフトポジションがD以外にあるとき
- l パドルシフトスイッチを操作しているとき（オートマチック車）
- l 走行モードがノーマルモードまたはエコドライブモード以外のとき（→P.227）

- l 車速が約130km/h以上のとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

n 運転支援機能情報表示について

次のシステムの作動状況を表示します。

- l PCS（プリクラッシュセーフティ）（→P.153）
 - l LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.162）
 - l LDA（レーンディパーチャーアラート）（→P.166）
 - l PDA（プロアクティブドライビングアシスト）★（→P.171）
 - l レーダークルーズコントロール（→P.179, 188）
 - l クルーズコントロール（→P.196）
 - l 発進遅れ告知機能（→P.199）
- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

n ナビゲーションシステム連携表示

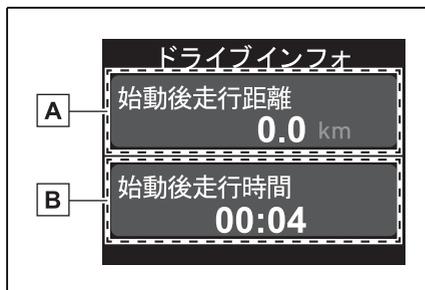
マルチインフォメーションディスプレイに次の情報を表示します。

- l 目的地案内
- l コンパス

n オーディオシステム連携表示について

オーディオシステムの作動状況をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。

n ドライブインフォメーション



A ドライブインフォメーション 1

B ドライブインフォメーション 2

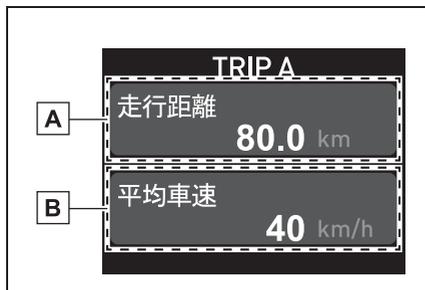
ドライブインフォ項目の組み合わせを  から選択して表示させることができます。(→P.63)

l 平均車速：エンジン始動後の平均車速を表示

l 距離：エンジン始動後の走行距離を表示

l 走行時間：エンジン始動後の経過時間を表示

n TRIP A/B のドライブインフォメーション



A TRIP A/B 1 のドライブインフォメーション

B TRIP A/B 2 のドライブインフォメーション

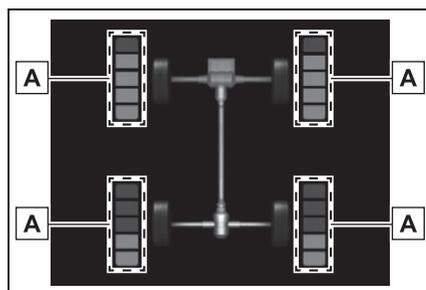
ドライブインフォ項目の組み合わせを  から選択して表示させることができます。(→P.63)

l 平均車速：TRIP A/B の平均車速を表示

l 距離：TRIP A/B の走行距離を表示

l 走行時間：TRIP A/B の経過時間を表示

n 4WD 作動状態表示

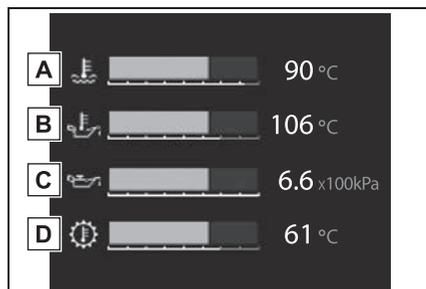


表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

A 駆動力表示

0～5の6段階で、各車輪の駆動状態を表示します。

n スポーツゲージ



A 水温計

冷却水の温度を表示します。冷却水の温度が 120°C を超えると、表示が点滅します。

B 油温計

エンジンオイルの温度を表示します。エンジンオイルの温度が 140°C を超えると、表示が点滅します。

C 油圧計

エンジンオイルの圧力を表示します。エンジンオイルの圧力が低くなると、ブザーが鳴り、警告メッセージが表示されます。(→P.318)

表示画面については路面状況、気温、車速などによって実際の車両状態と異なる場合があります。表示画面は参考として利用してください。

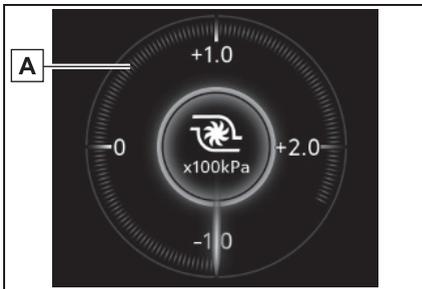
D AT 油温計★

オートマチックトランスミッションフルードの温度を表示します。オートマチックトランスミッションフルードの温度が 135°C を超えると、表示が点滅します。

表示画面については路面状況、気温、車速などによって実際の車両状態と異なる場合があります。表示画面は参考として利用してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

n ブーストメーター

**A** ブーストメーター

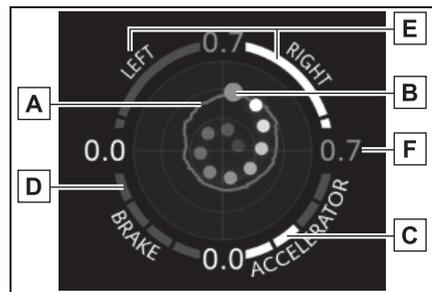
過給圧を表示します。一定圧以上になると表示の色が変わります。

n **G** モニター

車両にかかる前後左右の G (加速度) を表示します。

また、G モニターの周囲にはステアリング操作量・アクセル開度量・ブレーキ液圧が表示されます。

表示画面については路面状況、気温、車速などによって実際の車両状態と異なる場合があります。表示画面は参考として利用してください。



A 最大 G の軌跡

B 車両にかかる G

C アクセル開度量

D ブレーキ液圧

E ステアリング操作量

F 現在の G 値 (前後左右に分解した値)

l 最大 G の軌跡のリセット

エンジンを始動するたびに、表示がリセットされます。

l ピークホールド機能

0.5G 以上の力を発生した場合、G 値表示が 2 秒間保持されます。

 知識

n G モニターの表示について

傾斜のある場所など、路面の状況によっては停車中でもG値が0にならない場合があります。

ブランク (非表示)

マルチインフォメーションディスプレイにブランク画面を表示しません。

設定について

n 変更できる項目 (機能の切りかえ・車両設定)

→P.357

n 変更できる項目 (メーター表示)

→P.63

 知識

n 設定画面の操作について

- | 一部の項目を除き、車両走行中は設定画面を操作することができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。
- | 警告メッセージが表示されたときは、設定画面の操作が一時中断されます。

 警告

n ディスプレイの設定を変更するとき

エンジンがかかった状態で操作を行う場合、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素 (CO) により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

n ディスプレイの設定を変更するとき

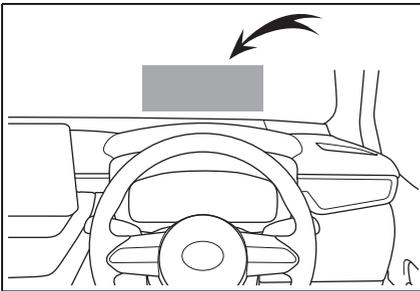
バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

ヘッドアップディスプレイ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ヘッドアップディスプレイは、フロントウインドウガラスに運転支援システムの作動状況や走行に関するさまざまな情報を表示することができます。

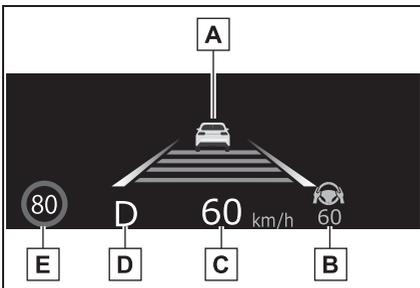
ディスプレイの表示



ヘッドアップディスプレイ表示のタイプを変更することができます。(→P.71)

走行状況・走行モードやヘッドアップディスプレイの表示モードによって異なります。また、状況に応じて割り込み表示されます。

n フル



イラストは説明のための例であり、実際の表示状況とは異なります。

A メイン表示エリア

次の内容を表示します。

- ・運転支援システム表示 (→P.71)
- ・ナビゲーションシステム連携表示 (→P.72)
- ・タコメーター／エコドライブインジケータ表示★ (→P.72)

B 運転支援システム表示エリア (→P.71)

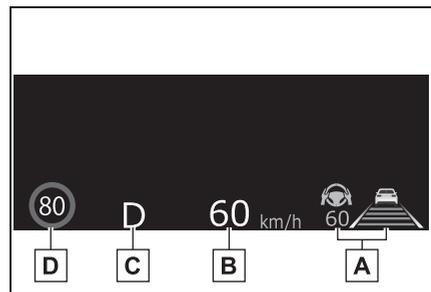
C スピードメーター

D シフトポジション／シフトレンジ／ギヤ段表示★ (→P.125)

E RSA (ロードサインアシスト) 表示エリア (→P.176)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

n スタンダード



イラストは説明のための例であり、実際の表示状況とは異なります。

A 運転支援システム表示エリア (→P.71)

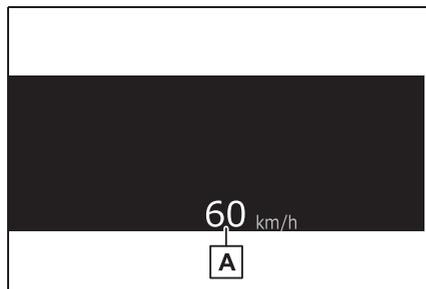
B スピードメーター

C シフトポジション／シフトレンジ／ギヤ段表示★ (→P.125)

D RSA (ロードサインアシスト) 表示エリア (→P.176)

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

n ミニマム



イラストは説明のための例であり、実際の表示状況とは異なります。

[A] スピードメーター

☐ 知識

n ヘッドアップディスプレイの作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

n ヘッドアップディスプレイについて

サングラス（特に偏光サングラス）を着用していると、ヘッドアップディスプレイの表示が見づらくなる場合があります。表示が見づらい場合は、輝度を調整するか、サングラスをはずしてください。

n 交差点名表示について

地図データに情報がない場合など、状況によっては交差点名称が表示されない場合があります。

n レーン（車線）表示について

地図データに情報のない交差点では、レーン表示は行われません。また、交差点によっては、レーン表示と実際の交差点形状が異なる場合があります。現場の標識、道路形状に従ってください。（レーン情報のある交差点の手前 300m 以内にレーン情報のない交差点がある場合、道路形状が工事等で変更になった場合など）

⚠ 警告

n ヘッドアップディスプレイを使用するときは

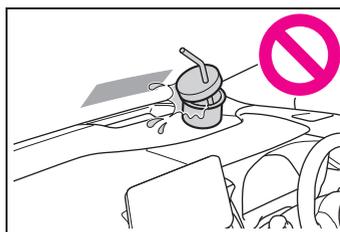
映像の明るさ、および表示位置は、安全運転に支障がないよう適切な状態に調整してください。調整が不適切だと運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ヘッドアップディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあります。

⚠ 注意

n ヘッドアップディスプレイ映写部について

映写部の付近に飲み物を置かないでください。水やその他の液体が映写部にかかると、装置が故障する原因になります。



映写部の上にものを置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。ヘッドアップディスプレイの表示のさまたげとなります。

映写部の内部にふれたり、とがったものを押し付けたりしないでください。装置が故障する原因となります。

ヘッドアップディスプレイの使い方

マルチインフォメーションディスプレイの  から“HUD メイン”を選択します。(→P.357)

n ヘッドアップディスプレイの表示／非表示

メーター操作スイッチの OK を押すごとにヘッドアップディスプレイの表示／非表示を切りかえることができます。

n ヘッドアップディスプレイの設定変更

メーター操作スイッチの OK を長押しすると次の設定を変更できます。

l 表示の明るさ／上下位置

表示の明るさや、上下の位置を調整することができます。

l 表示タイプ

ヘッドアップディスプレイ表示のタイプ(→P.69)を変更することができます。

l 表示の傾き

表示の傾きを調整することができます。

知識

n ヘッドアップディスプレイの表示／非表示について

ヘッドアップディスプレイを非表示にしたときは、エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、非表示のままです。

n 表示の明るさについて

マルチインフォメーションディスプレイの  による明るさの調整に加えて、周囲の明るさに応じて表示の明るさが自動で調整されます。

警告

n ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

エンジンがかかった状態で操作を行う場合、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素 (CO) により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

n ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

運転支援システム表示エリア

n 運転支援システム表示

次のシステムの作動状況を表示します。

l LTA (レーントレーシングアシスト) (→P.162)

l LDA (レーンディパーチャーアラート) (→P.166)

l レーダークルーズコントロール (→P.179, 188)

l クルーズコントロール (→P.196)

l PDA (プロアクティブドライビ

ングアシスト)★(→P.171)

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。詳しくは各システムの説明を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

n ナビゲーションシステム連携表示

ナビゲーションシステムと連携して目的地案内を表示します。

割り込み表示について

状況に応じて、次の項目が割り込み表示されます。

n 運転支援システム

運転支援システムの警告／注意喚起／通知／作動状況を表示します。

n 警告メッセージ

一部の警告メッセージが表示されます。

n オーディオ表示

ハンドル上のオーディオ操作スイッチを使用したときに表示されます。

n ハンズフリー作動表示

ハンズフリーの作動中に表示されます。



知識

n 割り込み表示について

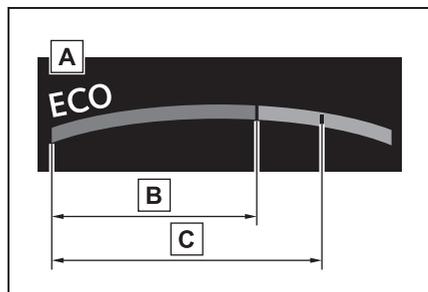
割り込み表示される項目によっては、一部の表示エリアが非表示になります。割り込み表示終了後、もとの表示にもどります。

タコメーター／エコドライブインジケータ表示★

n タコメーター

毎分のエンジン回転数を表示します。

n エコドライブインジケータ★



A エコドライブインジケータゾーン表示

B 現状のアクセル開度

C エコ運転の範囲

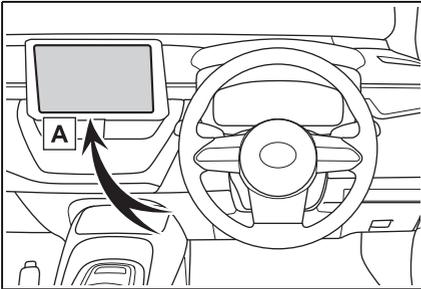
表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイのエコドライブインジケータと同様です。詳しくは、P.65 を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

燃費画面

燃費に関する情報をマルチメディア画面に表示します。

システムの構成部品

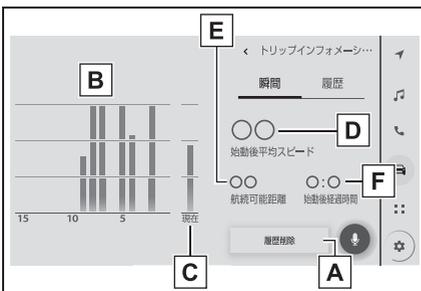


A マルチメディア画面

燃費画面の表示のしかた

- 1 メインメニューの を選択する
- 2 “トリップインフォメーション” を選択する
- 3 “瞬間” または “履歴” を選択する

n 瞬間燃費画面



- A 履歴消去
B 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費

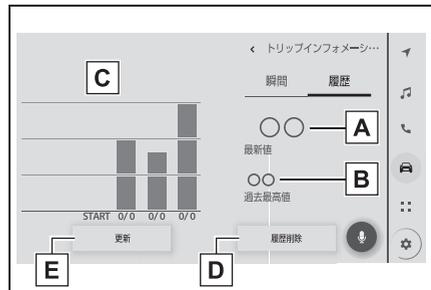
(平均燃費)

- C 瞬間燃費
D エンジン始動後平均車速
E 航続可能距離
F エンジン始動後経過時間

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

n 燃費履歴画面



- A 最新値表示
B 過去最高値表示
C 過去平均燃費表示
D 履歴消去
E 最新値更新

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

知識

n 過去の区間平均燃費の記録を更新するには

“更新” を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

n 燃費データをリセットするには

“履歴削除”を選択すると、燃費データがリセットされます。

n 航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

3-1. キー

キー 76

デジタルキー 79

3-2. ドアの開閉、ロックのしかたドア（フロントドア・リヤドア）
..... 82

バックドア 86

スマートエントリー&スタートシス
テム 89**3-3. シートの調整**

フロントシート 94

リヤシート 95

ヘッドレスト 96

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル 99

インナーミラー 100

ドアミラー 101

3-5. ドアガラスの開閉

パワーウィンドウ 103

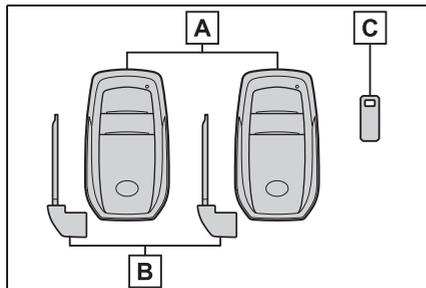
3-6. お好み設定

マイセッティング 106

キー

キーについて

お客様へ次のキーをお渡します。



A 電子キー

- ・スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P.89)
- ・ワイヤレス機能の作動 (→P.77)

B メカニカルキー

C キーナンバープレート

知識

n 航空機に乗るとき

航空機にキーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

n 電池の消耗について

- l 電池の標準的な寿命は 1～2 年です。
- l 電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- l 電子キーを長時間使用しないときは、節電モードに設定することで、電池の消耗を抑えることができます。

(→P.90)

- l 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。(→P.299)
 - ・スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
 - ・作動範囲が狭くなった
 - ・電子キーの LED が点灯しない
- l 電池はお客様自身で交換することができます (→P.299) が、交換の際にキーが破損するおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。
- l 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子キーを置かないでください。
 - ・ TV
 - ・ パソコン
 - ・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
 - ・ 電気スタンド
 - ・ 電磁調理器
- l スマートエントリー&スタートシステムによる操作をしなくても、車両周辺に長時間いると、電池の消耗は早くなります。操作をしない場合は、車両周辺に長時間いないことをおすすめします。
- l 降車オートロック機能を利用する場合、電池の消耗が早くなる可能性があります。スタンバイ状態で車両周辺に長時間いる時はキャンセル操作をおすすめします。(→P.82)

n 電池が切れたとき

→P.299

n 電子キーの取り扱いについて

JP

電子キーは電波法の認証に適合しています。

必ず以下のことをお守り下さい。

- ・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ・必ず日本国内でご使用下さい。

00

n 電子キーの機能が停止するとき

電子キーを置いたままにするなど、一定時間電子キーの位置に変化がなかった場合、電池の消耗を抑えるために電子キーの機能が停止します。この場合は、電子キーを持ち上げるなどして位置を動かすことで、自動的に復帰します。

n マルチインフォメーションディスプレイに“新しいキーが登録されました 詳しくは販売店に問い合わせください”と表示されたときは

追加で新しく電子キーが登録された場合、車外から解錠して運転席ドアを開けたときにメッセージが表示されることが10日ほど続きます。電子キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちの電子キー以外に登録されている電子キーがないかをトヨタ販売店で確認してください。

注意

n キーの故障を防ぐために

- l 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- l 温度の高いところに長時間放置しない
- l めらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- l 電子キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない

l 分解しない

l 電子キー表面にシールなどを貼らない

l テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

n キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは10cm以上離して携帯してください。10cm以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

n スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

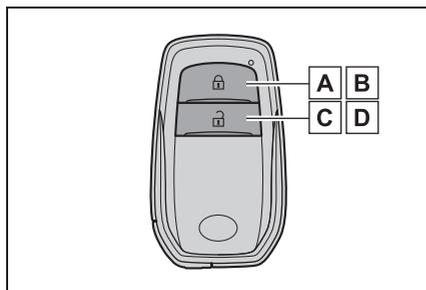
→P.341

n 電子キーを紛失したとき

→P.340

ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が搭載されています。



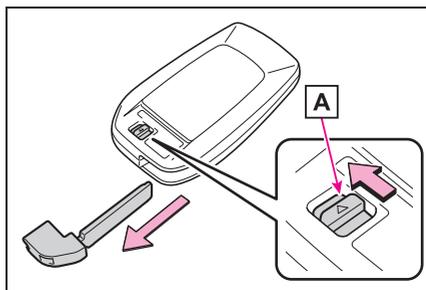
- A** ドアを施錠する (→P.82)
 - B** ドアガラスを閉める ※ (→P.82)
 - C** ドアを解錠する (→P.82)
 - D** ドアガラスを開く ※ (→P.82)
- ※ トヨタ販売店ででの設定変更が必要です。

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除レバー**A**をスライドさせてキーを取り出してください

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。(→P.341)



知識

n メカニカルキーを紛失したとき
→P.340

n 不正キーの使用について

指定のキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

デジタルキー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スマートフォンに専用のデジタルキーアプリをインストールすることで、スマートフォンを車両の電子キーの代わりとして利用できます。また、デジタルキーアプリを使って、家族や友人などとのあいだで、デジタルキーを共有することもできます。

本書では、デジタルキーについての基本的な情報のみを記載しています。システム全体の説明や、デジタルキーをお使いいただく上での注意事項やアプリのインストール方法などについては、デジタルキーの Web サイトの説明を必ずご覧の上、正しくご使用ください。

URL：

https://toyota.jp/digital_key/

QRコード：



知識

n フリー／オープンソースソフトウェア情報について

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

<https://www.denso.com/global/en/opensource/dkey/toyota/>

n デジタルキーの取り扱い

JP

- ・本機は、電波法の基準に適合しています。
- ・本機を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

00

デジタルキーの使用条件

デジタルキーを使用するためには、T-Connect に契約したうえで、デ

ジタルキー契約が必要となります。デジタルキー契約はトヨタ販売店でのみ行うことができます。

契約は有償（無料期間有）です。詳細は販売店にお問い合わせください。

ダウンロードやご利用時にかかるパケット通信料はお客さまのご負担となります。

すべてのスマートフォンでの動作を保証している訳ではありません。対応機種・OSバージョンについては、デジタルキーの Web サイトをご覧ください。

デジタルキーの注意事項

1 デジタルキーは本書に記載された使用方法および注意事項を守ってご利用ください。

デジタルキーは以下の場合などでは使用できなくなることがあります（詳細は、https://toyota.jp/digital_key/をご確認ください）。そのため、電子キーを常に携帯することを推奨いたします。

- ・ スマートフォンが故障した場合
- ・ スマートフォンとサーバーが通信できない場合
- ・ スマートフォンのバッテリー残量がなくなった場合
- ・ システムメンテナンス等により一時的にサービスが停止している場合

1 スマートフォンのバッテリー残量がなくなると、デジタルキーとしての使用もできなくなります。スマートフォンのバッテリー残量が少ない場合はお出かけ前に必ず充電してください。

1 デジタルキーは、スマートエントリー&スタートシステムに関連するシステムです。そのため、車両のカスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを無効にしているときは、

デジタルキーも使用できなくなります。

- 1 電波環境によりデジタルキーが不作動になる場合があります。（デジタルキーの Web サイト参照）
- 1 お客様が車両を売却するときはデジタルキーを必ず削除してください。

削除方法はデジタルキーの Web サイトを参照ください。

1 14 日間以上、車両の操作が無い場合はデジタルキーが自動では接続されません。その際は一度、運転席のドアハンドルに触れて下さい。

1 サーバーメンテナンス期間はサービスを一部停止させて頂く場合があります。ただし、登録済みのデジタルキーは一定期間ご利用いただけます。

1 デジタルキーアプリで車両に登録したスマートフォンは、車両の電子キーと同様にドアの施錠／解錠やエンジンの始動などが可能になるため、スマートフォンの車内への置き忘れや盗難などには特にご注意ください。

万一、スマートフォンを紛失した、または盗難にあった場合は、クルマのディスプレイでデジタルキーを削除またはデジタルキーの設定を無効にしてください。または、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

1 点検や修理などでトヨタ販売店にお越しの際は、電子キーを必ずご持参ください。

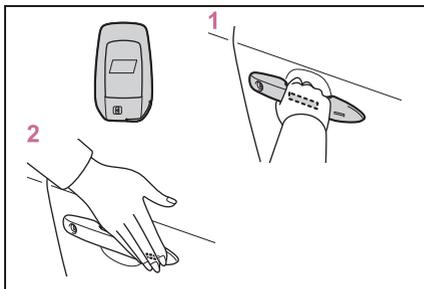
- 1 デジタルキーのみでは車両への接近時の照明の点灯、スマートエントリー&スタートシステムの降車オートロック機能など一部の機能を使用できません。

ドア（フロントドア・リヤドア）

車外から解錠／施錠するには

n スマートエントリー&スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



1 フロント席のドアハンドルを握って解錠する

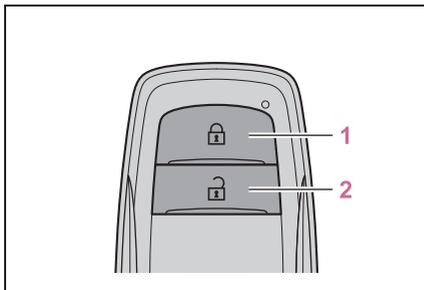
ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 フロント席ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

n ワイヤレス機能を使用する



1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスが閉まりま

す。*

2 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスが開きます。*

* トヨタ販売店での設定変更が必要です。

知識

n 降車オートロック機能*

次の手順で車から離れることで、自動で施錠することができます。

1 電子キーを携帯して降車し、すべてのドアを閉める

2 ブザーが“ピピッ”と鳴り、降車オートロック待機状態になったことを確認する。

3 降車オートロック待機状態で電子キー作動範囲（→P.89）から離れる。

すべてのドアが施錠され、作動の合図（→P.83）でお知らせします。

車内に電子キーがあると施錠できません。車内にあるすべての電子キーを携帯してください。

すべてのドアが閉じられ、電子キーが作動範囲内にあると、降車オートロック待機状態になります。

約 1 分間電子キーの作動範囲から離れなかったときは、警告ブザーが鳴り、降車オートロック待機状態が解除されます。この場合は、ドアを開閉することで降車オートロック待機状態にもどります。

* トヨタ販売店での設定変更が必要です。

n 降車オートロック機能を一時的に非作動にするには

降車オートロック待機状態のときに電子キーを携帯し、ブザーが“ピッピー”と鳴るまでドアハンドルを握り続けることで、降車オートロック機能を非作動にすることができます。

降車オートロック機能を一時的に非作動

にした場合、次の操作のあとドアを開閉することで作動可能状態にもどります。

- l ドアを施錠・解錠する
- l エンジンを始動する

n 解錠するドアを切りかえるには

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー&スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

- 1 エンジンスイッチを OFF にする
- 2 キー表面のインジケーターが消灯しているときに  ボタンと同時に、 ボタンを約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。(続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離れたあと 5 秒以上間隔をあけてから手順 2 を行ってください)

マルチインフォメーションディスプレイ表示/ブザー音	解錠できるドア
 車外：“ピピッ” (3 回) 車内：“ポーン” (1 回)	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠 助手席のドアハンドルを握ると全席解錠
 車外：“ピピッ” (2 回) 車内：“ポーン” (1 回)	フロント席のいずれかのドアハンドルを握ると全席解錠

n 作動の合図

スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

ドアガラスの開閉をブザーで知らせます。

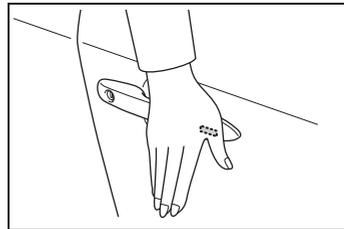
n 解錠操作のセキュリティ機能

スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンによる解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。セキュリティ機能で施錠されたとき、電子キーの位置によって室内の作動範囲内に電子キーがあると検知されると、再度解錠されることがあります。

n ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル表面のロックセンサー部に指でふれても施錠できないときは、てのひらでロックセンサー部にふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



n 半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態で、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアを施錠しようとする、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

n スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

→P.90

n スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P.341)

キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→P.299)

n バッテリーがあがったときは

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンでドアを施錠・解錠することはできません。

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠をしてください。(→P.341)

n リヤシートリマインダー機能

リヤシートへの荷物の置き忘れなどを防止するため、次の操作を行ってからエンジンスイッチを OFF にするとブザーが鳴り、約 6 秒間マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

l リヤドアを開閉したあと約 10 分以内にエンジンを始動した

l エンジンがかかっている状態でリヤドアを開閉した

ただし、リヤドアを開けてから約 2 秒以内にリヤドアを閉めたときは、リヤシートリマインダー機能は作動しません。

リヤシートリマインダー機能は、リヤドアの開閉によりリヤシートに荷物などを載せたかと判断します。そのため、使い方によってはリヤシートに荷物を置き忘れていてもリヤシートリマインダー機能が作動しないなど、実際の状況とは異なる作動をする場合があります。

n カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.357)

警告

n 事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

l すべてのドアを確実に閉め、施錠する

l 走行中はドア内側のドアレバーを引かない

特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

l お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

n ドアを開閉するときの留意事項

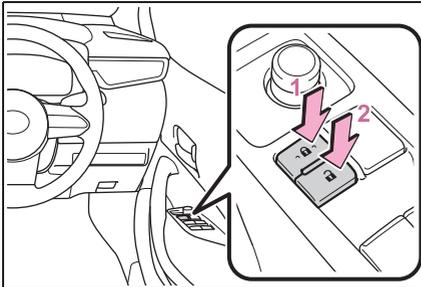
傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

n ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスを操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

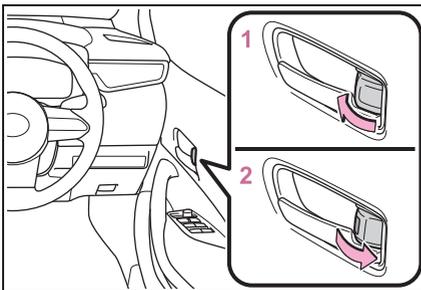
車内から解錠／施錠するには

■ ドアロックスイッチを使用する



- 1 全ドアを施錠する
- 2 全ドアを解錠する

■ ロックレバーを使用する



- 1 ドアを施錠する
- 2 ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。

□ 知識

■ キーを使わずに外側からフロント席を施錠するとき

- 1 ロックレバーを施錠側にする
- 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

エンジンスイッチが ACC または ON のときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

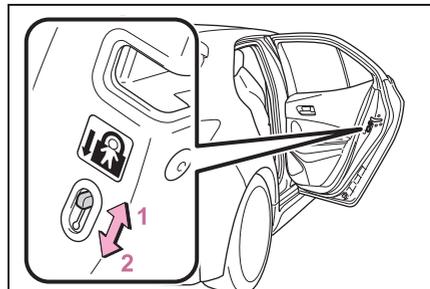
キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

■ 半ドア走行時警告ブザー

各ドアまたはバックドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえると警告ブザーが鳴り、開いているドアがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。



- 1 解錠
- 2 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

□ 知識

■ チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げた手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

バックドア

バックドアは次の方法で施錠解錠および開けることができます。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n 走行する前に

走行前にバックドアが閉まっていることを確認してください。

完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

ラゲージルームの中でお子さまを遊ばせないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。

不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

n 走行中の留意事項

ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。

急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあります。

バックドアを開ける前に、バックドア上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。

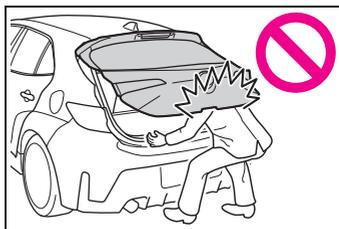
バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

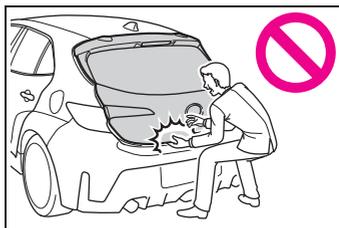
強風時の開閉には十分注意してください。

バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりする恐れがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



バックドアを閉めるときは、バックドアで指などを挟まないよう十分注意してください。

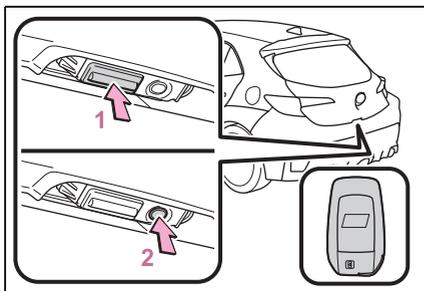


警告

- 1 バックドアは必ず外からバックドア上面を軽く押して閉めてください。バックドアハンドルで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- 1 バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 1 バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

車外から解錠／施錠するには

- n スマートエントリー&スタートシステムを使用する



- 1 バックドアオープンスイッチを押して解錠する
施錠操作後 3 秒間は解錠できません。
- 2 ロックスイッチを押して施錠する
必ず施錠されたことを確認してください。

- n ワイヤレスリモコンを使用する

→P.82



- n 作動の合図

→P.83

車内から解錠／施錠するには

- n ドアロックスイッチを使用する

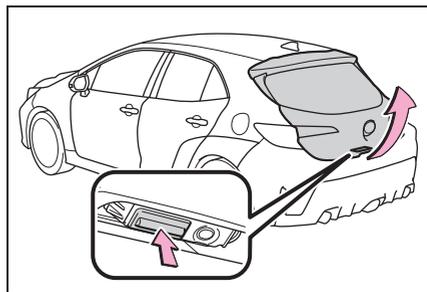
→P.85

バックドアを開閉するには

- n 開ける

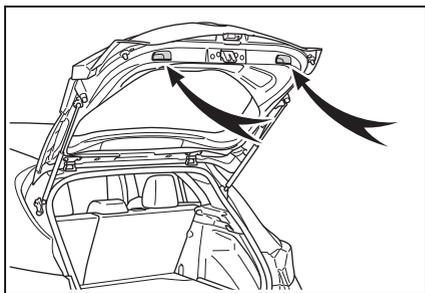
バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる

バックドアオープンスイッチを押した直後はバックドアを閉めることができません。



- n 閉める

バックドアハンドルを持って、横方向に力をかけないように引き下げ、必ず外から押して閉めてください。



- | バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品をつけない
- | ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

□ 知識

n 半ドア走行時警告ブザー

→P.85

n ラゲージルームランプ

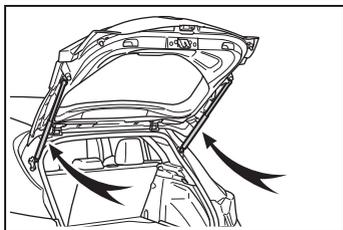
- | バックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。
- | エンジンスイッチをOFFにしたときに、ラゲージルームランプが点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

⚠ 注意

n ダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- | ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない



- | ロッド部を軍手などでふれない

スマートエントリー&スタートシステム

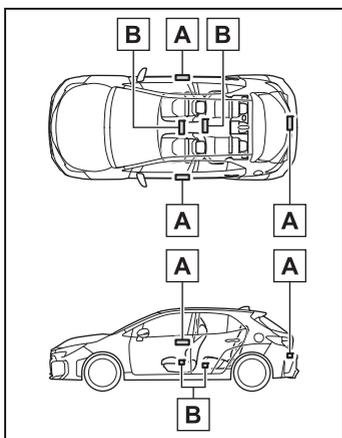
電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者が携帯してください。

- 1 ドアを施錠・解錠する
(→P.82)
- 1 バックドアを施錠・解錠する
(→P.87)
- 1 エンジンを始動する
(→P.120)



知識

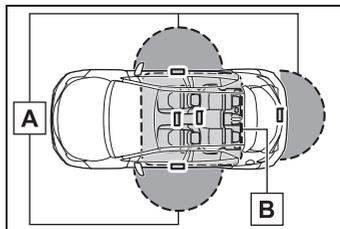
n アンテナの位置



A 車外アンテナ

B 車室内アンテナ

n 作動範囲（電子キーの検知エリア）



A ドアの施錠・解錠時

フロント席ドアハンドル/バックドアオープン・ロックスイッチから周囲約70cm以内で電子キーを携帯している場合に作動します。(電子キーを検知しているドアのみ作動します)

B エンジン始動時またはエンジンスイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

n 警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき

誤動作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されることがあります。メッセージが表示された場合は、状況に応じて適切に対処してください。(→P.324)

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

- 1 車外から警告音が“ピー”と5秒鳴るとき

状況	対処方法
いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムもしくは、ワイヤレス機能で施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する

- 1 車内から警告音が“ポーン、ポーン”

と鳴り続けるとき

状況	対処方法
運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをACCにした（エンジンスイッチがACCのとき運転席ドアを開いた）	エンジンスイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉める
運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをOFFにした	運転席ドアを閉める

n 節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

- l 次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
 - ・車の周辺に電子キーを一定時間以上放置した
 - ・5日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった
- l 14日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。
- l 車の外約3.5m以内に電子キーを20秒以上放置したときは、イルミネーテッドエントリーシステムが作動しない場合があります。

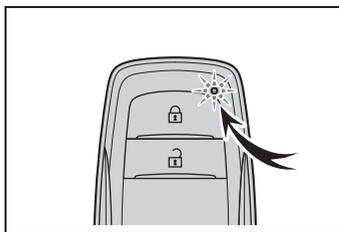
n 電子キーの節電モードについて

節電モードに設定すると、電子キーによる、電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの  を押しながら、 を2回押し、電子キーのインジケーターが4回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー&

スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



長期間使用しない電子キーは節電モードに設定しておくことをおすすめします。

n 機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。

- l 電子キーの電池が消耗しているとき
 - l 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
 - l 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・金属製の財布やかばん
 - ・小銭
 - ・カイロ
 - ・CDやDVDなどのメディア
 - l 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
 - l 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・無線機や携帯電話、コードレス式などの通信器 無線機や携帯電話

- ・ 他車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
- ・ パソコンや携帯情報端末（PDA など）
- ・ デジタルオーディオプレーヤー
- ・ ポータブルゲーム機器

| リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

| 充電器など電子機器の近くに電子キーを置いたとき

| コインパーキングなど通信をさまたげる電波がある場所に駐車したとき

スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠・解錠できない場合は、次の方法を試してください。

| ドアハンドルに電子キーを近づけて操作する

| ワイヤレス機能を使用する

上記の方法でも施錠・解錠できない場合は、メカニカルキーを使用してください。（→P.341）

また、スマートエントリー&スタートシステムでエンジンが始動できない場合は、P.342 を参照してください。

n ご留意いただきたいこと

| 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。

- ・ ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
- ・ エンジン始動時またはエンジンスイッチの切りかえ時に電子キーがインストルメントパネルやフロア上・リヤシート後方のパッケージトレイ上・ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれていた場合

| インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車

外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。

| 電子キーが作動範囲内であれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では、解錠できません。

| 車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、エンジンの始動が可能になる場合があります。

| 電子キーが作動範囲内にある場合、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（解錠された場合でも、ドアの開閉操作がなければ約30秒後に自動的に施錠されます）

| 車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレスリモコンなどで施錠を行うと、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレスリモコンで解錠すると復帰します）

| 手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。

| ロック操作は、連続で2回まで有効で、3回目以降はロック動作しません。

| 電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠/解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

- ・ 電子キーを車両から2m以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）

- ・ 電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→P.90）

| 車内にキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにか

けた場合、警報がマルチインフォメーションディスプレイに表示され、車外のブザーが吹鳴することがあります。その場合は全ドアを施錠すれば警報は表示されなくなります。

- l ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着した場合、センサーが反応しない場合があります。反応しない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。
- l すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- l 作動範囲内に他の電子キーがあるときは、ドアハンドルを握ってから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

n 降車オートロック機能※についてご留意いただきたいこと

- l 車内に人が乗っている場合でも、車内に電子キーがないときは降車オートロック機能が作動します。施錠したくないときは、降車オートロック機能を一時的に非作動にしてください。

(→P.82)

乗員を残して施錠するとオートアラームが作動することがあります。

- l 洗車機などの大きな金属物が動くような場所では、電子キーの位置が正しく検知されないおそれがあります。降車オートロック機能の誤作動を防ぐために、車から離れるときは車内に電子キーを残さないでください。
- l すべてのドアを閉めたあとに次の操作をすると、降車オートロック機能が解除されます。

- ・ ブレーキペダルを踏む
- ・ エンジンスイッチを押す

- ・ 降車オートロック機能以外で施錠・解錠する

降車オートロック機能を作動させるには、いずれかのドアを開閉してください。

- l 電子キーのスイッチを押し続けている場合、降車オートロック機能が正常に作動しないおそれがあります。
- l 降車オートロック待機状態のときにいずれかのドアを開けると、降車オートロック機能が解除されます。
- l すべてのドアが閉じたときに電子キーが作動範囲内にない場合でも、一定時間内に電子キーが作動範囲内に入ると降車オートロック機能が作動します。
- l 電池残量が少ないときは、降車オートロック機能が正常に作動しないおそれがあります。
- l 降車オートロック機能を一時的に非作動にする(→P.82)とき、ブザーが鳴る前に次の操作をすると、降車オートロック機能は非作動になりません。
 - ・ いずれかのドアを開ける
 - ・ ブレーキペダルを踏む
 - ・ エンジンスイッチを押す

降車オートロック機能を一時的に非作動にするには、いずれかのドアを開閉したあと、操作をやり直してください。

- l 降車オートロック機能を一時的に非作動にする(→P.82)ときは、施錠されていないドアのドアハンドルを握ってください。
- l 降車オートロック機能を一時的に非作動にする(→P.82)ときにブザーが鳴らない場合は、電子キーの位置を確認してから再度ドアハンドルを握ってください。

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

n 長期間運転しないとき

- l 盗難防止のため、電子キーを車両から2m以上離しておいてください。

l あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。(→P.360)

l 電子キーを節電モードに設定すると、電池の消耗を抑えることができます。(→P.90)

n システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が動かないこともあります。)

n スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき

l ドアの施錠・解錠：→P.341

l エンジンの始動：→P.342

n カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.357)

n カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたとき

l ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P.82, 341)

l エンジンの始動・エンジンスイッチのモード切りかえ：→P.342

l エンジンの停止：→P.122

警告

n 電波がおよぼす影響について (スマートエントリー&スタートシステムアンテナ)

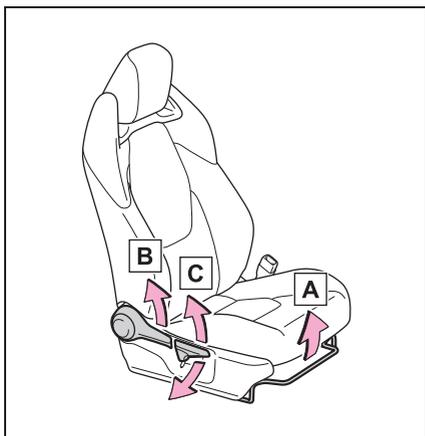
l 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ(→P.89) から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

l 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート

調整のしかた



- A** 前後位置調整
- B** リクライニング調整
- C** クッション全体の上下調整（運転席のみ）

警告

n シートを調整するとき

- l 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- l シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- l 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

n シート調整について

- l 背もたれは必要以上に倒さないでください。必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- l シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

注意

n シートを調整するときは

ヘッドレストが天井にあたらないように注意してください。ヘッドレストや天井が損傷するおそれがあります。

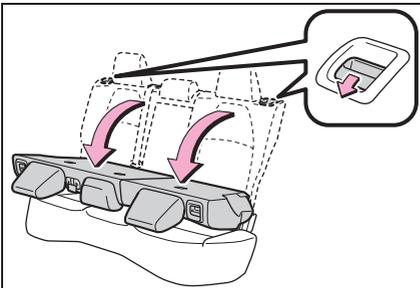
リヤシート

リヤシートは折りたたむことができます。

背もたれを前に倒す

- 1 フロントシートを前方に移動する (→P.94)
- 2 リヤアームレストを格納する (→P.265)
- 3 ヘッドレストをいちばん下まで下げる (→P.96)
- 4 ロック解除レバーを引きながら、背もたれを前方に倒す

ロックが確実に解除されるまで、レバーを引いてください。



警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n リヤシートを操作するときは

- l 走行中にリヤシートを操作しない
- l 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをオートマチック車ではP、マニュアル車ではNにする

操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意する

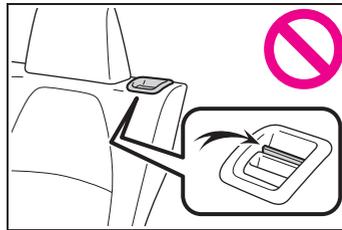
l 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない

l お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

n 背もたれをもとにもどしたあとは

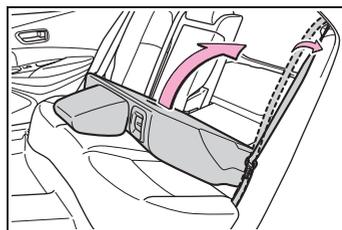
l シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する

シートが確実に固定されていないときは、レバーに赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。



l シートベルトを挟み込まないように背もたれをもとにもどしてください。

シートベルトが背もたれ固定フックに挟まり、シートベルトを損傷させるおそれがあります。



ヘッドレスト

ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。

⚠ 警告

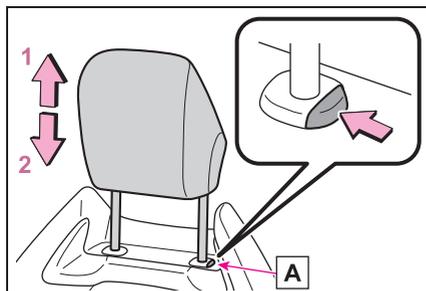
n ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 1 ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- 1 ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- 1 ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- 1 ヘッドレストをはずしたまま走行しない

上下調整するには

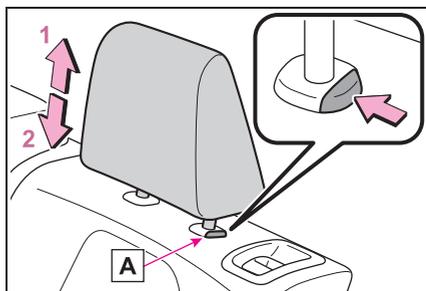
n フロント席（分割式ヘッドレスト装着車）



- 1 上げる
- 2 下げる

下げるときは、解除ボタン **A** を押しながら操作します。

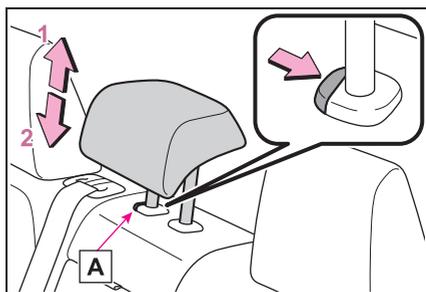
n リヤ外側席



- 1 上げる
- 2 下げる

下げるときは、解除ボタン **A** を押しながら操作します。

n リヤ中央席



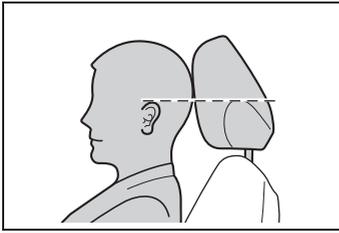
- 1 上げる
- 2 下げる

下げるときは、解除ボタン **A** を押しながら操作します。

📖 知識

n フロント席のヘッドレストの高さについて（分割式ヘッドレスト装着車）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



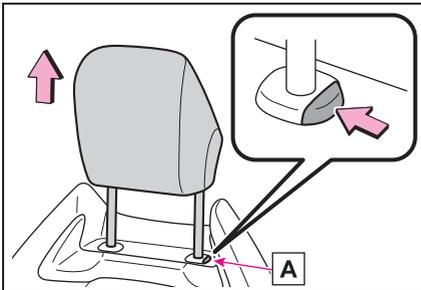
n リヤ席のヘッドレストについて

使用するとき、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

ヘッドレストを取りはずすには

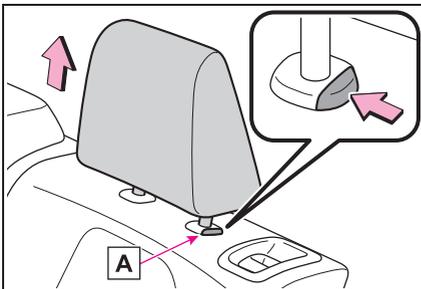
n フロント席（分割式ヘッドレスト装着車）

解除ボタン **A** を押しながらヘッドレストを引き上げます。



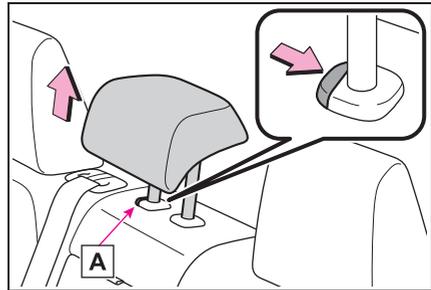
n リヤ外側席

解除ボタン **A** を押しながらヘッドレストを引き上げます。



n リヤ中央席

解除ボタン **A** を押しながらヘッドレストを引き上げます。

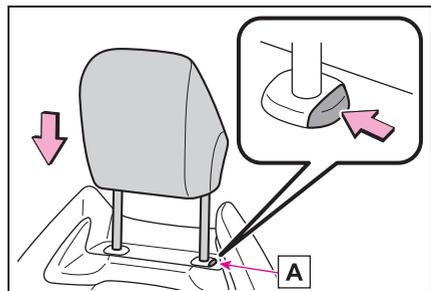


ヘッドレストを取り付けるには

n フロント席（分割式ヘッドレスト装着車）

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

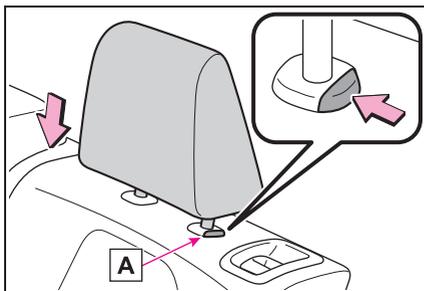
さらに下げるときは、解除ボタン **A** を押しながら操作してください。



n リヤ外側席

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

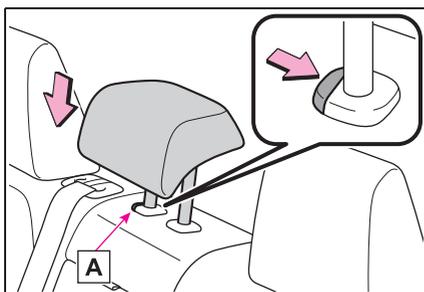
さらに下げるときは、解除ボタン **A** を押しながら操作してください。



n リヤ中央席

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

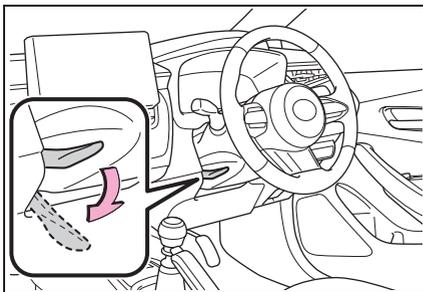
さらに下げるときは、解除ボタン **A** を押しながらか操作してください。



ハンドル

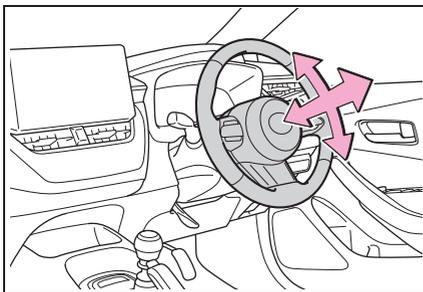
調整のしかた

- 1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



- 2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



⚠ 警告

n 走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

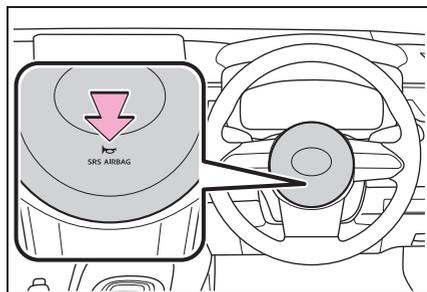
n ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。

固定が不十分だと、ハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。

ホーン（警音器）

ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。



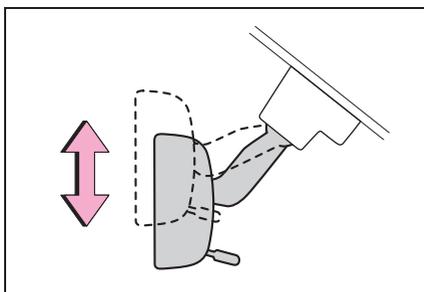
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



警告

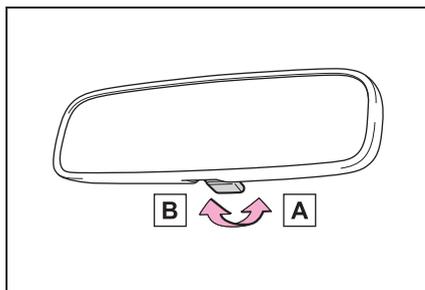
n 走行中の留意事項

走行中はミラーの調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

防眩機能

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。



A 通常使用時

B 防眩時

ドアミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようにミラーの角度を調整してください。

知識

n 寒冷時にドアミラーを使用するとき

寒冷時にドアミラーが凍結していると、ドアミラーの格納・復帰や鏡面の調整ができない場合があります。ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いてください。

警告

n 走行中の留意事項

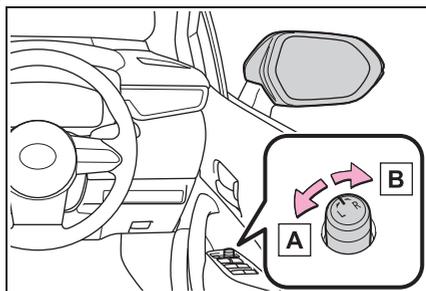
走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ❶ ミラーの調整をしない
- ❷ ドアミラーを格納したまま走行しない
- ❸ 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

調整するには

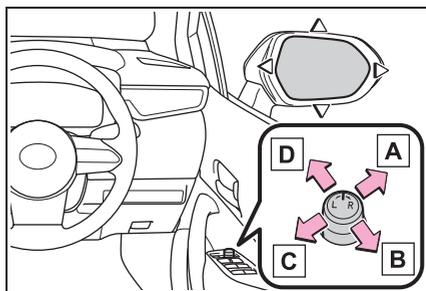
- 1 調整するミラーを選ぶには、スイッチをまわす



A 右

B 左

- 2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する



A 右

B 下

C 左

D 上

知識

n 鏡面調整の作動条件

エンジンスイッチが ACC または ON のとき

n ミラーが曇ったとき

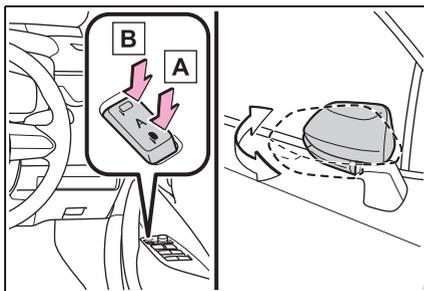
リヤウインドウデフォグガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、

曇りを取ることができます。(→P.245)

⚠ 警告

n ミラーヒーターが作動しているとき
ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

ドアミラーを格納・復帰するには



A ミラーを格納する

B ミラーをもとの位置にもどす

スイッチを中立の位置 “A” にするとオート作動に切りかわり、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠と連動して作動します。

📖 知識

n カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.357)

⚠ 警告

n ミラーが動いているとき

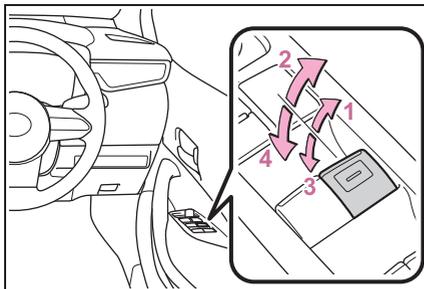
手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

パワーウィンドウ

ドアガラスを開閉するには

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。



- 1 閉める
- 2 自動全閉※
- 3 開ける
- 4 自動全開※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

知識

n 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

n エンジン停止後の作動

エンジンスイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しくなくなります。

n 挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

n 巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

n ドアガラスを開閉することができないときは

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウィンドウスイッチで、次の操作を行ってください。

1 車を停止し、エンジンスイッチを ON の状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウィンドウスイッチを自動全閉の位置で引き続ける。または、自動全開の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

1 上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

- 1 エンジンスイッチを ON にする
- 2 パワーウィンドウスイッチを自動全閉の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする
- 3 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを自動全閉の位置で約 6 秒以上引き続ける
- 4 パワーウィンドウスイッチを自動全開の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 1 秒以上押し続ける
- 5 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを自動全開の位置で約 4 秒以上押し続ける
- 6 再度、パワーウィンドウスイッチを自動全閉の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

n ドアロック連動ドアガラス開閉機能

l メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。* (→P.341)

l ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。* (→P.82)

* トヨタ販売店で設定変更が必要です。

n 窓開警告ブザー

エンジンスイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

n 音声対話サービスでの操作について

音声対話サービスを使用して次の操作をすることができます。

l すべての席の窓の開閉

l 各席の窓の開閉

(ウィンドウロックスイッチが OFF のときのみ操作可能)

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

n カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.357)

⚠ 警告

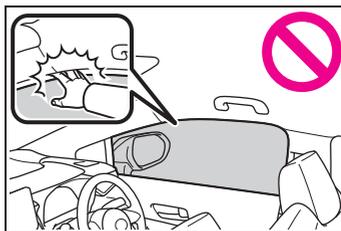
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n ドアガラスを開閉するとき

l 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

また、お子さまが同乗するときはウィンドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→P.105)

l ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



l ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

l 車から離れるときはエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告**n 挟み込み防止機能**

挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

n 巻き込み防止機能

巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。

巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などが巻き込まないように注意してください。

知識**n 作動条件**

エンジンスイッチが ON のとき

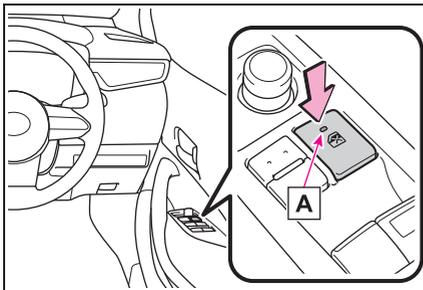
n バッテリーをはずしたとき

ウインドウロックスイッチが OFF になるため、バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

誤操作を防止するには（ウインドウロックスイッチ）

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

スイッチを押すと、インジケータ **A** が点灯し、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。



マイセッティング

電子キーなどのデバイスから個人を特定し、運転者ごとのドライビングポジションや車両設定を記憶しておくことで、次回乗車時に再生します。

あらかじめ認証デバイスを割り当てておくことで、運転者に合わせたお好みの設定で乗車することができます。

マイセッティングには、運転者3名分の設定を記憶することができます。

認証デバイスの割り当て／削除、ドライバー名の設定、初期化方法、運転者の手動きりかえ、記憶してあるドライバーの削除については別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

割り当てる認証デバイスの種類

次の認証デバイスから個人を特定します。

Ⅰ 電子キー

スマートエントリー&スタートシステムが電子キーを検出することで個人を特定します。(→P.89)

Ⅰ デジタルキー★

スマートエントリー&スタートシステムがデジタルキーを検出することで個人を特定します。(→P.79)

Ⅰ Bluetooth® デバイス

ハンズフリー電話で利用する、前回乗車時と同じ Bluetooth® デバイスがオー

ディオシステムに接続されることで個人を特定します。

Bluetooth® 機器をマルチメディアシステムに接続することで個人を特定します。Bluetooth® 機器の接続方法については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

電子キーを検出して個人を認識したときは、Bluetooth® デバイスでの個人の特定はしません。

Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

再生される機能

認証デバイスから個人特定されたとき、次の機能の設定を再生します。

Ⅰ メーター表示※ / ヘッドアップディスプレイ★表示※ / マルチメディア設定※

個人が特定されると、前回エンジンスイッチを OFF にしたときの車両設定を再生します。

Ⅰ 安全運転支援機能※

個人が特定されると、前回エンジンスイッチを OFF にしたときの車両設定を再生します。

Ⅰ マルチメディア画面で設定可能な車両設定※

個人が特定されると、前回エンジンスイッチを OFF にしたときの車両設定を再生します。

★：グレード、オプションなどにより、

装備の有無があります。

※ 一部の設定を除く

 知識

エンジンスイッチを OFF にしたときに、マイセッティングでドライバーの切りかえや登録を行う場合は、パーキングブレーキをしっかりとかけて車が動かないことを確認してください。(→P.132)

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	110
荷物を積むときの注意	118

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ	120
オートマチックトランスミッション	125
マニュアルトランスミッション	129
方向指示レバー	131
パーキングブレーキ	132

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ	133
AHB（オートマチックハイビーム）	136
リヤフォグランプスイッチ	139
ワイパー&ウォッシャー（フロント）	140
ワイパー&ウォッシャー（リヤ）	141

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	143
---------------	-----

4-5. 運転支援装置について

ソフトウェアアップデートを確認する	145
Toyota Safety Sense	147
PCS（プリクラッシュセーフティ）	153
LTA（レーントレーシングアシスト）	162
LDA（レーンディパーチャーアラート）	166

PDA（プロアクティブドライビングアシスト）	171
RSA（ロードサインアシスト）	176
レーダークルーズコントロール（停止保持機能無し）	179
レーダークルーズコントロール	188
クルーズコントロール	196
発進遅れ告知機能	199
BSM（ブラインドスポットモニター）	200
クリアランスソナー	205
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）	211
PKSB（パーキングサポートブレーキ）	216
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）	220
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）	222
安心降車アシスト	223
ドライブモードセレクトスイッチ	227
ローンチコントロール（オートマチック車）	228
4WD モードセレクトスイッチ	230
サーキットモード	231
運転を補助する装置	233

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	240
--------------	-----

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

安全に走行するには

n エンジンをかける

→P.120

n 発進する

▶ オートマチック車

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーをDにする
(→P.125)
- 2 パーキングブレーキを解除する
(→P.132)
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

▶ マニュアル車

- 1 クラッチペダルを踏んだまま、シフトレバーを1速にする
(→P.129)
- 2 パーキングブレーキを解除する
(→P.132)
- 3 クラッチペダルから徐々に足を離し、同時にアクセルペダルをゆっくり踏み発進する

n 停車する

▶ オートマチック車

- 1 シフトレバーはDのまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーをPにします。(→P.125)

▶ マニュアル車

- 1 クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーをNにします。(→P.129)

n 駐車する

▶ オートマチック車

- 1 シフトレバーはDのまま、ブレーキペダルを踏み、車を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキをかけて
(→P.132)、シフトレバーをPにする
(→P.125)

パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

シフトポジションをPにしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。

- 3 エンジンスイッチを押してエンジンを停止する
- 4 ブレーキペダルからゆっくり足を離す
- 5 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め^{*}を使用してください。

▶ マニュアル車

- 1 クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏み、車を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキをかける
(→P.132)

パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

3 シフトレバーを N にする (→P.129)

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じてシフトレバーを 1 速または R にし、輪止め※を使用してください。

4 エンジンスイッチを押してエンジンを停止する

5 ブレーキペダルからゆっくり足を離す

6 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

※ 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

n 上り坂で発進する

▶ オートマチック車

1 パーキングブレーキをしっかりとかけ、シフトレバーを D にする

2 アクセルペダルをゆっくり踏む

3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

▶ マニュアル車

1 パーキングブレーキをしっかりとかけ、シフトレバーを 1 速にする

2 アクセルペダルを軽く踏み、同時にクラッチペダルから徐々に足を離す

3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

□ 知識

n 雨の日の運転について

l 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

い。

l 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

l 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

n 走行中のエンジン回転数について (オートマチック車)

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなる場合があります。これは走行状況に合わせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うため、急加速を示すものではありません。

l 車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき

l アクセルペダルを離れたとき

l スポーツモード選択時に、ブレーキペダルを踏んだとき

n エンジン出力の抑制について (ブレーキオーバーライドシステム)

l アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。

l ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

n 高摩擦ブレーキパッド装着車について

l 車速、制動力や車両を取り巻く環境(気温、湿度など)によってはブレーキノイズが発生することがあります。

l ブレーキダストが出やすく、ブレーキパッドの寿命が短い場合があります。

l ブレーキパッドの貼り付きが発生することがあります。

l 低温、雪、水などの影響でブレーキの効きが低下することがあります。

n パーキングブレーキについて

ドラムインタイプのパーキングブレーキシステムは、定期的またはブレーキシューやブレーキドラムを交換したとき、ブレーキシューのすり合わせが必要です。トヨタ販売店でブレーキシューのすり合わせをしてください。

n 運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミ部分に取り付けることはできません。

n オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

- l 暑い日に長い上り坂を走行する
- l 高速走行直後に急減速や急停止をする

n エンジン停止前のアイドル運転について

ターボ装置などの損傷を防ぐため、高速走行・登坂走行直後は、アイドル運転を行ってからエンジンを停止してください。

走行状況	アイドル運転時間
市街地、郊外などの一般走行および高速走行（高速道路の法定または制限速度）	不要
山岳ドライブウェイなどの急な登坂路走行およびサーキットなどの連続走行	約 1 分

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n 発進するとき（オートマチック車）

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

n 運転するとき

l 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

- ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるように注意してください。
- ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

l 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

警告

- I 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路わきに停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P.310を参照してください。
- I 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードをおとしてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。
(→P.125, 129)
- I 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- I すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- I オフロード走行をしないでください。本格的なオフロード走行を目的とした4WD車ではありません。やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
- I 渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。
- n **すべりやすい路面を運転するとき**
 - I 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。

急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- I 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

n シフトレバーを操作するとき

- I オートマチック車では、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- I オートマチック車では、車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- I 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- I 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

⚠ 警告

走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。

オートマチック車では、アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

n 継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

n 停車するとき

空ぶかしをしないでください。シフトレバーがP（オートマチック車）またはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

オートマチック車では、車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

停車中に空ぶかしをしないでください。排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあります。

n 駐車するとき

炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。

放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあります。

- ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火したりする
- ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
- ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートしたりする原因になる

ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたりしたままにしたりすると、荷物を押し込んだりシートを動かしたりしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあります。

ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。

吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあります。

警告

- I シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの動きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- I 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをP（オートマチック車）に入れてエンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーをP（オートマチック車）にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- I エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

n 仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n ブレーキをかけるとき

- I ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。
また、パーキングブレーキがしっかりとかけられないおそれもあります。

- I ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付かないでください。
また、下り坂や急カーブを避けてください。

この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。
また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

- I 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。
ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。

- I ブレーキシステムは2つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。
この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があります。
制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

n 万一脱輪したとき

駆動輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。
駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

n 運転しているとき（オートマチック車）

- I 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。
アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。

⚠ 注意

- Ⅰ 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。
- n 運転しているとき (マニュアル車)**
 - Ⅰ 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。
 - Ⅰ クラッチペダルを確実に踏み込んでいない状態で、シフトレバーを操作しないでください。クラッチやトランスミッションが損傷するおそれがあります。
 - Ⅰ クラッチの摩耗・損傷を防ぐため、次のことをお守りください。クラッチが摩耗・損傷すると、アクセルを踏んでも車両が加速しにくくなったり、最悪の場合車両が発進できなくなったりします。その場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。
 - ・ シフト操作時以外は、クラッチペダルから足を離して運転する
 - ・ 1 速以外での発進は避ける
 - ・ クラッチペダルで車速を調整しない
 - ・ シフトレバーを N 以外に入れたまま停止するときは、クラッチペダルを踏み込んでブレーキを使用する
 - Ⅰ 車両が完全に停止してから R に入れてください。クラッチ・トランスミッション・ギアに損傷を受けるおそれがあります。

n 駐車するとき (オートマチック車)

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進したりするおそれがあります。

n 部品の損傷を防ぐために

- Ⅰ パワーステアリングの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- Ⅰ ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

n ターボ装置の故障を防ぐために

- Ⅰ 高負荷走行直後は、エンジンを停止しないでください。必ずアイドル運転を行い、ターボ装置などを冷却してからエンジンを停止してください。(→P.112)
 - Ⅰ 排気管・エアクリーナ・スパークプラグなどには純正部品または同等品をお使いください。
 - Ⅰ 排気管の改造は絶対にしないでください。
 - Ⅰ エンジンが冷えているときは、空ぶかしや急加速は絶対に行わないでください。
 - Ⅰ 定期的なオイル交換を必ず行ってください。
- n 走行中にタイヤがパンクしたら**
- 次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- Ⅰ ハンドルがとられる

⚠ 注意

ⓘ 異常な音や振動がある

ⓘ 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P.329 を参照してください。

n 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

ⓘ エンスト

ⓘ 電装品のショート

ⓘ 水を吸い込んでのエンジン破損

ⓘ グリースが洗い流されたり、グリースに泥などが混入したりすることによる、潤滑不良やゴム製部品・機械部品の故障

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときや、泥や砂に埋もれてしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

ⓘ ブレーキの効き具合

ⓘ エンジン・トランスミッション・クラッチ（マニュアル車）・トランスファー・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化

ⓘ プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

急発進および後退速度の抑制 （ドライブスタートコントロール [オートマチック車]）

n 急発進の抑制制御

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、エンジン出力を抑制することがあります。

ⓘ R に切りかえたとき*

ⓘ P または R から、D などの前進シフトポジションに切りかえたとき*

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

* 状況によっては操作できない場合があります。

n 後退速度の抑制制御

後退時の速度が所定以下となるようにエンジン出力を抑制*します。

後退速度の抑制制御が作動しているときは、マルチインフォメーションディスプレイに“速度抑制中”が表示されます。

* 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

□ 知識

n ドライブスタートコントロールについて（オートマチック車）

ⓘ TRC の作動を停止（→P.235）すると、急発進の抑制制御も停止します。急発進の抑制制御により、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRC の作動を停止してください。（→P.235）

ⓘ タイヤがスリップ（空転）していると、後退速度の抑制制御が作動することがあります。

ⓘ 後退速度の抑制制御の ON（作動）／OFF（非作動）を切りかえることができます。（→P.357）

・ エンジンスイッチを ON にしたときは、後退速度の抑制制御は常に ON（作動）になっています。

・ 後退速度の抑制制御を OFF（非作動）

にしても、急発進の抑制制御は作動します。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

n 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- | 燃料が入った容器
- | スプレー缶

n 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、クラッチペダル（マニュアル車）・ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかつたり、荷物が視界をさえぎつたり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- | できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- | 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ パッケージトレイ
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
- | 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
- | シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。

⚠ 警告

- | 後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- | ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
- n **荷物の重量・荷重のかけ方について**
 - | 荷物を積み過ぎないでください。
 - | 荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤや駆動系部品に負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンをかけるには

- 1 正しい運転姿勢（→P.23）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する
- 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 3 シフトレバーがP（オートマチック車）もしくはN（マニュアル車）の位置にあることを確認する
- 4 ブレーキペダル（オートマチック車）もしくはクラッチペダルとブレーキペダル（マニュアル車）をしっかりと踏む

マルチインフォメーションディスプレイに  とメッセージが表示されます。

表示されないと、エンジンは始動しません。

- 5 エンジンスイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

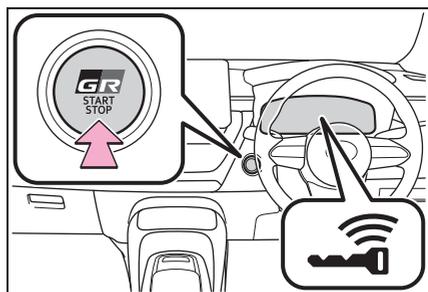
エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

オートマチック車：完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

マニュアル車：完全にエンジンが始動す

るまでクラッチペダルとブレーキペダルを踏み続けてください。

エンジンスイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。



知識

n エンジンスイッチ照明

状況に応じて、次のようにエンジンスイッチ照明が切りかわります。

- l エンジンスイッチをACCまたはONからOFFに変更すると、エンジンスイッチのイルミネーションが点灯します。
- l 電子キーを持ってブレーキペダル（オートマチック車）もしくはクラッチペダル（マニュアル車）を踏むと、エンジンスイッチのイルミネーションが点滅します。
- l ドアが開いているとき、またはエンジンスイッチがACCまたはONのときは、エンジンスイッチのイルミネーションが常時点灯します。

n エンジンが始動しないとき

- l エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→P.50）トヨタ販売店へご連絡ください。
- l 始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。

n バッテリーがあがったときは

スマートエントリー&スタートシステムでエンジンを始動することができません。エンジンを始動するには、P.343 を参照してください。

n 電子キーの電池の消耗について

→P.76

n スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P.90

n ご留意いただきたいこと

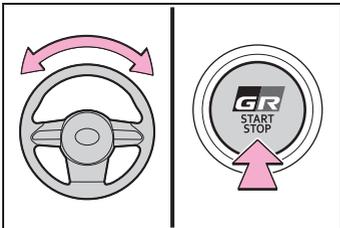
→P.91

n ステアリングロック機能★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

l エンジンスイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。エンジンスイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

l ステアリングロックが解除できないときは、マルチインフォメーションディスプレイに“ハンドルを左右に回しながらエンジンスイッチを押してください”が表示されます。シフトレバーが N にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながらエンジンスイッチを短く確実に押してください。



l 短時間にエンジンの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。

10 秒程度でもとの状態にもどります。

n 電子キーの電池交換

→P.299

n エンジンスイッチの操作について

l スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやエンジンの始動ができない場合があります。

l エンジンスイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、エンジンが始動しない場合があります。エンジンスイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

n カスタマイズ機能

カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは、P.341 を参照してください。

警告

n エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n 走行中の警告（ステアリングロック装着車）

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意**n エンジンを始動するとき**

1 エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。

1 もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

n エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

エンジンを停止するには**▶ オートマチック車**

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキをかけて (→P.132)、シフトレバーを P の位置にする

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

シフトレバーを P にしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。

3 エンジンスイッチを押す

エンジンが停止し、メーター表示が消えます。

- 4 ブレーキペダルから足を離してマルチインフォメーションディスプレイの“アクセサリー”や“パワー ON”の表示が消灯していることを確認する

▶ マニュアル車

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキをかける (→P.132)

メーター内のパーキングブレーキ表示灯

が点灯していることを確認します。

- 3 シフトレバーを N にする (→P.129)

4 エンジンスイッチを押す

エンジンが停止し、メーター表示が消えます。

- 5 ブレーキペダルから足を離してマルチインフォメーションディスプレイの“アクセサリー”や“パワー ON”の表示が消灯していることを確認する

⚠ 警告**n 緊急時のエンジン停止方法**

1 走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→P.310) ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

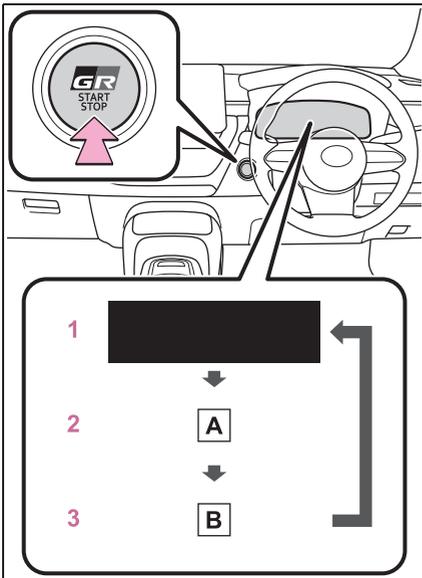
1 走行中にエンジンスイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。

1 オートマチック車：走行中にエンジンを緊急停止したあと、走行中にエンジンを再始動させる場合は、シフトレバーを N にし、エンジンスイッチを押してください。

1 マニュアル車：走行中にエンジンを緊急停止したあと、走行中にエンジンを再始動させる場合は、クラッチペダルを踏み、エンジンスイッチを押してください。

エンジンスイッチを切りかえるには

ブレーキペダル（オートマチック車）もしくはクラッチペダル（マニュアル車）を踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）



A “アクセサリー”

B “パワー ON”

1 OFF※¹

非常点滅灯が使用できます。

2 ACC※²

オーディオなどの電装品が使用できます。
マルチインフォメーションディスプレイに“アクセサリー”が表示されます。

3 ON

すべての電装品が使用できます。
マルチインフォメーションディスプレイに“パワー ON”が表示されます。

※¹ オートマチック車：シフトレバーがP以外またはシフトレバーのボタンを押しているときはONのままになり、OFFになりません。

※² カスタマイズメニューでON / OFFを切りかえることができます。
(→P.357)

知識

n ACC カスタマイズが OFF のとき

エンジンスイッチがOFFの状態でも、節電機能が働くまでの一定時間はマルチメディアシステムが使用できます。

n 自動電源 OFF 機能

オートマチック車：シフトレバーがPにあり、シフトレバーのボタンを押していないとき、20分以上ACCかON（エンジンがかかっていない状態）にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動でOFFになります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをACC、またはONにしたまま長時間放置しないでください。

マニュアル車：20分以上ACCかON（エンジンがかかっていない状態）にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動でOFFになります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをACC、またはONにしたまま長時間放置しないでください。

注意

n バッテリーあがりを防止するために

l エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをACCまたはONにしたまま長時間放置しないでください。

 注意

- 1 エンジンがかかっていないときに、マルチインフォメーションディスプレイの“アクセサリー”または“パワー ON”の表示が消灯していない場合、エンジンスイッチが OFF になっていません。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したとき（オートマチック車）

シフトレバーが P 以外またはシフトレバーのボタンを押しているときにエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチのモードは OFF にはなりません。次の手順で OFF にしてください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーを P の位置にする
シフトレバーを P にしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。
- 3 マルチインフォメーションディスプレイに“パワー ON”が表示されていることを確認し、エンジンスイッチを短く確実に 1 回押す
- 4 マルチインフォメーションディスプレイの“アクセサリー”または“パワー ON”の表示が消灯していることを確認する

 注意

- n **バッテリーあがりを防止するために**
シフトレバーが P 以外またはシフトレバーのボタンを押している状態でエンジンを停止させないでください。シフトレバーが P 以外またはシフトレバーのボタンを押している状態でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチが ON のままとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因になります。

オートマチックトランス ミッション★

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

目的や状況に応じてシフトポジ
ションを選択してください。

シフトポジションの使用目的に ついて

シフトポジ ション	目的および状態
P	駐車またはエンジンの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※
M	M モード走行 (→P.128)

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常
はDポジションを使用してください。

知識

n リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

n レーダークルーズコントロール（停止保持機能無し）を使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に走行モードをスポーツモードにしても、レーダークルーズコントロール（停止保持機能無し）が解除されないためエンジンブレーキは効きません。(→P.227)

n マルチインフォメーションディスプレイに“トランスミッションオイル 高温 安全な場所に停止し取扱書を確認”と表示されたときは

シフトレバーをDに入れ、アクセルペダルから足を離し、減速してください。車を安全な場所に停めてから、シフトレバーをPに入れ、警告メッセージが消えるまでエンジンをかけたままにしてください。警告メッセージが消えれば、再度走行できます。警告メッセージが消えない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。

n 急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

→P.117

n AI-SHIFT について

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切なギヤ段に切りかえます。AI-SHIFT は、シフトポジションをDにしているとき自動的に作動します。(シフトポジションをMにすると機能が解除されます)

n バッテリーを脱着したとき

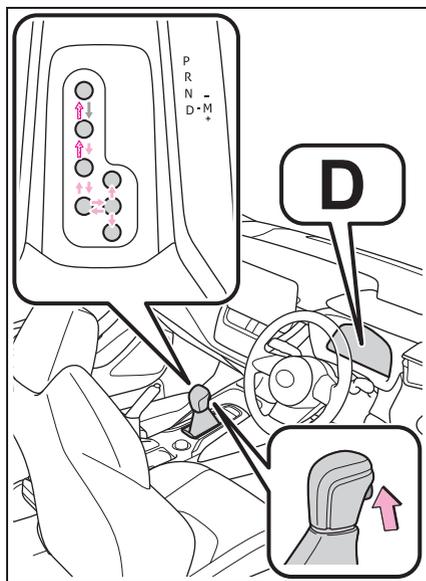
→P.344

警告

n すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

シフトレバーの動かし方



←：エンジンスイッチが ON の状態で、ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押しながら操作します。※

←：シフトレバーのボタンを押しながら操作します。

←：シフトレバーのボタンを押さずそのまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

※シフトレバーのボタンを押す前にブレーキペダルを踏んでください。シフトレバーのボタンを始めに押してもシフトロックは解除されません。

知識

n シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフ

トレバーの誤操作を防ぐシステムです。エンジンスイッチが ON でブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

n シフトレバーを P からシフトできないとき

高地かつ低温環境下での始動時は、P に保持され、マルチインフォメーションディスプレイには“Pレンジ継続中エンジン暖機まで待機”と表示されます。

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。

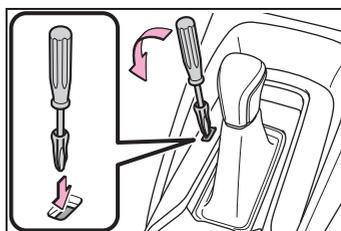
ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができません。

シフトロックの解除のしかた：

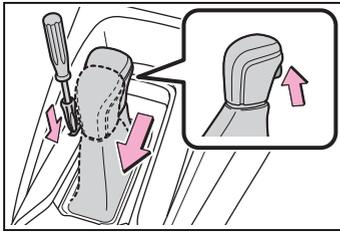
- 1 パーキングブレーキをかける
- 2 エンジンスイッチを OFF にする
- 3 ブレーキペダルを踏む
- 4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 5 シフトロック解除ボタンを押しながらシフトレバーのボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



⚠ 警告

n シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

走行モードの選択

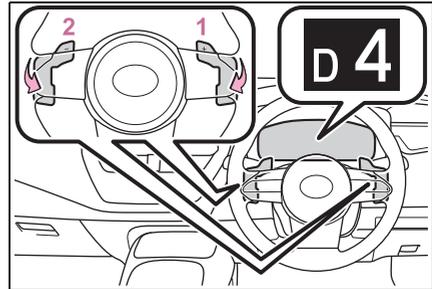
→P.227

D ポジションでレンジ選択するには

パドルシフトスイッチの“-”または“+”側を操作すると、一時的にレンジを選択する走行へ切りかわります。

パドルシフトスイッチの“-”側を操作したとき、走行状態に適したエンジンブレーキ力を得られるレンジに切りかえます。パドルシフトスイッチの“+”側を操作したときは、現在のレンジより一つ上のレンジに切りかえます。

レンジを選択することで、使用するギヤ段の上限を制限し、不要なシフトアップを抑えたり、エンジンブレーキ力を切りかえることができます。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

D1 から D8 レンジのあいだで選択されている変速段がメーターに表示されます。通常走行にもどすときは、パドルシフトスイッチの“+”側を一定時間以上保持します。

📖 知識

n シフトレンジ機能

l エンジンブレーキ力は、8 段階から選択が可能です。

l シフトレンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

n D ポジションでのレンジ選択の自動解除

次のとき、自動的に D ポジションでのレンジ選択が解除されます。

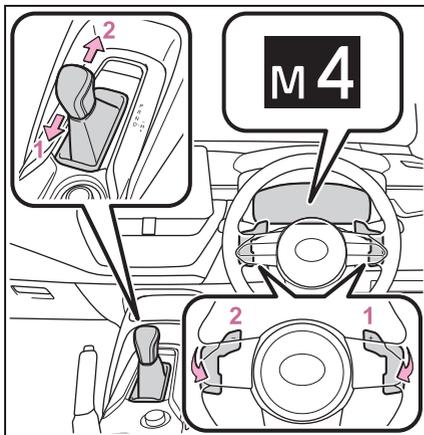
- l 停車したとき
- l アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき
- l シフトレバーを D 以外にしたとき
- l パドルシフトスイッチの“+”側を長押ししたとき

n シフトダウン制限警告ブザーと点滅

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、パドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。このときブザーが2回鳴り、また中央のギヤ段表示部が2回点滅します。

M モードでギヤ段選択するには

シフトレバーを M ポジションにすると、M モードに切りかわります。シフトレバーまたはパドルシフトスイッチの操作で思い通りのギヤ段を選択し、運転することができます。シフトレバーまたはパドルシフトスイッチの“-”側または“+”側の操作でギヤ段を選択することができます。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

シフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作することに1速ずつ変速します。

M1 から M8 の中で選択した変速段がメーターに表示されます。

M ポジションで走行しているとき

でも、エンジン回転数が上がりすぎそうなとき、または下がりすぎそうなときは、自動的に変速段が切りかわる場合があります。

知識

n 変速段機能

l エンジンブレーキ力は、8段階から選択が可能です。

l シフトレンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

n M ポジションで走行中に停車したときは

l 停車すると自動的にM1にシフトダウンされます。

l 停止後走行するときはM1からの発進となります。

l 停車後はM1に固定されます。

n シフトダウン制限警告ブザーと点滅

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。このときブザーが2回鳴り、また中央のギヤ段表示部が2回点滅します。

n シフトレバーをMにしても、M表示灯が点灯しないときまたは点滅したときは

システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

この場合、シフトレバーをDにしているときと同じ制御になります。

マニュアルトランスミッション★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

操作のしかた

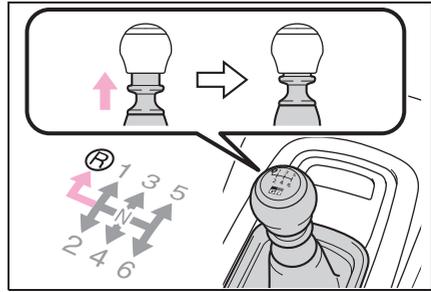
n シフト操作のしかた



- 1 クラッチペダルをしっかり踏む
 - 2 シフトレバーを希望のシフト位置に入れる
- シフト操作は一段ずつ行ってください。
- 3 クラッチペダルから徐々に足を離す

n R へのシフト操作

ブルカラーを引き上げながら、R に入れます。



シフトレバーが R に入りにくいときは、シフトレバーを N に入れ、クラッチペダルを踏み直してから、再度シフト操作してください。

知識

n 各シフトの速度限界

エンジンを過回転させないために各シフト位置での速度が次に記載してある数値をこえないようにしてください。

シフト位置	最高速度 (km/h)
1	63
2	98
3	142

注意

n 損傷を防ぐために

シフト操作時は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、エンジン、トランスミッションやクラッチを損傷させるおそれがあります。

- ┃ クラッチペダルを踏まずにシフトレバーを操作しないでください。
- ┃ Rへシフトするとき以外は、ブルカラーを上へ引かないでください。
- ┃ Rへシフトするときは、車が停止した状態でおこなってください。

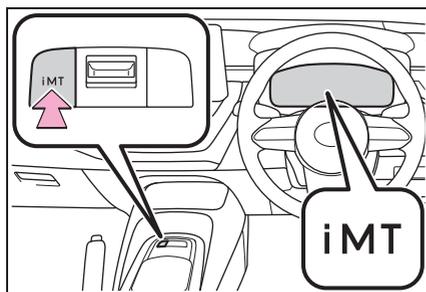
⚠ 注意

- l シフト操作時以外は、シフトレバーから手を離してください。
- l エンジンを過回転させないよう、シフト操作は一段ずつ行ってください。
- l クラッチペダルを一気に離す操作はしないでください。

iMT (インテリジェントマニュアルトランスミッション)

iMT は、クラッチペダルとシフトレバーの操作を検知し、シフト操作時のエンジン回転数を適切に制御することで、スムーズな変速を支援します。変速ショックを軽減することで、曲がりくねった道や登降坂路などでも軽快な変速が行えます。

iMT スイッチを押す



iMT 表示灯（緑）が点灯します。解除するには再度 iMT スイッチを押します。

□ 知識

n iMT が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状態では、iMT が正常に作動しないおそれがありますが、故障ではありません。

- l クラッチペダルをしっかり踏み込んで

いない

- l クラッチペダルから足を完全に離していない
- l シフトレバーが N の状態で走行中にシフト操作をした
- l クラッチペダルを踏み込んでから、シフトレバーを操作するまでの間隔があいている

シフト操作後、クラッチペダルから足を完全に離さずに次のシフト操作をすると、iMT は作動しません。iMT を作動させるには、クラッチペダルから足を完全に離れた後、シフト操作してください。

n マルチインフォメーションディスプレイに“iMT システム異常 販売店で点検してください”が表示されたとき

システムが一時的に作動しない、またはシステムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

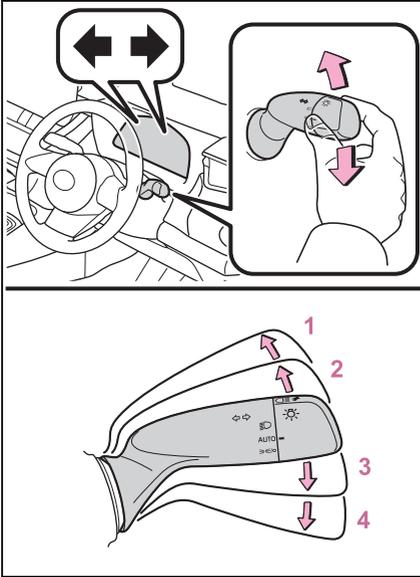
n 安全にお使いいただくために

iMT は、シフト操作のミスやエンジンの過回転を防止するシステムではありません。状況によっては、システムが作動せず、スムーズに変速できないことがあります。システムに過度に依存すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。危険です。

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。



- 1 左折
- 2 左側へ車線変更
(レバーを途中まで動かして離す)

左側方向指示灯が5回点滅します。

- 3 右側へ車線変更
(レバーを途中まで動かして離す)

右側方向指示灯が5回点滅します。

- 4 右折



知識

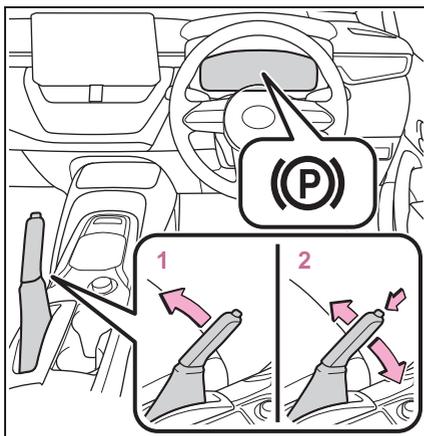
n 作動条件

エンジンスイッチがONのとき

n 表示灯の点滅が異常に速くなったとき
方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

操作のしかた



- 1 パーキングブレーキをかけるにはブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキレバーをいっぱいまで引く
- 2 パーキングブレーキを解除するには、レバーを少し引上げ、ボタンを押しながら完全に下までもどす

知識

n 駐車するとき

→P.110

n パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに“パーキングブレーキを解除してください”と表示されます（車速が5km/hをこえたとき）

n 冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.240

⚠ 注意

n 駐車するとき

車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをNにし、車が動かないことを確認してください。（→P.110）

n 走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。

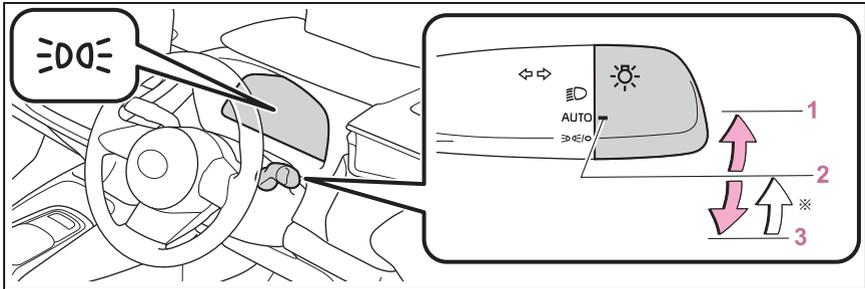
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ランプスイッチ

自動または手でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた

次のように  スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※ スイッチを **3**  の位置へ操作し手を離すと、自動的に **2** AUTO の位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
1 	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
2 AUTO ^{※1}	LED デイライト (→P.134) が点灯	ヘッドランプ・スモールランプが点灯
3  ^{※1}	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯 ^{※2}

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・インストルメントパネルランプを意味します。

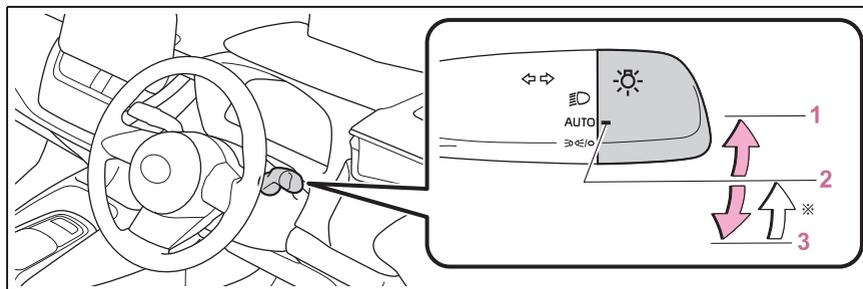
※¹ 操作するたびに、**2** AUTO による点灯状態と **3**  による点灯状態が切りかわります。

※² 停車中のみ点灯可能。車両を発進させると **2** AUTO による点灯状態に切りかわります。

消灯のしかた

 スイッチを **3**  の位置で1秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に **1**  か **3** /O の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



* スイッチを **3** /O の位置へ操作し手を離すと、自動的に **2** AUTO の位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
3  /O	ヘッドランプ・スモールランプ・LED デイライト (→P.134) が消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯*

* 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

知識

n AUTO モードの作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

n LED デイライト

日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、エンジン始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを AUTO にすると、LED デイライトが自動で点灯します。(車幅灯より明るく点灯します。)

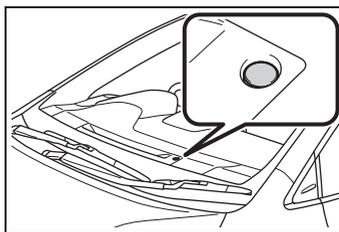
LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

n 自動で点灯/消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯/消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

n ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



n ランプ消し忘れ防止機能

エンジンスイッチを ACC または OFF にして運転席ドアを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチを ON にするか、一度ランプス

スイッチを**AUTO**にしてから /O または  の位置にします。

n ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

n ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能^{*}

日中での走行時、ランプスイッチが

AUTO でワイパーを作動してしばらくすると、自車が他車から見やすくなるようにヘッドランプが自動点灯します。

^{*} トヨタ販売店での設定変更が必要です。

n 節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチが ACC または OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後にすべてのランプが自動消灯します。次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き、約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

- ┆ エンジンスイッチを ON にしたとき
- ┆ ランプスイッチを操作したとき
- ┆ ドアまたはバックドアを開閉したとき

n カスタマイズ機能

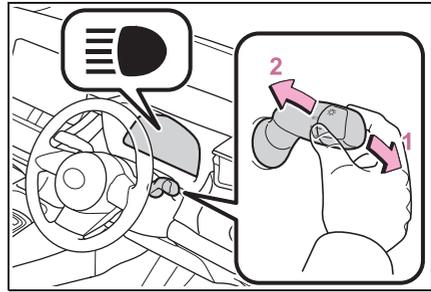
機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.357)

注意

n バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ハイビームにするには



1 ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

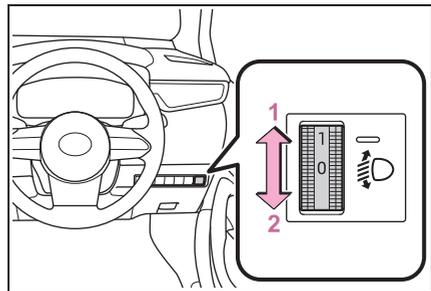
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

手動光軸調整ダイヤル

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。



1 上向きに調整

2 下向きに調整

n 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0.5
全乗員	なし	1
全乗員	ラゲージルーム満載時	2
運転者	ラゲージルーム満載時	2.5

AHB (オートマチックハイビーム)

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

⚠ 警告

n 安全にお使いいただくために

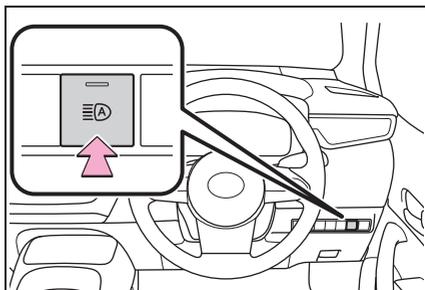
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

n オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

システムを OFF にする必要があるとき：→P.147

オートマチックハイビームを使うには

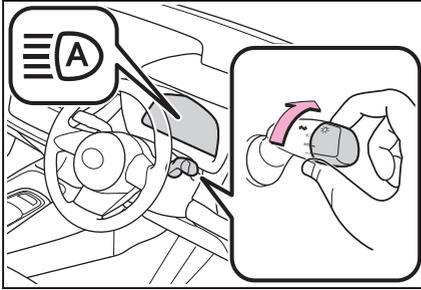
- 1 オートマチックハイビームスイッチを押す



2 ランプスイッチをAUTOまたは

☾にする

レバーがロービームの位置にあるとき、オートマチックハイビームシステムが作動し、AHB表示灯が点灯します。



☐ 知識

n ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

↓ 次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

- ・ 車速が約 30km/h 以上
- ・ 車両前方が暗い
- ・ 前方にランプを点灯した車両がない
- ・ 前方の道路沿いの街路灯などの光が少ない

↓ 次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

- ・ 車速が約 25km/h 以下
- ・ 車両前方が明るい
- ・ 前方車両がランプを点灯している
- ・ 前方の道路沿いの街路灯などの光が多い

n 前方カメラの検知について

↓ 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。

- ・ 車両が割り込んできたとき
- ・ 他車が前方を横切ったとき
- ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき

- ・ 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
- ・ 前方車両が遠方を走行しているとき
- ・ 前方車両が無灯火のとき
- ・ 前方車両のランプ類の照度が低いとき
- ・ 前方車両が自車のヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
- ・ センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.151

↓ 前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。

↓ 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

↓ 次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。

- ・ 前方車両のランプの明るさ
- ・ 前方車両の動きや向き
- ・ 前方車両との車間距離
- ・ 前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
- ・ 前方車両が二輪車のとき
- ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
- ・ 乗車人数や荷物の量

↓ ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

↓ 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

↓ 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

- ・ 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
- ・ 前方車両のランプが無灯火のときや、

ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき

- ・ ハイビームとロービームをひんばんに切りかえているとき
- ・ ハイビームの点灯が不適切と思われるとき、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
- ・ システムを OFF にする必要があるとき：→P.147
- ・ センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.151

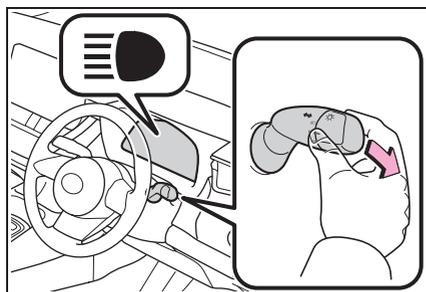
手動制御に切りかえるには

n ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

AHB 表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。

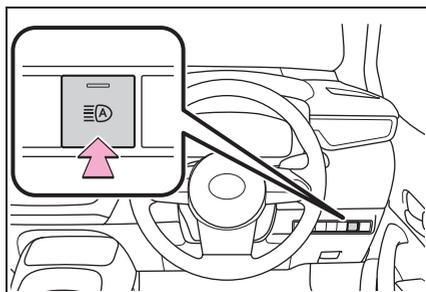


n ロービームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

AHB 表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度オートマチックハイビームスイッチを押します。

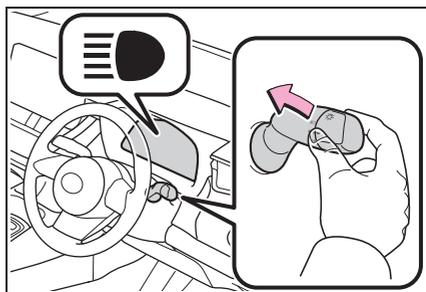


一時的なロービームへの切りかえ

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度オートマチックハイビームが作動します。



リヤフォグランプスイッチ ★

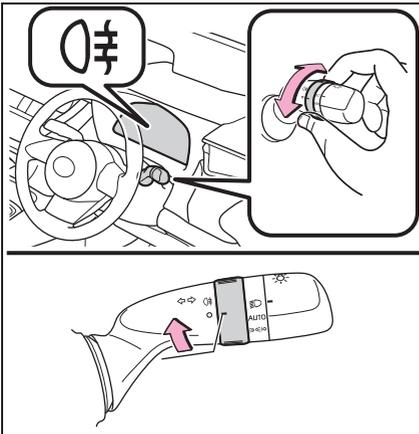
★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

雨や霧などの悪天候下では、後
続車に自車の存在を知らせるた
めにリヤフォグランプを点灯さ
せます。

操作のしかた

リヤフォグランプを点灯する

操作後に手を離すと ● の位置までもど
ります。再度操作すると消灯します。



知識

n 点灯条件

ヘッドランプが点灯しているときに使用
できます。

n リヤフォグランプについて

l リヤフォグランプが点灯しているとき
は、メーター内の表示灯が黄色に点灯
します。

l 雨や霧などで視界が悪いときに後続車

に自分の車の存在を知らせるために使
用します。

視界が悪いとき以外に使用すると後続
車の迷惑になる場合があります。

必要なとき以外は使用しないでくださ
い。

ワイパー&ウォッシャー (フロント)

レバー操作でワイパーを作動させたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

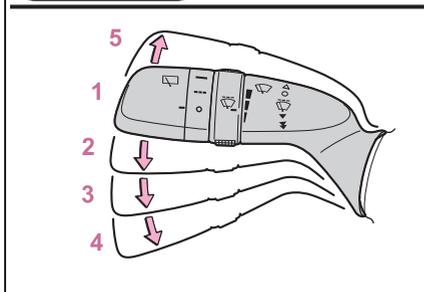
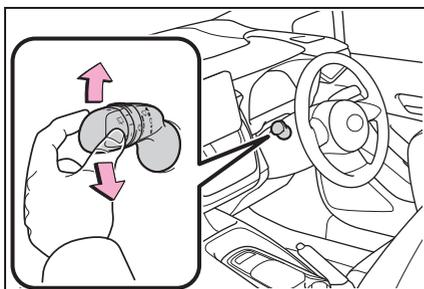
⚠ 注意

n フロントウィンドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

次のように  レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。



1 ● 停止

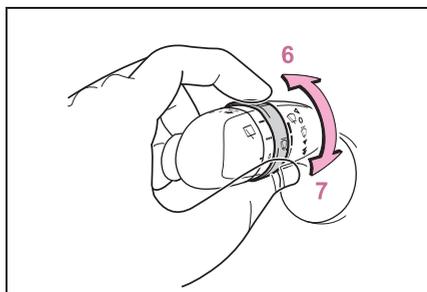
2  間欠作動 (INT)

3 ▼ 低速作動 (LO)

4 ▼ 高速作動 (HI)

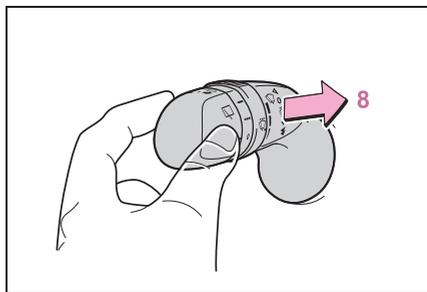
5 ▲ 一時作動 (MIST)

間欠作動を選択しているとき、間欠時間を調整することができます。



6 間欠ワイパーの作動頻度 (増)

7 間欠ワイパーの作動頻度 (減)



8  ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。
(数回作動したあと、液だれ防止としてさらに1回作動します。ただし、走行中は液だれ防止作動は行いません。)

📖 知識

n 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

n ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

⚠ 警告**n ウォッシャー使用時の警告**

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意**n ウォッシャー液が出ないとき**

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。

ポンプが故障するおそれがあります。

n ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。ノズルが損傷するおそれがあります。

**ワイパー&ウォッシャー
(リヤ)**

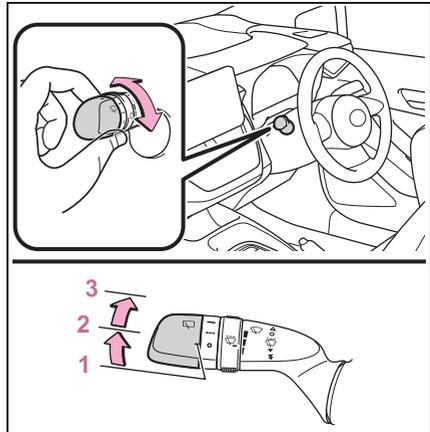
レバー操作でワイパーを作動させたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

⚠ 注意**n リヤウインドウガラスが乾いているとき**

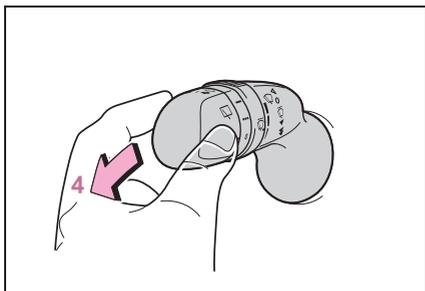
ワイパーを使わないでください。ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

次のように  スイッチを操作すると、リヤワイパーまたはウォッシャーが作動します。



- 1 ○ 停止
- 2 ■■■ 間欠作動 (LO)
- 3 ■■■ 通常作動 (HI)



4 ウォッシャー液を出す

レバーを前方へ押しとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

ウォッシャー液が噴射された後、ワイパーが自動的に数回作動します。

知識

n 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

n ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

n バックドア開連動リヤワイパー停止機能

停車状態でリヤワイパーが作動しているときにバックドアを開けると、ワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。バックドアを閉めると作動を再開します。

注意

n ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。

ポンプが故障するおそれがあります。

n ノズルがつまったらときは

ノズルがつまったらときはトヨタ販売店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。ノズルが損傷するおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

- I ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを OFF にしてください。
- I 燃料の種類を確認してください。

知識

n 燃料の種類について

- I 無鉛プレミアムガソリン
- I バイオ混合ガソリン（プレミアム）

n バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10% 以下、または ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。

警告

n 給油するとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- I 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめるときに、“シュー” という音がある場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。

すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

I 気化した燃料を吸わないようにしてください。

燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

I 喫煙しないでください。

I 給油口にノズルを確実に挿入してください。

I 継ぎ足し給油をしないでください。

I 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

注意

n 給油するとき

指定のガソリンを使用してください。指定以外のガソリン（無鉛レギュラーガソリン）や他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。次のような状態になるおそれがあります。

- I エンジンの始動性が悪くなる
- I エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- I エンジン出力が低下する
- I 排気制御システムが正常に機能しない
- I 燃料系部品が損傷する

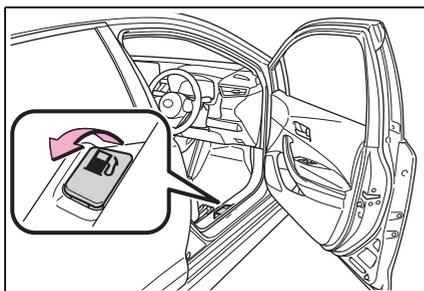
⚠ 注意

1 塗装が損傷する

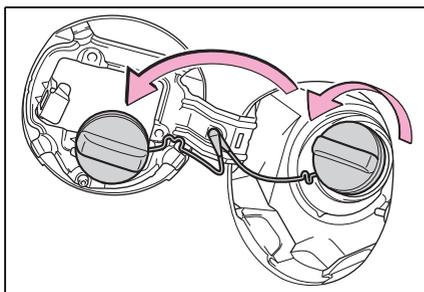
※ エタノール混合率 10% をこえるもの、または ETBE 混合率 22% をこえるもの

給油口を開けるには

- 1 オープナーを上げて、給油扉を開ける



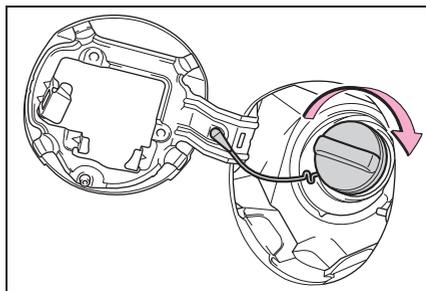
- 2 キャップをゆっくりまわして開け、ハンガーにかける



給油口の閉め方

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



⚠ 警告

n キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ソフトウェアアップデートを確認する

T-Connect ご利用契約中のお客様は通信モジュール（DCM）を使ってソフトウェアアップデートを実施することで、システムのアップデート・機能の変更／追加ができます。

警告

n 安全にお使いいただくために

Toyota Safety Sense は、ソフトウェアを更新することで各機能の取り扱い方法が変わることがあります。正しい取り扱い方法を知らずにシステムを使用すると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

トヨタ公式 Web サイトにある、システムのソフトウェアバージョンに合ったデジタル取扱説明書をお読みいただいた上でご使用ください。

Toyota Safety Sense の取扱説明書での記載内容について

本取扱説明書では、Ver.2 までの情報を記載しています。Toyota Safety Sense 各機能の制御内容・取り扱い・警告／注意事項などの最新情報については、トヨタ公式 Web サイトにあるデジタル取扱説明書で確認することができます。

自車の Toyota Safety Sense のバージョンに合った取扱方法をお読みいただくには

1 パソコンやスマートフォンから、以下 URL にアクセスする

ご使用前に必ずシステムのソフトウェアバージョンに合った取扱説明書をお読みください。

知識

n ご使用にあたっての留意事項

- 1 お客様の安全に関わる問題や法規上の問題が発生したときは、一時的に一部の機能を作動不可にすることがあります。あらかじめご了承ください。
- 1 T-Connect 利用契約が未契約／未更新の場合、無線通信によるソフトウェアアップデートは行われません。

自車の Toyota Safety Sense のバージョンに合った取扱方法をお読みいただくには

システムのソフトウェアバージョンを確認した上で、トヨタ公式 Web サイトにアクセスする必要があります。

マルチメディア画面でバージョンを確認する

運転支援機能の更新に関するお知らせ、または運転支援アップデートアプリケーションから現在のソフトウェアバージョンを確認することができます。

- 1 メインメニューの  にタッチします。
- 2 “運転支援アップデート” にタッチします。

URL	QR Code
https://manual.toyota.jp/safetysu/	

2 事前に確認したバージョンが含まれたファイルを選択する

□ 知識

n デジタル取扱説明書について

ご希望の場合、印刷した冊子を購入することもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

ソフトウェアを更新する

ソフトウェアアップデートがある場合、マルチメディア画面に通知画面が表示されます。画面の指示に従ってください。

ソフトウェアを更新することで、各機能の取り扱い方法が変わったり、機能が追加されたりすることがあります。

変更・追加された内容は、トヨタ公式 Web サイトにあるデジタル取扱説明書で確認することができます。

□ 知識

n ソフトウェアアップデートについて留意事項

- l 一度ソフトウェアアップデートを実施すると、前のバージョンにもどすことはできません。
- l 通信環境や更新内容によって、ソフトウェアアップデートに数時間かかることがあります。エンジンスイッチを OFF にすると更新は中断されますが、再度 ON にすると前回の続きから再開

します。

- l ソフトウェアアップデートの実施中でも Toyota Safety Sense を使用することができます。
- l 次のようなときは自動でソフトウェアアップデートを実施することがあります。
 - ・システムの不具合など、お客様の安全に関わる問題が発生したとき※
 - ・法規上の問題が発生したとき※
 - ・取り扱い方法や性能に影響がない、軽微な修正を行うとき
- ※ すべての更新内容がインストールされ、ソフトウェアが最新の状態になることがあります。

n 運転支援機能の更新通知で確認できること

次の項目を確認、または実行できます。

- l ソフトウェアのバージョン、更新内容、注意事項、使い方などの表示
- l ソフトウェアの更新履歴表示へのリンク
- l ソフトウェアの更新

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

警告

n Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

n 安全にお使いいただくために

- | システムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。本システムはあらゆる状況で動作するものではなく、支援には限界があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- | お客様ご自身で作動テストを行わないでください。対象や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- | 走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。ディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、システムの作動を感じにくい場合があります。

n システムを OFF にする必要があるとき

次のときは、システムを OFF にしてください。

システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡に繋がる恐れがあります。

- | 過積載やパンクで車両が傾いているとき
- | 過度な高速走行をしているとき
- | けん引時
- | トラック／船舶／列車などに積載するとき
- | 車両をリフトで上げ、タイヤを空転させるとき
- | 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- | オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- | 洗車機を使用するとき
- | センサーやセンサー周辺への衝撃などによりセンサーの向きがずれているとき、変形しているとき
- | センサーやライトをさえぎるような装備品を装着しているとき
- | 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき、タイヤパンク応急修理キットで修理したとき
- | タイヤの残り溝が十分でないとき、または空気圧が不足しているとき

警告

- | メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- | 事故や故障などにより走行不安定なとき

運転支援装置

n AHB (オートマチックハイビーム)

→P.136

n PCS (プリクラッシュセーフティ)

→P.153

n LTA (レーントレーシングアシスト)

→P.162

n LDA (レーンディパーチャーアラート)

→P.166

n PDA (プロアクティブドライビングアシスト) ★

→P.171

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

n 発進遅れ告知機能

→P.199

n RSA (ロードサインアシスト)

→P.176

n レーダークルーズコントロール (停止保持機能なし) ★

→P.179

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

n レーダークルーズコントロール ★

→P.188

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

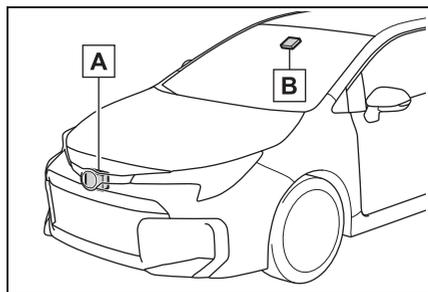
n クルーズコントロール

→P.196

Toyota Safety Sense で使用するセンサー

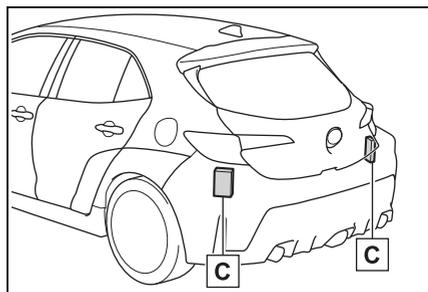
複数のセンサーにより、システムの作動に必要な情報を認識します。

n 周囲の状況を検出するセンサー



A 前方レーダー

B 前方カメラ



C 後側方レーダ★

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

n レーダーの故障や誤作動を防ぐために

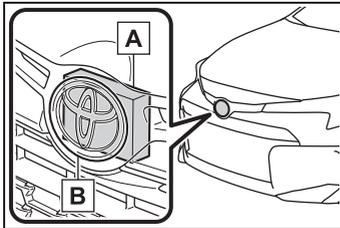
次のことをお守りください。

お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布で汚れをふき取ってください。



A レーダー

B レーダー専用カバー

レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

レーダー周辺への強い衝撃を避ける
レーダー／フロントグリル／フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

レーダーを分解しない

レーダーやレーダー専用カバーを改造、塗装したりしない。純正部品以外に交換しない。

次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

- ・レーダーを脱着や交換したとき
- ・フロントバンパー／フロントグリルを交換したとき

n 前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

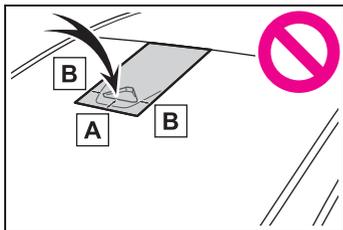
フロントウインドウガラス外側に汚れ／油膜／水滴／雪などが付着した場合は、取り除いてください。

フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用しているも、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。

フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

- フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない



A 約 4cm

B 約 4cm

- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する
- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する

フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

- 前方カメラに液体をかけない
- 前方カメラに強い光を照射しない

- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない

フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。

レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリを取り付けない

詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

n フロントウインドウガラスの前方カメラ取り付け部について

フロントウインドウガラスが曇る可能性があるるとシステムが判断した場合、ヒーターにより前方カメラ周辺のフロントウインドウガラスの曇り取りが自動的に作動します。お手入れなどで前方カメラ周辺にふれるときは、十分にフロントガラスが冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

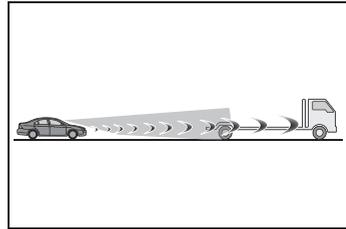
□ 知識

n センサーやシステムが正しく作動しないおそれがあるとき

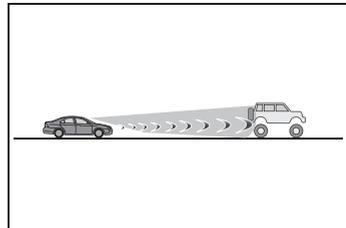
- ├ 車両の高さや傾きが変わるような改造をしているとき
- ├ フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき、ひび割れや破損があるとき
- ├ 外気温が高温または低温のとき
- ├ センサー前面に泥、雨滴、雪、虫、ゴミなどが付着したとき
- ├ 悪天候時（雨・霧・雪・砂嵐など）
- ├ 前方に水／雪／土ぼこりなどの巻き上げや水蒸気・煙があるとき
- ├ 夜間やトンネル内など暗い場所でヘッドランプを点灯していないとき
- ├ ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いとき
- ├ ヘッドランプの光軸がずれているとき
- ├ ヘッドランプが故障しているとき
- ├ 対向車のヘッドランプ光／太陽光／反射光などが前方カメラに入射しているとき
- ├ 急激な明るさの変化があるとき
- ├ テレビ塔／放送局／発電所／レーダー搭載車両など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき
- ├ ワイパーブレードがセンサーの視界をさえぎっているとき
- ├ 周囲に次のようなレーダーの電波を反射するものがあるとき
 - ・ トンネル
 - ・ トラス橋
 - ・ 砂利道
 - ・ 轍のある雪道
 - ・ 壁
 - ・ 大型トラック
 - ・ マンホール

- ・ ガードレール
- ・ 鉄板

- ├ 周囲に段差や突起物があるとき
- ├ 超小型モビリティなどのように対象車両の全幅が狭いとき
- ├ 空荷のトラックなど対象車両の前端・後端面積が小さいとき
- ├ 低床トレーラーなど対象車両の前端・後端が低い位置にあるとき



- ├ 対象車両の最低地上高が極端に高いとき



- ├ 対象車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
- ├ 対象車両の一部が布で覆われているなど金属の露出が少ない車両のとき
- ├ トラクター・サイドカーなど対象車両が特殊な形状のとき
- ├ 対象車両との車間距離が極端に短くなったとき
- ├ 対象車両の位置がずれている場合
- ├ 対象車両に雪や泥などが付着している場合
- ├ 次のような道路を走行しているとき
 - ・ 急なカーブや曲がりくねった道
 - ・ 急な上り坂や下り坂など、路面勾配が

- 変化する道
 - ・ 左右に傾きのある道
 - ・ 路面に深いわだちがある道
 - ・ 整備されていない荒れた道
 - ・ 起伏や段差が多い道路
 - l ハンドル操作が不安定な場合
 - l 車線内での自車の位置が一定でない場合
 - l 本システム部品もしくはブレーキ等の関連部品が冷えている・過熱している・ぬれているなど
 - l ホイールアライメントがずれているとき
 - l 凍結路・積雪路・砂利道などのすべりやすい路面を走行するとき
 - l カーブの形状とは異なる経路で走行するとき
 - l カーブに対して進入速度が過度に高いとき
 - l 駐車場や車庫、カーエレベータなどに入出りするとき
 - l 駐車場内を走行するとき
 - l 生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など自車に覆い被さるような障害物がある場所を走行するとき
 - l 風が強いとき
 - n **車線を検知できないおそれがあるとき**
 - l 車線の幅が極端に狭い、または広いとき
 - l 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
 - n **レーダーの取り扱い**
 - l 工事によって規制された車線、または仮設の車線を走行しているとき
 - l 周囲に車線もしくは類似の構造物、模様、影があるとき
 - l 同一車線上に複数の白線があるとき
 - l 車線が明瞭でないとき、濡れた路面を走行しているとき
 - l 車線が縁石等の上に引かれているとき
 - l コンクリート路のような照り返しなどで明るい路面を走行しているとき
 - n **システムの一部もしくは全てが作動しないとき**
 - l 本システムもしくはブレーキ、ステアリング等関連システムに異常検出時
 - l VSC、TRC 等の安全システムが作動時
 - l VSC、TRC 等の安全システムが OFF の時
 - n **ブレーキの作動音や踏み応えの変化について**
 - l ブレーキが作動したときにブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。
 - l システムの制御によるブレーキ作動中はブレーキペダルがお客様の想定よりも固く感じられたり、ブレーキペダルが沈みこんだりすることがあります。
- どちらの場合もブレーキの踏み増しは可能です必要に応じてブレーキを踏み増ししてください。

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→P.153）をセンサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON / OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→P.161）

⚠ 警告

n 安全にお使いいただくために

l 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

l プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・安全にお使いいただくために：→P.147

n プリクラッシュセーフティを OFF にするとき

l システムを OFF にする必要があるとき：→P.147

システムの作動対象

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります）

l 車両

l 自転車*

l 歩行者

l 自動二輪車*

l 壁（オートマチック車）

*人が乗車している場合のみを作動対象としています。

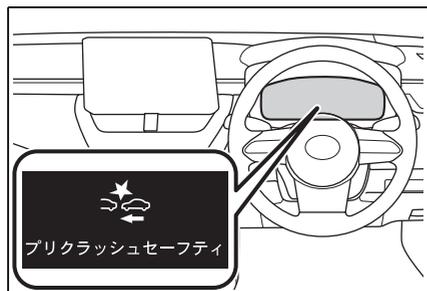
機能一覧

n 衝突警報

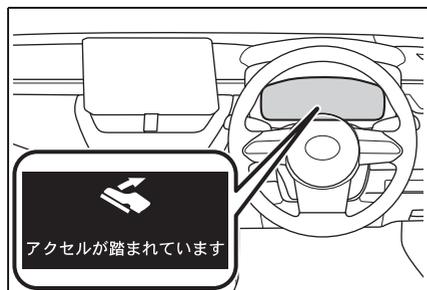
衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにアイコンとメッセージを表示し、回

避操作をうながします。

作動対象が車両の場合、緩ブレーキによる警告を行う場合もあります。



アクセルが強く踏み込まれているとシステムが判断した場合は、図で示すアイコンとメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



n プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、運転者のブレーキ操作で不足しているブレーキ力を増強します。

n プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

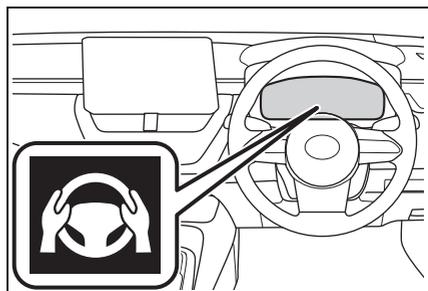
n 緊急時操舵支援

システムが次の条件を全て満たしたと判断した場合、操舵支援を行い、車両の安定性確保と車線逸脱の抑制に寄与します。

作動時には衝突警報に加え、図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

- l 衝突する可能性が高い
- l 自車線内に回避するための十分なスペースがある
- l 運転者の回避操舵があった

作動時には衝突警報とディスプレイ表示で注意喚起を行います。

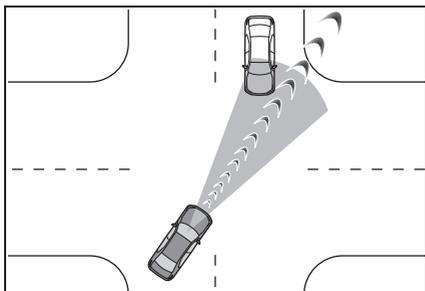


n 交差点衝突回避支援（右左折）

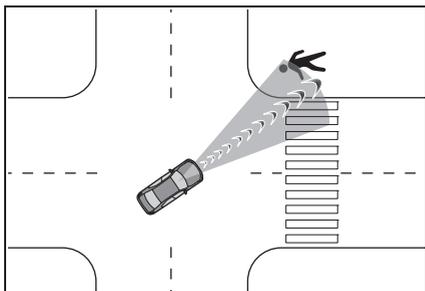
次のような状況において衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

- l 交差点で右折して対向車／対向二輪車の進路を横切るとき

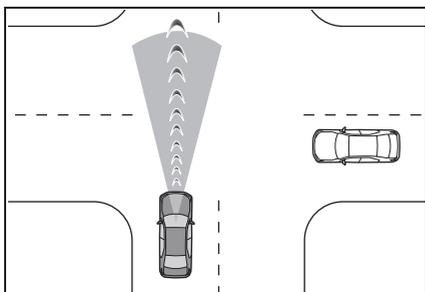


- l 右左折中に、横断歩行者や、自転車を検出したとき



- n 交差点衝突回避支援（出合頭車両）

交差点など、側方から接近する車両や自動二輪車との衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。



- n 低速時加速抑制（オートマッチング車）

低速走行時にアクセルペダルが強く踏み込まれ、衝突の可能性があるとき、システムが判断したとき、エンジン出力を抑制または弱いブレーキをかけることで加速を抑制します。作動時には、ブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに警告灯とメッセージを表示します。



警告

- n プリクラッシュブレーキについて

- l プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- l プリクラッシュブレーキは停止状態を保持する機能ではありません。プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、必要に応じて速やかに運転者自らブレーキをかけてください。
- l プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたたり、ハンドルを操作したりしていると、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない、または作動が解除される場合があります。

⚠ 警告

ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

n 低速時加速抑制について（オートマチック車）

運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、低速時加速抑制が作動しない、または作動が解除される場合があります。

n 緊急時操舵支援について

緊急時操舵支援は車線逸脱抑制制御が完了したとシステムが判断した段階で作動を解除します。

緊急時操舵支援は運転者の操作状態によっては作動しない、または作動中に解除される場合があります。

- ・ 運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたたり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいたたり、方向指示レバーを操作すると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援が作動しない場合があります。

- ・ 緊急時操舵支援作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

- ・ 緊急時操舵支援作動中に、ハンドルを保持したりシステムと逆方向にハンドル操作した場合には、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

📖 知識

n プリクラッシュセーフティ各機能の作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

ただし、次のときシステムは作動しません。

- l バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- l シフトレバーが R のとき

各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

l 衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 180km/h
対向車両	約 30 ～ 180km/h	約 80 ～ 220km/h
自転車	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h

作動対象	自車速度	相対速度
歩行者	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 80km/h
対向自動二輪車	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h

衝突警報が作動中にハンドルを大きく操作するか、すばやく操作すると、衝突警報が解除される場合があります。

｜ ブリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 30 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
自転車	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h
歩行者	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 30 ～ 180km/h	約 10 ～ 80km/h

｜ ブリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 180km/h
対向車両	約 30 ～ 180km/h	約 80 ～ 220km/h
自転車	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h
歩行者	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 80km/h
対向自動二輪車	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h

ブリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、ブリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

- ・ アクセルペダルを強く踏み込む
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

｜ 緊急時操舵支援

方向指示灯が点滅しているときは、緊急時操舵支援が作動しません。

VSC OFF 表示灯が点灯しているときは、緊急時操舵支援が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両、自転車、歩行者、自動二輪車	約 40 ~ 80km/h	約 40 ~ 80km/h

緊急時操舵支援作動中に次の操作をすると、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

- ・ アクセルペダルを強く踏み込む
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する
- ・ ブレーキペダルを踏む

l 交差点衝突回避支援（右左折）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 5 ~ 40km/h	約 5 ~ 75km/h	約 10 ~ 115km/h
歩行者	約 5 ~ 30km/h	—	約 5 ~ 40km/h
自転車	約 5 ~ 30km/h	—	約 5 ~ 50km/h
対向自動二輪車	約 5 ~ 40km/h	約 5 ~ 75km/h	約 10 ~ 115km/h

l 交差点衝突回避支援（出合頭車両）

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
車両、自動二輪車（側面）	約 5 ~ 60km/h	・ 自車速度以下 ・ 約 40km/h 以下	約 5 ~ 60km/h

l 低速時加速抑制（オートマチック車）

方向指示灯が点滅しているときは、低速時加速抑制が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両、歩行者、自転車、壁	約 0 ~ 15km/h	約 0 ~ 15km/h

低速時加速抑制の作動中に次の動作をすると、低速時加速抑制の作動が解除されます。

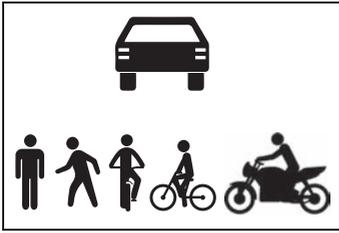
- ・ アクセルペダルを離す
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

n 作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそ

れがあります。

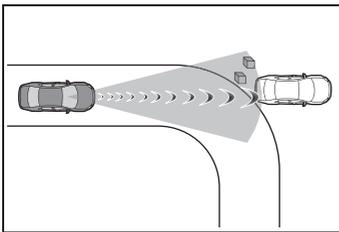
図は作動対象として検出する対象のイメージです。



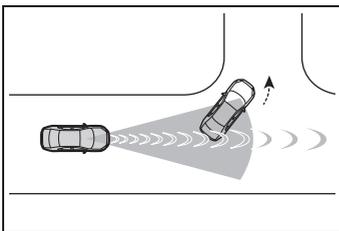
n 衝突の可能性が高なくてもシステムが作動するおそれがあるとき

例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

- ・ 作動対象などのすぐそばを通過するとき
- ・ 車線を変更して作動対象などを追いつくとき
- ・ 作動対象などに急接近したとき
- ・ 道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）などに近付いたとき
- ・ カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき

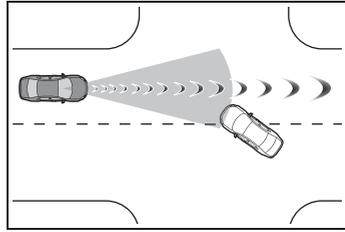


- ・ 自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
- ・ 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき

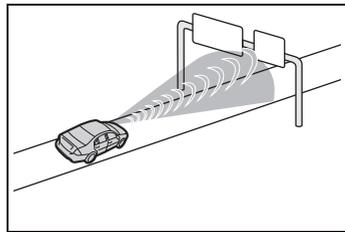


- ・ 右左折待ちの作動対象などとすれ違う

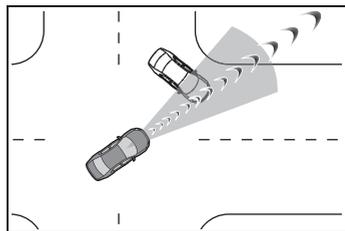
とき



- ・ 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止または進路変更したとき
- ・ 道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき



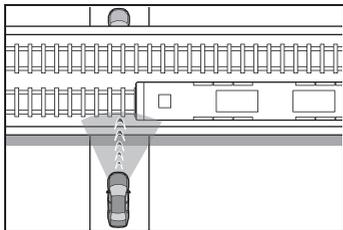
- ・ ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
- ・ 右左折中に、対向車／対向二輪車／横断歩行者／横断自転車が自車の前方を通過したとき
- ・ 右左折中に、対向車／対向二輪車／横断歩行者／横断自転車の手前を通過しようとしたとき
- ・ 右左折中に、対向車／対向二輪車／横断歩行者／横断自転車が自車進路内に入る手前で停止や進路変更したとき
- ・ 交差点内で右折中、対向車／対向二輪車が右折しているとき、または左折しているとき



- ・ 対向車の進路に接近するようにハンド

ルを操作したとき

- ・ 道路上方 / 下方を移動するものがあるとき



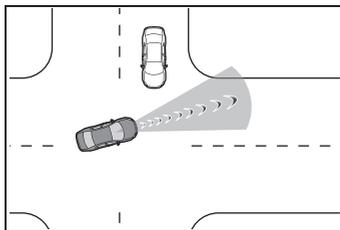
n システムが正常に作動しないおそれがあるとき

l 例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

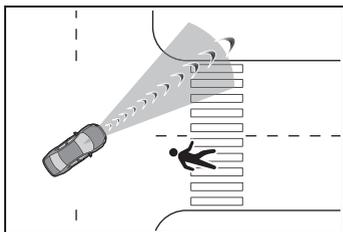
- ・ 自車に向かって作動対象が近づいてくるとき
- ・ 自車や作動対象がふらついているとき
- ・ 作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- ・ 作動対象に急接近したとき
- ・ 作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
- ・ 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- ・ 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
- ・ 作動対象が複数重なっているとき
- ・ 作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
- ・ 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
- ・ 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- ・ 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- ・ 斜めを向いている前方車両に近付いたとき
- ・ 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2人以上乗車している自転車、

前傾姿勢で乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）

- ・ 歩行者・自転車の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- ・ 歩行者・自転車の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- ・ 歩行者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- ・ 歩行者・自転車の移動速度が速いとき
- ・ 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- ・ 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
- ・ エンジンを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- ・ 右左折中および右左折後の数秒間
- ・ カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
- ・ 右折中に、対向車／対向二輪車が自車の走行する車線よりも3つ以上離れた車線を走行しているとき
- ・ 右折中に、自車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき



- ・ 右左折中に、歩行者や自転車が自車の後方から追い抜くように前方にでてくるとき



- ・ 交差点で出会い頭に大型トラック／牽引トレーラーなど全長の長い車両が接近してくるとき
- Ⅰ 上記に加えて、例えば次のような状況では緊急時操舵支援が作動しないおそれがあります。
 - ・ 作動対象に近づきすぎたとき
 - ・ 回避するための十分なスペースがない、または回避先に物があるとき
 - ・ 対向車がいるとき
- Ⅰ オートマチック車：上記に加えて、例えば次のような状況では壁を作動対象として検知できず、低速時加速抑制が作動しないおそれがあります。
 - ・ ガラス扉や網目状のフェンスなど壁の背面が透けているとき
 - ・ 壁が傾いていたり、高さが低いとき
 - ・ 壁がポールなど幅の狭いものとき
 - ・ 壁が生垣など草木のとき
 - ・ 壁に路面などが映りこんでいるとき
 - ・ 自車が壁に斜めに近づくととき

PCS の設定を変更する

- Ⅰ PCS の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.357)

エンジンスイッチが ON になるとシステムは ON になります。

- Ⅰ システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- Ⅰ カスタマイズ設定から、PCS の

設定を変更することができます。(→P.357)

- Ⅰ 衝突警報の作動タイミングを変更すると、緊急時操舵支援のタイミングも変更されます。

 (遅い) を選択した場合、緊急時操舵支援はほとんどの場合作動しません。

- Ⅰ レーダークルーズコントロール制御中はユーザー設定に関わらず、衝突警報が  (早い) のタイミングで作動します。

LTA (レーントレーシングアシスト)

LTAの機能

- 1 車線が整備された道路を走行中かつ、レーダークルーズコントロールの作動中に、車線や先行車／周辺車を前方カメラやレーダーで認識し、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します。

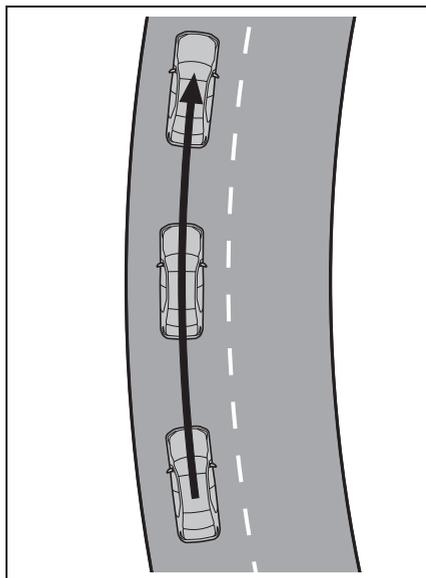
高速道路や自動車専用道路で使用してください。

レーダークルーズコントロールが作動していないときLTAは作動しません。

渋滞のときなど車線が見えにくい、または見えない場合、先行車／周辺車の軌跡を利用して支援を行います。

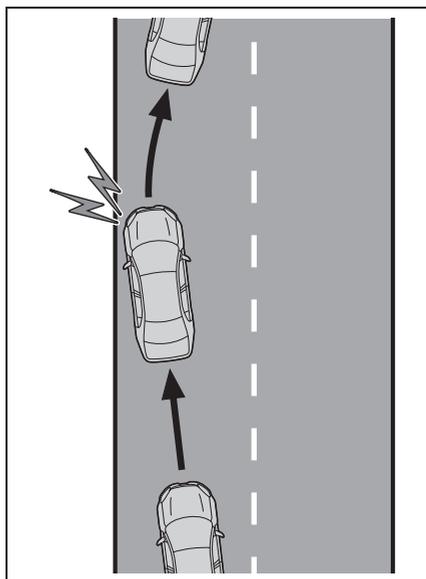
ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、ディスプレイの表示により注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。

機能が解除されたときはハンドルをしっかり握り直してください。



- 1 車両が車線から逸脱した場合、ディスプレイの表示および、ブザーにより注意をうながします。

ブザー吹鳴時は、道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線内の中央付近にもどってください。



警告

n LTA をお使いになる前に

- l LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- l 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- l LTA を使用しないときは、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。

知識

n 機能の作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- l システムが車線を認識しているとき、または先行車/周辺車の軌跡を認識しているとき
- l レーダークルーズコントロールが作動しているとき
- l 車線の幅が約 3 ~ 4m のとき
- l 方向指示レバーを操作していないとき
- l 急カーブを走行していないとき
- l 一定以上の加減速がないとき
- l 大きな操舵力でハンドルを操作していないとき
- l 手放し運転に対する注意喚起 (→P.163) が行われていないとき
- l 車線中央付近を走行しているとき

n 機能の一時解除

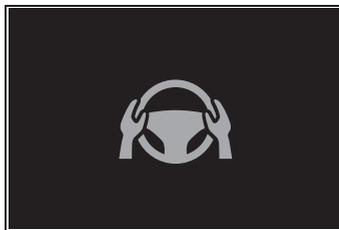
- l 機能の作動条件 (→P.163) が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。
- l 機能作動中に、作動条件が満たされなくなった場合、“ピピッ”とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。
- l 機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

n LTA 中の車線逸脱警報について

- l LDA の警報手段をハンドル振動に変更していても、LTA 作動中は車線逸脱時にブザーによる警報を実施します。
- l 車線変更に相当するハンドル操作を検知した場合、システムは車線逸脱とは判断せず、警報も作動しません

n 手放し運転に対する注意喚起について

- l 手放し運転をしているとシステムが判断したとき、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



- l 操作しない状態が続くと注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が

続いたときも同様に注意喚起が行われます。

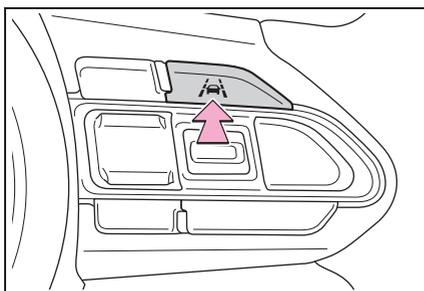
n 手放し運転に対する注意喚起が正常に作動しないおそれがあるとき

l 車両の状態やハンドル操作状態、路面状況によっては注意喚起が行われないおそれがあります。

システムの ON / OFF を変更する

LTA の ON / OFF を切り替えるには LTA スイッチを押す

LTA が ON のときは LTA 表示灯が点灯します。

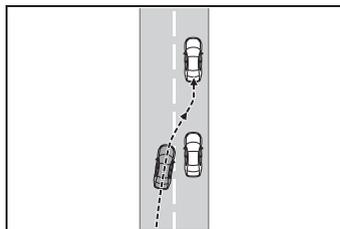


警告

n 機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずハンドル操作で進路を修正してください。

l 先行車／周辺車が車線変更したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）



l 先行車／周辺車がふらついたとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）

l 先行車／周辺車が車線から逸脱したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）

l 先行車／周辺車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）

l 周囲に移動物、構造物があるとき（移動物、構造物と自車の位置によっては自車がふらついて走行するおそれがあります）

l 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき

l センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.151

l 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.152

l システムを OFF にする必要があるとき：→P.147

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

LTA の作動状態を示しています。

表示灯	車線表示	ステアリングアイコン	状態
 白色	 灰色／白色	 灰色	LTA がスタンバイ中
 緑色	 緑色	 緑色	LTA が作動中
 黄色 点滅	 黄色 点滅	 緑色	車両が点滅している側の車線から逸脱している

LDA (レーンディパー チャーアラート)

基本機能

車線または走路※からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路※からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。

車線または走路※を前方カメラで認識します。

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

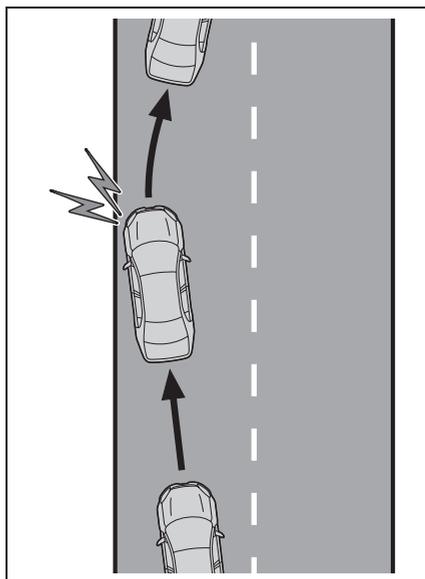
n 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合にディスプレイの表示および、警報ブザーまたはハンドルの振動により注意をうながします。

道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線または走路※内の中央付近にもどってください。

BSM 装着車：方向指示灯の点滅中であっても、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとしてシステムが判断した場合、車線逸脱警報機能が作動します。

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体



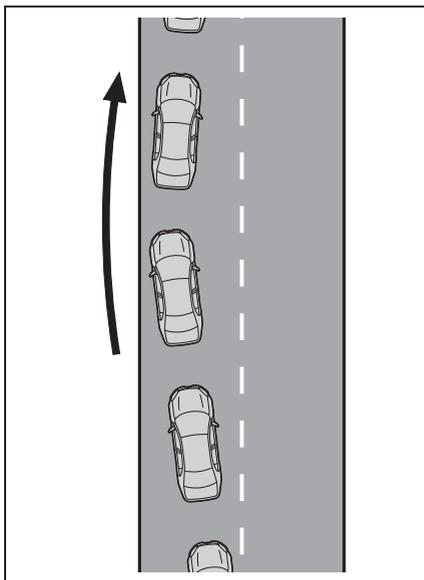
n 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかりと握っていない状態での運転が続いたりしたときは、一定時間ディスプレイの表示と警報ブザーで注意喚起が行われます。

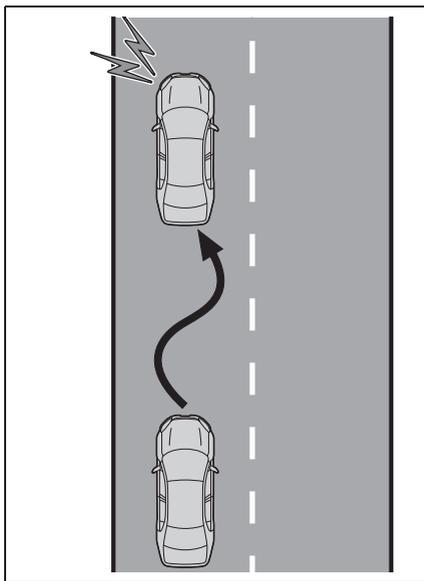
BSM 装着車：方向指示灯の点滅中であっても、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとしてシステムが判断した場合、車線逸脱抑制機能が作動します。

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体



n 休憩提案機能

車両がふらついて走行しているときに、ディスプレイの表示および警報ブザーにより休憩をうながします。



警告

n LDA をお使いになる前に

- l LDA を過信しないでください。
LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないので、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- l 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

n 各機能の作動条件

l 車線逸脱警報／抑制機能

次の条件をすべて満たしたときに作動します。

- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき
- ・ 車線の周囲に車両、自動二輪車、自転車、歩行者を検知した場合は約 40km/h 以上のときに作動することがあります。
- ・ 対象が縁石、ガードレールなどの構造体の場合は約 35km/h 以上のときに作動します。(カスタマイズメニューで低速支援を作動にした時)
- ・ システムが車線または走路[※]を認識しているとき(車線または走路[※]が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します)
- ・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき(BSM 装着車：方向指示灯方向に車両がいる場合は除く)
- ・ 急カーブを走行していないとき
- ・ 一定以上の加減速がないとき
- ・ 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
- ・ VSC または TRC を OFF にしていない

とき

- ※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

n 機能の一時解除

作動条件 (→P.167) が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

n 車線逸脱警報／抑制機能の作動について

- l 車速や路面の状況、逸脱の程度などにより、車線逸脱抑制機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能が作動しなかったりすることがあります。
- l カスタマイズで振動を選択していても状況によって警報ブザーが吹鳴する場合があります。
- l 走路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報、抑制が作動しない場合があります。
- l 意図的に歩行者や駐車車両を避けたと判断した場合に警報、抑制が作動しない場合があります。
- l BSM 装着車：となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性を判断できない場合があります。
- l 車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

- ※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

n 手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル操作をうながすメッセージとアイコンのディスプレイの表示、および警報ブザーにより注意喚起を行います。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



- l 車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援中にハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかりと握っていない状態だとシステムが判断したとき

ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、警報ブザーの継続時間が長くなります。ハンドルを操作したとシステムが判断しても一定時間警報ブザーが鳴り続けます。

n 休憩提案機能について

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき
- ・ 車線の幅が約 3m 以上のとき

車両の状態や路面状況によっては休憩提案が行われない場合があります。



LDA の設定を変更する

- l LDA の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.357)
- l カスタマイズ設定から、LDA の設定を変更することができます。(→P.357)

警告

機能正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずハンドル操作で進路を修正してください。

- Ⅰ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体が不明瞭または直線的でないとき
- Ⅰ 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき

Ⅰ 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.152

Ⅰ センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.151

Ⅰ システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.152

Ⅰ システムを OFF にする必要があるとき：→P.147

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援、または車線逸脱警報の作動状態をディスプレイ表示で示します。

表示灯	車線表示	ステアリングアイコン	状態
 黄色 点灯	消灯	消灯	システムが非作動
消灯	 灰色	消灯	システムが車線を認識していない
消灯	 白色	消灯	システムが車線を認識している

表示灯	車線表示	ステアリング アイコン	状態
 黄色 点滅	 黄色 点滅	消灯	点滅している側の車線に対して車線逸脱警報機能が作動中
 緑色	 緑色	 緑色	点灯している側の車線に対して車線逸脱抑制機能が作動中
 黄色 点滅	 黄色 点滅	 緑色	点滅している側の車線に対して車線逸脱警報機能／抑制機能が作動中

PDA（プロアクティブドライビングアシスト）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

プロアクティブドライビングアシストは、作動対象（→P.172）を検出した場合、対象に近づきすぎないように、ブレーキやハンドルの操作を支援します。

警告

n 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。

l プロアクティブドライビングアシストは日常のブレーキ操作、ステアリング操作の一部を支援し、作動対象に近づきすぎないように支援することを目的としていますが、支援の範囲には限りがあります。

必要に応じて運転者自らブレーキやステアリング操作を行ってください。次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。（→P.173）

l プロアクティブドライビングアシストは前方への注意を軽減する装置ではありません。システムが正常に機能していても運転者が認識している周囲の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。注意義務は運転者にあり、危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながる恐れがあります。

l わき見運転やぼんやり運転などを許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

n プロアクティブドライビングアシストを OFF にするとき

l センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.151

l システムを OFF にする必要があるとき：→P.147

システムが作動する状況と対象

プロアクティブドライビングアシストは、次のように自車が走行中の状況に応じて、作動内容と作動対象を切りかえます。

機能	状況	作動内容	作動対象
障害物先読みアシスト (OAA)	道路を横断中の作動対象を検知したとき	衝突の可能性を軽減するため、ブレーキ操作の一部を支援します。	<ul style="list-style-type: none"> 歩行者 自転車運転者
	道路脇の作動対象を検知したとき	<p>作動対象に近づきすぎないように、周囲の状況に応じてハンドル操作やブレーキ操作の一部を支援します。</p> <p>ハンドル操作の支援は自車線から逸脱しない範囲で行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 歩行者 自転車運転者 駐車車両
減速アシスト (DA)	先行車を検出したとき、または隣接車の割り込みを検出したとき	車間距離が近づきすぎないようにブレーキ操作の一部を支援します。	<ul style="list-style-type: none"> 先行車 自動二輪車
	自車前方にカーブを検出したとき	前方のカーブに対して自車の速度が速いと判定した場合、ブレーキ操作の一部を支援します。	なし
	信号のある交差点で右左折するとき	右左折する交差点に対して自車の速度が速いと判断した場合、ブレーキ操作の一部を支援します。	なし

□ 知識

n システムの作動車速

| 道路を横断する作動対象に対する支援

約 30km/h ~ 60km/h

| 道路脇の作動対象に対する支援

約 30km/h ~ 60km/h

| 先行車に対する減速支援

約 20km/h 以上

| カーブに対する減速支援

約 20km/h 以上

| 信号のある交差点に対する右左折時の減速支援

約 30km/h ~ 80km/h (信号のある交差点で方向指示レバーを操作したとき)

n システムの作動が停止するとき

↓ 次のときシステムは作動を停止します

- ・レーダークルーズコントロール、またはクルーズコントロールをセットしたとき
- ・PCSがOFFのとき
- ・システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.152
- ・シフトポジションがP、RまたはNのとき
- ・運転席シートベルトを着用していない

↓ 次のときブレーキ操作の支援は作動を停止します

- ・車速が約15km/h以下のとき
- ・周囲の状況からシステムが判断した目標の速度に到達したとき

↓ 次のときシステムは作動を停止する場合があります

- ・運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき

(例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール)

- ・作動対象が遠ざかったとシステムが判断した場合
- ・車線が検出できなくなった場合
- ・ブレーキ操作を行った場合
- ・アクセル操作を行った場合
- ・一定以上の操舵力でハンドルを操作した場合
- ・方向指示レバーを左折または右折の位置へ操作したとき（信号のある交差点に対する右左折時の減速支援を除く）

⚠ 警告

n システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- ↓ 車線を検出できないおそれがあるとき：→P.152
- ↓ 作動対象などが自転車進路内に入る手前で停止したとき

↓ ガードレールや柵などの奥にいる作動対象のすぐそばを通過するとき

↓ 車線を変更して作動対象などを追いつくとき

↓ 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき

↓ 物体（ガードレール・電柱・木・壁・柵、ポール、工事用コーン、ポストなど）が周囲に存在するとき

↓ 自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき

↓ 道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識・看板など）がある場所を走行するとき

↓ 雪道、轍のある道路や凍結路を走行するとき

↓ 自車に向かって作動対象が近づいてくるとき

↓ 自車や作動対象がふらついているとき

↓ 作動対象の動きが変化したとき（方向転換、急加速、急減速など）

↓ 作動対象に急接近したとき

↓ 先行車・自動二輪車が自車の中心軸からずれているとき

↓ 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき

↓ 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）

↓ 作動対象が複数重なっているとき

↓ 作動対象が太陽光や他車両からのヘッドランプなどの強い光を反射しているとき

↓ 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき

警告

- | 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- | 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- | 横向き、斜め、または自転車方向を向いている前方車両に近付いたとき
- | 駐車車両が横向き、斜め向きするとき
- | 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンDEM自転車など）
- | 歩行者・自転車運転者の大きさが約1m以下、または約2m以上のとき
- | 歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- | 歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- | 歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
- | 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- | 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、および周囲が暗い（夜間やトンネル内など）ため、作動対象が周囲に溶け込んでいるとき

- | 車線幅が約4m以上あるとき
- | 車線幅が約2.5m以下のとき
- | エンジンを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- | 右左折中および右左折後の数秒間
- | 進路変更中および進路変更後の数秒間
- | 作動対象がカーブ進入前、カーブ走行中およびカーブを曲がり切ったからの数秒間に存在するとき
- | 信号機の灯色が黄色のとき
- | 信号機が一灯式や二灯式するとき

プロアクティブドライビングアシストの設定を変更する

- | プロアクティブドライビングアシストの作動／非作動は、カスタマイズ設定から切りかえることができます。（→P.357）
- | プロアクティブドライビングアシストの設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。（→P.357）

システムの作動表示

状況に応じて、ディスプレイに次のような表示灯やアイコンを表示します。

アイコンの種類によっては、ディスプレイを運転支援機能情報に切り替えないと表示されません。

表示	意味
	<ul style="list-style-type: none"> 白色：作動対象監視中 緑色：道路を横断する作動対象に対する支援または道路脇の作動対象に対する支援が作動中
	道路を横断中、または道路脇の歩行者を検知して、ブレーキまたはハンドルの操作を支援している
 	道路脇の車両を検知して、ブレーキまたはハンドルの操作を支援している
	道路脇の作動対象へ近づきすぎないように、ハンドルの操作を支援している
	先行車に対する減速支援が作動中
	適正な車間距離を確保するよう注意喚起している
	カーブに対する減速支援が作動中
	信号のある交差点に対する減速支援が作動中

□ 知識

n 手放し運転に対する注意喚起について
 次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



┆ 道路を横断する作動対象に対する支援または道路脇の作動対象に対する支援が作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

n 先行車への減速支援終了後の注意喚起について

先行車への減速支援が終了後、ドライバーによるブレーキまたはアクセル操作が無く、先行車へ接近したとき、ディスプレイ表示の点滅とブザーによって注意喚起し、減速をうながします。ドライバーがブレーキまたはアクセルを操作したとシステムが判断した場合、注意喚起を停止します。



RSA (ロードサインアシスト)

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）を使って特定の道路標識や信号などを認識し、ディスプレイ表示やブザーで運転者にお知らせします。

⚠ 警告

n 安全にお使いいただくために

- l 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- l RSA は、道路標識などの情報を知らせることで運転の支援を行います。支援の範囲には限りがあります。運転者は常に道路標識などに従い、ご自身で適切な運転操作をしてください。

n RSA を使用してはいけない状況

- l システムを OFF にする必要があるとき：→P.147
- n 機能が正常に作動しないおそれのある状況
 - l センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.151

ディスプレイ表示機能

- l 前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）によって道路標識などを認識すると、ディスプレイに表示します。
- l 複数の道路標識を表示できます。車の仕様によっては表示される標

識が制限される場合があります。

□ 知識

n 標識表示の作動条件

次の条件を満たしたとき、標識の表示を行います。

- l システムが標識を認識しているとき
- 次の状況では、標識の表示が消えることがあります。
- l 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき
- l 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき
- l 終わりを示す補助標識を認識したとき

n 表示機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

- l 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- l 電光標識のコントラストが低いとき
- l 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- l 前方カメラが標識を認識する時間が短いとき
- l 運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき
- l 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- l 先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき
- l システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき
- l 側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき
- l ロータリー（環状交差路）を走行して

いるとき

- l トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき
- l 補助標識（区間の終わり、曜日、時間など）があるとき
- l 工事などの通行規制区間に標識があるとき
- l 標識の後ろに木・電柱・建物・看板などがあるとき
- l ナビゲーションシステムの地図情報が古いとき
- l ナビゲーションシステムを利用できないとき

マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステムに表示される最高速度標識が異なる場合があります。

告知機能

次の状況では、システムが運転者に告知（例えば、強調表示やブザー吹鳴）します。

- l 速度超過告知：自車の車速がディスプレイに表示されている制限速度より一定の速度を超過したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。
- l 車両進入禁止告知：進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したとシステムが判定したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。
- l 赤信号告知：赤信号を認識している場合に、信号を見落として交差点に進入する可能性があるとしてシステムが判定したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。

□ 知識

n 告知機能の作動条件

l 速度超過告知に対する作動条件

次の条件を満たしたとき作動します。

- ・ 最高速度を表示しているとき

l 車両進入禁止告知に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ 進入禁止標識を2つ以上認識しているとき
- ・ 進入禁止標識の間を通過するとき

l 赤信号告知に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ システムが信号機や路面ペイントを認識しているとき
- ・ 車速が約20～70km/hのとき
- ・ 一定以上の減速がないとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき
- ・ 一定以上のハンドル操作をしていないとき
- ・ 先行車がないとき

n 告知機能が正常に作動しないおそれのある状況

l 表示機能の項目に加えて、次のような状況では告知対象があるのにシステムが作動しないおそれがあります。

- ・ 右左折等により標識が検知できないとき
- ・ 信号機が矢印信号のとき
- ・ 信号機が点滅信号のとき
- ・ 信号機の庇で発光部の一部が隠れているとき
- ・ ルーバー信号機で発光部が見えづらいとき
- ・ 停止線などの路面ペイントが先行車などで隠れているとき
- ・ 停止線などの路面ペイントがかすれているとき
- ・ 停止線に対し信号機が遠くにあるとき

- ・ 交差点間の距離が近いとき

l 表示機能の項目に加えて、次のような状況では告知対象がないのにシステムが作動するおそれがあります。

- ・ 標識が通常とは異なる大きさのとき
- ・ 標識や信号機が多数あるとき
- ・ 自車が走行するレーンではない側道や分岐地点などの標識や信号機を認識したとき
- ・ 作動対象の標識、信号機や路面ペイントとは区別が付きにくい模様・光源・ペイントがあるとき
- ・ 信号機の灯色が黄色のとき
- ・ 信号機が矢印信号のとき
- ・ 予告信号があるとき

ディスプレイ表示および告知される道路標識などの種類

l 次の種類の道路標識を表示します。

ただし、規定外の道路標識、新しく導入された道路標識は表示されない場合があります。

	最高速度
	はみ出し通行禁止
	車両進入禁止
	転回禁止

	一時停止
	赤信号

RSA の設定を変更する

RSA の設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。
(→P.357)

レーダークルーズコントロール (停止保持機能無し) ★

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両前方の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

⚠ 警告

n 安全にお使いいただくために

- l 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- l レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

システムが正しく作動しないおそれのある状況：→P.184

- l 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

⚠ 警告

システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

l 運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

走行中に限らず、運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

l 運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

l 運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

n レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

l 歩行者や自転車等が混在している道

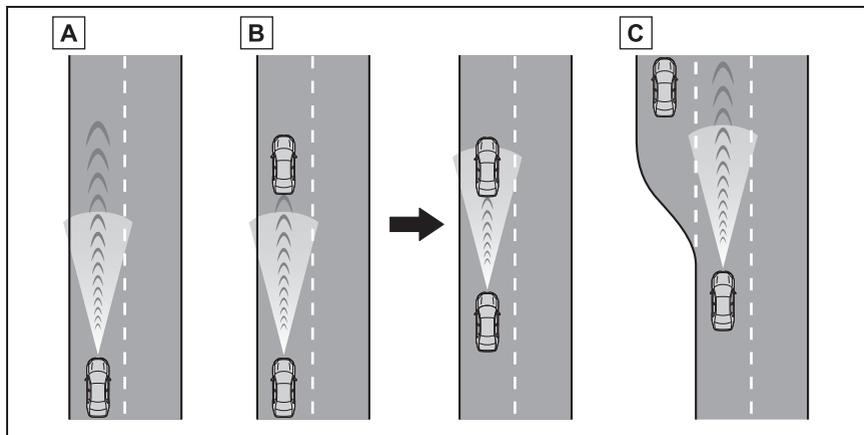
l 高速道路や自動車専用道路の出入り口

l 接近警報がひんぱんに鳴るとき

l センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.151

l システムを OFF にする必要があるとき：→P.147

基本機能

**A** 定速走行：

先行車がないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

下り坂走行で設定車速を超えた時、設定車速が点滅し警報ブザーが吹鳴します。

B 減速走行—追従走行：

設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

先行車が停止したときは、続いて停止し、停止後に制御が解除されます。制御を再開させる場合は、再度“RES”もしくは“走行支援スイッチ”を操作する必要があります。

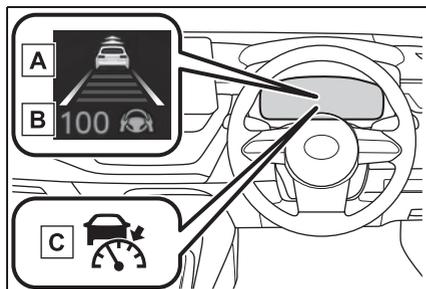
C 加速走行：

設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

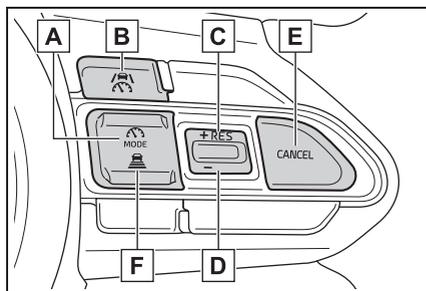
システムの構成部品

n メーター表示



- A** マルチインフォメーションディスプレイ
- B** 設定速度
- C** 表示灯

n 操作スイッチ



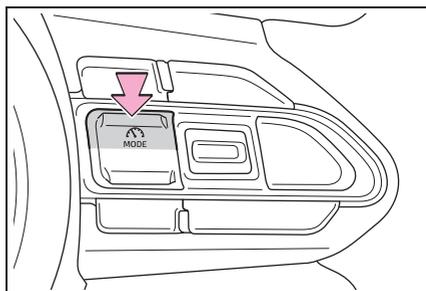
- A** 走行支援モード選択スイッチ
- B** 走行支援スイッチ
- C** “+” スイッチ、“RES” スイッチ
- D** “-” スイッチ
- E** キャンセルスイッチ
- F** 車間距離切りかえスイッチ

レーダークルーズコントロールを使用する

速度を設定する

- 1 走行支援モード選択スイッチを押してレーダークルーズモードを選択します。

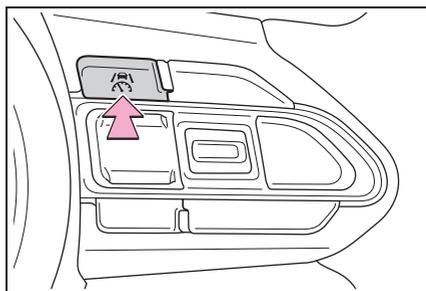
レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。



- 2 希望の车速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、走行支援スイッチを押して速度を設定する

マルチインフォメーションディスプレイに設定した速度が表示されます。

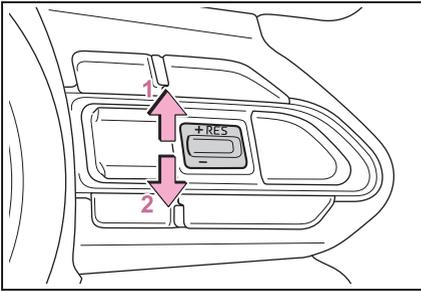
スイッチを離れたときの车速で定速走行できます。



設定速度をかえる

- 1 スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで“+”スイッチまたは“-”スイッチを押します。



1 速度を上げる

2 速度を下げる

短押し調整：スイッチを押す

長押し調整：スイッチを押し続けて速度をかえ、希望の速度で手を離す

設定速度は、次のとおりに増減されます：

短押し調整：スイッチを操作をするごとに1km/h

長押し調整：スイッチを押し続けているあいだ、5km/h ずつ

カスタマイズメニューから、設定速度の

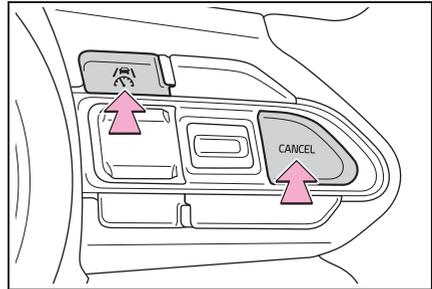
変化量を変更することができます。

1 アクセルペダルで設定速度を上げる

1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

2 “+” スイッチを押す

制御を解除する・復帰させる



1 制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは走行支援スイッチを押す

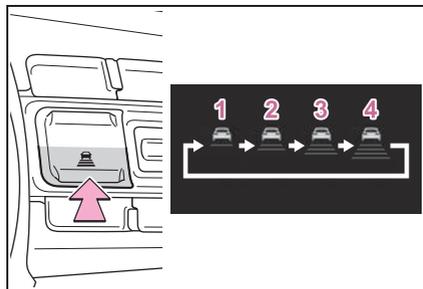
ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

2 制御を復帰させるには、“RES” スイッチを押す

車間距離を変更する

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。



イラスト番号	車間距離	距離の目安（車速 100km/h の場合）
1	短	約 30m
2	中	約 45m
3	長	約 60m
4	最長	約 70m

車速に応じて実際の車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

知識

n 設定条件について

- l シフトポジションがDのとき設定できません。
- l 車速が約 30km/h 以上のとき、希望の設定速度に設定できます。
 - ・ 車速が約 30km/h 未満のときに設定すると、約 30km/h に設定されます。
 - ・ 車速がシステムの上限を超えているときに設定すると、設定速度の上限に設定されます。

n 車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

n 車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

- l 車両が停車したとき
- l 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）
- l パーキングブレーキが作動したとき
- l 走行中に運転席シートベルトを着用していないとき

l プリクラッシュセーフティが OFF のとき

l システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.152

n レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

安全にお使いいただくために：→P.147

n センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P.185）も作動しないおそれがあります。

l 割り込み車両、離脱車両の車線変更が極端に速い、または遅いとき

l 自車が車線変更しているとき

l 先行車が低速で走行中のとき

l 同じ車線に停車中の車がいるとき

l 同じ車線を二輪車が走行中のとき

n システムが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってはアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

l 先行車が急ブレーキをかけた場合

l 渋滞時等、低速で車線変更したとき

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

n 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- l 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- l 先行車が極端な低速走行をしているとき
- l 速度を設定した直後
- l アクセルペダルを踏んだとき

カーブ速度抑制機能

カーブを認識すると車速の抑制を開始します。カーブが終了すると車速の抑制が終了します。

状況に応じて設定速度まで復帰します。

先行車に割り込まれる等で、追従走行が優先された場合も車速抑制は終了します。



知識

n カーブ速度抑制機能が作動しないおそれがある状況

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が作動しない場合があります。

- l 緩やかなカーブを走行しているとき
- l アクセルペダルを操作しているとき
- l 極端に短いカーブを走行しているとき

車線変更時の補助機能

約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

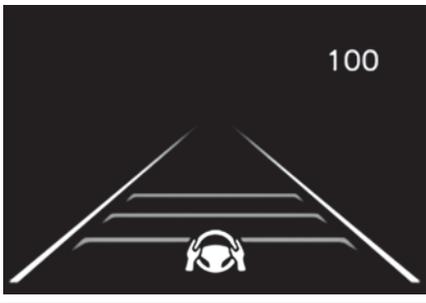
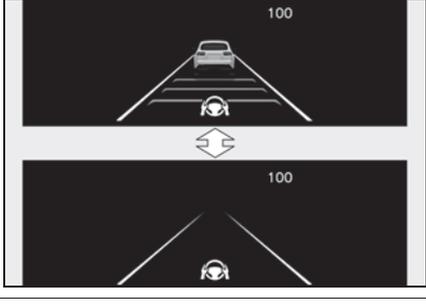
約 80km/h 以上で走行中に自車より遅い車両の後方へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して緩減速することで、車線変更を補助します。

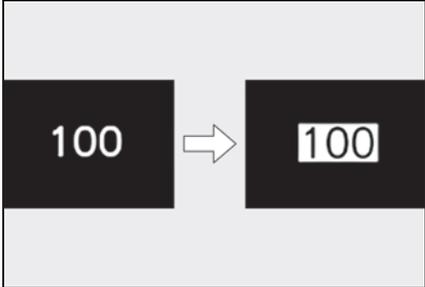
レーダークルーズコントロールの設定を変更する

- l レーダークルーズコントロールの設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。
(→P.357)

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

レーダークルーズコントロールの作動状態を示しています。

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示	状態
 白色		設定車間距離：灰色 レーダークルーズコントロール OFF
 緑色		設定車間距離：青色 設定速度：緑色 定速走行
 緑色		設定車間距離：青色 設定速度：緑色 先行車：白色 追従走行
 緑色		設定車間距離：橙色点滅 設定速度：緑色 先行車：橙色点滅 接近警報

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示		状態
 緑色		設定車間距離：灰色 設定速度：白色 先行車：灰色	アクセルペダルによる加速中
 緑色		設定速度：緑色反転表示	設定速度超過時

レーダークルーズコントロール★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両前方の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

▲ 警告

n 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況把握し、安全運転に努めてください。

レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

システムが正しく作動しないおそれのある状況：→P.193

設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

走行中に限らず、運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

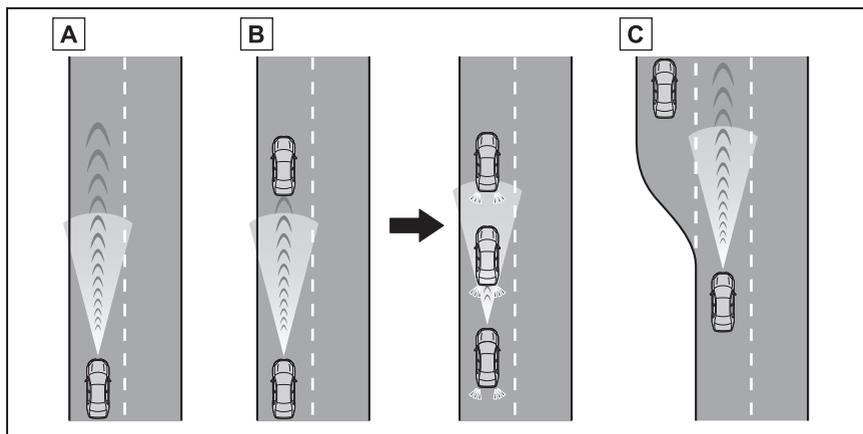
⚠ 警告

n レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- | 歩行者や自転車等が混在している道
- | 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- | 接近警報がひんぱんに鳴るとき
- | センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.151
- | システムを OFF にする必要があるとき：→P.147

基本機能



A 定速走行：

先行車がないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

下り坂走行で設定車速を超えた時、設定車速が点滅し警報ブザーが吹鳴します。

B 減速走行—追従走行：

設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

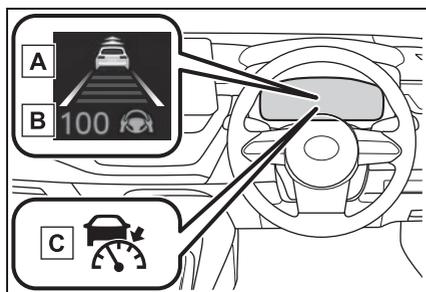
先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

C 加速走行：

設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき
設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

システムの構成部品

n メーター表示

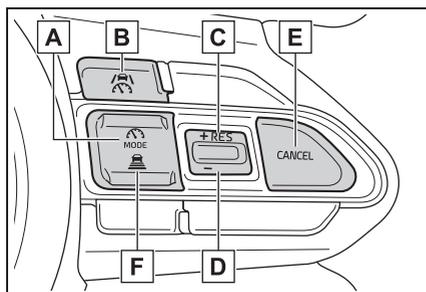


A マルチインフォメーションディスプレイ

B 設定速度

C 表示灯

n 操作スイッチ



A 走行支援モード選択スイッチ

B 走行支援スイッチ

C +スイッチ、RES スイッチ

D -スイッチ

E キャンセルスイッチ

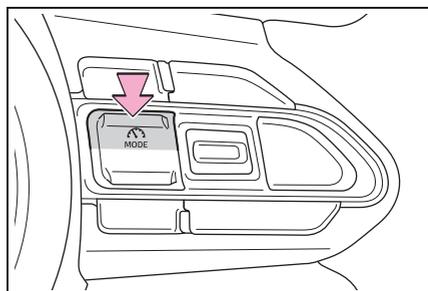
F 車間距離切りかえスイッチ

レーダークルーズコントロールを使用する

速度を設定する

1 走行支援モード選択スイッチを押してレーダークルーズモードを選択します。

レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。

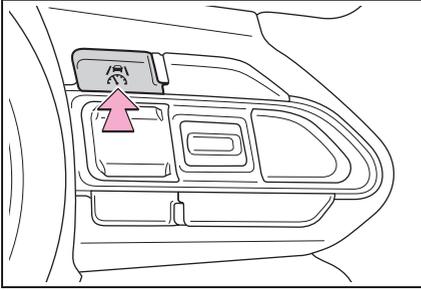


2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、走行支援スイッチを押して速度を設定する

マルチインフォメーションディスプレイに設定した速度が表示されます。

スイッチを離れたときの車速で定速走行

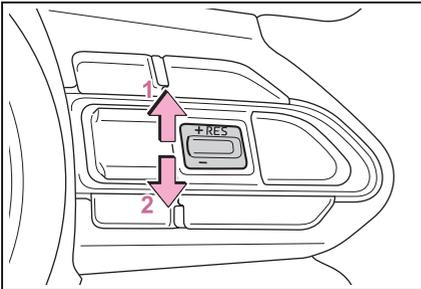
できます。



設定速度をかえる

1 スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで+スイッチまたは“-”スイッチを押します。



1 速度を上げる

2 速度を下げる

短押し調整：スイッチを押す

長押し調整：スイッチを押し続けて速度をかえ、希望の速度で手を離す

設定速度は、次のとおりに増減されます：

車間距離を変更する

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

短押し調整：スイッチを操作をするごとに1km/h

長押し調整：スイッチを押し続けているあいだ、5km/h ずつ

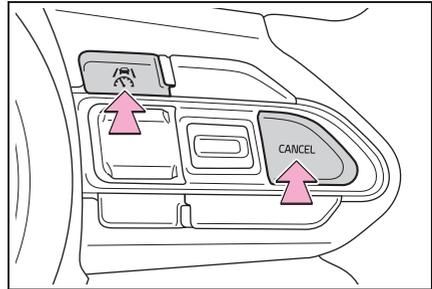
カスタマイズメニューから、設定速度の変化量を変更することができます。

1 アクセルペダルで設定速度を上げる

1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

2 +スイッチを押す

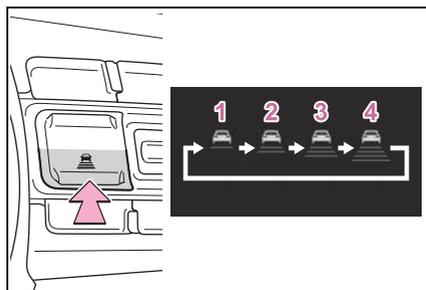
制御を解除する・復帰させる



1 制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは走行支援スイッチを押す

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

2 制御を復帰させるには、RESスイッチを押す



イラスト番号	車間距離	距離の目安（車速 100km/h の場合）
1	短	約 30m
2	中	約 45m
3	長	約 60m
4	最長	約 70m

車速に応じて実際の車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

知識

n 設定条件について

- l シフトポジションが2速以上のとき設定できます。
- l 車速が約 30km/h 以上のとき、希望の設定速度に設定できます。
- ・ 車速がシステムの上限を超えているときに設定すると、設定速度の上限に設定されます。

n 車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

n シフトポジションの選択について

車速に応じたシフトポジションを選択してください。エンジン回転数が高くなりすぎたり低くなりすぎたりすると、自動的に制御が解除されることがあります。

n 車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

- l 車速が約 30km/h 未満になったとき
- l 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき（例：プリクラッシュセーフティ）
- l シフトレバーをNに入れた状態またはクラッチペダルを踏んだ状態で一定時間経過したとき
- l パーキングブレーキが作動したとき
- l 走行中に運転席シートベルトを着用していないとき
- l プリクラッシュセーフティが OFF のとき
- l システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.152

n レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

安全にお使いいただくために：→P.147

n センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P.193）も作動しないおそれがあります。

- l 割り込み車両、離脱車両の車線変更が極端に速い、または遅いとき
- l 自車が車線変更しているとき
- l 先行車が低速で走行中のとき
- l 同じ車線に停車中の車がいるとき
- l 同じ車線を二輪車が走行中のとき

n システムが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- l 先行車が急ブレーキをかけた場合

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

n 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

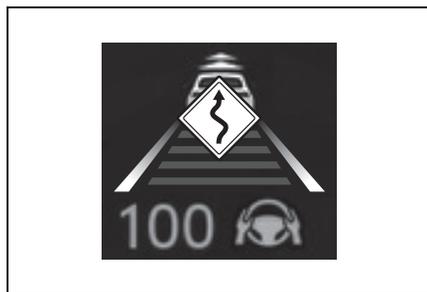
- l 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- l 先行車が極端な低速走行をしているとき
- l 速度を設定した直後
- l アクセルペダルを踏んだとき

カーブ速度抑制機能

カーブを認識すると車速の抑制を開始します。カーブが終了すると車速の抑制が終了します。

状況に応じて設定速度まで復帰します。

先行車に割り込まれる等で、追従走行が優先された場合も車速抑制は終了します。



知識

n カーブ速度抑制機能が作動しないおそれがある状況

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が作動しない場合があります。

- l 緩やかなカーブを走行しているとき
- l アクセルペダルを操作しているとき
- l 極端に短いカーブを走行しているとき

車線変更時の補助機能

約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設

定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

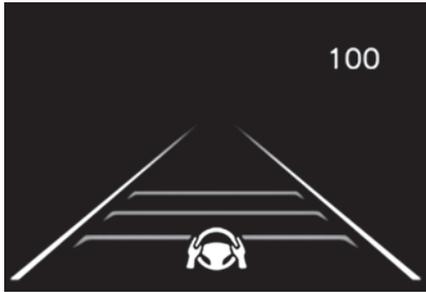
約 80km/h 以上で走行中に自車より遅い車両の後方へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して緩減速することで、車線変更を補助します。

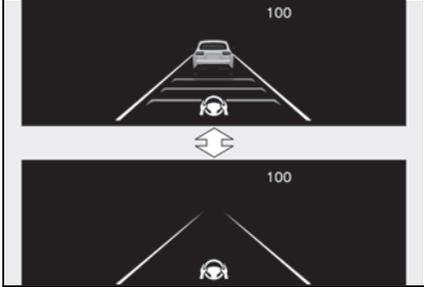
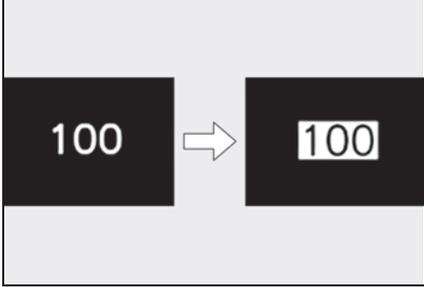
レーダークルーズコントロールの設定を変更する

- レーダークルーズコントロールの設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。
(→P.357)

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

レーダークルーズコントロールの作動状態を示しています。

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示	状態
 白色		設定車間距離：灰色 レーダークルーズコントロール OFF
 緑色		設定車間距離：青色 設定速度：緑色 定速走行
 緑色		設定車間距離：青色 設定速度：緑色 先行車：白色 追従走行

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示		状態
 緑色	 設定車間距離：橙色点滅 設定速度：緑色 先行車：橙色点滅		接近警報
 緑色	 設定車間距離：灰色 設定速度：白色 先行車：灰色		アクセルペダルによる加速中
 緑色	 設定速度：緑色反転表示		設定速度超過時

クルーズコントロール

アクセルペダルを踏まなくても、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

警告

n 安全にお使いいただくために

1 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

1 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

n クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

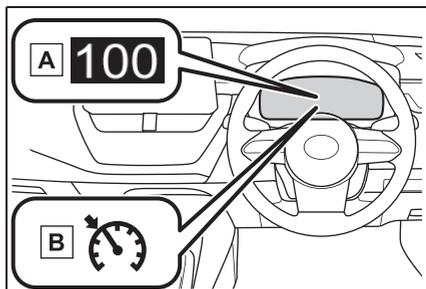
- 1 急カーブのある道
- 1 曲がりくねった道
- 1 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 1 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂

急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。

- 1 システムを OFF にする必要があるとき：→P.147

システムの構成部品

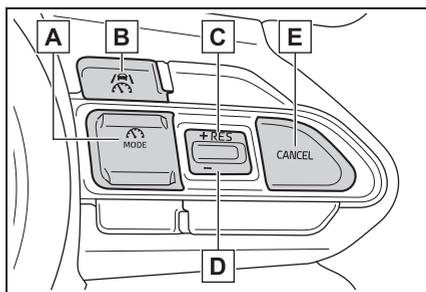
n メーター表示



A 設定速度

B クルーズコントロール表示灯

n 操作スイッチ



A 走行支援モード選択スイッチ

B 走行支援スイッチ

C + スイッチ、RES スイッチ

D - スイッチ

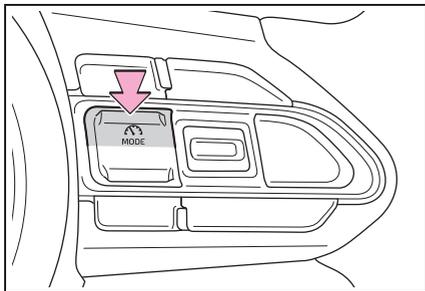
E キャンセルスイッチ

クルーズコントロールを使用する

速度を設定する

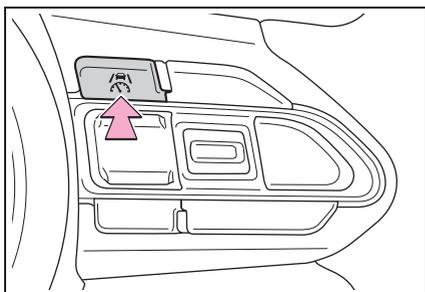
- 1 走行支援モード選択スイッチを押し、クルーズコントロールモードを選択します。

クルーズコントロール表示灯が点灯します。



2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、走行支援スイッチを押して速度を設定する

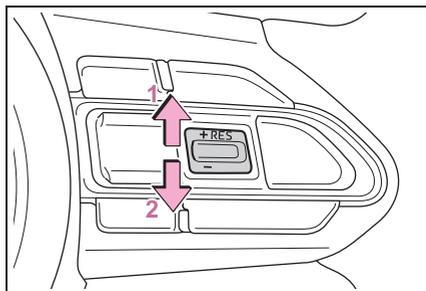
スイッチを離れたときの車速で定速走行できます。



設定速度をかえる

n スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで + スイッチまたは - スイッチを押します。



- 1** 速度を上げる
- 2** 速度を下げる

設定速度は、次のとおりに増減されます：

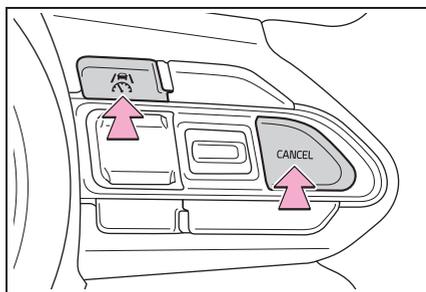
微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ連続して変化

n アクセルペダルで設定速度を上げる

- 1** 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する
- 2** + スイッチを押す

制御を解除する・復帰させる



- 1** 制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは走行支援スイッチを押す

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

- 2** 制御を復帰させるには、RES

スイッチを押す

 知識

n クルーズコントロールの自動解除

次のとき、自動的にクルーズコントロールが解除されます。

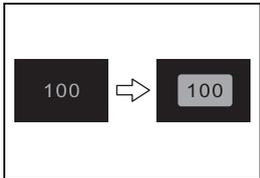
- l 設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき
- l 車速が約 30km/h 未満になったとき
- l 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき（例：プリク

ラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール)

- l マニュアル車：シフトレバーをNに入れた状態またはクラッチペダルを踏んだ状態で一定時間経過したとき
- l パーキングブレーキが作動したとき
- l 走行中に運転席シートベルトを着用していないとき
- l システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.152

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

クルーズコントロールの作動状態を示しています。

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示		状態
 白色			なし クルーズコントロール OFF
 緑色			設定速度：緑色 定速走行
 緑色			設定速度：緑色 反転表示 設定速度超過時

発進遅れ告知機能

先行車の発進または信号が青にかかったあと、自車が停止し続けた場合、告知音とマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止中、先行車が発進しても停止し続けた場合にお知らせします。

信号切替り告知機能

交差点の先頭で停止中、信号が青（方向指示器と同一方向の青矢印信号も含む）にかわっても停止し続けた場合にお知らせします。

知識

n 作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

- l オートマチック車：シフトレバーが P・R 以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトレバーが N で停止しているとき
- l マニュアル車：シフトレバーが R 以外で、ブレーキペダルを踏んで停止しているとき

n 発進遅れ告知機能が作動しない恐れがある状況

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- l 先行車がオートバイ・自転車などのとき

l 車両や樹木、看板などにより信号を正しく認識できないとき

l 右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき

l センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.151

n 先行車が発進していても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

l 先行車がない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき

l 自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

n 信号機が青にかわっていても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、信号が青にかわったと判断し、システムが作動する場合があります。

l 道路標識や看板などの信号機でないものを信号機と認識した場合

l 歩行者用、または自転車用の信号機の形状が自動車用と似ている場合

l 交差側や遠くの交差点にある信号機など、自車の対象ではない信号機を認識した場合

l 日照条件などにより、正しく自車対象の信号機を判別できない場合

システムの ON / OFF を変更する

発進遅れ告知機能の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。
(→P.357)

発進遅れ告知機能の設定を変更する

カスタマイズ設定から発進遅れ告知機能の設定を切りかえることができます。(→P.357)

BSM (ブラインドスポットモニター) ★

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ブラインドスポットモニターは、リアバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。

警告

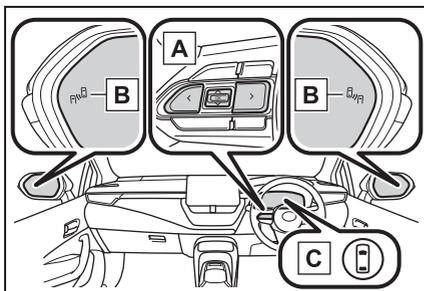
n 安全にお使いいただくために

l 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

l ブラインドスポットモニターは、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

システムの構成部品



A メーター操作スイッチ

ブラインドスポットモニターの ON / OFF を切りかえます。

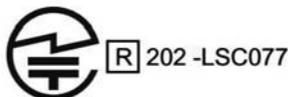
B ドアミラーインジケーター

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーター

n 後側方レーダーセンサーの取り扱いについて

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので消さないでください。

製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。



(→P.53) が点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

C 運転支援情報表示灯

ブラインドスポットモニターが OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



n ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらことがあります。

n カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.357)

警告

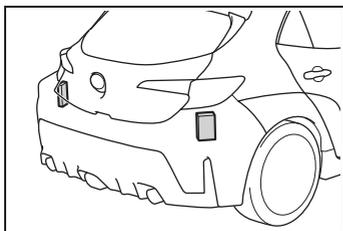
n システムを正しく作動させるために

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

警告

- センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく

センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、BSM 機能の作動条件 (→P.204) でしばらく走行してください (目安: 約 10 分)。それでも警告表示が消えない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。



- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにアクセサリーを付けたり、ステッカー (透明なものを含む) やアルミテープなどを貼ったりしない
- センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。
次のような場合には、必ずトヨタ販売店にて点検を受けてください。
 - センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた

- センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている
- センサーを分解しない
- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない
- センサーやリヤバンパーの脱着や交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- リヤバンパーの塗装修理の際にはトヨタ設定色以外への変更は行わないでください

ブラインドスポットモニターの ON / OFF を切りかえるには

ブラインドスポットモニターの ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.357)

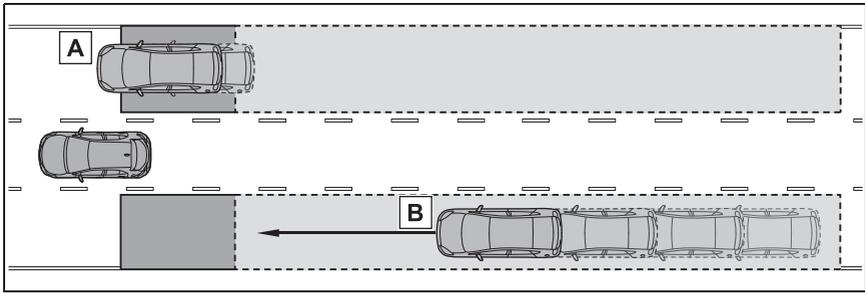
ブラインドスポットモニターが OFF になると、運転支援情報表示灯 (→P.53) が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。エンジンスイッチが ON になるたび、ブラインドスポットモニターは ON になります。

ブラインドスポットモニターの作動

n 走行中に検知できる車両

ブラインドスポットモニターは後側方レーダーセンサーにより隣の車線を

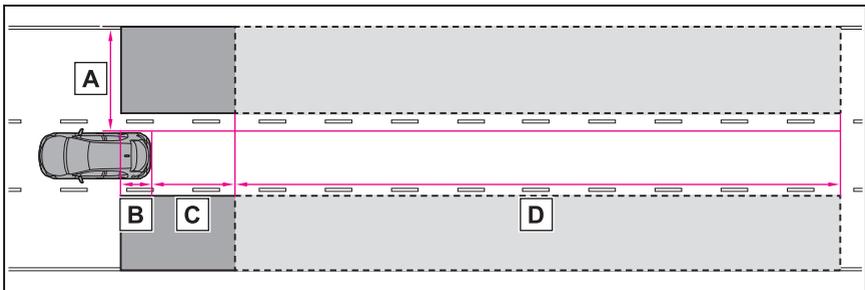
走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。



- A** ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両
B 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

n 走行中に検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



検知できる範囲：

- A** 車両の両側面について、側面から約 0.5m 離れた面から約 3.5m の領域^{※1}
B リヤバンパーから約 1m 前方の領域
C リヤバンパーから約 3m 後方の領域
D リヤバンパーから後方約 3m ～ 60m の領域^{※2}

^{※1} 車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

^{※2} 自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くに
いる状態で点灯・点滅します。

n 関連機能

隣の車線を走行する車両の検知を用いた機能が LDA（レーンディ

パーチャーアラート）にあります。本機能の作動条件などの詳細については P.166 を参照してください

い。

知識

n 作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- l エンジンスイッチが ON のとき
- l ブラインドスポットモニターが ON のとき
- l シフトポジションが R 以外のとき
- l 車速が約 10km/h 以上のとき

n センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- l 隣の車線を走行する他車に自車が追いこされるとき
- l 小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき
- l 他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

n システムが検知しない条件

ブラインドスポットモニターは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- l 小型のオートバイ・自転車・歩行者など*
- l 対向車
- l ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物*
- l 同じ車線を走行する後続車*
- l 2つ隣の車線を走行する他車*
- l 大きい速度差で自車が追い越す他車*

* 状況によっては検知をすることがあります。

n システムが正しく作動しないおそれがある状況

l 次のような状況では車両を正しく検知しないおそれがあります。

- ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
 - ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
 - ・ 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
 - ・ 自車と後続車の車間距離が短いとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
 - ・ 自車と他車の速度差に変化があるとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
 - ・ 停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
 - ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
 - ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
 - ・ 車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
 - ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
 - ・ ブラインドスポットモニターを ON にした直後
 - ・ けん引しているとき
- l 特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
- ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったと

- き
- ・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
 - ・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
 - ・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
 - ・タイヤがスリップ（空転）しているとき
 - ・自車と後続車の車間距離が短いとき
 - ・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
 - ・けん引しているとき

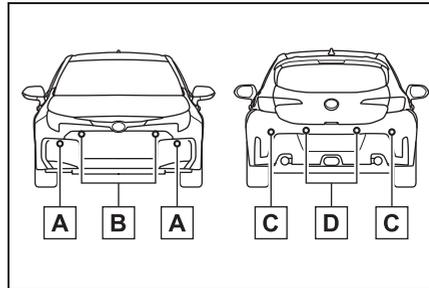
クリアランスソナー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおよその距離を超音波センサーによって検知して、マルチメディア画面の距離表示とブザー音、音声案内で運転者にお知らせします。

システムの構成部品

n センサーの種類



- A** フロントコーナーセンサー
- B** フロントセンターセンサー
- C** リヤコーナーセンサー
- D** リヤセンターセンサー

n クリアランスソナーの表示のしかた

壁などの静止物を検知すると、マルチメディア画面に表示されます。マルチメディアまたはリヤカメラ非装着車は、静止物を検知しているときに、クリアランスソナー検知表示灯が点灯します。(→P.53)
イラストは説明のための例であり、仕様により異なります。

▶ マルチメディア画面の表示



クリアランスソナーの ON / OFF を切りかえるには

クリアランスソナーの ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。
(→P.357)

クリアランスソナー機能が OFF の時は、クリアランスソナー OFF 表示灯 (→P.53) が点灯します。

OFF (非作動) に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、カスタマイズメニュー (→P.357) から ON (作動) に切りかえないとシステムは復帰しません。(エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません)

ただし、マルチメディアまたはリヤカメラ非装着車は、シフトポジションを R にすると自動的に ON (作動) になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。またこのとき、クリアランスソナー機能の ON / OFF を切り替えることができません。クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません

警告

n 安全にお使いいただくために

本システムは認識性能／制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

n システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。守れないときはシステムを OFF してください。

- ┆ センサーに傷をつけたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- ┆ センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けしないでください。
- ┆ センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。前後バンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- ┆ 改造・分解・塗装をしないでください。
- ┆ ライセンスプレートカバーを取り付けしないでください。
- ┆ 適正なタイヤ空気圧を維持してください。
- ┆ 純正品以外のサスペンションを取り付けしないでください。

警告

n 洗車時の注意

- l 高圧洗車機を使用して洗車するとき、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- l スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近づけすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

知識

n 作動条件

- l エンジンスイッチが ON のとき
- l クリアランスソナー機能が ON のとき
- l 車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- l シフトポジションが P 以外にあるとき（オートマチック車）
- l パーキングブレーキを解除しているとき（マニュアル車）
- l マルチメディアまたはリヤカメラ非装着車は、シフトポジションを R にすると、クリアランスソナー機能を OFF（非作動）に設定している場合でも、自動的に ON（作動）になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。

n センサーの検知について

- l センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。
- l 静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。
- l センサーが静止物に近づきすぎると検知できないことがあります。

l 静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約 30cm 以内に接近するおそれがあります。

l オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。

l 他システムのブザー音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場合があります。

l メータ故障時はブザーの音がならないことがあります。

n システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

l 針金・フェンス・ロープなどの細いもの

l 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの

l 鋭角的な形のもの

l 背の低いもの

l 背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

n システムが正常に作動しないおそれのある状況

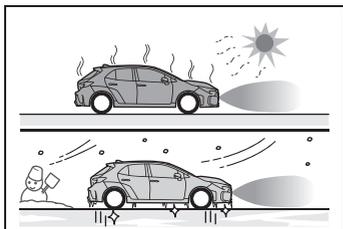
次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

l センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

l センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表

示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。

| 炎天下や寒冷時



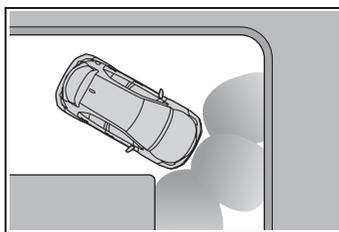
- | 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- | 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- | 大雨や水しぶきがかかったとき
- | センサーに静止物が近付きすぎたとき
- | 超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）
- | 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき
- | 風が強いとき
- | 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- | 作動対象物と車両の間に検知できない対象物があるとき
- | 車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき
- | 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- | センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- | 積載状況などにより車高が著しく変化

したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

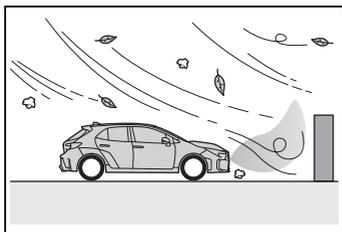
- | 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- | タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- | けん引しているとき
- n **衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況**

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

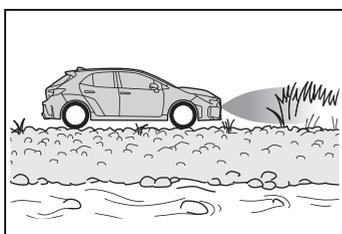
| 狭い道路を走行するとき



- | 垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETCのバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
- | 地面にわだちや穴がある場合
- | 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
- | 急な登坂路や降坂路を走行するとき
- | 冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき
- | センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- | 大雨や水しぶきがかかったとき
- | 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- | 風が強いとき



- ┆ 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- ┆ 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- ┆ 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- ┆ 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- ┆ 立体駐車場や工事現場などで柱（H形鋼など）の付近を走行するとき
- ┆ 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- ┆ 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など



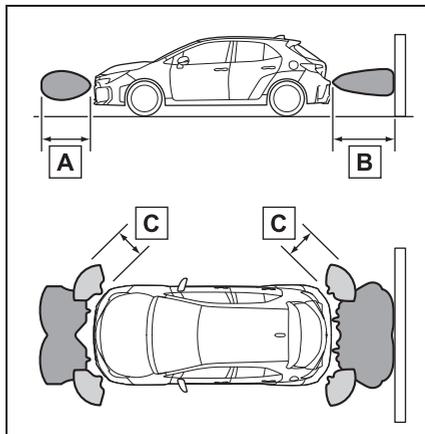
n 検知距離とブザー音

静止物までのおおよその距離	ブザー音
フロントセンターセンサー： 約 100cm ～ 60cm [※] リヤセンターセンサー： 約 150cm ～ 60cm [※]	断続音
約 60cm ～ 45cm [※]	早い断続音

- ┆ タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- ┆ けん引しているとき

距離表示の見方

n 静止物を検知できる範囲



- A** 約 100cm
- B** 約 150cm
- C** 約 60cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

静止物までのおおよその距離	ブザー音
約 45cm ~ 30cm [※]	非常に早い断続音
約 30cm 以下	連続音

※ 自動ミュート機能あり (→P.210)

音声案内とブザー音

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。ブザー音と同時に音声案内を行います。

- 1 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が約 30cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピ」から連続音「ピー」になります。
- 1 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。
- 1 ブザー吹鳴後、静止物との距離が近づかない場合は、自動でブザーが消音されます。(自動ミュート機能)

1 次の時、自動でミュート（消音）が解除されます。

- ・ シフトポジションを切りかえたとき
- ・ 車速が一定値以上になったとき
- ・ センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- ・ 使用中の機能を OFF にしたとき
- ・ エンジンスイッチを OFF にしたとき

知識

n ブザー音量調整

カスタマイズメニューから、クリアランスソナー、RCTA の音量を一括で切りかえることができます。(→P.357)

n ブザー音の一時ミュート（消音）について

マルチメディア画面に一時ミュート（消音）スイッチが表示されているときにこのスイッチを押すと、一時的にブザー音を消すことができます。

クリアランスソナー、RCTA のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

RCTA (リヤクロストラフィックアラート)★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

RCTA (リヤクロストラフィックアラート) 機能はリヤバンパー内側にあるブラインドスポットモニターの後側方レーダーセンサーを使用し、運転者の目視だけでは感知しづらい領域の確認を補助する機能です。後退時に運転者を支援します。

⚠ 警告

n 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

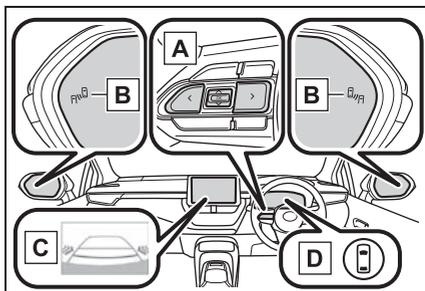
RCTA 機能は自車の右後方または左後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。RCTA 機能を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n システムを正しく作動させるために

→P.201

システムの構成部品



A メーター操作スイッチ

メーター操作スイッチを操作して、マルチインフォメーションディスプレイ上で RCTA 機能の ON / OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーター (→P.53) が点滅し、ブザーが鳴ります。

C マルチメディア画面

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディア画面に検知した側の RCTA アイコン (→P.212) が点灯します。イラスト

※ は車両後方から車両が接近している例です。

※ 表示画面は、グレード、オプションなどにより異なる場合があります。

D 運転支援情報表示灯

RCTA が OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

設定のしかた

RCTA の ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.357)

RCTA 機能が OFF のとき、運転支援情報灯 (→P.52) が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。エンジンスイッチが ON になるたび、RCTA 機能は ON になります。

知識

n ドアミラーインジケータの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケータが見えづらいたことがあります。

n RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がある場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

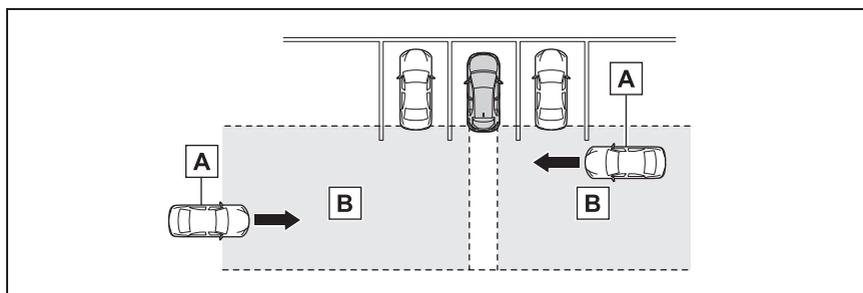
n 後側方レーダーセンサーについて

→P.201

RCTA 機能

n RCTA 機能の作動

RCTA 機能は後側方レーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケータとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



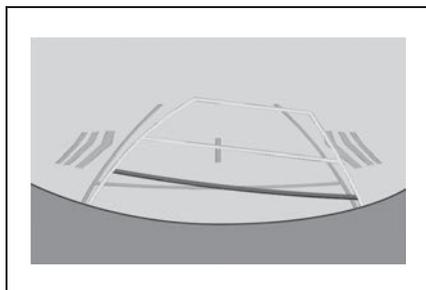
A 接近車両

B 接近車両を検知できる範囲

n RCTA アイコンの表示

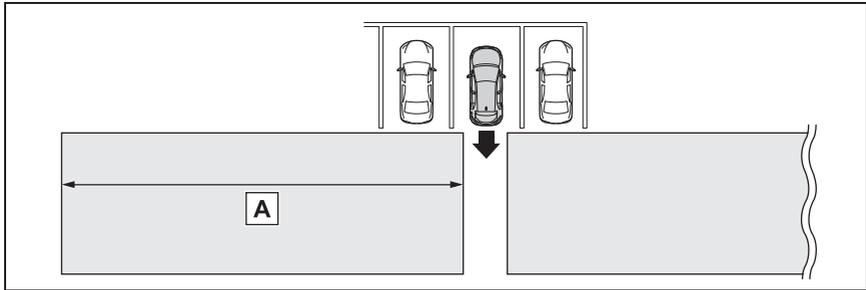
自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディア画面上に次の表示をします。

例：両方向から車両が接近しているとき



n RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両の速度	A 警報距離 (概算)
56km/h (速い)	30m
8km/h (遅い)	4m

知識

n RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- l エンジンスイッチが ON のとき
- l RCTA 機能が ON のとき
- l シフトポジションが R のとき
- l 自車の車速が約 15km/h 以下のとき
- l 接近する他車の車速が約 8km/h ~ 56km/h のあいだのとき

n ブザーの音量調整について

カスタマイズメニューから、RCTA、クリアランスソナー★の音量を一括で切りかえることができます。(→P.357)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

n ブザー音の一時ミュート (消音)

作動対象を検知した場合、マルチメディア画面上に一時ミュート (消音) スイッチが表示されます。

これを選択するとクリアランスソナー★、RCTA のブザー音が一括でミュート (消音) されます。

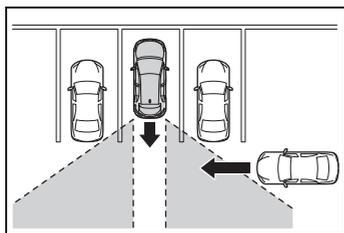
一時ミュート (消音) が解除される時：

- l シフトポジションを切りかえたとき
 - l 車速が一定値以上になったとき
 - l センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
 - l 使用中の機能を OFF にしたとき
 - l エンジンスイッチを OFF にしたとき
- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

n システムが検知しない車両について

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- l 真後ろから接近する車両
- l 自車の隣の駐車スペースで後退する車両
- l 障害物のためにセンサーが検知できない車両



- l ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物*
- l 小型のオートバイ・自転車・歩行者など*
- l 自車から遠ざかる車両
- l 自車の隣の駐車スペースから接近する車両*

- l センサーと接近車両との距離が近すぎる場合

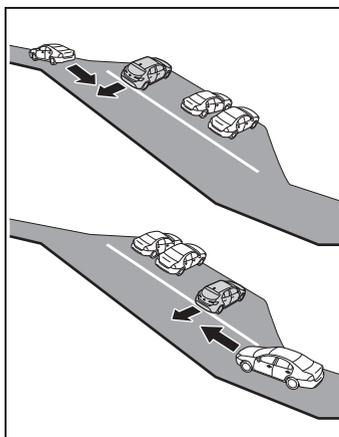
* 状況によっては検知をすることがあります。

n システムが正常に作動しないおそれがある状況

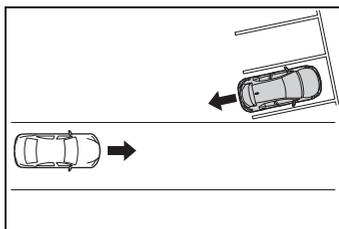
RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

- l センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- l 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- l 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
- l 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
- l 車両が高速で接近するとき
- l センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

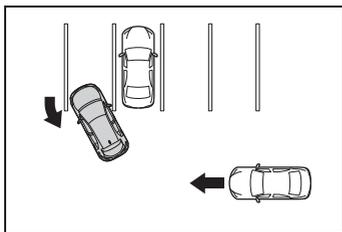
- l 勾配の変化が激しい坂で後退しているとき



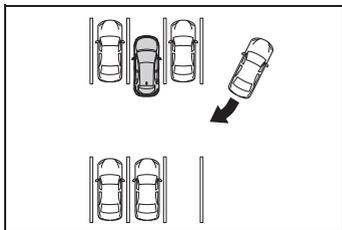
- ・ 斜めの駐車場から出庫するとき



- ・ RCTA 機能を ON にした直後
- ・ RCTA 機能を ON にした状態で、エンジンを始動した直後
- ・ 障害物のためにセンサーが車両を検知できないとき
- ・ けん引しているとき
- ・ 検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
- ・ 炎天下や寒冷時
- ・ ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- ・ 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- ・ 自車が旋回しているとき



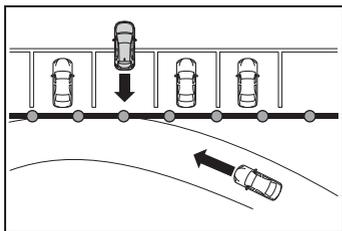
┆ 旋回しながら車両が近づいてきたとき



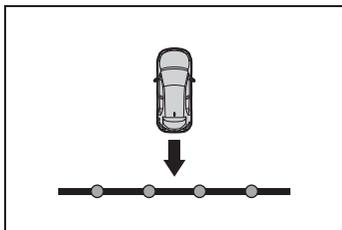
n 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

┆ 駐車場に面した道を車両が走行しているとき



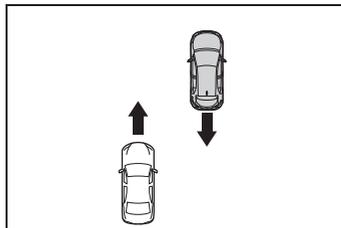
┆ 車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき



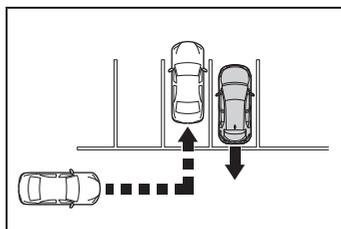
┆ センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・

サイクルキャリア・除雪装置（スノーブロー）などを取り付けたとき

┆ 車両が自車の横を通過するとき



┆ 自車の近くで旋回していく移動物が存在するとき



┆ 自車近くに室外機などの回転体があるとき

┆ センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき

┆ 動いているもの（旗・排気ガス・大粒の雨や雪、路面の雨水など）

┆ ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき

┆ グレーチングや側溝

┆ 炎天下や寒冷時

┆ ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

┆ 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

┆ けん引しているとき

PKSB（パーキングサポートブレーキ）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ抑制で作動対象との衝突被害の低減に寄与するシステムです。

駐車支援機能

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります。）

- ┃ パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）（→P.220）
- ┃ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）★（→P.222）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

n 安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

道路状況、車両状態および天候など、状況によっては作動しない場合があります。

センサー、レーダーでの検知には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害低減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。

┃ PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約2秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。

┃ 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

n パーキングサポートブレーキを OFF にするとき

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- ┃ 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
- ┃ 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ┃ ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
- ┃ 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

警告

- Ⅰ センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けるとき
- Ⅰ 自走式洗車機を利用する場合
- Ⅰ 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- Ⅰ オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- Ⅰ タイヤの空気圧が適正でないとき
- Ⅰ 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- Ⅰ タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- Ⅰ けん引しているとき

n サスペンションの取り扱いについて
車高や車の傾きが変化すると、センサーが作動対象物を正しく検知できなくなり、システムが正しく作動しなくなるおそれがあり危険です。サスペンションの改造はしないでください。

システムを作動させるには

パーキングサポートブレーキの ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます（→P.357）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）が OFF のとき、運転支援情報表示灯（→P.53）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。OFF（非作動）に切りかえて、PKSB（パーキングサポートブ

レーキ）を停止させた場合、再度、カスタマイズメニュー（→P.357）から ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。（エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません）

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチメディア画面およびマルチインフォメーションディスプレイにシステムによる加速制限を示すメッセージや、ブレーキ操作を促すメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

Ⅰ エンジン出力抑制制御作動中（加速制限制御）

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“加速抑制中です”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴なし

Ⅰ エンジン出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“ブレーキ！”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー（単発音）

1 ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“ブレーキ！”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー（単発音）

1 システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“アクセルが踏まれています ブレーキを踏んでください”、“ブレーキを踏んでください”

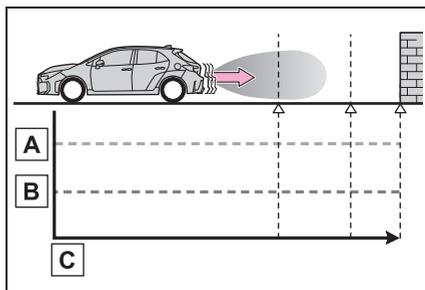
運転支援情報表示灯：点灯

ブザー：ピピピピ（連続音）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性のある作動対象（壁などの静止物や後方接近車両）を検知したとき、エンジンの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（エンジン出力抑制制御：図 2）また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：図 3）

1 図 1（PKSB [パーキングサポートブレーキ] 非作動時）

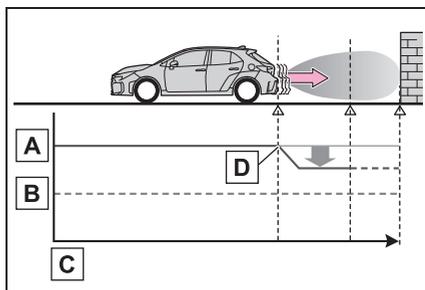


A エンジン出力

B 制動力

C 時間

1 図 2（エンジン出力抑制制御時）



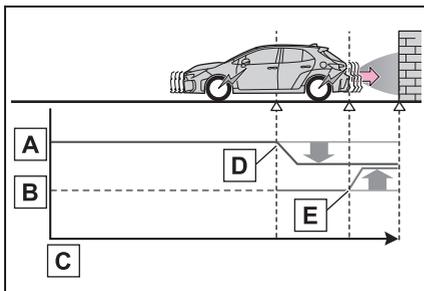
A エンジン出力

B 制動力

C 時間

D エンジン出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき）

1 図 3（エンジン出力抑制制御かつブレーキ制御時）



- A** エンジン出力
- B** 制動力
- C** 時間
- D** エンジン出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性があるときシステムが判断したとき）
- E** ブレーキ制御開始（作動対象と衝突の可能性があるときシステムが判断したとき）

知識

n PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止して、運転支援情報表示灯が点灯します。また、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した場合でもブレーキ制御は約2秒で解除されるため、そのまま発進できます。また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

n PKSB（パーキングサポートブレーキ）作動後の復帰について

システム作動によりPKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止したときに、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を復帰させたい場合は、再度PKSB（パーキングサポートブレーキ）をONにするか、エンジンスイッチをいったんOFFにしてから、再度ONにしてください。

い。また、次の状況でも自動的にPKSB（パーキングサポートブレーキ）が復帰し、運転支援情報表示灯が消灯します。（→P.53）

- l シフトポジションをPにする
- l 進行方向の作動対象がなくなった状態で走行する
- l 車両の進行方向を切りかえる

n クリアランスソナーのブザーについて

クリアランスソナーのON / OFF に関係なく（→P.206）、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させていなければ（→P.217）、ブレーキ制御とエンジン出力抑制制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、作動対象とのおよその距離をお知らせします。

パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）★

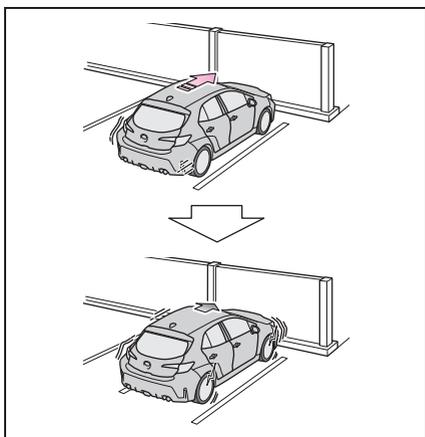
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトポジション選択を誤っての発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

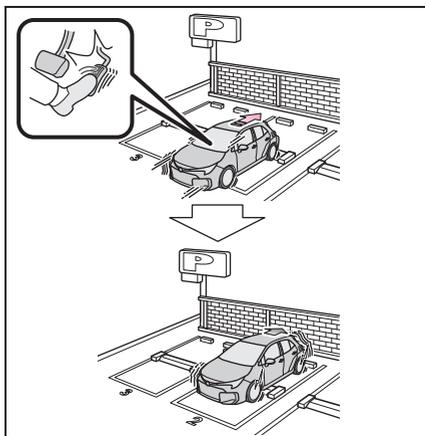
システム作動例

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

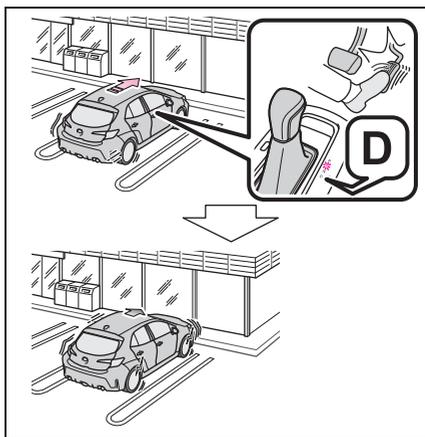
- n 低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



- n アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



- n 誤ってシフトポジションをDにして前進してしまったとき



センサーの種類

→P.205

⚠ 警告

- n システムを正しく作動させるために

→P.206

⚠ 警告

n 万一、踏切内などで PKSB（パーキングサポートブレーキ）が誤って作動したときは

→P.219

n 洗車時の注意

→P.207

📖 知識

n パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の作動開始条件

運転支援情報表示灯が点灯（→P.52、53）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

l エンジン出力抑制制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
- ・ 車速が約 15km/h 以下
- ・ 車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき（約 2～4m 先まで）
- ・ 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

l ブレーキ制御

- ・ エンジン出力抑制制御作動中
- ・ 衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

n パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

l エンジン出力抑制制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
- ・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2～4m 先まで）

l ブレーキ制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2秒が経過したとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
- ・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2～4m 先まで）

n パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→P.209）とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）は作動を開始していない場合があります。

n システムが作動しないおそれのある状況

→P.207

n 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.208

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）★

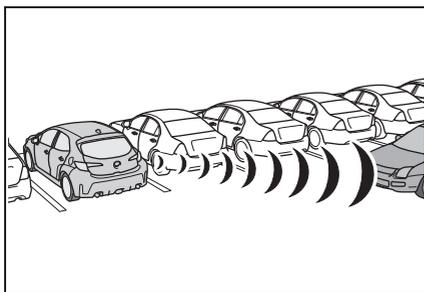
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

後側方レーダーセンサーで自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、システムが衝突の危険性があると判断した場合にブレーキ制御をすることで、接近車両への衝突を緩和し衝突被害軽減に寄与します。

システム作動例

次のようなときに進行方向の車両を検知してシステムが作動します。

- n 後退時、車両接近中にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



センサーの種類

→P.201



警告

- n システムを正しく作動させるために
→P.201

知識

n パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動開始条件

運転支援情報表示灯が点灯（→P.52、53）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

- l エンジン出力抑制制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
 - ・ 車速が約 15km/h 以下
 - ・ 後側方から接近する車両の車速が約 8km/h 以上
 - ・ シフトポジションが R のとき
 - ・ 後側方からの接近車両への衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

- l ブレーキ制御
 - ・ エンジン出力抑制制御作動中
 - ・ 後側方からの接近車両への衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

n パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

- l エンジン出力抑制制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
 - ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
 - ・ 自車後側方への接近車両がなくなったとき
- l ブレーキ制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
 - ・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
 - ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき

n システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.214

n 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.215

安心降車アシスト★

安心降車アシストは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、各席乗員による降車時のドアと車両・自転車の衝突可能性の判断の支援をすることで、事故被害低減に貢献するシステムです。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

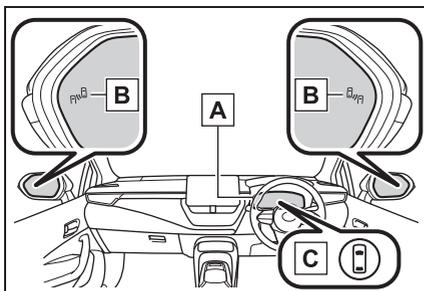
n 安全にお使いいただくために

l 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

l 安心降車アシストは、停車中に接近してくる車両や自転車の存在を乗員に提供する補助的なシステムです。本システムだけで安全を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、乗員は自らの目視やミラーなどによる安全確認を行う必要があります。

安心降車アシストのシステム構成部品



A マルチインフォメーションディスプレイ

安心降車アシストの ON / OFF を切りかえます。

衝突の可能性がある状態でドアの開放をした場合に対象のドアをメーターに表示します。また、ドアミラーインジケーターが点灯した状態でドアが開けられた場合などは、上記に加えてブザーで警報を行います。

B ドアミラーインジケーター

開いたドア（バックドアを除く）と衝突する可能性がある車両・自転車を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーター（→P.53）が点灯します。検知している側のドアを開いた場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

C 運転支援情報表示灯

安心降車アシストが OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



知識

n ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらことがあります。

n ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がある場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

n カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.357）



警告

n システムを正しく動作させるために

→P.201

安心降車アシストの ON / OFF を切りかえる

安心降車アシストの ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.357）

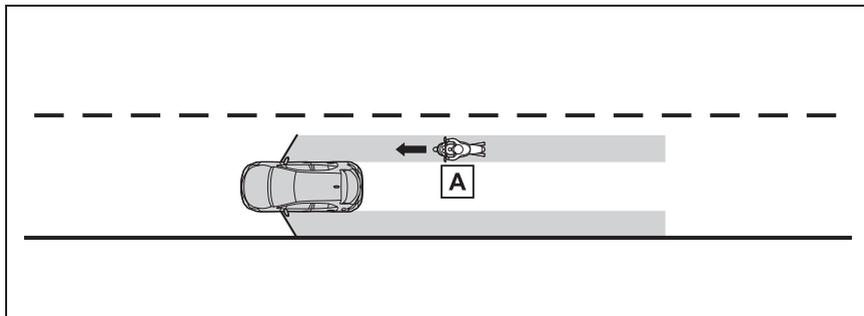
安心降車アシストが OFF になると、運転支援情報表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。エンジンスイッチが ON になるたび、安心降車アシストは ON になります。*

* エンジンスイッチ OFF 後、すぐにエンジンスイッチを ON にした場合は、安心降車アシストが ON にならない場合があります。

安心降車アシストの作動

n 安心降車アシストが検知できる対象

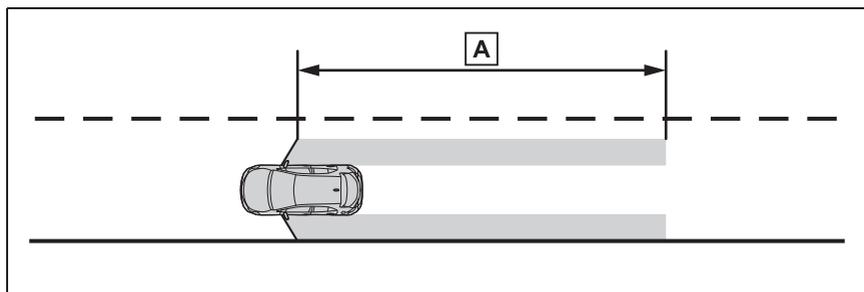
安心降車アシストは後側方レーダーセンサーにより自車の後方を走行する次の車両・自転車を検知し、ドアミラーインジケーター、ブザー、メーターの表示によってその車両の存在を乗員に知らせます。



A ドア（バックドアを除く）を開けたときにドアと衝突する可能性が高いと判断された車両・自転車

n 安心降車アシストが検知できる範囲

次の範囲に入った車両・自転車を検知します。



A フロントドアから後方約 45m の領域[※]

[※] 接近する車両・自転車の速度が速いほど、ドアミラーインジケーターは車両・自転車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

知識

n 安心降車アシストの作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

l エンジンスイッチが ON のとき、エンジン OFF 後 3 分以内、およびドアを開け

て車内に乗り込んでから 3 分以内（ドア開閉が行われた場合は、作動継続時間がさらに延長される場合があります）

l 安心降車アシストが ON のとき

l 停車中

l シフトポジションが R 以外のとき

n センサーが車両を検知する条件

安心降車アシストは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- l 停車している自車と並行に走行する車両や自転車がドア（バックドアを除く）を開けた範囲付近を通過するとき

n システムが車両を検知しない条件

- l 安心降車アシストは、次のような車両・自転車や車両・自転車以外のものを検知対象としません。

- ・ 接近する車両・自転車の速度が遅いとき ※
- ・ ドア（バックドアを除く）を開いたときに、衝突する可能性が低いと判断された車両・自転車 ※
- ・ 真うしろから接近する車両・自転車 ※
- ・ 前方から接近する車両・自転車 ※
- ・ ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※
- ・ 歩行者・動物など ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

- l 安心降車アシストは、次のような状況では作動しません。
- ・ エンジン OFF 後に 3 分以上経過した場合（ドア開閉が行われた場合は、作動継続時間が延長される場合があります）
- ・ 自車が完全に停車していないとき

n システムが正しく作動しないおそれがある状況

- l 次のような状況では車両や自転車を有効に検知しないおそれがあります。
- ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面に停車していると

き

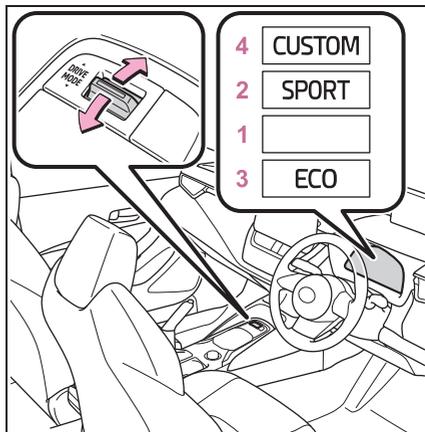
- ・ 隣の駐車車両に後続する車両や自転車
- ・ 後方で急な進路変更をして接近する車両や自転車
- ・ 発進した直後の車両や自転車
- ・ バックドアが開いているとき
- ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやスロープを装着しているとき
- ・ 後方に駐車車両や壁・標識などの静止物や人がいるとき
- ・ 道路に対して傾いて停車しているとき
- ・ 接近する車両や自転車の周囲に走行する車両があるとき
- ・ 接近する車両や自転車が壁・標識などの静止物の横を走行しながら接近しているとき
- ・ 車両や自転車が高速で接近するとき
- ・ けん引しているとき
- ・ 急勾配の坂道に停車しているとき
- ・ カーブの途中や終了地点に停車しているとき
- l 特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
- ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・ 自車の後方からずれた状態で車両や自転車が接近するとき
- ・ 道路に対して傾いて停車しているとき
- ・ 斜めに駐車している後方を車両や自転車が接近するとき
- ・ 後方に駐車車両や壁・標識などの静止物や人がいるとき
- ・ 後方で急な進路変更をして接近する車両や自転車
- ・ 接近する車両や自転車が壁・標識などの静止物の横を走行しながら接近しているとき
- ・ バックドアが開いているとき
- ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやスロープを装着しているとき
- ・ 車両や自転車が高速で接近するとき

- ・ けん引しているとき
- ・ 急勾配の坂道に停車しているとき
- ・ カーブの途中や終了地点に停車しているとき
- ・ 隣接車線に停止している車両の後ろから車両や自転車が接近するとき

ドライブモードセレクトスイッチ

走行・使用状況に合わせて次のモードを選択できます。

走行モードを選択するには



ドライブモードセレクトスイッチを前後に操作し、マルチインフォメーションディスプレイ表示からドライブモードを選択します。

1 ノーマルモード

燃費性能、静粛性、運動性能のバランスがよく、通常の走行に適しています。

2 スポーツモード

パワートレイン制御により、より力強い加速感が得られます。

また、ステアリングのフィーリングも変化し、コーナーの多い道などで、きびきびした走りを楽しみたいときに適しています。

オートマチック車：エンジンのパワーバンドを活用するようなギヤ段を選択します。変速フィーリングをレスポンス重視に設定しています。

マニュアル車：エンジンの制御により、アクセル操作に対する反応を早めています。

す。

スポーツモード表示灯が点灯します。

3 エコドライブモード

アクセル操作に対する駆動力を穏やかにすると同時に、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑えます。燃費の向上を意識した走行に適しています。

エコドライブモード表示灯が点灯します。

4 カスタムモード

パワートレイン制御、シャシー制御またはエアコン作動の機能をお好みで設定し、走行することができます。カスタムモードは、マルチメディア画面で設定します。（→P.365）

カスタムモード表示灯が点灯します。

知識

n エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。

l エコ空調モードを OFF にする
（→P.245）

l 風量を調整する（→P.244）

l エコドライブモードを解除する

n スポーツ／カスタムモードの自動解除

スポーツ／カスタムモードを選択して走行後、エンジンスイッチを OFF にすると、自動でノーマルモードにもどります。

n エキスパートモードについて

→P.235

ローンチコントロール （オートマチック車）

ローンチコントロール制御は、エンジン高回転での発進を実現します。（公道では使用しないでください。）

操作のしかた

n ローンチコントロールを設定するには

- 1 車両を停止する
- 2 左足でブレーキペダルをしっかりと奥まで踏み込む

ブレーキペダルを踏み続けてください。

- 3 シフトレバーを D または M にする
- 4 スポーツモードまたはカスタムモード※を選択する
（→P.227）

※ カスタムモードでパワートレイン制御に“SPORT”を選択している場合

5 スイッチを押す

EXPERT 表示灯が点灯し、同時に TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯も点灯します。

- 6 パドルシフトスイッチの“+”、“-”を同時に約 1 秒押し、その後離す

マルチインフォメーションディスプレイにローンチ制御状態を示す“Launch

Ready” が表示されます。

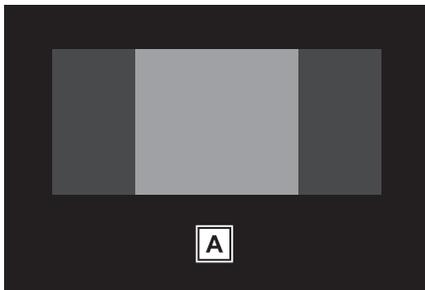


A “Launch Ready”

7 アクセルペダルをしっかりと奥まで踏み込む

エンジン回転数が上昇し、発進待機状態となります。

マルチインフォメーションディスプレイに“Launch Active”が表示され、ゲージが減少し始めます。



A “Launch Active”

8 アクセルペダルを踏み込んでから約3秒以内（ゲージ残存中）にブレーキペダルを離し、発進する

アクセルペダルを踏み込んでから約3秒経過すると、ローンチ発進待機を示すゲージがなくなりローンチコントロールは解除されます。再度ローンチコントロールを設定するには、一度走行して手順1からやり直してください。

発進後アクセルペダルを離す、または100km/hを超えるとローンチコント

ロールは終了します。

n ローンチコントロールを解除するには

次のいずれかの操作を行ってください。

- l シフトレバーをDまたはM以外にする
- l スポーツモード以外のドライブモードを選択する

知識

n 作動条件

次の条件がすべて満たされたとき、ローンチコントロールが作動可能状態になります。

- l エンジンやトランスミッションが十分に暖まっているとき
- l エンジンやトランスミッション、走行制御システムなどの関連機能に異常が検知されていないとき

n ローンチコントロールがうまく作動しないとき

次の状況では、ローンチコントロールがうまく作動しない場合があります。

- l ブレーキペダルをしっかりと奥まで踏み込んでおらず、車輪が回転してしまったとき
- l 雨天・雨上がりなど、濡れた路面で発進するとき
- l すべりやすい路面で発進するとき
- l 車両の整備状態（タイヤの磨耗や空気圧など）が良好でないとき

警告

n ローンチコントロールの使用について

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 1 公道では使用しないでください。
- 1 路面状況や周囲の状況から十分に安全が確保できるときのみ使用してください。
- 1 周囲に人やさまたげになるものがないか十分に安全確認してから使用してください。
- 1 高度な運転技術を必要とする場合があります。路面状況や周囲の状況を確認しながら運転してください。

注意

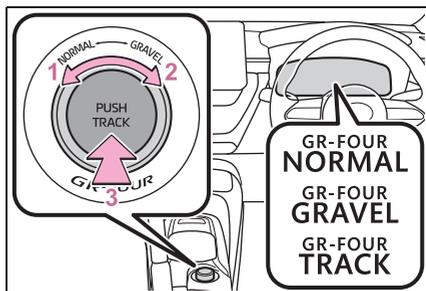
n 車両の損傷を防ぐために

- 1 車両に負荷がかかるため、過度な使用は避けてください。
- 1 必ず正しい手順に従って操作してください。
- 1 すべりやすい路面では、車両を損傷するおそれがあります。必ず乾燥した舗装路面で使用してください。
- 1 ローンチコントロールを連続で使用するときは、10分以上間隔をあけてから使用してください。

4WD モードセレクトスイッチ

前後の駆動力を制御することで、走行・路面状況に合わせて次のモードを選択できます。

4WD モードを選択するには



1 GR-FOUR NORMAL モード

駆動力を前輪寄りに制御することで、旋回性能と安定性のバランスがよく、市街地を走行する場合に適しています。

GR-FOUR NORMAL 表示灯が点灯します。

2 GR-FOUR GRAVEL モード

加速時の荷重移動を考慮して4輪に駆動力を配分することで、トラクション性能を最大限に発揮することを狙ったモードです。

GR-FOUR GRAVEL 表示灯が点灯します。

3 GR-FOUR TRACK モード

運転操作と車両状態に応じ、駆動力をフロント寄りからリア寄りまで連続的に可変させることで、旋回性能と加速性能を両立することを狙ったモードです。

GR-FOUR TRACK 表示灯が点灯します。

□ 知識

n GRAVEL / TRACK モードの自動解除

GRAVEL / TRACK モードを選択して走行後、エンジンスイッチを OFF にし、再度エンジンスイッチを ON にした場合は、自動で GR-FOUR NORMAL モードにもどります。

サーキットモード

サーキットモードは、抑えていた制御を解放し車両の本来持っている性能をさらに引き出すことができるサーキット内限定の機能です。

ご利用には T-Connect 契約および、お使いのスマートフォンへ専用アプリのインストールが必要です。

□ 知識

n サーキットモードの起動について

- l サーキットモードはエンジンをかけた状態で、自車が完全に停止しているときに専用アプリを使用して起動することができます。
- l 以下のようなときは、サーキットモードを起動することができません。
 - ・ 自車位置が利用可能エリア外るとき
 - ・ 利用可能エリア内であっても、ピット内やトンネル内など GPS の受信状態が悪いとき
 - ・ 自車が完全に停止していないとき

n サーキットモード利用可能エリアについて

サーキットモード利用可能エリアについては、サーキットモードの公式 WEB ページをご覧ください。

n スマートフォンアプリについて

サーキットモードを使用するには、専用のスマートフォンアプリのインストールが必要です。

公式 WEB ページ記載のリンクよりダウンロードしてください。

警告

n サーキットモード使用時の警告

- l サーキットモードを使用する場合、高度な運転技能を必要とする場合があります。路面・周囲の状況を確認しながら、慎重に運転してください。
- l 一般公道では、サーキットモードを使用しないでください。

機能について

サーキットモードが ON になると以下の機能をご利用いただけます。

- l アンチラグ制御（強度選択可）
- l スピードリミッター上限車速の引き上げ
- l 冷却ファン出力の最大化（車両停止時に起動可）
- l シフトタイミングインジケータの表示

設定のしかた

n サーキットモードを ON にする

利用可能なサーキットに到着後、スマートフォンアプリで ON にする。

n サーキットモードを OFF にする

サーキット走行終了後、スマートフォンアプリで OFF にする。

知識

n サーキットモードの自動解除について

次の場合、サーキットモードが自動的に解除されます。

- l 自車位置が利用可能エリア外に移動したとき

- l エンジンを停止したとき
- l GPS の受信状態が悪いとき

警告

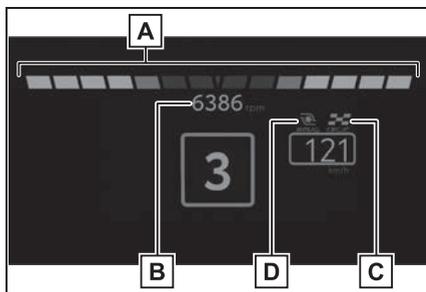
n ボンネットを開けるときの

サーキットモード使用中は冷却ファンが回転し続けている場合があります。冷却ファンが回転しているときは、エンジンルーム内にふれたり、近づいたりしないでください。回転している冷却ファンに指等を接触させて負傷するおそれがあり危険です。

メーターの表示について

サーキットモードが設定されたとき、メーターの表示や一部の計器類の配置が切りかわります。

n 計器類の位置



A シフトタイミングインジケータ

B エンジン回転数

C サーキットモード表示

サーキットモードが ON のとき、インジケータが点灯します。

D アンチラグ作動中表示

n 冷却ファン

サーキットモード ON の状態で停車中、スマートフォンアプリで

ON に操作すると、冷却ファンが最大で回転し、マルチインフォメーションディスプレイに作動中であることが表示されます。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について

n ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

n ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

n VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

n S-VSC（ステアリングアシスト テッドビークルスタビリティ コントロール）

ABS・TRC・VSC・EPS を協調して制御します。

すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

n TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加

速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

n ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

n EPS (エレクトリックパワーステアリング)

モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

n アクティブトルクスプリット4WD

通常走行からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時や雪や雨などですべりやすい路面など様々な走行状態に応じて、FF（前輪駆動）走行状態から4WD（4輪駆動）走行状態まで自動的に制御し、安定した操縦性・走行安定性の確保に貢献します。

n 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

n セカンダリーコリジョンブレーキ

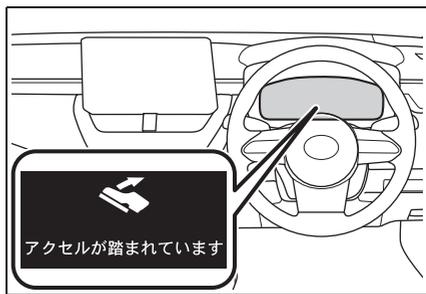
SRSエアバッグのセンサーが衝突を検知したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。

n 衝突時の急加速抑制

SRSエアバッグのセンサーが軽度の衝突を検知したときに、急アクセルによるエンジン出力を自動的に抑制することで、二次衝突によ

る被害の軽減に寄与します。

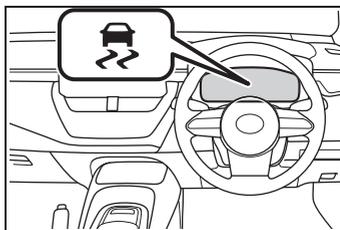
システム作動時はブザー、音声案内とマルチインフォメーションディスプレイのメッセージでお知らせします。



知識

n TRC・VSC が作動しているとき

TRC・VSC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



n TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに  スイッチを押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには  スイッチを押す

TRC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度  スイッチを押すと、システ

ム作動可能状態にもどります。



n TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に

 スイッチを押し 3 秒以上保持する

TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯が点灯します。*

もう一度  スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

* 緊急時操舵支援 (→P.154) の作動も停止し、PCS 警告灯が点灯します。

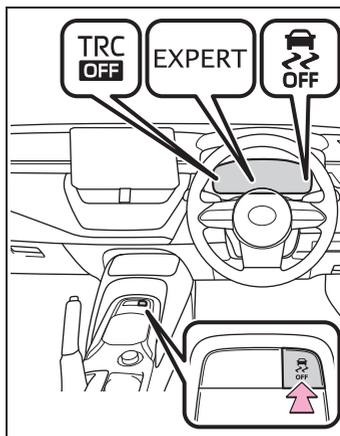
n エキスパートモード

エキスパートモードを選択すると、他のドライブモードに比べてよりスポーティーな走行が可能となります。TRC と VSC は停止しますが、車両の挙動によってはエンジンおよびブレーキの制御が介入する場合があります。

スポーツモードまたはカスタムモードのとき、 を押す

EXPERT 表示灯が点灯し、同時に TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯も点灯します。

もう一度  を押す、またはドライブモードをノーマルモードまたはエコドライブモードに切りかえることでエキスパートモードは解除されます。



l 各走行モード中に  を押した時の TRC・VSC・エキスパートモードの状態

	走行モード	
	ノーマルモード及びエコドライブモード	スポーツモード及びカスタムモード
TRC	OFF	OFF
VSC	作動可能状態	OFF
エキスパートモード	OFF	ON
表示灯		  

n  スイッチを押さなくても TRC OFF 表示灯が点灯したとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示灯が消灯しない場合はトヨタ販売店にご相談ください。

n ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときにシステムが作動します。

- l オートマチック車：シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）
- l マニュアル車：前進での上り坂発進時にシフトレバーの位置が N または R 以外のとき、または後退での上り坂発進時にシフトレバーの位置が R のとき
- l 車両停止状態
- l アクセルペダルを踏んでいない
- l パーキングブレーキがかかっていない
- l エンジンスイッチが ON のとき

n ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- l オートマチック車：シフトレバーを P または N のシフト位置にした
- l マニュアル車：前進での上り坂発進時にシフトレバーの位置を R にしたとき、または後退での上り坂発進時にシフトレバーの位置を N または R 以外にしたとき
- l アクセルペダルを踏んだ
- l ブレーキペダルを踏んで、かつパーキングブレーキをかけた
- l ブレーキペダルから足を離して最大2秒経過した
- l エンジンスイッチが OFF のとき

n ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- l エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがあります。異常ではありません

ん。

- l 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・車体やハンドルに振動を感じる
 - ・車両停止後もモーター音が聞こえる
 - ・ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
 - ・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

n TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態にもどります。

- l エンジンスイッチを OFF にしたとき
- l (TRC のみを作動停止にしている場合) 車速が高くなったとき
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

n EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。

その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

n マルチインフォメーションディスプレイに 4WD システムに関するメッセージが表示されたとき

それぞれ、次のように対処してください。

- l “4WD システム高温 高負荷走行を控えてください”

4WD システムが過熱しています。エンジンをかけたまま安全な場所に停車してください。*

しばらくして表示が消えれば問題ありません。表示が消えないときは、すみやか

にトヨタ販売店で点検を受けてください。

l “4WD システム高温 2WD 走行に切替
りました”

過熱のため 4WD システムが一時解除され、前輪駆動走行に切りかわりました。エンジンをかけたまま安全な場所に停車してください。*

しばらくして表示が消えれば、4WD システムが自動的に復帰します。表示が消えないときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

l “4WD システム故障 2WD 走行になります 販売店で点検”

4WD システムに異常が発生しています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

* 停車後は表示が消えるまでエンジンを停止しないでください。

n 緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- l 非常点滅灯が点滅していないこと
- l 車速 55km/h 以上
- l 車両の減速度から急ブレーキだとシステムにより判断された

n 緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- l 非常点滅灯を点滅させた
- l 車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

n セカンダリーコリジョンブレーキの作動条件

走行中に SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき。

ただし構成部品が破損した場合システムは作動しません。

n セカンダリーコリジョンブレーキの自動解除

次のいずれかのとき自動的にシステムが解除されます

- l 車速が約 0km/h になったとき
- l 作動して一定時間経過したとき
- l アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

n 衝突時の急加速抑制について

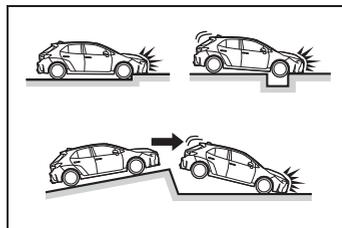
l 次の条件をすべて満たすと、システムが作動します。

- ・ 車速が約 60km/h 以下のとき
- ・ SRS エアバッグのセンサーが車両前方に軽度の衝突を検知したとき
- ・ 衝突の直前にブレーキ操作をしていないとき
- ・ アクセルペダルを速く強く踏み込んだ
* あとに衝突した、または衝突後にアクセルペダルを速く強く踏み込んだ *
とき

* アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき

l 次のような状況では衝突していても、システムが作動する場合があります。

- ・ 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- ・ 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ・ ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



l アクセルペダルを離すとシステムの作動が解除されます。

警告

n ABS の効果を発揮できないとき

l タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

l 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

n ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

l 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

l タイヤチェーンを装着しているとき

l 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

l 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

n TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

n ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

l ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐車車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

n スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

n TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

n エキスパートモードを選択するとき

l 公道では使用しないでください。

l 路面状況や周囲の状況から、十分に安全が確保できるときのみ選択してください。

l エキスパートモード選択時の運転には、高度な運転技能を必要とします。路面状況や車両の安全を常に確認し、通常以上の慎重な運転を心がけてください。

 **警告****n** **タイヤまたはホイールを交換するときは**

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。

（→P.356）

異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。

タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

n **タイヤとサスペンションの取り扱い**

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

n **アクティブトルクスプリット4WDについて**

ラリー走行などが目的ではなく、一般道での走行安定性の確保を目的とした 4WD です。無理な走行はしないでください。

すべりやすい路面での走行は慎重に行ってください。

n **セカンダリーコリジョンブレーキについて**

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件により異なります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n **衝突時の急加速抑制**

衝突時の急加速抑制を過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件により異なります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

本システムは急加速を抑制するものであり、ブレーキを作動させるものではありません。必要に応じてブレーキペダルを操作してください。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備について

- Ⅰ 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシャー液
- Ⅰ バッテリーの点検を受けてください。
- Ⅰ 冬用タイヤ（4輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を使用してください。

タイヤは4輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
（タイヤについて：→P.290）

知識

n タイヤチェーンについて

- 取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。
- Ⅰ 安全に作業できる場所で行う
 - Ⅰ 前2輪に取り付ける
 - Ⅰ タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
 - Ⅰ 取り付け後約0.5～1.0km走行したら締め直しを行う

警告

n 冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- Ⅰ 指定サイズのタイヤを使用する
- Ⅰ 空気圧を推奨値に調整する
- Ⅰ 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- Ⅰ 冬用タイヤを装着する際は、必ず4輪とも装着する

n タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、安全に車を運転することができず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- Ⅰ 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは30km/hのどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- Ⅰ 路面の凹凸や穴を避ける
- Ⅰ 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- Ⅰ カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- Ⅰ LTA（レーントレーシングアシスト）を使用しない
- Ⅰ LDA（レーンディパーチャーアラート）を使用しない

 注意**n** タイヤチェーンの使用について

この車両に適合したトヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。なお、トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。市販のタイヤチェーンを使用する場合は、車体に干渉しないことをあらかじめご確認ください。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- I ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- I フロントウィンドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- I 外装ランプ・ドアミラー・ドアガラス・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- I 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

 知識

- n** 寒冷地用ワイパーブレード★について
- I 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブ

レードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。

- I 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 注意**n** ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。ガラスがひび割れるおそれがあります。

運転するときは

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するときは

- I パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをオートマチック車はP、マニュアル車は下り坂ではR上り坂では1速に入れて駐車し、必ず輪止め^{※1}をしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。
- I オートマチック車：パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーをPに入れた状態でシフトレバーが動かな

いこと^{※2}を確認してください。

※¹ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

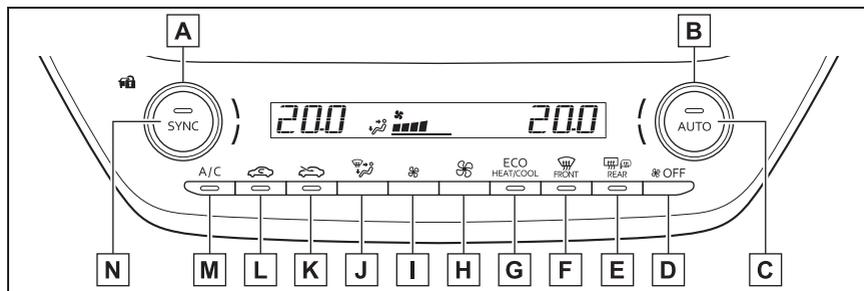
※² ブレーキペダルを踏まないで P からシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

5-1. エアコンとデフォグガーの使い方	
オートエアコン	244
ステアリングヒーター／シートヒーター	249
5-2. 室内灯のつけ方	
室内灯一覧	251
5-3. 収納装備	
収納装備一覧	253
ラゲージルーム内装備	256
5-4. その他の室内装備の使い方	
その他の室内装備	258

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作スイッチについて



- A** 助手席側温度調整スイッチ
- B** 運転席側温度調整スイッチ
- C** AUTO スイッチ
- D** OFF スイッチ
- E** リヤウインドウデフォグラー&ミラーヒータースイッチ
- F** フロントデフロスタースイッチ
- G** エコ空調スイッチ
- H** 風量増スイッチ
- I** 風量減スイッチ
- J** 吹き出し口切りかえスイッチ
- K** 外気導入スイッチ
- L** 内気循環スイッチ
- M** 冷房・除湿スイッチ
- N** SYNC スイッチ（左右連動モード）

n 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調整スイッチを右へまわし、下げるときは左へまわす

冷房・除湿スイッチが押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

n 風量を切りかえる

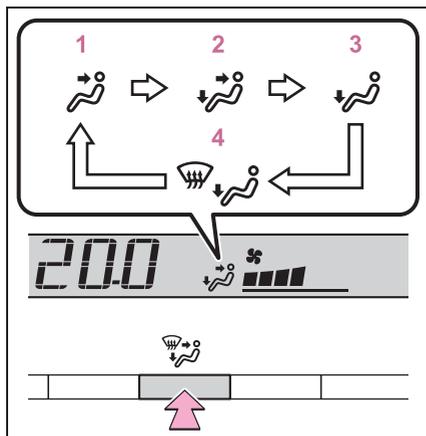
風量を増やすときは風量増スイッチを押し、減らすときは風量減スイッチを押し

OFF スイッチを押すと、ファンが止まります。

n 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチを押す

押すたびに次のように吹き出し口が切りかわります。



- 1 上半身に送風
- 2 上半身と足元に送風
- 3 足元に送風
- 4 足元に送風・フロントウィンドウガラスの曇りを取る

n 内気循環／外気導入を切りかえる

- 1 内気循環に切りかえるときは、内気循環スイッチを押す

内気循環スイッチの作動表示灯が点灯します。

- 1 外気導入に切りかえるときは、外気導入スイッチを押す

外気導入スイッチの作動表示灯が点灯します。

n 冷房・除湿機能

冷房・除湿スイッチを押す

ON のときは、作動表示灯が点灯します。

n フロントウィンドウガラスの曇りを取る

フロントデフロスタースイッチを押す

冷房・除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。(自動的に外気導入に切りかわることがあります。)

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度フロントデフロスタースイッチを押すと前のモードにもどります。

フロントデフロスタースイッチが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

n リヤウインドウデフォグラー&ミラーヒーター

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

リヤウインドウデフォグラー&ミラーヒータースイッチを押す

リヤウインドウデフォグラー&ミラーヒータースイッチが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

リヤウインドウデフォグラーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的に OFF になります。

n エコ空調モード

燃費を優先するため冷房／暖房の効きを抑えます。

エコ空調スイッチを押す

エコ空調モードが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

□ 知識

n ガラスの曇りについて

- 1 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、冷房・

除湿機能を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができません。

- l 冷房・除湿機能を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- l 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

n 外気導入・内気循環について

- l トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。
- l 設定温度や室内温度により、自動的に切りかわる場合があります。

n エコ空調モード

ドライブモードセレクトスイッチのエコドライブモードを選択すると、エコ空調モードが ON になります。(→P.227)

エコドライブモード以外を選択したときは、エコ空調モードが OFF になる場合があります。

n エコドライブモードのエアコン作動について

- l エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。
 - ・エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房/冷房の能力を抑制します。
 - ・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。
- l 空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。
 - ・エコ空調モードを OFF にする(→P.245)
 - ・風量を調整する
 - ・エコドライブモードを解除する(→P.227)

n 外気温度が 0℃近くまで下がったとき
冷房・除湿機能を ON にしても冷房・除湿機能が働かない場合があります。

n 換気とエアコンの臭いについて

- l 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- l エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- l エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
- l エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。
- l 駐車時に自動的に外気導入に切りかわることにより駐車中の換気をうながし、始動時に発生するにおいを緩和します。

n エアコンフィルターについて

→P.297

n 音声対話サービスについて

音声対話サービスを使用して、エアコンを操作することができます。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

n カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.357)

警告**n フロントウィンドウガラスの曇りを防止するために**

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

n リヤウィンドウデフォグラー&ミラーヒーター作動中の警告

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

注意**n バッテリーあがりを防ぐために**

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

オート設定で使用する

- 1 AUTO スwitchを押す
- 2 温度を設定する
- 3 冷房・除湿スイッチを押す

押すたびに冷房・除湿機能の ON / OFF が切りかわります。

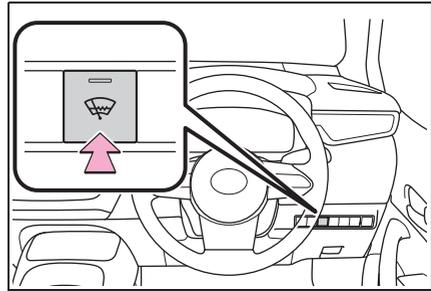
- 4 ファンを止めたいときは、OFF スwitchを押す

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スwitchの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

知識**n オート設定の作動について**

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO スwitchを押

した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

フロントワイパーデアイサー★

フロントウィンドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。

フロントワイパーデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。フロントワイパーデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告**n フロントワイパーデアイサー作動中の警告**

フロントウィンドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

運転席と助手席の設定温度を同じに設定する（左右連動モード）

SYNC スwitchを押す

左右連動モードになり作動表示灯が点灯します。

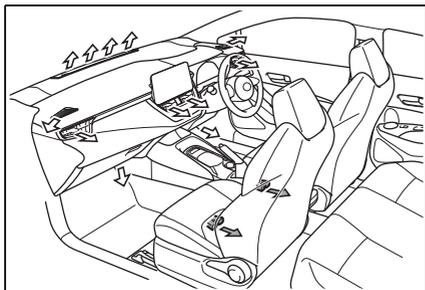
助手席の設定温度が運転席側の設定温度に切り替わります。

作動表示灯が点灯しているときに SYNC スイッチを押す、または助手席温度調節ダイヤルを操作すると左右連動モードが OFF になり、運転席と助手席の設定温度がそれぞれの設定温度に切り替わります。

吹き出し口の配置・操作

n 吹き出し口の位置

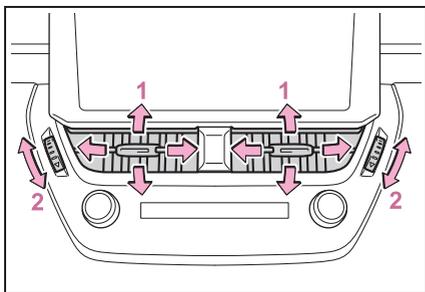
吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。



←：仕様により設定の有無あり

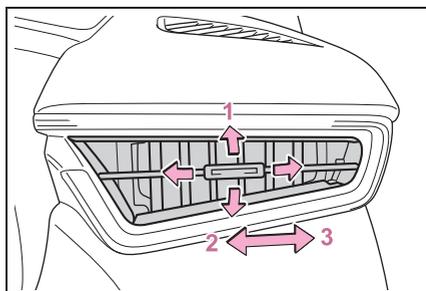
n 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ センター



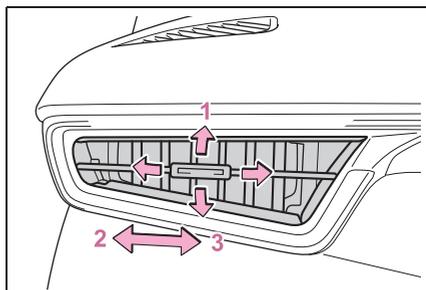
- 1 風向きを調整する
- 2 吹き出し口を開閉する

▶ 運転席サイド



- 1 風向きを調整する
- 2 吹き出し口を開ける
- 3 吹き出し口を閉じる

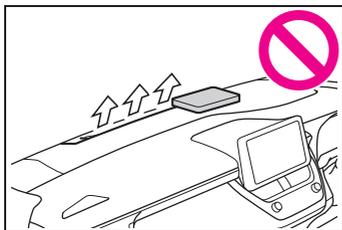
▶ 助手席サイド



- 1 風向きを調整する
- 2 吹き出し口を閉じる
- 3 吹き出し口を開ける

警告**n フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために**

フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなる場合があります。

**ステアリングヒーター★
シートヒーター★**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

| ステアリングヒーター

ハンドルのグリップ部を暖めることができます。

| シートヒーター

シートの表面を暖めることができます。

警告**n 低温やけどについて**

次の方がステアリングヒーター／シートヒーターにふれないようにご注意ください。

- | 乳幼児、お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
- | 皮膚の弱い方
- | 疲労の激しい方
- | 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方

注意**n シートヒーターの損傷を防ぐために**

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

n バッテリーあがりを防ぐために

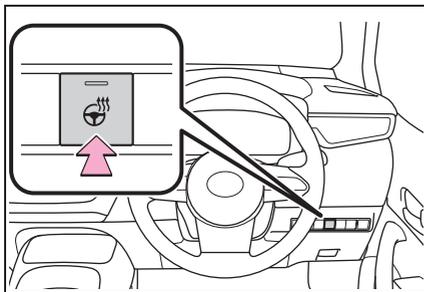
エンジンが停止した状態で使用しないでください。

操作スイッチについて

n ステアリングヒーター

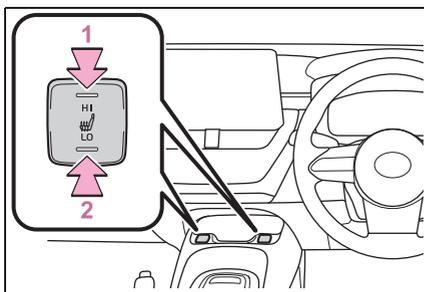
システムの ON / OFF を切りかえる

作動中は作動表示灯が点灯します。



n シートヒーター

スイッチを押してシートヒーターを
作動させる



1 HI (強)

2 LO (弱)

作動中は作動表示灯が点灯します。

作動を停止するときは、押した側と反対側のスイッチを軽く押してください。スイッチが中立の位置にもどり、作動表示灯が消灯します。

知識

n 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

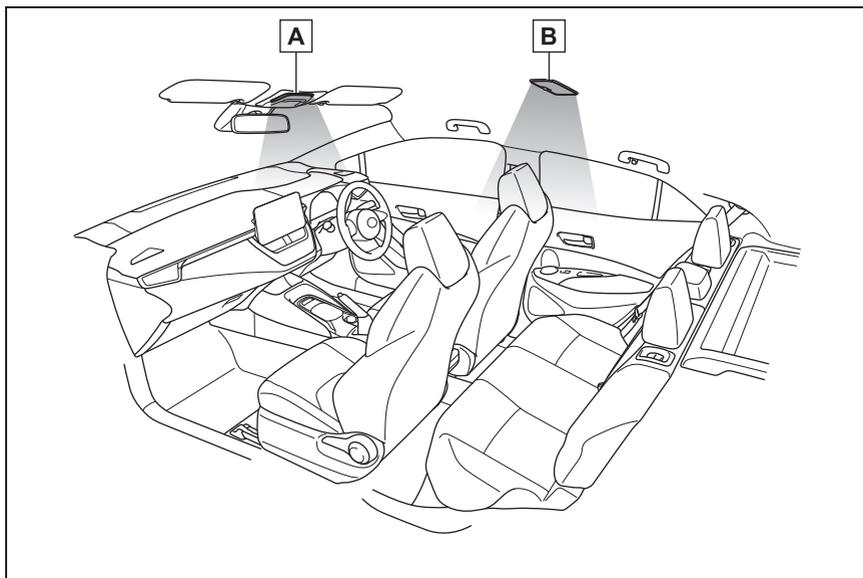
警告

n 異常加熱や低温やけどを防ぐためにシートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

- | 長時間連続使用しないでください。
- | 毛布・クッションなどを使用しないでください。

室内灯一覧

室内灯の位置

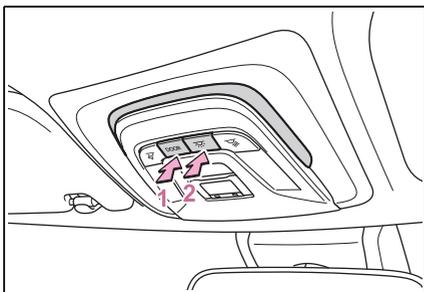


A フロントインテリア/パーソナルランプ (→P.251, 252)

B リヤインテリアランプ (→P.251)

インテリアランプを操作するには

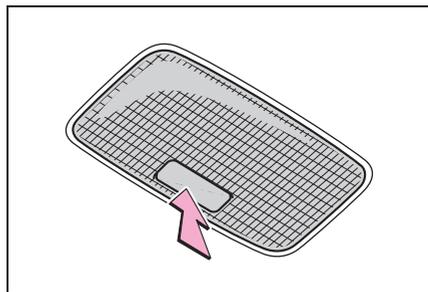
n フロント



1 ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる

2 ランプを点灯・消灯する

n リヤ



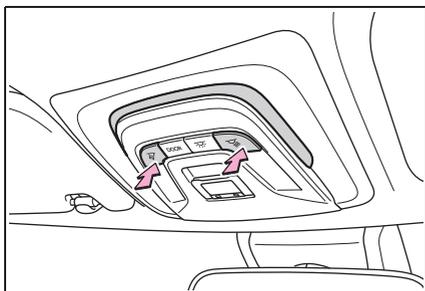
ランプを点灯・消灯する

フロントインテリアランプをドア連動 ON にしていると、ドアの開閉に連動してリヤインテリアラン

ブが点灯・消灯します。

フロントインテリアランプに連動して点灯しているときは、スイッチを押しても消灯しません。

パーソナルランプを操作するには



ランプを点灯・消灯する

知識

n イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

n バッテリーあがりを防ぐために

エンジンスイッチを OFF にしたときに、室内灯が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

n SRS エアバッグが作動すると

SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、室内灯が約 20 分間自動で点灯します。

手動操作で消灯することもできますが、2 次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。(衝撃の度合いや事故の状況によっては点灯しないことがあります。)

n カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することがで

きます。(→P.357)

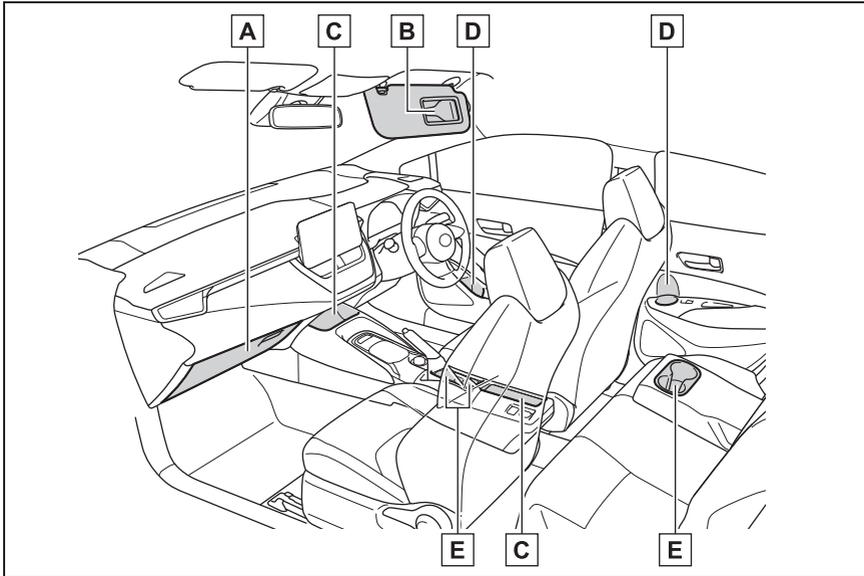
注意

n バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧

収納装備の位置



- A** グローブボックス (→P.254)
- B** チケットホルダー (→P.255)
- C** オープントレイ★ (→P.255)
- D** ボトルホルダー (→P.254)
- E** カップホルダー (→P.254)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

! 警告

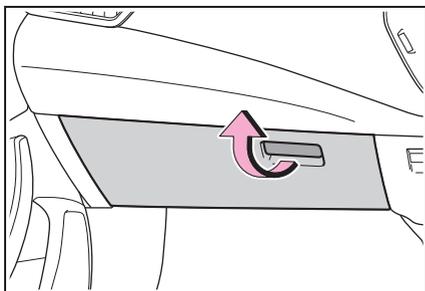
n 収納装備に放置してはいけないもの
メガネ、ライターやスプレー缶を収納
装備内に放置したままにしないでくだ
さい。

放置したまましていると、次のようなこ
とが起こるおそれがあり危険です。

！ 室温が高くなったときの熱や、他の
収納物との接触などにより、メガネ
が変形やひび割れを起こす

！ 室温が高くなったときにライターや
スプレー缶が爆発したり、他の収納
物との接触でライターが着火したり
スプレー缶のガスがもれるなどして
火災につながる

グローブボックス



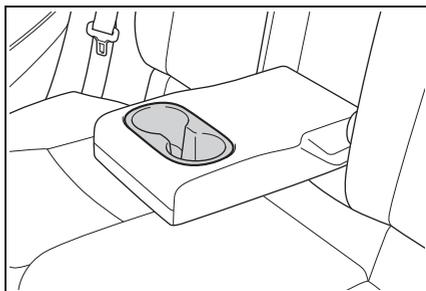
レバーを引いて開ける

警告

n 走行中の警告

グローブボックスを必ず閉じてください。

急ブレーキや急旋回時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。危険です。



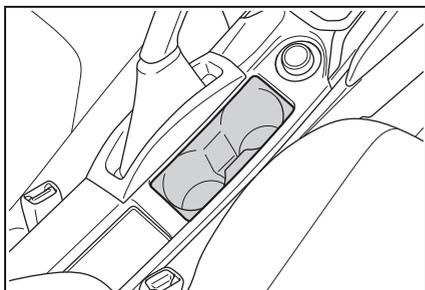
警告

n 収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。急ブレーキや事故により落ちてけがをすることがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

カップホルダー

▶ フロント

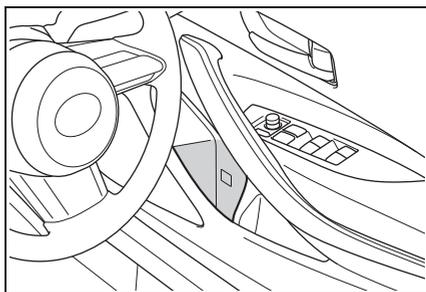


▶ リヤ

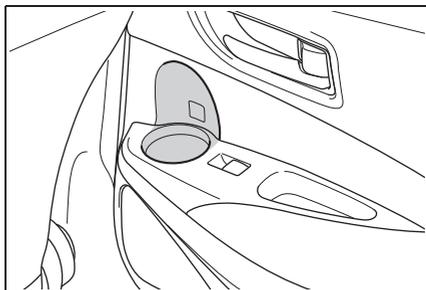
アームレストを手前に倒す

ボトルホルダー

▶ フロント



▶ リヤ



知識

n ボトルホルダーについて

- l ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- l ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

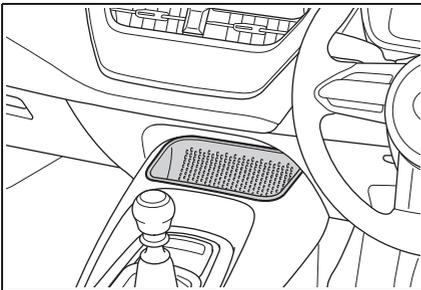
警告

n 収納してはいけないもの

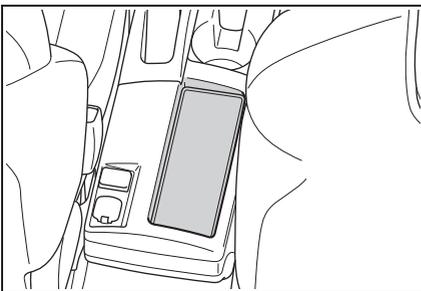
ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

オープントレイ

▶ フロント★



▶ リヤ



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

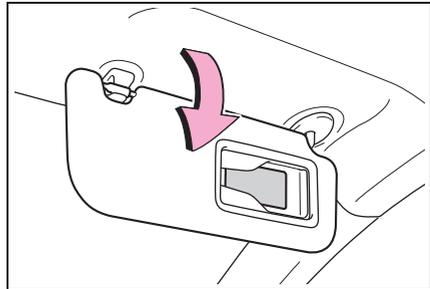
警告

n 走行中の警告

オープントレイにものを置くときは、次の注意事項を守ってください。急ブレーキや急ハンドル時などに収納していたものが飛び出し、ペダル操作のさまたげとなるおそれがあるほか、運転者の注意力がにぶり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- l 転がりやすいものや凹面より高さがあるものを置かないでください。
- l トレイの端よりも高くものを積み重ねないでください。
- l トレイの端からはみ出してものを置かないでください。

チケットホルダー

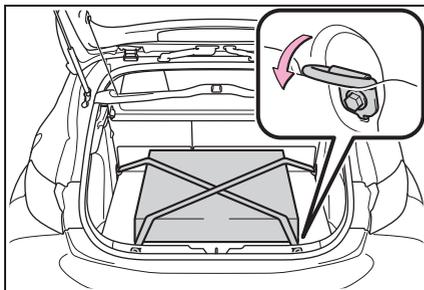


バイザーを下ろす

ラゲージルーム内装備

デッキフック

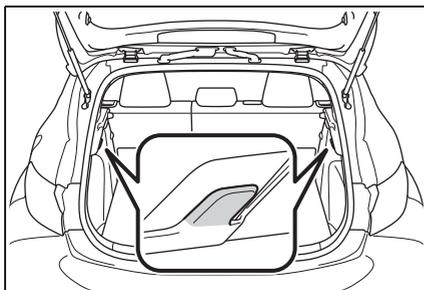
フックを使って荷物を固定することができます。



⚠ 警告

n デッキフックを使用しないときは必ずデッキフックをもとの位置にもどしておいてください。

買い物フック

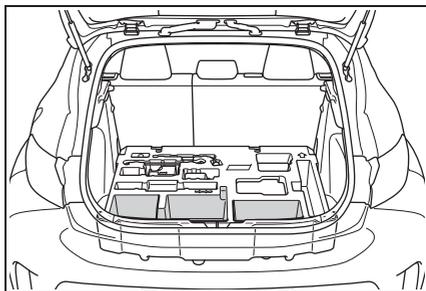
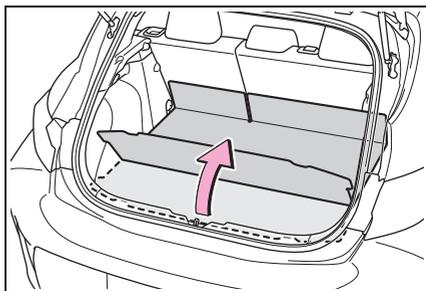


⚠ 警告

n 買い物フックの破損を防ぐために2kg以上のものを買い物フックに吊り下げないでください。

ラゲージアンダートレイ

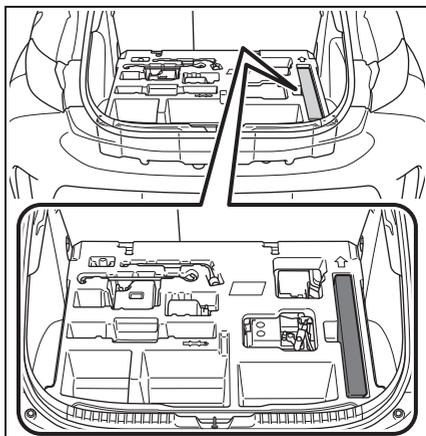
デッキマットを持ち上げる

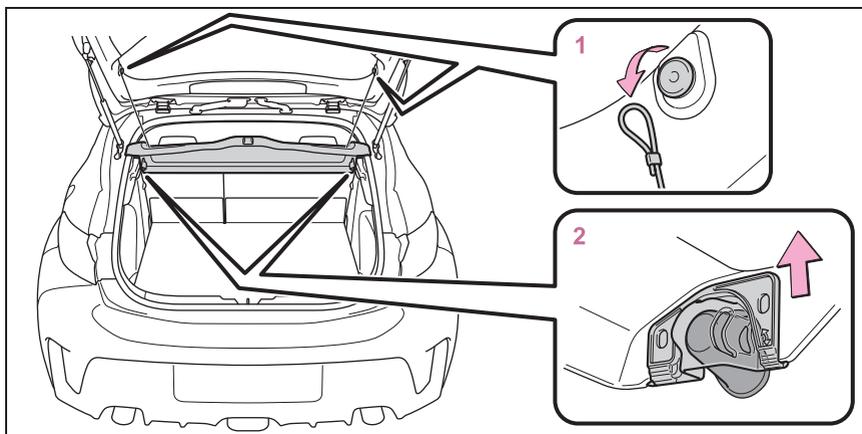


停止表示板収納スペース

ラゲージルームに停止表示板を収納することができます。

停止表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。



パッケージトレイの取りはずし

1 止めヒモを左右のフックからはずす

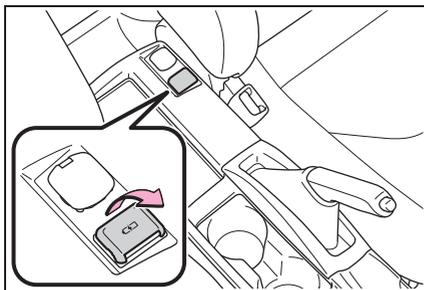
2 トレイを取りはずす

その他の室内装備

充電用 USB 端子

DC5V/3A（消費電力 15.75W）の電源としてお使いください。この USB 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

n 充電用 USB 端子を使用するにはフタを開けて使用する



□ 知識

n 充電用 USB 端子の作動条件

エンジンスイッチが ACC、ON またはマルチメディアシステムの電源が ON のとき

n 充電用 USB 端子が正常に働かないおそれのある状況

- l DC5V/3A（消費電力 15.75W）をこえる電力を要求する機器を接続したとき
- l パソコンと通信を行う機器を接続したとき
- l 接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）
- l 炎天下に駐車したあとなど、車室内の

温度が高いとき

n 使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。

⚠ 注意

n 充電用 USB 端子の損傷を防ぐために

- l 端子部に異物を入れないでください。
- l 水や液体をかけないでください。
- l 強い力や衝撃を加えないでください。
- l 分解や改造、取りはずしをしないでください。

n 外部機器の損傷を防ぐために

- l 機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。
- l 機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

n バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、充電用 USB 端子を長時間使用しないでください。

おだけ充電（ワイヤレス充電器）★を使うには

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）によるワイヤレス充電規格 Qi に適合したスマートフォンやモバイルバッテリーなどの携帯機器を充電エリアに置くだけで、携帯機器を充電することができます。充電エリアより大きい携帯機器に

は本機能を使用できません。また、携帯機器によっては、正常に作動しない場合があります。ご使用になる携帯機器に付属の取扱説明書もお読みください。

n 「Qi」マークについて

「Qi」、Qi マークは、ワイヤレスパワーコンソーシアム (WPC) の登録商標です。

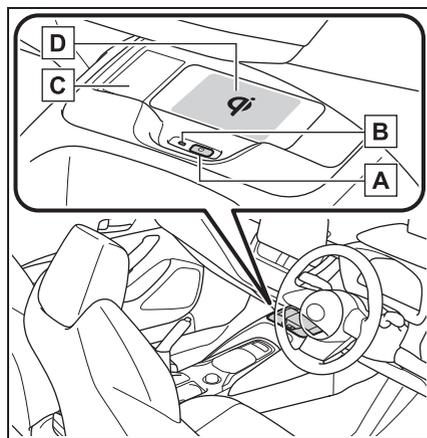


n 「おだけ充電」マークについて

「おだけ充電」、「おだけ充電」ロゴは、株式会社 NTT ドコモの登録商標です。



n 各部の名称



A 電源スイッチ

B 作動表示灯

C 充電トレイ

D 充電エリア ※

※ 携帯機器およびワイヤレス充電器には充電用コイルが入っています。ワイヤレス充電器内の充電用コイルは、充電トレイの中央付近にある充電エリア内を移動することができます。

充電エリア上で携帯機器内の充電用コイルが検出されると、その付近までワイヤレス充電器内の充電用コイルが移動し、充電を開始します。携帯機器内の充電用コイルが充電エリアから外れた場合、充電は自動的に停止します。

また、2 つ以上の携帯機器を同時に充電トレイに置くと、正しく充電用コイルを検出できず、充電できないことがあります。

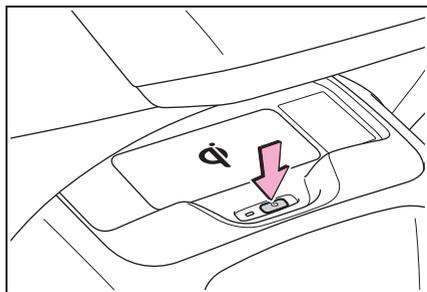
n 充電する

1 電源スイッチを押す

押すごとに ON と OFF が切りかわります。

ON にすると作動表示灯が緑色に点灯します。

ワイヤレス充電器の電源の状態 (ON / OFF) はエンジンスイッチを OFF にしても記憶されます。



2 充電エリアに携帯機器を置く

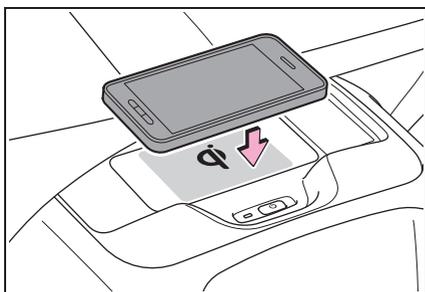
携帯機器の充電面を下にして、機器の中央が充電エリアの中央に来るように置く

てください。携帯機器によっては充電コイルが機器の中央にない場合があります。その場合は、携帯機器の充電コイルが充電エリアの中央に来るように置いてください。

充電中は作動表示灯が橙色に点灯します。

充電が行われないときは、できるだけ充電エリアの中央付近に携帯機器を置き直してください。充電が行われないとき、作動表示灯が緑と橙点灯を緩やかに繰り返し、充電コイルの作動音が繰り返し聞こえる場合があります。

充電が完了すると作動表示灯が緑色に点灯します。



n 再充電機能

l 充電が完了し、充電停止状態が一定時間経過すると充電を再開します。

l 充電エリア内で携帯機器が大きく動くと、充電用コイルが外れて充電がいったん停止しますが、充電エリア内に充電用コイルがある場合は、ワイヤレス充電器内の充電用コイルがその付近まで移動して充電を再開します。充電エリア外まで携帯機器が動くと、充電が停止します。この

l 作動表示灯が点滅したときは

エラーが発生した場合の作動表示灯の状況と、想定される原因の対処方法は次の通りです。

とき、ワイヤレス充電器側の作動表示灯が緑色と橙色にゆっくり点滅し、充電コイルの作動音がくり返し聞こえることがあります。充電エリアの中央付近に携帯機器を置き直してください。

n 急速充電機能

l 以下の携帯機器に対しては急速充電が行えます。

- ・ WPC の Ver1.2.4 に準拠した、急速充電に対応した携帯機器
- ・ 7.5W 充電に対応した iOS を搭載している iPhone (iPhone 8 以降の機種)

l 急速充電に対応した携帯機器を充電すると、自動的に急速充電機能に切りかわります。

n 作動表示灯の点灯状況

作動表示灯	状況
消灯	ワイヤレス充電器の電源が OFF のとき
緑 (点灯)	待機中 (充電可能状態) ※1
	充電完了時 ※2
橙 (点灯)	充電エリアに携帯機器を置いたとき (携帯機器を検出中)
	充電中

※1 待機中は充電用の電力は出力していません。この状態で金属製のものを充電トレイに置いても、過熱されることはありません。

※2 携帯機器によっては、充電完了後も表示灯が橙色に点灯し続ける場合があります。

作動表示灯	想定される原因	対処方法
緑 (点灯)	スマートエントリー&スタートシステムがキーの検出を行っている。	キーの検出が完了するのをお待ちください。
1 秒間に 1 回の点滅をくり返す (橙色)	車両とワイヤレス充電器の通信異常	エンジンが始動しているときは、一度停止し、再始動してください。 エンジンスイッチが ACC のときは、一度エンジンを始動してください (→P.120)
3 回連続の点滅をくり返す (橙色)	異物検知 充電エリア内に金属製の異物があり、金属製の異物が過熱するのを防ぐため、異常加熱防止機能が働いた	充電エリア内にある異物を取り除いてください。
	携帯機器のすれ 携帯機器の充電用コイルが充電エリアから外れたことで、異常加熱防止機能が働いた	携帯機器を充電トレイから取り出し、作動表示灯が緑に戻ったことを確認して、充電トレイの中央付近に置き直してください。 また、ケースやカバーを携帯機器に装着している場合は、外してください。
4 回連続の点滅をくり返す (橙色)	ワイヤレス充電器内の温度が一定値を超えたことによる安全停止	いったん充電を停止し、携帯機器を充電トレイから取り出して、温度が下がるまでしばらく待ってから充電を開始してください。

□ 知識

n 作動条件

エンジンスイッチが ACC、ON またはマルチメディアシステムの電源が ON のとき

n 使用できる携帯機器について

l ワイヤレス充電規格 Qi 準拠機器を使用できます。ただし、すべての Qi 準拠機器と互換性を保証しているものではありません。

りません。

- l 携帯電話やスマートフォンをはじめとする携帯機器を対象とした 5W 以下の低電力給電を対象としています。
- l ただし、以下の携帯機器に対しては、5W を超える充電に対応しています。
 - ・ 7.5W の充電に対応した iPhone に対しては、7.5W 以下の充電に対応しています。
 - ・ WPC 規格の Ver1.2.4 に規定されてい

る EPP 出力に準拠した携帯機器に対しては、10W 以下の充電に対応していません。

n スマートエントリー&スタートシステムの使用について

充電動作中にスマートエントリー&スタートシステムがキーの検出を行うと、一時的に充電を停止します。

n 携帯機器にカバーやアクセサリを付けるときは

携帯機器に、「Qi」非対応のカバーやアクセサリを付けた状態で充電しないでください。カバー（一部メーカー純正品を含む）やアクセサリの種類によっては充電できない場合があります。充電エリアに携帯機器を置いても充電が行われないうときは、カバーやアクセサリをはずしてください。

n 充電中に、AM ラジオにノイズが入るときは

ワイヤレス充電器の電源を OFF にして、ノイズが低減するか確認してください。ノイズが低減する場合は、充電中にワイヤレス充電器の電源スイッチを約 2 秒間押し続けることで、充電の周波数を切りかえてノイズを低減することができます。また、その際、作動表示灯が橙色に 2 回点滅します。

iPhone の急速充電は、特定の周波数で行っています。

周波数の切りかえ中は、iOS のバージョンによっては、急速充電動作を行わない場合があります。

n 充電についての留意事項

充電中は、ワイヤレス充電器と携帯機器が温かくなりますが、異常ではありません。

充電中に携帯機器が温かくなったときは、携帯機器側の保護機能により、充電が停止することがあります。この場合、携帯

機器の温度が十分に下がってから、再度、充電を行ってください。

また、ワイヤレス充電器内の温度を下げるためファンが作動することがありますが、異常ではありません。

n 作動中の音について

電源スイッチを押して電源を ON にしたときや、ワイヤレス充電器の電源 ON 中にエンジンスイッチを押して ACC や ON に変更したとき、および携帯機器を検出中は“ジー”と作動音がしますが、異常ではありません。

n 機能が正常に働かないおそれのある状況

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

- l 携帯機器のカメラ部の突起が充電面より 3mm 以上ある
- l キーを車室外に持ち出している
- l 携帯機器が満充電のとき
- l 有線接続で携帯機器を充電中のとき
- l 充電エリアと携帯機器のあいだに異物があるとき
- l 充電により、携帯機器の温度が高温になっているとき
- l 炎天下などにより、充電トレイ付近の温度が 35℃以上になっているとき
- l 携帯機器の充電面を上にして置いたとき
- l 携帯機器の置き場所が充電エリアからずれているとき
- l 携帯機器が充電トレイよりも大きいとき
- l 折りたたみ式の携帯機器を充電エリアの外に置いたとき
- l 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの

発生する場所にいるとき

- | 携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに、次のような 2mm 以上の厚みがあるものが挟まれているとき
 - ・ 厚みがあるケースやカバー
 - ・ 厚みがあるデコレーション
 - ・ 指リングやストラップなどのアクセサリ
- | 携帯機器が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ 携帯機器の充電面側に磁石が入った手帳型ケース
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CD や DVD などのメディア
 - ・ 金属製のデコレーション
 - ・ 金属製のケースやカバー
- | 近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- | 2つ以上の携帯機器を同時に充電トレイに置いたとき

また、上記以外で、充電が正常に行われない、または、作動表示灯が点滅したままのときは、ワイヤレス充電器の異常が考えられます。トヨタ販売店へお問い合わせください。

n 清掃について

→P.272

n iPhone

iPhone は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。なお、iPhone の商標はアイホン株式会社のライセンスにもとづき使用されています。

警告

n 運転中の注意

携帯機器を充電する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

n 走行中の注意

コードレスヘッドフォンなど小型、軽量の携帯機器は、走行中に充電しないでください。軽量のため充電トレイから飛び出し、思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

n 電波がおよぼす影響について

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

n 故障ややけどを防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと装置の故障や損傷、発火、発熱によるやけどにつながるおそれがあります。

- | 充電中に、充電エリアと携帯機器のあいだに金属物を挟まない
- | 充電エリアや携帯機器にアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない
- | 充電エリアと接触する側に、アルミなどのシールや金属製のものを貼り付けたまま充電しない
- | 小物入れがわりにものを置かない
- | 強い力や衝撃をかけない
- | 分解や改造、取りはずしをしない

警告

- ⌋ 指定された携帯機器以外は充電しない
- ⌋ 磁気を帯びたものを近づけない
- ⌋ 充電エリアに、ほこりがかぶった状態で充電しない
- ⌋ 布などをかぶせて充電しない

注意

- n 故障やデータ破損を防止するために**
- ⌋ 充電中に、充電エリアにクレジットカード・ETCカードなどの磁気カードや磁気記録メディアなどを近づけると、磁気の影響によりデータが消えるおそれがあります。また、腕時計などの精密機器を近づけると、こわれたりするおそれがありますので、近づけないでください。
 - ⌋ 携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに、交通系 IC カードなど非接触型 IC カードを挟んだまま充電しないでください。IC チップが非常に高温になり、携帯機器や IC カードが破損するおそれがあります。特に、非接触型 IC カードを取りつけられるケースやカバーを携帯機器に装着したまま充電しないようご注意ください。
 - ⌋ 携帯機器は車室内に放置しないでください。炎天下など車室内が高温となり、故障の原因となります。
- n スマートフォンの OS を更新したとき**
- スマートフォンの OS バージョンを更新したとき、充電の仕様が大きく変更されることがあります。WPC の対応バージョンが変更された場合、急速充電機能が使えなくなる場合があります。詳しくは各メーカーの HP 情報等でご確認ください。

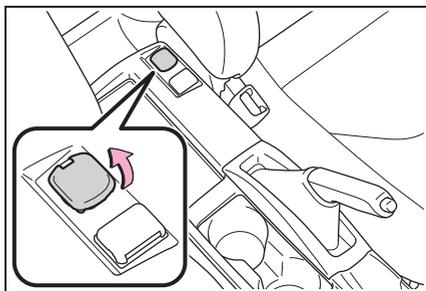
n バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

アクセサリースocketを使うには

DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する

**知識****n 作動条件**

エンジンスイッチが ACC、ON またはマルチメディアシステムの電源が ON のとき

n エンジンスイッチを OFF にするとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。接続したままにしておくと、エンジンスイッチを正常に OFF することができなくなる場合があります。

注意**n ヒューズが切れるのを防ぐために**

DC12V/10A（消費電力 120W）以上の電気製品を使用しないでください。

注意**n ショートや故障を防ぐために**

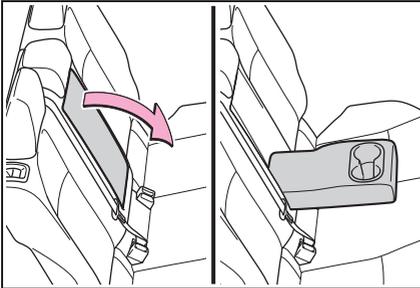
ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかたりしないように、使用しないときはフタを閉めておいてください。

n バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態でアクセサリソケットを長時間使用しないでください。

リヤアームレスト

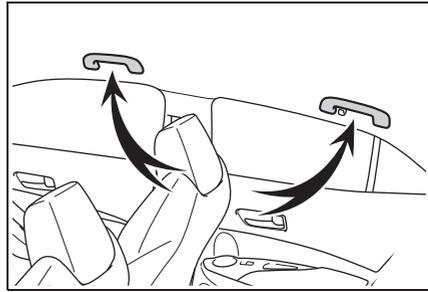
手前に倒して使用します。

**注意**

n アームレストの破損を防ぐために過度の負荷をかけないでください。

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。

**警告****n アシストグリップについて**

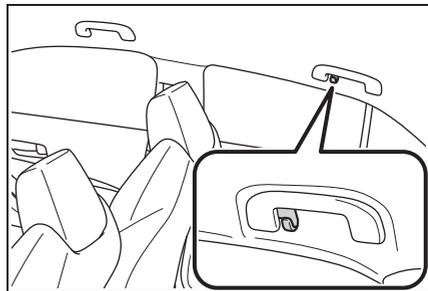
アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がる時などに使用しないでください。

注意**n 破損を防ぐために**

アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

コートフックを使うには

コートフックは、リヤのアシストグリップに付いています。



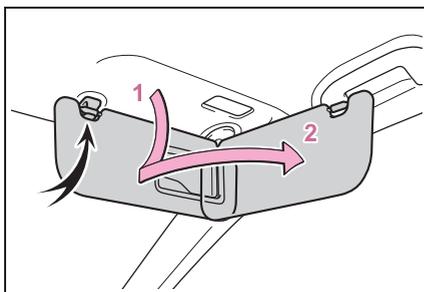
警告

n コートフックへかけてはいけないもの

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。

SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

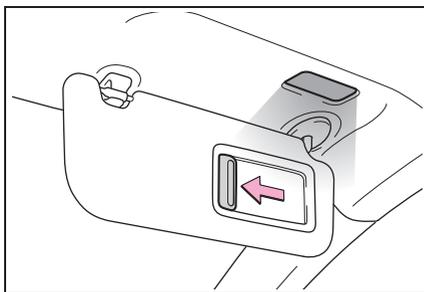
サンバイザーを使うには



- 1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- 2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラーを使うには

カバーをスライドして開けるランプが点灯します。



知識

n バッテリーあがりを防ぐために

エンジンスイッチが OFF の場合、バニティランプが点灯したままのときは約 20 分後に自動消灯します。

注意

n 使用しないときは

バニティミラーを必ず閉じてください。

n バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態で長時間ランプを点灯しないでください。

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....	268
内装の手入れ.....	272
ウルトラスエード®の手入れ	274

6-2. マットクリア塗装のお手入れのしかた

マットクリア塗装とは.....	276
洗車のしかた.....	280
よくあるご質問.....	283

6-3. 簡単な点検・部品交換

ボンネット.....	286
ガレージジャッキ.....	288
ウォッシュャー液の補充.....	289
タイヤについて.....	290
タイヤの交換.....	292
タイヤ空気圧について.....	296
エアコンフィルターの交換.....	297
電子キーの電池交換.....	299
ヒューズの点検・交換.....	301
電球（バルブ）の交換.....	303

外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。

手入れの作業要領

- l 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- l 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- l 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- l 水をふき取る
- l 水のはじきが悪くなったときは、ワックスをかけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

n 自動洗車機を使うとき

- l ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- l ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。

l 洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や、傷付いたり破損したりするおそれがあります。

n 洗車などで車に水をかけたとき

キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

- l 電子キーを車両から2m以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）
- l 電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→P.90）

n ホイール・ホイールキャップについて

マット塗装のホイール・ホイールキャップの場合はお手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

- l 水洗いで早めに汚れを落としてください。汚れがひどい場合は、中性洗剤を薄めて使用してください。
- l 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流し、柔らかい布で水滴をふき取ってください。
- l スポンジまたは柔らかい布を用いて手洗いで汚れを落としてください。
- l マット塗装の損傷や艶が出ることを防ぐために、次のことをお守りください。
 - ・コーティング剤やワックスは使用しない
 - ・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ・タイヤクリーナーやタイヤワックスを付着させない
 - ・乾いた布やブラシ等で磨いたり、こすったりしない

- ・ 高圧式スプレーガンやスチームクリーナーは使用しない
- ・ 夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

n ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

n ブレーキキャリパーの塗装について

- l 洗剤を使用する場合は中性洗剤を使用してください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
- l ブレーキキャリパーが熱いときは洗剤は使用しないでください。
- l 洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

n バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

n フロントドアガラスの撥水コーティングについて

撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

- l フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
- l 汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
- l コンパウンド（磨き粉）が入ったガラススクリーナーやワックスを使用しない
- l 金属製の道具で霜取りをしない

n メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

- l 中性洗剤を水で約5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

- l 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る
- l 油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

⚠ 警告

n 洗車をするとき

エンジンルーム内に水をかけないでください。

電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

n 排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

n リヤバンパー・フロントバンパーについて

リヤバンパーまたはフロントバンパーの塗装に傷がつくと、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。

l Toyota Safety Sense

l BSM★

l RCTA★

l 安心降車アシスト★

l PKSB★

l クリアランスソナー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

n 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

↓ 次のような場合は、ただちに洗車してください。

- ・ 海岸地帯を走行したあと
- ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
- ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
- ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
- ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
- ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

↓ 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

↓ ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

n ランプの清掃

↓ 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。

ランプを損傷させるおそれがあります。

↓ ランプにワックスがけを行わないでください。

レンズを損傷するおそれがあります。

n ワイパーアームの損傷を防ぐために

ワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、もとにもどすときは、必ず助手席側から先にもどしてください。

n 高圧洗浄機を使用するときは

↓ 洗浄時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。

高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

↓ エンブレム裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。部品故障の原因になることがあります。

↓ ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近づけすぎないでください。

高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

- ・ 駆動系部品
- ・ ステアリング部品
- ・ サスペンション部品
- ・ ブレーキ部品

↓ モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。

↓ フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

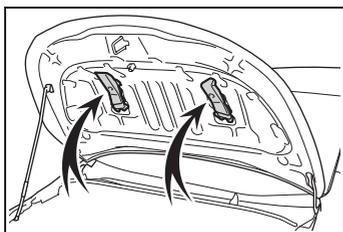
↓ 高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

! 注意

n ボンネットエアアウトレットについて

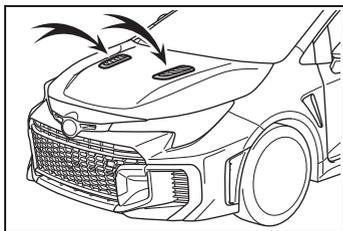
| ボンネットのエアアウトレットには、水やごみ（枯葉など）からエンジンを保護するためにカバーが装着されています。

エンジンルーム内の熱気を逃がし外からの雨水などを適切な位置に排出する役割があるため、絶対にはずさないでください。



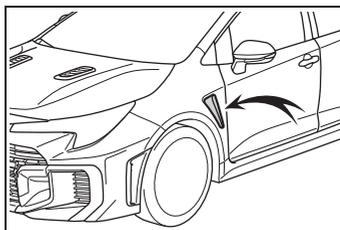
| 洗車時にボンネットのエアアウトレットにバケツなどで一度に大量の水をかけたり、高圧洗浄機で直接水を当てたりしないでください。

エンジンルーム内に水がかかり、エンジンなどに悪影響をおよぼすおそれがあります。



n フロントフェンダーエアアウトレットについて

洗車時にフロントフェンダーエアアウトレットにバケツなどで一度に大量の水をかけたり、高圧洗浄機で直接水を当てたりしないでください。



内装の手入れ

お手入れは、部位や素材に合った適切な方法で実施してください。

室内の手入れをするには

- I 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- I 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

n カーペットの洗浄について

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

n シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

警告

n 車両への水の浸入

- I 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- I SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。
(→P.28)
電気の不具合により、SRS エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- I おくだけ充電(ワイヤレス充電器)★をぬらさないでください。
(→P.258)
発熱によるやけど、または感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

n 内装の手入れをするときは(特にインストルメントパネル)

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウィンドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまざまに妨げ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

n 清掃するとき使用する溶剤について

l 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤

l 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

n 床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

n フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。(→P.148)

n リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

l 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

l 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

サテン仕上げ金属コーティング部分の手入れをするには

l 水で湿らせたやわらかい布または合成セーム皮で汚れをふき取る

l 乾いたやわらかい布で表面に残った水分を完全にふき取る

□ 知識

n サテン仕上げ金属コーティング部分のお手入れについて

表面に本物の金属層を使用していますので、普段のお手入れが大切です。汚れたまま長い間放置すると、汚れが落ちにくくなります。

本革部分の手入れをするには

l 掃除機などでほこりや砂を取り除く

l 薄めた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

ウール用の中性洗剤を水で約5%に薄めて使用してください。

l 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る

l 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

□ 知識

n 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に2回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

 注意**n 革の傷みを避けるために**

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

- 1 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 1 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する
- 1 ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

合成皮革部分の手入れをするには

- 1 掃除機などでほこりを取り除く
- 1 中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 1 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

ウルラスエード[®]★※の手入れ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ウルラスエード[®]は東レ株式会社の登録商標です。

お手入れは、部位や素材に合った適切な方法で実施してください。

日常のお手入れをするには

月 1 回程度の定期的なお手入れを行うことをおすすめします。

- 1 布などに 40℃ 程度のぬるま湯をしみ込ませて固く絞り全体をふく

毛羽が強く乱れないようにふき取ってください。また、布はきれいなものを用意し、一度ふき取った布の汚れはすすいで充分に取り除いてからご使用ください。

- 2 乾いたらやわらかいブラシなどで毛並みを整える

 知識**n 毛羽の付着汚れを取り除くときは**

ほこりなどの付着汚れはやわらかいブラシなどで軽くブラッシングして取り除いてください。それでも取れない場合は粘着テープを使用して取り除いてください。

 注意**n ウルラスエード[®]の傷みを避けるために**

ウルラスエード[®]の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

⚠ 注意

- ❶ 強い力を加えない
- ❷ 爪を立てない
- ❸ 手で強くこすらない
- ❹ 汚れた手でふれない

n 粘着テープを使うときは

粘着力の強いテープを使用すると植毛がはがれるおそれがあります。

液体汚れについて

- ❶ 液体がこぼれた場合は、ティッシュペーパーなどを軽くあてて吸い取る
- ❷ 乾燥して固着してしまった泥やコーヒーなどの汚れは、やわらかいブラシなどで汚れ部分を軽くブラッシングして取り除く

その後、掃除機で乾燥汚れを吸い取ることをおすすめします。

これらの方法で汚れが取れない場合は、次の手順で汚れを取り除いてください。

- 1 布などに 40℃程度のぬるま湯をしみ込ませて固く絞り、汚れ部分を外側から内側に各方向から軽くふく

毛羽が強く乱れないようにふき取ってください。また、布はきれいなものを用意し、常にきれいな部分を使用してください。

- 2 表面の毛羽が乱れた場合は、やわらかいブラシなどで軽くブラッシングする
- 3 表面を完全に乾燥させる

⚠ 注意**n 液体汚れを吸い取るときは**

ティッシュペーパーなどを強く押さえすぎないでください。汚れがしみ込み取りにくくなるおそれがあります。

油性の汚れについて

用意するもの

- ❶ ベンジン、ぬるま湯または純正エチルアルコール（果実酒用）をしみ込ませた布
- ❷ 乾いた布
 - 1 乾いた布やティッシュペーパーで汚れが広がらないようにできるだけふき取る
 - 2 ベンジン、ぬるま湯または純正エチルアルコール（果実酒用）をしみ込ませた布で汚れ部分を外側から内側にたたいた後、乾いた布で浮いた汚れをたたきながら吸い取る
 - 3 表面の毛羽が乱れた場合は、やわらかいブラシなどで軽くブラッシングする

マットクリア塗装とは

自動車の塗装は、耐久性や仕上がりを目的として数層の重ね塗りが施されています。そのうち最も表面にあたるのがクリア塗装です。

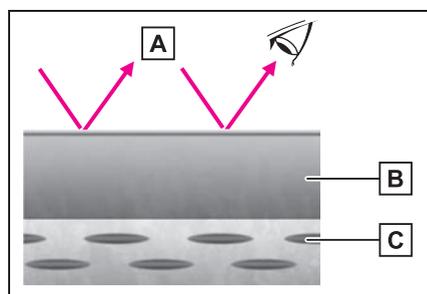
一般的なクリア塗装は塗装面に艶を出して見栄えを良くする役割がありますが、マットクリア塗装はその艶を出さないようにすることで、独特の質感を表現しています。

この質感を少しでも長く保つためには、日常のお手入れや保管のしかたに気を配る必要があります。

一般的なクリア塗装とマットクリア塗装の構造の違い

▶ 一般的なクリア塗装

Ⅰ 断面



A 光

B クリア

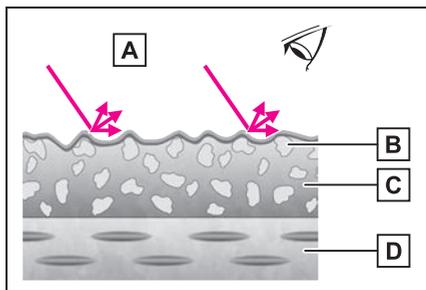
C ベース

Ⅰ 表面の拡大画像



▶ マットクリア塗装

Ⅰ 断面



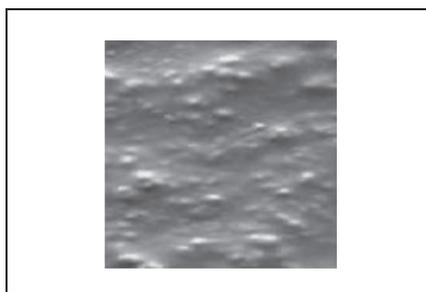
A 光

B 艶消し剤

C クリア

D ベース

Ⅰ 表面の拡大画像



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

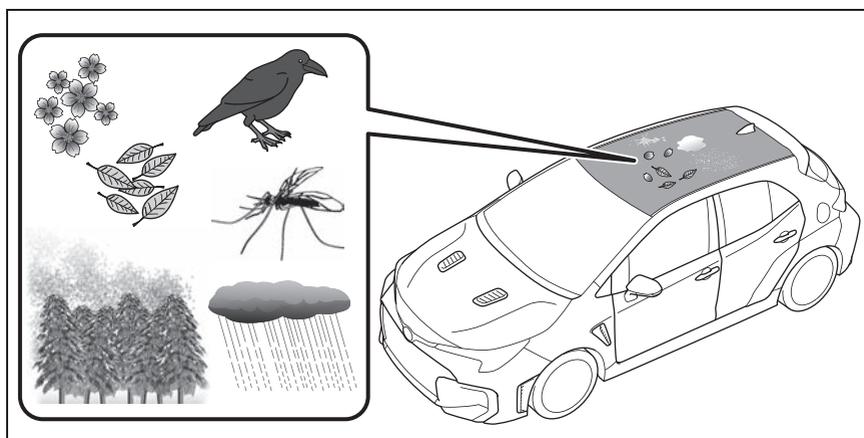
私たちが艶のあり／なしを感じるの、物の表面に反射して私たち

の目に入る光の量が関係していません。

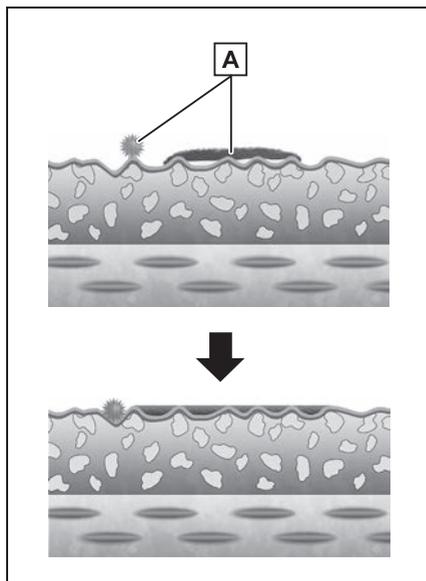
一般的なクリア塗装は表面が平らで滑らかになっています。平らな面に当たった光は、鏡に当たった光のように一方向に正反射する量が多いため、目に入る光の量は多くなります。そのため、私たちの目には車のボデーに艶があるように映ります。

マットクリア塗装は、クリア塗料に艶消し剤を添加して表面に細かな凹凸をつけています。凹凸な面に当たった光はいろいろな方向に拡散して反射するため、目に入る光の量は少なくなります。この効果によって、マットクリア塗装が施されたボデーは艶が消えたように見える独特の質感を表現しています。

マットクリア塗装のお手入れについて



お車の塗装表面に汚れが付着した場合は速やかに洗車してください。
(→P.280)



A 汚れ

表面に細かな凹凸があるため、一般的なクリア塗装よりもマットクリア塗装は汚れが付着しやすくなります。

そのまま放置すると、付着した汚れは塗装表面の隙間に入り込んでしまい落としにくくなります。また、凹凸のある塗装表面が平らに近づくことで艶が出てしまい、マットな質感が損なわれます。

そのため、こまめに洗車して、汚れたままにしておかないようにする必要があります。

通常の洗車で落ちない汚れを、マットな質感を損なわずに落とすためには、汚れを塗装表面ごと削り落とした後、部品全体を再塗装する必要があります。

詳細はトヨタ販売店へご相談ください。

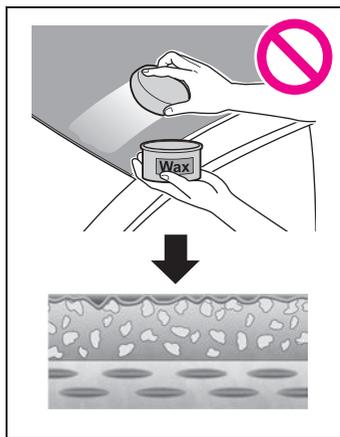
知識

n 落としにくい汚れ

次のような汚れは落としにくくなるおそれがあるため、付着した場合は速やかに洗車することをおすすめします。

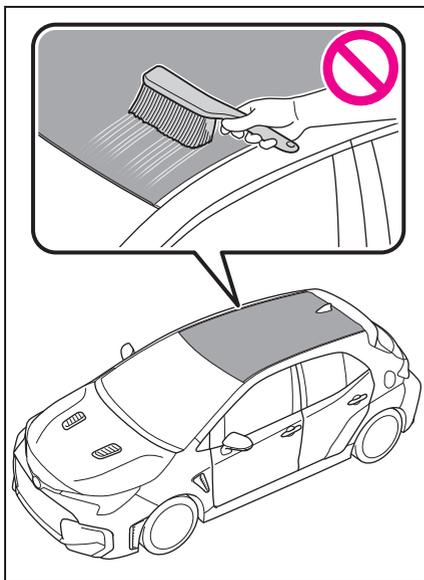
- l 雨水、海水
- l 砂ぼこり、花粉、火山灰
- l 虫の死骸、鳥のふん
- l 樹液、落ち葉、花びら
- l 泥、雪、凍結防止剤
- l ガソリン、オイル、アスファルト

n ワックスがけやコーティング剤の使用はしないでください



ワックスやコーティング剤は塗装を保護する被膜を形成します。マットクリア塗装では、この被膜が塗装表面の凹凸を埋めてしまいます。その結果、凹凸のある塗装表面が平らに近づくことで表面に艶が出てしまい、マットな質感が損なわれるおそれがあります。

キズの補修について



普段から塗装面に傷をつけないよう十分にご注意ください。

一般的なクリア塗装では、細かな傷を補修するために塗装表面を研磨したり、タッチアップペイントで塗装したりします。

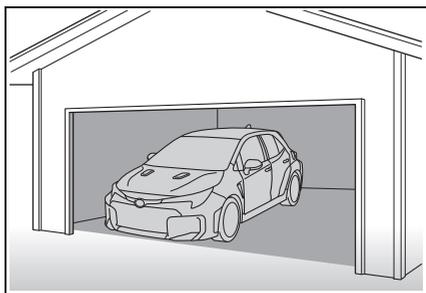
マットクリア塗装では、そういった方法で傷を補修すると塗装表面の凹凸が削られたり埋められたりして塗装表面に艶が出てしまい、マットな質感が損なわれるおそれがあります。

マットな質感を損なわずに傷を補修するには、部品全体を再塗装する必要があります。

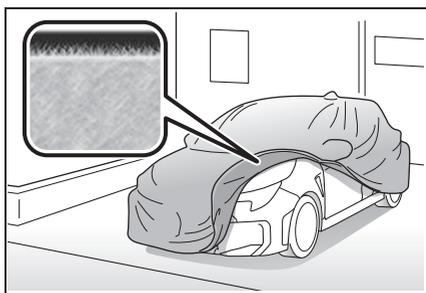
日頃の駐車場所について

車の塗装は紫外線や雨などの影響で自然に劣化します。少しでも長く塗装面を良好な状態に保

つために、直射日光や雨風、地面からの湿気を遮ることができる舗装された車庫に駐車されることをおすすめします。



カーカバーを使用する場合は、内側の素材が塗装面を傷付けにくいもの（起毛、不織布など）をお選びください。カーカバーをお使いになる場合でも、地面からの湿気を遮ることができる舗装された場所に駐車されることをおすすめします。



知識

カーカバーの使用について

- お車のサイズに適合するカーカバーを使用してください。詳しくは購入された商品のメーカーにお問い合わせください。
- 駐車場所に応じて適切なカーカバーを使用してください。詳しくは購入された商品のメーカーにお問い合わせください。

さい。

- 1 天候やお車の状態によって、カーカバーの使用方法は異なります。使用方法を誤ると、かえって塗装に悪影響を与えたり、塗装面に傷が付いたりするおそれがあります。購入された商品に付属の取扱説明書をよくお読みになって正しく使用してください。

洗車のしかた

塗装面を損なわないようにするため、手洗いによる水のみでの洗車をおすすめします。

洗車のしかた

- 1 車体表面の砂やほこりを、十分に水をかけて車体の上から下へ洗い流す

洗い流した部分に汚れが飛び散るのを防ぐため、タイヤなど足回り部品がひどく汚れている場合は、先に足回りの汚れを洗い流します。

目立った汚れが落ちずに残っている場合は、ホースやシャワーノズルを近づけて、やや強めの水圧で押し流します。



- 2 十分に水をかけながら、柔らかいセーム皮で車体を軽くふく手順 1 同様に車体の上から順に汚れを落としていきます。

落ちない汚れがある場合 (→P.282)



- 3** 車体を強くこすらないように気をつけながら、別の柔らかいセーム皮で車体表面の水滴をふき取る

水滴が乾く前に速やかにふき取ってください。

水洗いに使用したセーム皮をふき取りに使用しないでください。

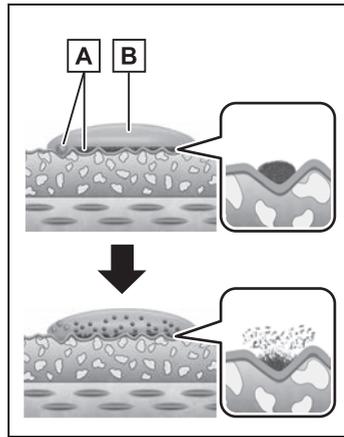


☐ 知識

n 通常的水洗いで落ちない汚れがある場合

┃ 水垢

塗装面に付着した雨水や水道水が自然乾燥すると、雨水に溶け込んでいた汚れや水道水に含まれるミネラル分が塗装面に固着します。そのまま放置するとそれら含有物が塗装表面の凸凹の隙間に入り込んでしまうため、通常的水洗いで落ちなくなってしまいます。



A 含有物

B クエン酸

┃ この場合は精製水に混ぜたクエン酸を使います。

クエン酸と精製水の割合

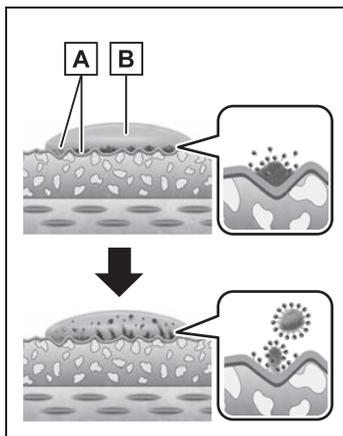
クエン酸 (粉末) : 5 ~ 10g (小さじ1 ~ 2杯)

精製水 : 200ml

クエン酸を柔らかいセーム皮に十分染み込ませ、含有物につけます。クエン酸の働きによって含有物が溶け出すのを待ち、車体を強くこすらないように気をつけながら、セーム皮で軽く数回をふきます。その後、十分な水で速やかに含有物とクエン酸を洗い流します。

┃ 虫の死骸、鳥のふん、油汚れ

これらの汚れを放置すると、タンパク質や油分などの含有物が塗装表面の凸凹の隙間に入り込んでしまうため、通常的水洗いで落ちなくなってしまいます。



A 含有物

B 中性洗剤

この場合は希釈した中性洗剤を使います。

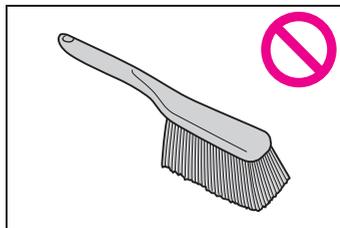
中性洗剤を水に入れてよく混ぜます。柔らかいセーム皮にその洗剤液を十分染み込ませ、含有物につけます。中性洗剤の働きによって汚れが浮き出すのを待ち、車体を強くこすらないように気をつけながら、セーム皮で軽く数回汚れをふきます。その後、十分な水で速やかに含有物と洗剤液を洗い流します。

! 注意

n 塗装面の傷付きやマットな質感の低下を防ぐために

次の注意をお守りください。
お守りいただかないと、塗装面に傷が付いたり艶が出てマットな質感を損なったりするおそれがあります。

洗車ブラシを使用しない



塗装面を強くこすらない

電動ポリッシャーを使用しない

コンパウンド（研磨剤）を使用しない

アルカリ性（弱アルカリ性を含む）洗剤を使用しない

塗装面にステッカーやラッピングフィルムなどを貼り付けない

マグネット式の標識などを塗装面に貼り付ける前に、貼り付け箇所の砂やほこりを十分に洗い流し、完全に水滴をふき取る

よくあるご質問

マットクリア塗装に関する疑問や質問について、Q&A形式でまとめてあります。

洗車について

n 洗車全般 (→P.280)

Q	A
洗車してもいいですか？	汚れが付着したらただちに洗車してください。
こまめに洗車したほうがいいですか？	
どうやって洗車したらいいですか？	水とセーム皮を使用して手洗いしてください。
洗車時に気をつけることはありますか？	まずは水で車両全体を上から順にしっかりと洗い流してください。
自動洗車機を使用してもいいですか？	使用しないでください。
高圧洗浄機を使用してもいいですか？	

n 汚れが付着したら (→P.277)

Q：次のような物質が付着した場合、どのように対処すればいいですか？

物質	A
落ち葉、花びら、小枝	ただちに取り除いてください。車体に傷が付くおそれがあります。また、汚れや樹液が固着して取れなくなり、マットな質感を損なうだけでなく、塗装そのものを傷めるおそれがあります。
鳥のふん、虫の死骸	ただちに水で洗い流してください。水洗いで落ちない場合は、中性洗剤を使用してください。汚れを放置すると固着して取れなくなり、マットな質感を損なうだけでなく、塗装そのものを傷めるおそれがあります。
花粉、砂ぼこり	
油汚れ	
水垢	精製水に混ぜたクエン酸を使用してください。
アスファルト汚れ（ピッチタール）	通常の洗車では取り除くことができません。コンパウンド（研磨剤）等を使用しないでください。マットな質感を損なうおそれがあります。

物質	A
ガラス用撥水コーティング剤	ただちにふき取ってください。 成分によっては、ふき取ってもマットな質感を損なうおそれがあります。
ガラス用油膜取り	
タイヤクリーナー	
ガソリン	
オイル	
ウォッシャー液	

n 洗車用品について (→P.280)

Q	A
カーシャンプーを使用してもいいですか？	中性のカーシャンプーを使用してください。 使用後はしっかりと水で洗い流してください。アルカリ性のカーシャンプーは使用しないでください。マットな質感を損なうおそれがあります。
家庭用中性洗剤を使用してもいいですか？	カーシャンプーのように水で薄めて使用してください。 使用後はしっかりと水で洗い流してください。
何を使って汚れをふき取ればいいですか？	柔らかいセーム皮を使用してください。
何を使って水滴をふき取ればいいですか？	
水アカ取りを使用してもいいですか？	おすすめできません。 特にアルカリ性の製品や研磨剤が含まれている製品を使用しないでください。マットな質感を損なうおそれがあります。
ワックスやコーティング剤を使用してもいいですか？	使用しないでください。
鉄粉除去剤を使用してもいいですか？	マットな質感を損なうおそれがあります。
ピッチクリーナーを使用してもいいですか？	使用しないでください。 塗装そのものを損なうおそれがあります。
マットクリア塗装専用クリーナー/ワックスを使用していいですか？	おすすめできません。 マットクリア塗装本来の質感に影響が出るおそれがあります。

Q	A
トヨタ純正の洗車用品はありますか？	ありません。 量販店で柔らかいセーム皮と、必要に応じて中性洗剤、クエン酸、精製水をお買い求めください。
市販品でおすすめの洗車用品ブランドはありますか？	特に指定はありません。 量販店で柔らかいセーム皮と、必要に応じて中性洗剤、クエン酸、精製水をお買い求めください。

n ボディーコーティングについて

Q	A
トヨタ販売店でコーティングは施工可能ですか？	施工できません。 マットな質感を損なうおそれがあります。
市販業者によるコーティングは施工可能ですか？	おすすめできません。 マットな質感を損なうおそれがあります。
市販業者によるマット塗装専用コーティングは施工可能ですか？	おすすめできません。 マットクリア塗装本来の質感に影響が出るおそれがあります。

n 補修について (→P.279)

Q	A
塗装面に付いた傷は補修できますか？	マットな質感を損なわずに補修するには、部品全体を再塗装する必要があります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
コンパウンド（研磨剤）を使用してもいいですか？	使用しないで下さい。 マットな質感を損なうおそれがあります。マットな質感を損なわずに補修するには、部品全体を再塗装する必要があります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
タッチアップペイントを使用してもいいですか？	使用しないで下さい。 マットな質感を損なうおそれがあります。マットな質感を損なわずに補修するには、部品全体を再塗装する必要があります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

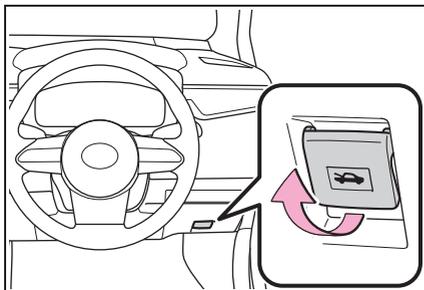
n アクセサリー他

Q	A
車体にステッカーやラッピングフィルムなどを貼り付けてもいいですか？	貼り付けしないでください。 傷が付くだけでなく、はがした際にマットな質感を損なうおそれがあります。
車体にマグネット式の標識などを付けてもいいですか？	貼り付け箇所の砂やほこりを水で十分に洗い流し、水滴をふき取ってから付けてください。

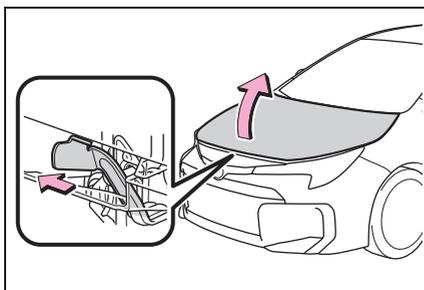
ボンネット

ボンネットを開けるには

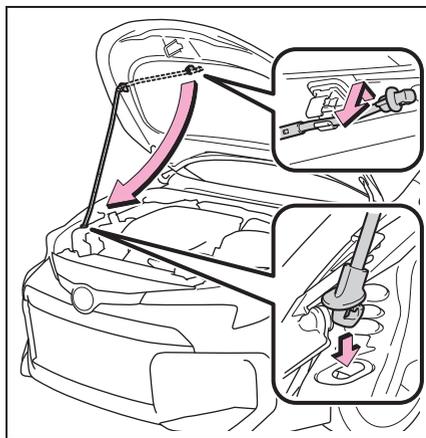
- 1 ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



- 2 レバーを左方向に押し、ボンネットを開ける



- 3 ボンネットステーをステー穴に差し込む

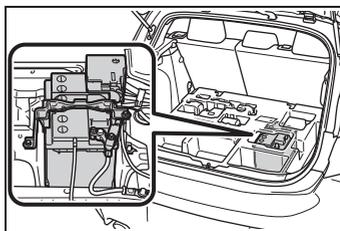


知識

n バッテリーについて

この車両のバッテリーは、ラゲージルーム（中央）のデッキボード下にあります。エンジンルームには搭載されていません。

バッテリーがあがってしまったときは、エンジンルーム内にある救援用端子を使用して、処置を行います。（→P.343）



警告

n 走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。

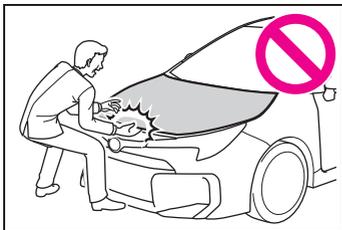
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

n けがを防ぐために

走行後のボンネットステーは高温になっています。熱くなったボンネットステーにさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

n ボンネットを閉めるとき



手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

n エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

n ボンネットステーをステア穴に差し込んだあとは

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく差し込まれているか確認してください。

n ボンネットを閉めるときは

ボンネットステーをステア穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。ボンネットステーが差し込まれた状態で閉めると、ボンネットが損傷するおそれがあります。

⚠ 注意

n ボンネットへの損傷を防ぐために

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

ガレージジャッキ

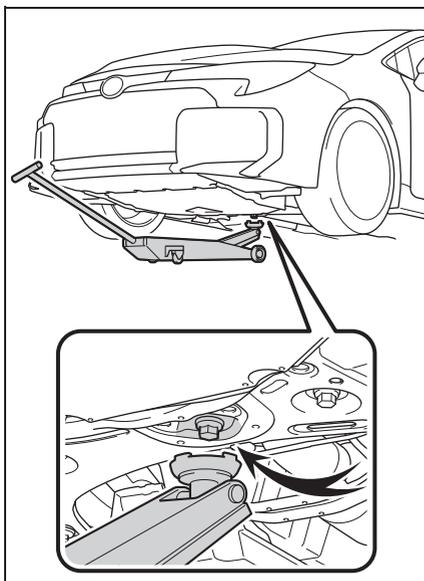
ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

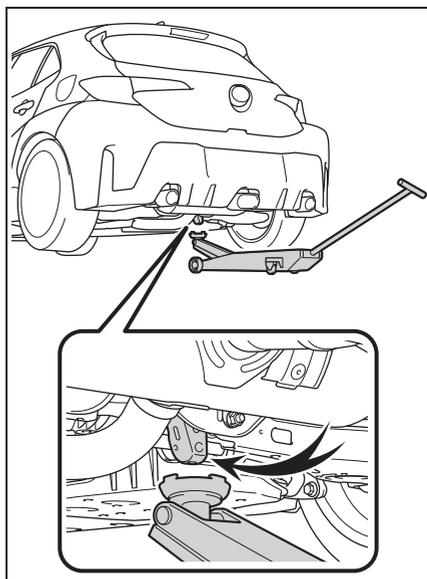
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをすることがあります。

ジャッキポイントの位置を確認する

n フロント側



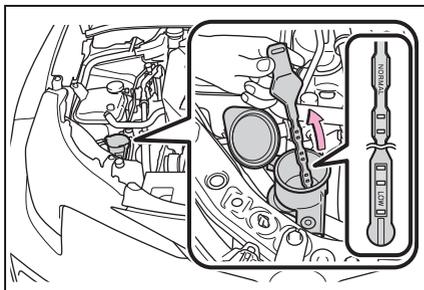
n リヤ側



ウォッシャー液の補充

補充するには

液面が LOW の位置に近づいたらウォッシャー液を補給してください。

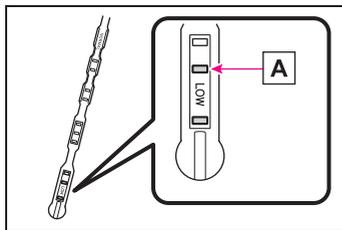


知識

n ゲージの使い方

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。

残量がゲージの先端から2つめの穴部より下まわった（LOW の位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補給してください。



A 現在の液量

警告

n ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

n ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

n ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を5,000kmごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

1 タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

1 タイヤの亀裂・損傷の有無

1 タイヤの溝の深さ

1 タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

□ 知識

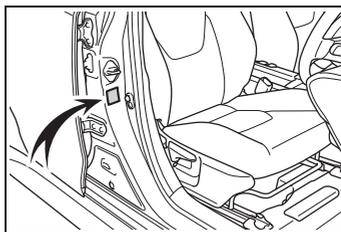
n タイヤ空気圧について

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

前輪：240kPa (2.4kg/cm²) ※

後輪：230kPa (2.3kg/cm²) ※

※ タイヤが冷えているときの空気圧



n タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

n 低扁平タイヤについて

雪道や凍結路では、普通のタイヤとくらべてグリップ力が低下します。冬用タイヤを使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。

n 低扁平タイヤの空気圧点検

低扁平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。特に空気圧は定期的に点検してください。2週間に1回（最低でも1ヶ月に1回）、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

n タイヤのバルブについて

タイヤを交換するときは、バルブに変形・亀裂・損傷がないか点検してください。

⚠ 警告

n 点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

1 タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する

1 メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない

警告

- Ⅰ ラジアルタイヤ・バイアスペルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- Ⅰ サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない
- Ⅰ 他の車両で使用していたタイヤを使用しない
以前どのように使用されていたか不明なタイヤは使用しない

n 異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じる場合があります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- Ⅰ 破裂などの修理できない損傷を与える
- Ⅰ 車両が横すべりする
- Ⅰ 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

n タイヤ交換時の注意

ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。

ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。

またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。

オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。

n 異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。

走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意**n 低扁平タイヤについて**

低扁平タイヤのホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため次のことに注意してください。

- Ⅰ 適切なタイヤ空気圧で使用する
空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。
- Ⅰ 段差や凹凸のある路面、路上に空いた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避ける
タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

n 走行中に空気もれが起こったら

走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

n 悪路走行に対する注意

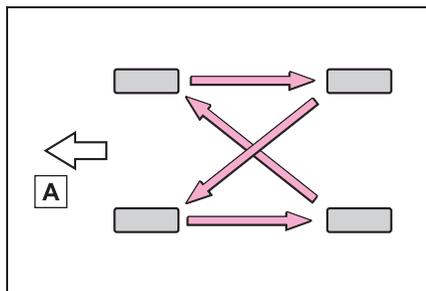
段差や凹凸のある路上を走行するときには注意してください。

タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤローテーションをするには

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。



A 前側

タイヤの交換

ジャッキ★を使用してお車を持ち上げるときは、正しい位置にジャッキを取り付けてください。正しい位置に取り付けないと、車両が破損したり、けがをすることがあります。
ご自身でのタイヤの交換に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

★：トヨタ販売店で購入することができます。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- ┆ 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- ┆ パーキングブレーキをかける
- ┆ シフトポジションをP（オートマチック車）もしくはR（マニュアル車）にする
- ┆ エンジンを停止する
- ┆ 非常点滅灯を点滅させる（→P.309）

知識

n 工具とジャッキについて

お客様の車にはタイヤパンク応急修理キットが標準装着のため、タイヤ交換に使用する以下の工具とジャッキは搭載されていません。工具とジャッキはトヨタ販売店で購入することができます。

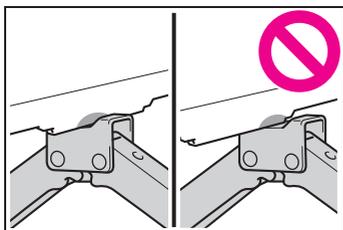
- ┆ ホイールナットレンチ
- ┆ ジャッキ
- ┆ ジャッキハンドル

警告

ジャッキの使用について

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

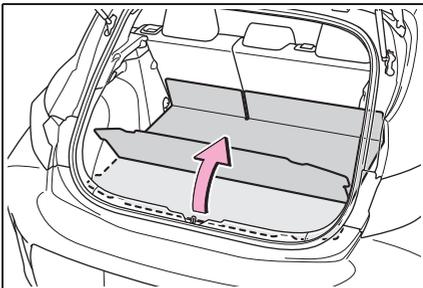
- 1 ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 1 他の車のジャッキをお客様の車に使用しない
- 1 ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける



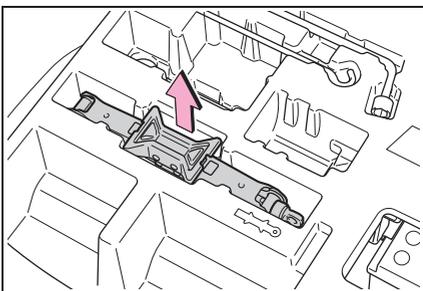
- 1 ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 1 車がジャッキで支えられている状態で、エンジンを始動したり車を走らせない
- 1 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 1 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 1 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 1 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 1 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキの取り出し方

1 デッキボードを取りはずす

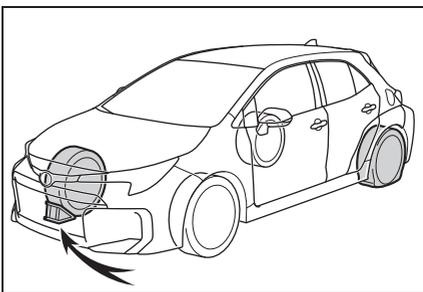


2 ジャッキを取り出す



タイヤの取りはずし

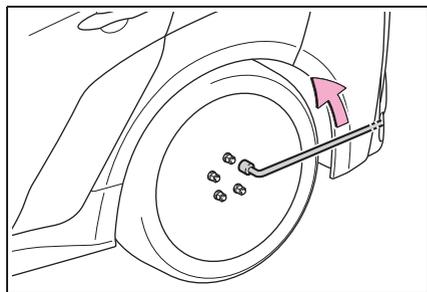
1 輪止めをする



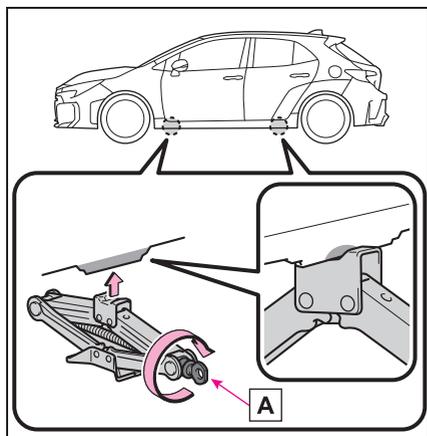
パンクしたタイヤ	輪止めの位置
左側前輪	右側後輪うしろ
右側前輪	左側後輪うしろ

パンクしたタイヤ	輪止めの位置
左側後輪	右側前輪前
右側後輪	左側前輪前

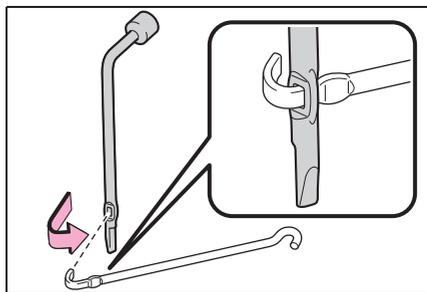
2 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる



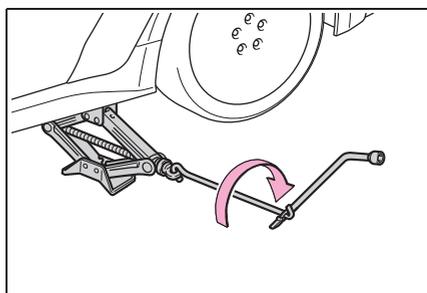
3 ジャッキの[A]部を手でまわして、ジャッキの溝をジャッキセット位置にしっかりかける



4 ホイールナットレンチをジャッキハンドルに組み付ける

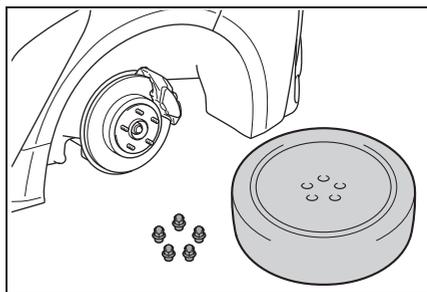


5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。

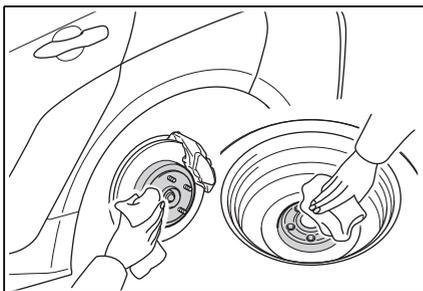


警告**n** **タイヤ交換について**

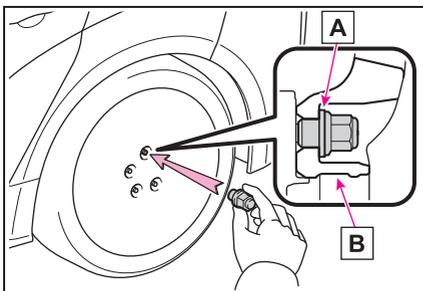
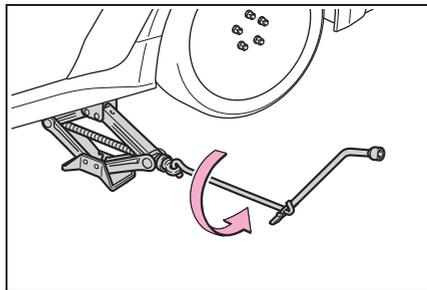
走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

タイヤの取り付け**1** ホイール接触面の汚れをふき取る

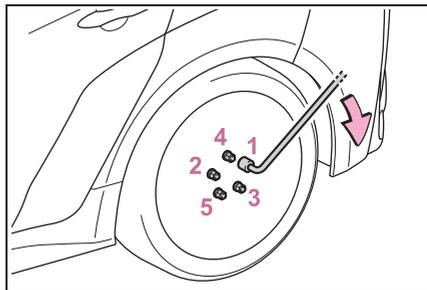
ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

**2** タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットの座金がホイールにあたるまでまわす

**A** 座金**B** ホイール**3** 車体を下げる**4** 図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：103N・m
(1050kgf・cm)

**5** すべての工具・ジャッキを収納する**警告****n** **タイヤを取り付けるときは**

次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- Ⅰ ねじ部にオイルやグリースを塗らない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下するおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
- Ⅰ ホイールの交換後は、すぐに $103\text{N} \cdot \text{m}$ ($1050\text{kgf} \cdot \text{cm}$) の力でナットを締める
- Ⅰ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
- Ⅰ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける

タイヤ空気圧について

お客様の車は低扁平タイヤを装着しています。2週間に1回、または長距離ドライブの前には必ず空気圧を点検してください。(→P.356)

📖 知識

n タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- Ⅰ 燃費の悪化
- Ⅰ 乗り心地や操縦安定性の低下
- Ⅰ 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- Ⅰ 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

n タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- Ⅰ タイヤが冷えているときに点検する
- Ⅰ タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- Ⅰ 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- Ⅰ 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等につけないようにする

警告**n タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- | 過度の摩耗
- | 偏摩耗
- | 操縦安定性の低下
- | タイヤの過熱による破裂
- | タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- | ホイールの変形、タイヤの損傷
- | 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
(路上障害物、道路のつなぎ目や段差など)

注意**n タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

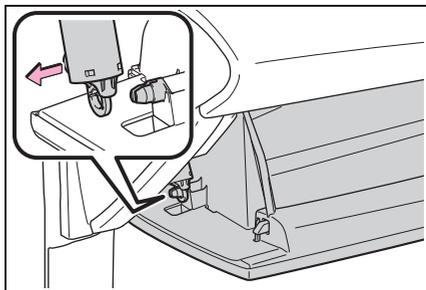
バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

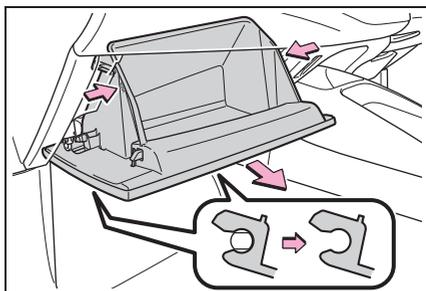
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換するには

- 1 エンジンスイッチを OFF にする
- 2 グローブボックスを開き、ダンパーステアのピンをはずす

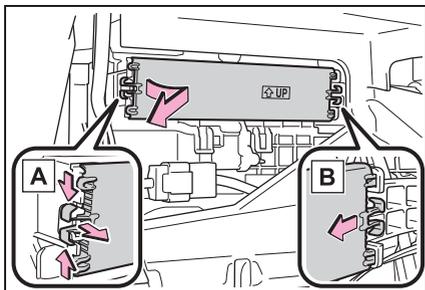


- 3 グローブボックス側面を内側に押し、上部のツメを片側ずつはずし、下部のツメをはずしてとりはずす

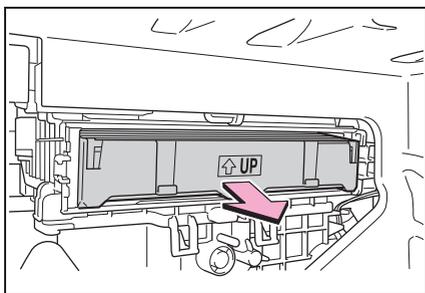


- 4 フィルターカバーのロックをはずし (A)、ツメからフィル

ターカバーを抜き (B)、フィルターカバーを取りはずす

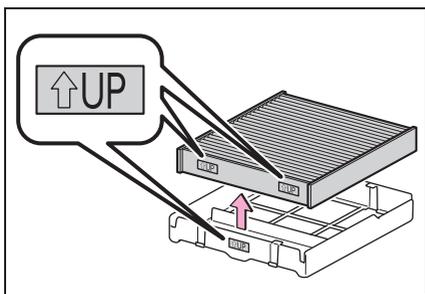


5 フィルターケースを取りはずす



6 フィルターケースからフィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

“↑ UP” マークの矢印が上を向くように取り付けます。



知識

n エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安

に交換してください。

15000km [7500km^{*1}] ごと、ただし12ヶ月をこえないこと^{*2}

^{*1}大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

^{*2}芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

n エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

⚠ 注意

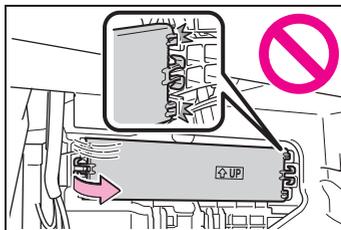
n エアコンを使用するときの注意

l フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。

l フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

n フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーのロックをはずすときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力がかからないように注意してください。ツメが破損するおそれがあります。



電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。電池はご自身で交換できますが、部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

知識

n 電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- l スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない
- l 作動距離が短くなる

事前に準備するもの

- l マイナスドライバー
- l リチウム電池 CR2450

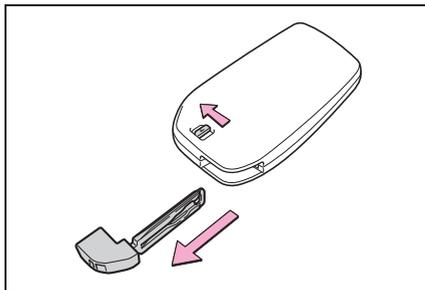
知識

n リチウム電池 CR2450 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

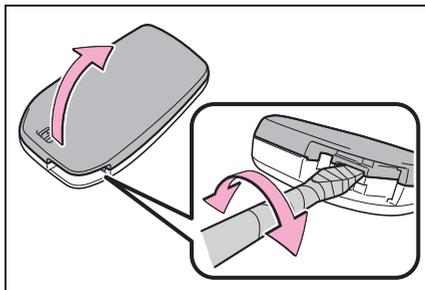
電池を交換するには

- 1 □ロックを解除してメカニカルキーを抜く



- 2 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

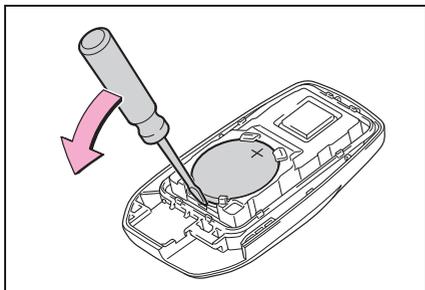


- 3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

新しい電池は、+極を上にして取り付け

ます。



- 4 カバーを取り付け、メカニカルキーを差し込む
- 5 ボタン（ または ）を操作して、ドアが施錠または開錠されることを確認する

警告

n 電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- l 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- l 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか2時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- l 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- l カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。

l 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

n 電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

- l 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- l 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- l 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

注意

n 電池を交換するときは

適切なサイズのマイナスドライバーを使用してください。無理な力がかかると、カバーが変形したり破損したりするおそれがあります。

n 交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

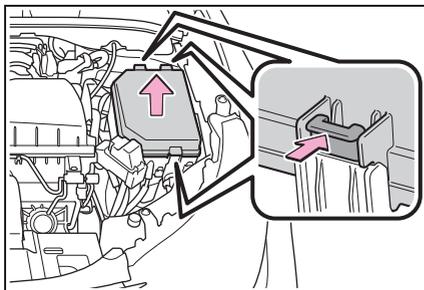
- l ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- l 電池以外の部品に、ふれたり動かし
たりしない
- l 電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

ヒューズの点検・交換をするには

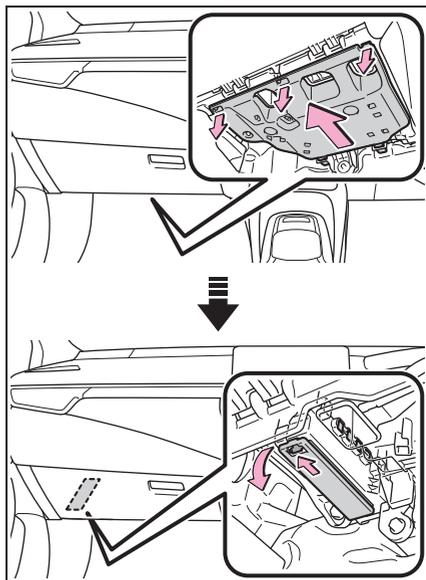
- 1 エンジンスイッチを OFF にする
- 2 ヒューズボックスを開ける
 - ▶ エンジンルーム
 ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



▶ 助手席足元

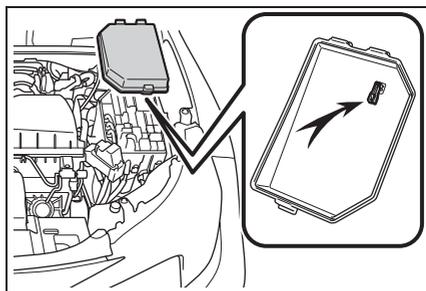
足元のカバーをとりはずし、ヒューズボックスのカバーをとりはずす

ヒューズボックスのカバーを取りはずすときや、取り付けるときはツメを押してください。

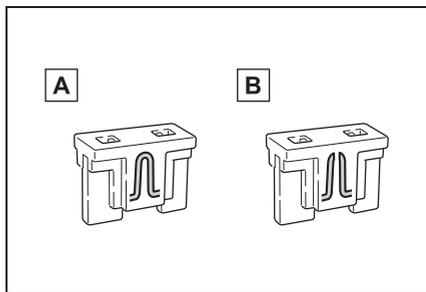


3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはすずでヒューズを引き抜くことができます。



4 ヒューズが切れていないか点検する



A 正常**B** ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

 知識**n** ヒューズを交換したあとは

- | カバーを取り付けるときは、ツメをしっかり取り付けてください。
- | 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。
- | 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

n バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

n 電球（バルブ）を交換するときは

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

 注意**n** ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

 警告**n** 車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- | 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- | 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- | ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

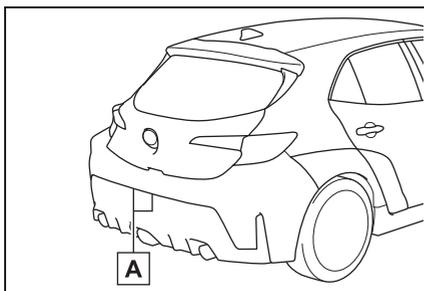
電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できません。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→P.356）

バルブ位置



A 番号灯

n トヨタ販売店で交換が必要な電球

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- l ヘッドランプ
- l 車幅灯
- l LED デイライト
- l 方向指示灯／非常点滅灯
- l 尾灯
- l 制動灯
- l 後退灯

l リヤフォグランプ★

l ハイマウントストップランプ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

□ 知識

n LED ランプについて

番号灯以外のランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

n レンズ内の水滴と曇り

次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

l レンズ内側に大粒の水滴が付いている

l ランプ内に水がたまっている

n 電球（バルブ）を交換するとき

→P.302

電球交換のしかた

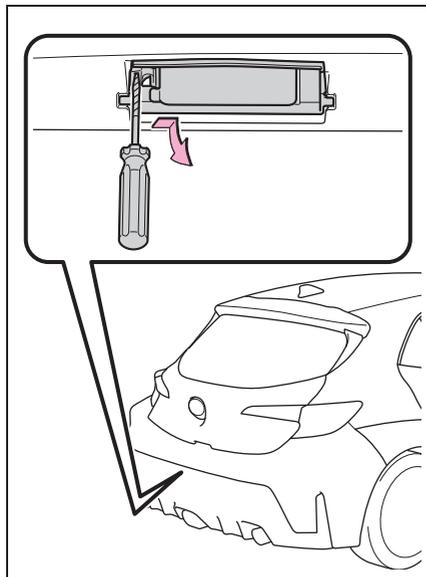
n 番号灯

1 ランプ本体のツメをはずす

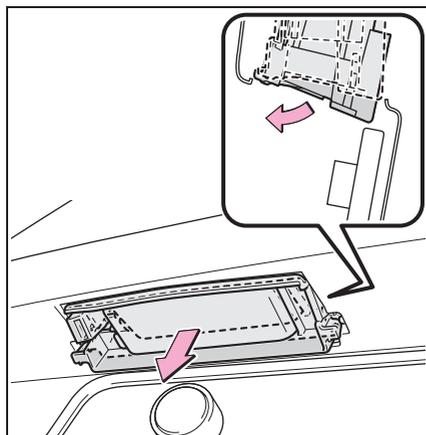
マイナスドライバーなどをランプ横の穴に挿し込み、図のようにはずします。

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端にテープなどを巻いて保護し

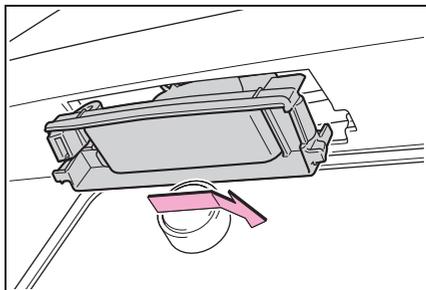
てください。



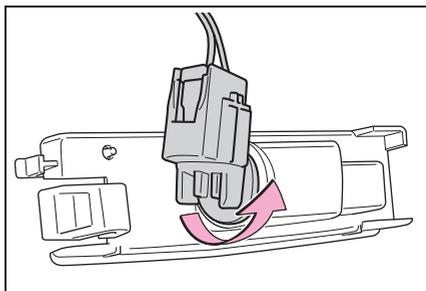
2 ランプ本体を車両後方に傾けて
少し引き出す



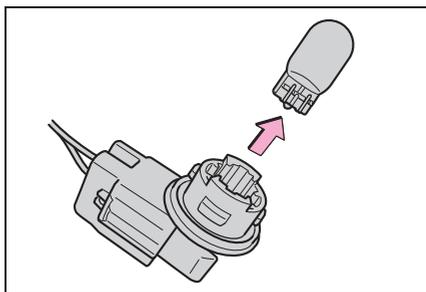
3 ランプ本体を右方向に引き出す



4 ソケットをまわして取りはずす



5 電球を取りはずす



6 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

⚠ 警告

n 電球を交換するとき

l ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。

 **警告**

- I 電球のガラス部を素手でふれないでください。やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- I 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、または内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- n **お車の故障や火災を防ぐために**
電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

7-1. まず初めに

故障したときは	308
非常点滅灯（ハザードランプ）	309
発炎筒.....	309
車両を緊急停止するには.....	310
水没・冠水したときは.....	311
車中泊が必要なときは.....	312

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	313
フューエルポンプシャットオフシス テム.....	317
警告灯がついたときは.....	318
警告メッセージが表示されたときは	324
パンクしたときは	329
エンジンがかからないときは..	339
キーをなくしたときは.....	340
電子キーが正常に働かないときは	341
バッテリーがあがったときは..	343
オーバーヒートしたときは.....	347
スタックしたときは.....	349

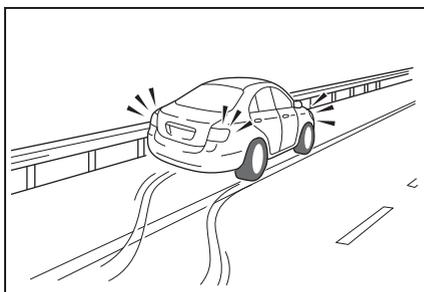
故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

対処のしかた

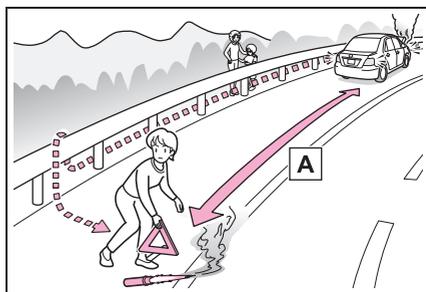
- 1 非常点滅灯（→P.309）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



- 1 高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う
 - 1 同乗者を避難させる
 - 2 車両の50m以上後方（A）に発炎筒（→P.309）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
- 1 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
- 1 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください

い。

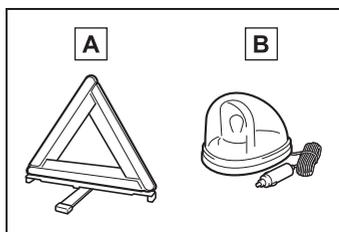


- 3 その後、ガードレールの外側などに避難する

知識

n 停止表示板・停止表示灯について

- 1 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。



A 停止表示板

B 停止表示灯

- 1 停止表示板のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

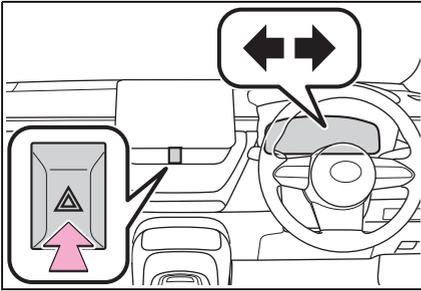
非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

n 非常点滅灯について

- l エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。
- l SRSエアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。非常点滅灯スイッチを2回押すか、約20分経過すると消灯します。（衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります。）

発炎筒

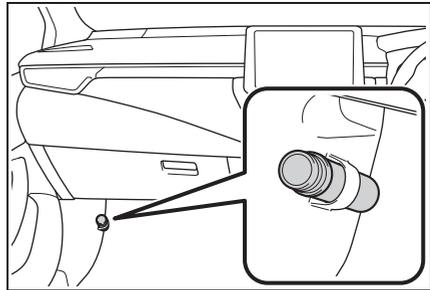
高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。

（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）

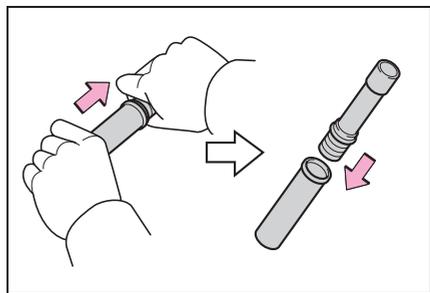
発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。

発炎筒を使うには

- 1 助手席足元の発炎筒を取り出す



- 2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む

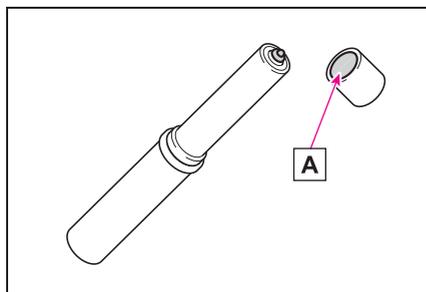


- 3 先端のフタを取り、すり薬Aで発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。

着火させる際は、筒先を顔や体に向けな

いでください。



知識

n 発炎筒の交換について

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

n 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。

煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- l トンネル内
- l ガソリンなど可燃物の近く

n 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- l 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- l 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、手順に従って車両を停止させてください。

車を停止するには

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

- 2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

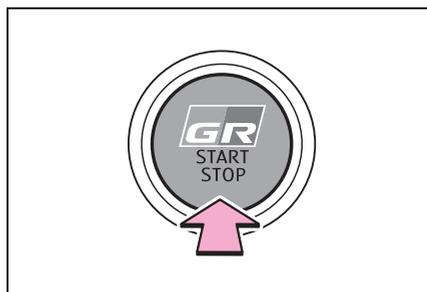
- 3 減速後、車を安全な道路脇に停める

- 4 エンジンを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

- 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

- 4 エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する



- 5 車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

n 走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき

ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- l ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- l ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- l ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- l 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

□ 知識

n 水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウインドウが作動しなくなったり、エンジンやモーターが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

n 緊急脱出用ハンマー^{*}の使用について

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで割ることができません。

この車両のドアガラスに合わせガラスは使用されていません。

^{*} 詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

⚠ 警告**n 走行中の警告**

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

車中泊が必要なときは**⚠ 警告**

車中泊としてお車をご利用になる場合は、エコノミークラス症候群や熱中症、一酸化炭素中毒などのリスクを伴うため十分注意してください。

詳しい注意事項などを以下の URL で確認することができます。

https://www.toyota.co.jp/ipn/sustainability/social_contribution/tdrs/emergency



けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。



注意

n 長い下り坂でけん引するときは

レッカー車または、車両運搬車でけん引してください。他車にけん引してもらえると、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

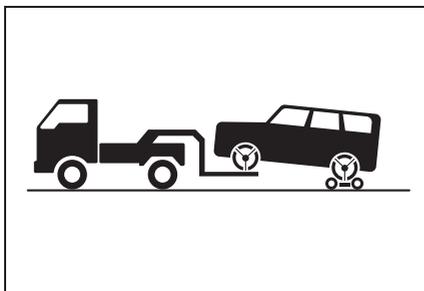
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- l エンジンがかかると車が動かない
- l 異常な音がある

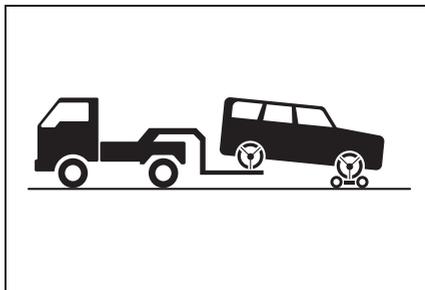
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは



台車を使用して後輪を持ち上げる

▶ うしろ向きにけん引するときは



台車を使用して前輪を持ち上げる

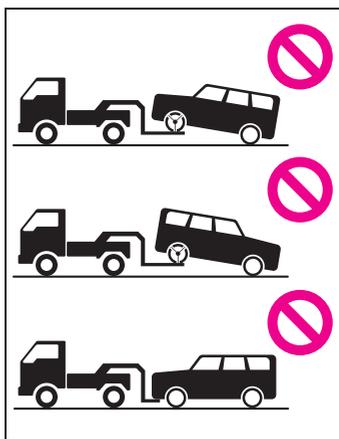


警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n レッカー車でけん引するとき

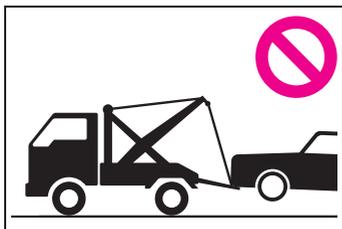
4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。



⚠ 注意

n レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、タイヤ固縛ベルトを使用します。タイヤの固縛方法は、車両運搬車の取扱説明書を確認してください。

運搬中の車両の揺れを抑えるため、パーキングブレーキをかけ、エンジンスイッチをOFFにしてください。

⚠ 注意

n 車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

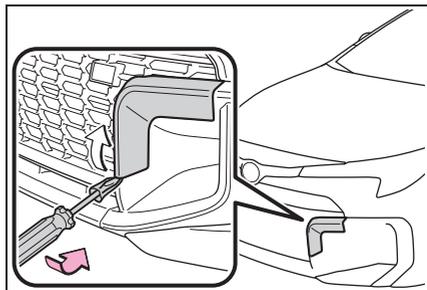
他車にけん引してもらうとき

他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

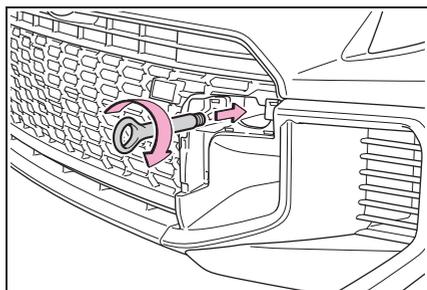
- 1 ラゲージルーム内のけん引フックを取り出す (→P.330)

- 2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

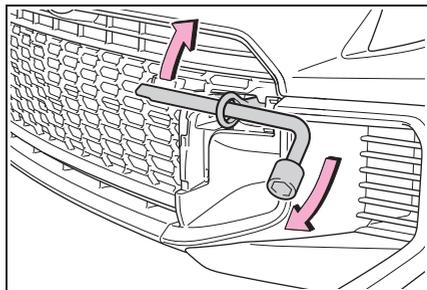
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



- 4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける



- 5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

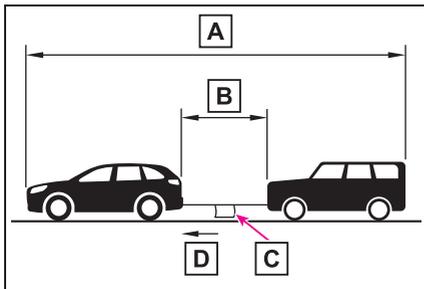
車体に傷が付かないように注意してくだ

さい。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：

0.3m 平方 (30cm×30cm) 以上



A 25m 以内

B 5m 以内

C 白い布

D けん引方向

7 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンを始動する

エンジンが始動しないときは、エンジンスイッチを ON にしてください。

8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

オートマチック車：シフトレバーがシフトできないときは：→P.126

知識

n けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

n 他車にけん引してもらうときに

エンジンが停止しているとブレーキの効

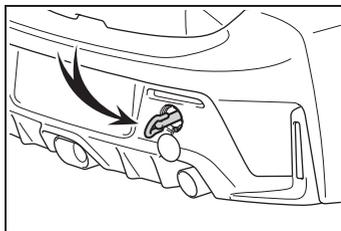
きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

n ホイールナットレンチについて

トヨタ販売店で購入することができます。

n リヤ側けん引フックについて (輸送用フック/緊急用フック)

このフックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するために、または雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。

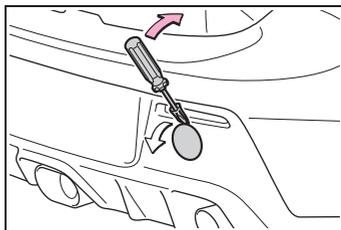


n リヤ側けん引フックを取り付けるには

輸送用フック、緊急用フックを取り付けるときは、手順に従って取り付けてください。

- 1 ラゲージルーム内のけん引フックを取り出す (→P.330)
- 2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める
- 4 マイナスドライバーや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n 他車にけん引してもらおうときの運転について

けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

ステアリングロック装着車：エンジンスイッチを OFF にしないでください。ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

n けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。指定の位置にしっかり取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

注意

n 車両の損傷を防ぐために

- 他車にけん引してもらおうときは次のことを必ずお守りください。
- ・ワイヤーロープは使用しない
 - ・速度 30km/h 以下、距離 80km 以内でけん引する
 - ・前進方向でけん引する

・サスペンション部などにロープをかけない

この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

n 輸送用フックについて

輸送用フックで他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりしないでください。装置の変形や、車両の損傷などにつながるおそれがあります。

n 緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

やむを得ない場合以外は使用しないでください。

緊急用フックで他車をけん引しないでください。

フューエルポンプシャット オフシステム

エンジン停止時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

エンジンを始動するには

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

- 1 エンジンスイッチを ACC または OFF にする
- 2 エンジンを再始動する

注意

n エンジンを始動する前に

車両下をよく確認してください。
地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザーへの対応

n ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ブレーキ液の不足 ブレーキ系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

n 高水温警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジン冷却水の高温異常 → ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.347）に従ってください。

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

n 充電警告灯※

警告灯	警告内容・対処方法
	充電系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

n 油圧警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジンオイル圧力の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

n エンジン警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	<ul style="list-style-type: none"> エンジンの異常 エンジン電子制御システムの異常 電子制御スロットルの異常 <p>→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。</p>

n SRSエアバッグ／プリテンショナー警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	<ul style="list-style-type: none"> SRSエアバッグシステムの異常 プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>

n ABS & ブレーキアシスト警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	<ul style="list-style-type: none"> ABSの異常 ブレーキアシストの異常 <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>

n ペダル誤操作警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>ブザーが鳴った場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> ブレーキオーバーライドシステムの異常 ドライブスタートコントロール★の異常 ドライブスタートコントロール★作動時 <p>→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。</p> <p>ブザーが鳴らなかった場合：</p> <p>ブレーキオーバーライドシステム作動時</p> <p>→ アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。</p>

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

n パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (赤色)	EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
 (黄色)	

n 燃料残量警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	燃料の残量が約 7.5L 以下になった → 燃料を補給する

n 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※）

警告灯	警告内容・対処方法
	運転席・助手席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する 助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。

※ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

n リヤ席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※）

警告灯	警告内容・対処方法
	リヤ席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する

※ リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：

リヤ席シートベルト非着用（いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯が点灯している状態）のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

n クリアランスソナー OFF 表示灯★（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>クリアランスソナーの異常</p> <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p> <p>センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない</p> <p>→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.325）</p>

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

n PCS 警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>PCS（プリクラッシュセーフティ）の異常が考えられます。</p> <p>→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。</p> <p>→ プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。</p>

n LTA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	<p>LTA（レーントレーシングアシスト）の異常が考えられます。</p> <p>→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。</p>

n LDA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	<p>LDA（レーンディパーチャーアラート）の異常が考えられます。</p> <p>→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。</p>

n PDA 表示灯（警告ブザー）★

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	<p>PDA（プロアクティブドライビングアシスト）の異常が考えられます。</p> <p>→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。</p>

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

n レーダークルーズコントロール表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	レーダークルーズコントロールの異常が考えられます。 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

n クルーズコントロール表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	クルーズコントロールの異常が考えられます。 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。(→P.324)

n 運転支援情報表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	次のシステムに異常が考えられます。 PCS（プリクラッシュセーフティ） LDA（レーンディパーチャーアラート） → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。 次のシステムのいずれかが異常、停止、または設定がOFFになっています。 PKSB（パーキングサポートブレーキ）★ BSM（ブラインドスポットモニター）★ RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★ 安心降車アシスト★ → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

n スリップ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムの異常 TRC（トラクションコントロール）システムの異常 ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

 知識

n 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

n シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

l 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅し、ブザーが鳴ることがあります。

l 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

n リヤ席シートベルト非着用警告灯の作動について

l リヤドアを開閉すると約 60 秒間点灯します。

l いずれかのリヤシートベルトを脱着すると点灯し続けます。点灯し続けているときに、リヤドアを開閉すると約 60 秒後に消灯します。

n パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

 警告

n ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。

ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

また、メッセージと同時に専用警告灯が点灯・点滅する場合があります。その際は、各警告灯が点灯・点滅したときの対処方法（→P.318）に従ってください。

□ 知識

n 警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

n 警告ブザーについて

メッセージの内容によってブザーが鳴る場合があります。

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

n “エンジン停止のためハンドルが重くなります” が表示されたときは

走行中にエンジンが停止したときにメッセージが表示されます。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかり持ち、通常より強く操作してください。

n “温度条件により高負荷走行を控えてください” が表示されたときは

次のような状況の時にメッセージが表示される場合があります。

l エンジン暖機中

l 高負荷走行を長時間継続し、トランスミッションフルードが高温になった場合（マニュアル車）

負荷の高い走行を控えてしばらく走行してください。

n “エンジン温度低下するまで出力制限中です” が表示されたときは（オートマチック車）

次のような状況の時にメッセージが表示される場合があります。

l 高負荷走行を長時間継続し、トランスミッションフルードまたはエンジン冷却水が高温になった場合

負荷の高い走行を控えてしばらく走行してください。

n “バッテリー保護のため自動で電源をOFFしました” が表示されたときは

自動電源OFF機能が作動したときにメッセージが表示されます。次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにして約5分間その回転数を保持し、バッテリーを充電してください。

n “ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください” が表示されたときは

次のシステムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

l LEDヘッドランプ

l オートマチックハイビーム

n “機能停止 ソナーに水滴、雪等が付着しています” が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに水滴、

氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの水滴、氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。

また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

汚れているセンサーの位置はディスプレイ上に表示されます。

水滴・氷・雪・泥がないのに異常表示が出ている場合は、センサーの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

n “機能故障 販売店で点検” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

l  PCS (プリクラッシュセーフティ)

l  LDA (レーンディパーチャーアラート)

l  LTA (レーントレーシングアシスト)

l  AHB (オートマチックハイビーム)

l  レーダークルーズコントロール

l  RSA (ロードサインアシスト)

l  発進遅れ告知機能

l  PDA (プロアクティブドライビングアシスト) ★

l  BSM (ブラインドスポットモニター) ★

l  RCTA (リヤクロストラフィックアラート) ★

l  安心降車アシスト★

l  クリアランスソナー★

l  PKSB (パーキングサポートブレーキ) ★

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

n “機能停止 取扱書を確認” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

l  PCS (プリクラッシュセーフティ)

l  LDA (レーンディパーチャーアラート)

l  LTA (レーントレーシングアシスト)

l  AHB (オートマチックハイビーム)

l  レーダークルーズコントロール

l  RSA (ロードサインアシスト)

l  発進遅れ告知機能

l  PDA (プロアクティブドライビングアシスト) ★

l  BSM (ブラインドスポットモニター) ★

l  RCTA (リヤクロストラフィックアラート) ★

l  安心降車アシスト★

l  クリアランスソナー★

- l  PKSB (パーキングサポートブレーキ) ★

次の対処法に従ってください。

- ・ バッテリー電圧を確認する
- ・ Toyota Safety Sense で使用するセンサーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。(→P.149)

センサーが正しく作動していないおそれがあります。

- ・ BSM (ブラインドスポットモニター) ★ (→P.204)
- ・ RCTA (リヤクロストラフィックアラート) ★ (→P.214)
- ・ 安心降車アシスト★ (→P.226)
- ・ クリアランスソナー★ (→P.207)
- ・ PKSB (前後方静止物) ★ (→P.221)
- ・ PKSB (後方接近車両) ★ (→P.223)

BSM, RCTA, 安心降車アシストで使用するセンサー周辺のリヤバンパーに付着物がないか確認し、ある場合は取り除いてください。(→P.201)

クリアランスソナー, PKSB で使用するセンサーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。

センサーが正しく作動しなくなる状況が解決すると、表示が消える場合があります。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

n “機能停止 前方カメラ視界不良 取扱書を確認” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

- l  PCS (プリクラッシュセーフティ)

- l  LDA (レーンディパーチャーアラート)

- l  LTA (レーントレーシングアシスト)

- l  AHB (オートマチックハイビーム)

- l  レーダークルーズコントロール

- l  RSA (ロードサインアシスト)

- l  発進遅れ告知機能

- l  PDA (プロアクティブドライビングアシスト) ★

次の対処法に従ってください。

・ ワイパー機能を使って、フロントウィンドウガラスの汚れや付着物を取り除く。

・ エアコン機能を使って、フロントウィンドウガラスの曇りを取り除く。

・ ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、カメラの視界を遮らないようにする。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

n “機能停止 前方カメラ作動温度範囲外 常温までお待ちください” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

- l  PCS (プリクラッシュセーフティ)

- l  LDA (レーンディパーチャーアラート)

- l  LTA (レーントレーシングアシスト)

- l  AHB (オートマチックハイビーム)

- l  レーダークルーズコントロール
- l  RSA (ロードサインアシスト)
- l  発進遅れ告知機能
- l  PDA (プロアクティブドライビングアシスト) ★

次の対処法に従ってください。

- ・ 炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる
- ・ 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウィンドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります
- ・ 極寒での駐車時など、前方カメラが低温の時は、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- n “機能停止 前方レーダー汚れ 汚れを除去してください”が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

- l  PCS (プリクラッシュセーフティ)
- l  LTA (レーントレーシングアシスト)
- l  レーダークルーズコントロール
- l  発進遅れ告知機能
- l  PDA (プロアクティブドライビングアシスト) ★

次の対処法に従ってください。

- ・ レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合に

は取り除いてください。(→P.149)

- ・ 砂漠・草原・郊外などの、周辺車両や構造物が少ない広々とした地域を走行すると表示される場合があります。

車両周辺に構造物や車両などが存在する場所まで走行すると、表示が消える場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- n “機能停止 前方レーダー作動温度範囲外 常温までお待ちください”が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

- l  PCS (プリクラッシュセーフティ)
- l  LTA (レーントレーシングアシスト)
- l  レーダークルーズコントロール
- l  発進遅れ告知機能
- l  PDA (プロアクティブドライビングアシスト) ★

次の対処法に従ってください。

- ・ レーダー周辺の温度が作動条件外です。適切な温度になるまでお待ちください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- n “機能停止 前方レーダー向き調整中 取扱書を確認”が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

- l  PCS (プリクラッシュセーフティ)
- l  LTA (レーントレーシングアシスト)

- l  レーダークルーズコントロール
- l  発進遅れ告知機能
- l  PDA（プロアクティブドライビングアシスト）★

次の対処法に従ってください。

- ・ レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→P.149）
- ・ レーダの向きがずれている可能性があり、レーダーが走行中に自動で再調整しています。しばらく走行を続けてください

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

n “クルーズコントロール 使用できません 取扱書を確認してください” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

- l レーダークルーズコントロール
- l クルーズコントロール

走行支援スイッチを短時間に繰り返し操作したときにメッセージが表示されることがあります。

走行支援スイッチを短く確実に押してください。

n 販売店での点検をうながすメッセージが表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

n 取扱説明書の確認をうながすメッセージが表示されたときは

- l “エンジン冷却水高温” が表示されたときは、対処方法（→P.347）に従ってください。

- l 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

・ “スマートエントリー&スタートシステム故障”

- l 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

- ・ “故障のためブレーキ力が低下”
- ・ “補機バッテリー充電システム異常”
- ・ “エンジン油圧不足”

パンクしたときは

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。(パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です)パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。(→P.329)

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

n パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

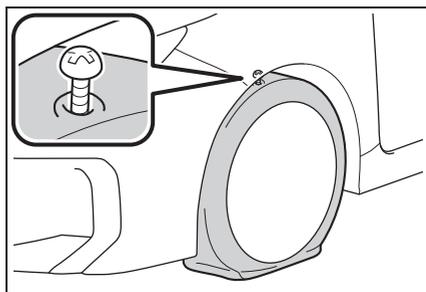
応急修理する前に

- l 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- l パーキングブレーキをかける
- l シフトポジションを P (オートマチック車) もしくは R (マニュアル車) にする
- l エンジンを停止する

- l 非常点滅灯を点滅させる (→P.309)

- l タイヤの損傷程度を確認する
釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

- ・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
- ・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



📖 知識

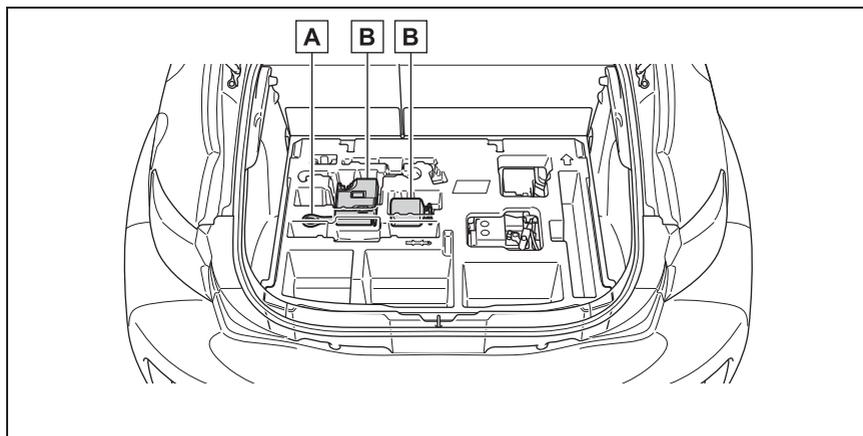
n 応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

- l タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- l タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- l タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- l タイヤに4mm以上の切り傷や刺し傷があるとき

- ┆ ホイールが破損しているとき
- ┆ 1本のタイヤに2箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ┆ 2本以上のタイヤがパンクしているとき
- ┆ 補修液の有効期限がきれているとき

タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置

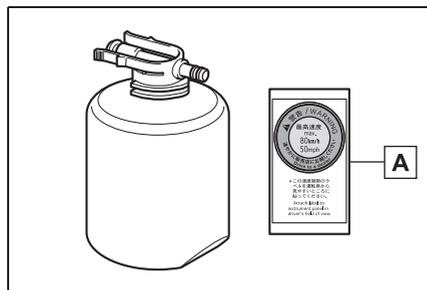


A けん引フック

B タイヤパンク応急修理キット

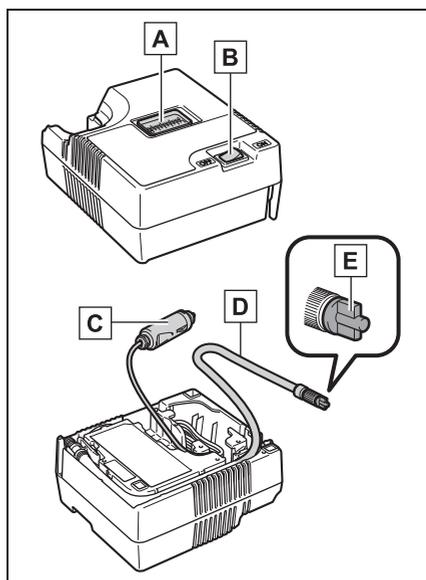
タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

▶ ボトル



A 速度制限ラベル

▶ コンプレッサー



- A** 空気圧計
- B** 電源スイッチ
- C** 電源プラグ
- D** ホース
- E** 空気逃がしキャップ

知識

n 応急修理キットについて

- | パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。
- | 外気温度が-30℃～60℃のときに使用できます。
- | 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- | パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- | パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
- | 応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
- | タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

n 応急修理キットの点検について

- | パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。有効期限はボトルに表示されています。
- | 有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。
- | 有効期限が切れる前に交換してください。

い。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

n 応急修理キットについて

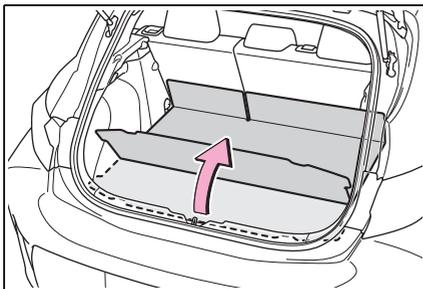
- | 応急修理キットは指定の位置に収納してください。
- | 急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- | 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- | 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

n パンク補修液について

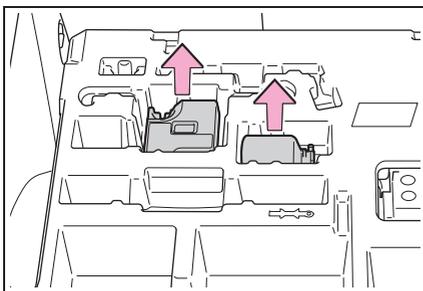
- | 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- | もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

タイヤパンク応急修理キットの取り出し方

1 デッキボードを取りはずす



2 応急修理キットを取り出す

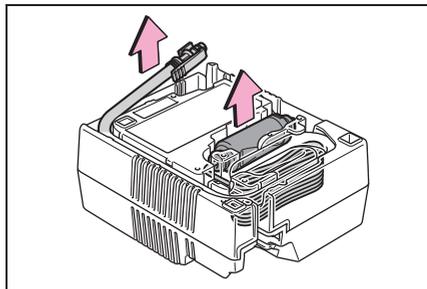


応急修理するには

1 応急修理キットをビニール袋から取り出す

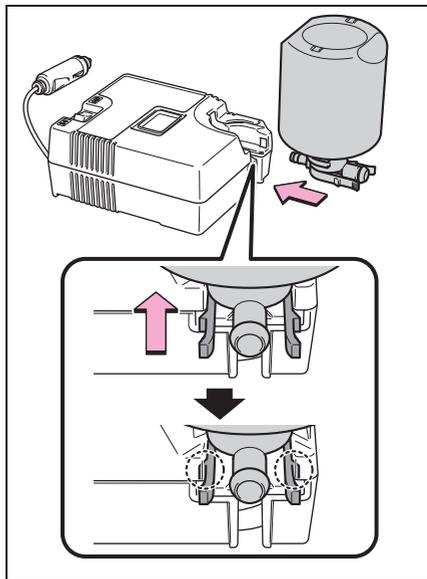
ボトルに同封されているラベルは指定の位置へ貼り付けます。(手順 10 へ)

2 コンプレッサーからホースを取りはずし、電源プラグを取り出す



3 ボトルをコンプレッサーに接続する

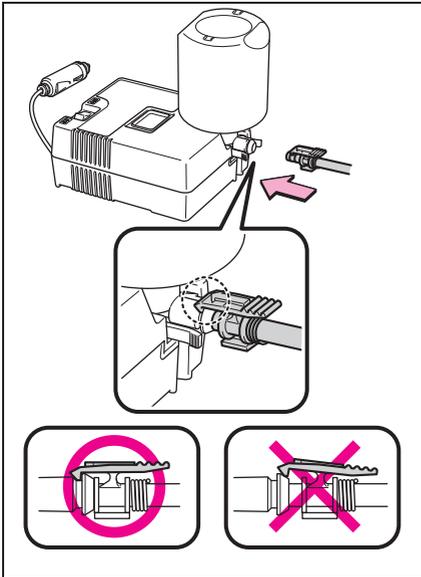
図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルのツメが穴に隠れていることを確認してください。



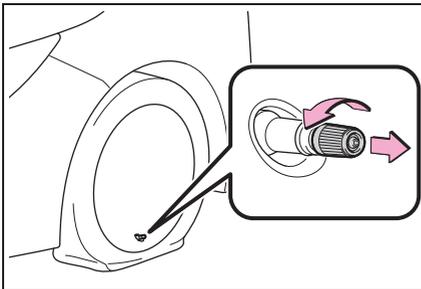
4 ホースをボトルに取り付ける

図のように、ボトルにホースがしっかり

接続しているか確認してください。

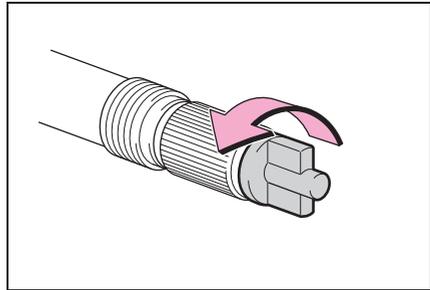


- 5 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす



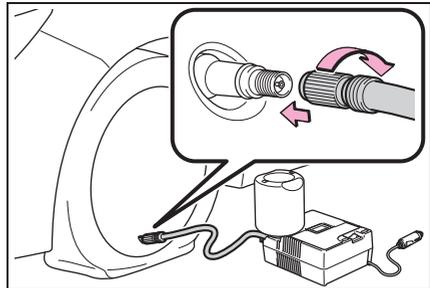
- 6 ホースをのばし空気逃がしキャップを取りはずす
空気逃がしキャップは再度使用するため、

なくさないように保管してください。

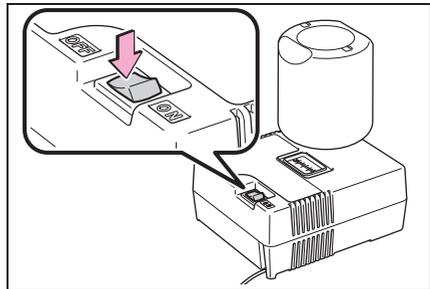


- 7 ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

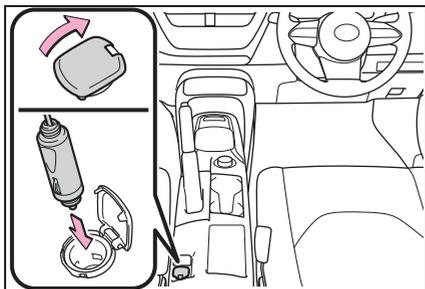
ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。



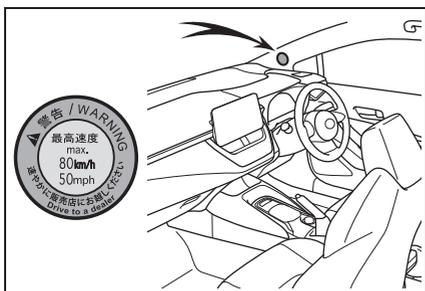
- 8 コンプレッサーのスイッチがOFFであることを確認する



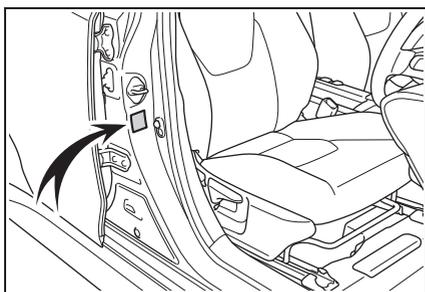
- 9 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリソケットに挿し込む (→P.264)



- 10 運転席から見やすい位置に、付属のラベルを貼り付ける

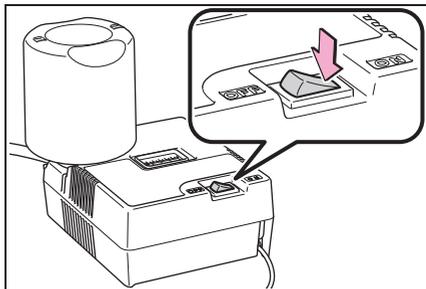


- 11 タイヤの指定空気圧を確認する
運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。(→P.290)

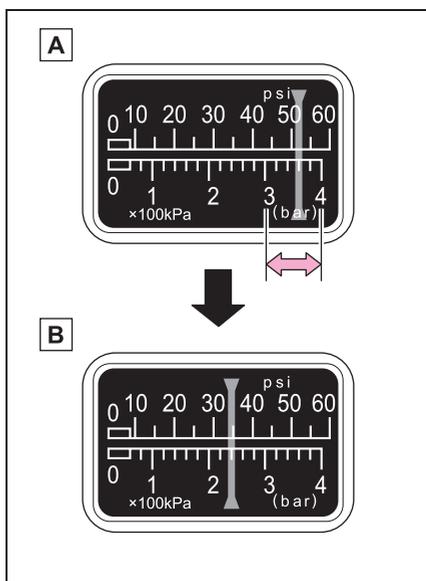


- 12 エンジンを始動する

- 13 コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する



- 14 空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する



- A 一時的に空気圧計が 300 ~ 400kPa (3.0 ~ 4.0kg/cm²) まで上昇し、徐々に減少します。
- B スイッチを ON にしてから約 1 ~ 5 分程度で実際の空気圧になります。

空気圧を確認するときは、コンプレッ

サーのスイッチを OFF にしてください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

充填までに必要な時間は、約 5 ～ 20 分です（外気温により異なります）。25 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFF にして、トヨタ販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。

(→P.336, 356)

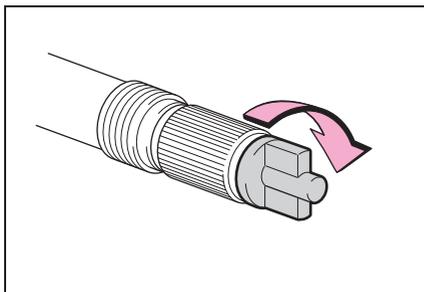
15コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリースOCKETから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

16バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

17ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。

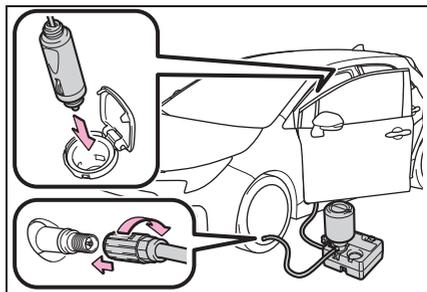


18いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

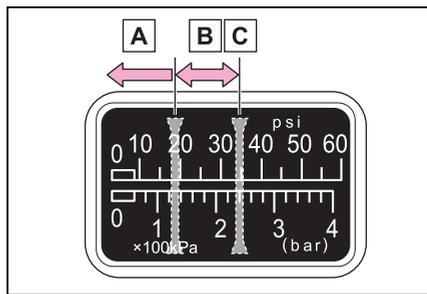
19タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5km、速度 80km/h 以下で安全に走行する

20走行後、平坦な場所に停車して再度、応急修理キットを接続する

ホースを接続する前に、空気逃がしキャップを取りはずしてください



21コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にしてから再度 OFF し、空気圧を確認する



A 空気圧が 130kPa

(1.3kg/cm²) 未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

B 空気圧が 130kPa

(1.3kg/cm²) 以上、指定空気圧未満の場合：手順 **22** へ

C 空気圧が指定空気圧

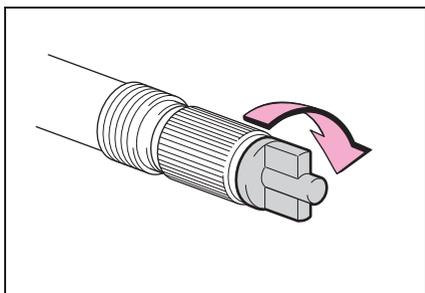
(→P.356) の場合：手順 **23**

へ

22コンプレッサーのスイッチをONにして指定空気圧まで空気を充填し、再度約5 km 走行後にあらためて手順**20**から実施する

23ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



24ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

ラゲージルームに収納するときは、パンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。応急修理キットはビニール袋などに入れて収納してください。

25急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、走行距離が約100km 以内、80km/h 以下の速度で、トヨタ販売店まで慎重に運転する

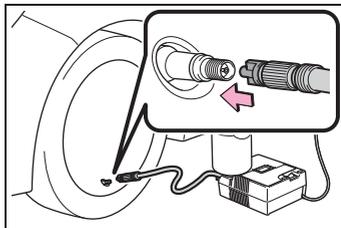
タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

トヨタ販売店でタイヤを修理・交換するときに、パンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

知識

n 空気を入れすぎてしまったとき

- 1 タイヤからホースを取りはずす
- 2 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く



- 3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する
- 4 コンプレッサーのスイッチを数秒間ONにし、OFF にしてから空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチをONにし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

n 応急修理後のタイヤのバルブについて
応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

n 補修液を廃棄するときは

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、トヨタ販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

⚠ 警告

n タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。

短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

n パンクしたタイヤを応急修理するとき

Ⅰ 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。

Ⅰ 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

Ⅰ タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気もれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。

Ⅰ 空気充填中にホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。

Ⅰ 空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。

Ⅰ 作業手順に従って応急修理を行ってください。

手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

Ⅰ 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチをOFFにし、修理を中止してください。

Ⅰ 応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40分以上連続で作動させないでください。

Ⅰ 応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。

Ⅰ 速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などのSRSエアバッグ展開部に貼ると、SRSエアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

n 補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

Ⅰ 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

Ⅰ 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。

・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。

警告

- ・ 空気圧を確認してください。
130kPa (1.3kg/cm²) 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

注意**n 応急修理をするとき**

- l タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- l 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- l 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。
- l 応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

n 応急修理キットについて

- l 応急修理キットはDC12V専用です。他の電源での使用はできません。
- l 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- l 応急修理キットはビニール袋に入れて砂ぼこりや水を避けて収納してください。
- l 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P.120）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 1 燃料が入っていない可能性があります。給油してください。
- 1 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。再度、正しい手順（→P.120）に従って、エンジンをかけてください。
- 1 エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P.50）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 1 バッテリーあがりの可能性があります。（→P.343）
- 1 バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない場合

電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、

エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→P.339）

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 1 バッテリーあがりの可能性があります。（→P.343）
- 1 バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- 1 ステアリングロック装着車：ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急時の始動について

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。

緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する（→P.132）
- 2 シフトレバーがP（オートマチック車）もしくはN（マニュアル車）の位置にあることを確認する
- 3 エンジンスイッチをACC^{*1}にする^{*2}
- 4 ブレーキペダル（オートマチック車）もしくはクラッチペダルとブレーキペダル（マニュアル

車) をしっかり踏んでエンジンスイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

※¹カスタマイズメニューから ACC カスタマイズの ON / OFF を切りかえることができます。(→P.357)

※²ACC がない場合は、エンジンスイッチを ON にしたあとにエンジンスイッチを OFF にして、5 秒以内に次の手順を実施してください。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所(財布の中など)に保管してください。

注意

n 電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり (→P.90)、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

知識

n 電子キーが正常に働かないときは

- l 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。(→P.357)
- l 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。(→P.90)
- l 電子キー機能が停止する場合があります。(→P.77)

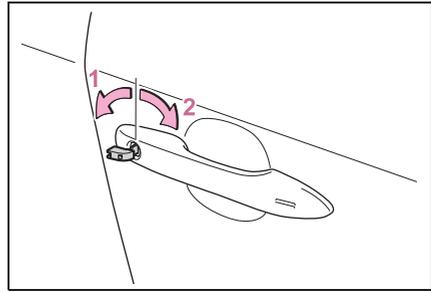
注意

n スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

ドアの施錠・解錠

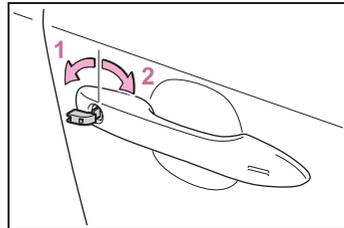
メカニカルキー (→P.78) を使って次の操作ができます。



- 1 全ドア解錠
- 2 全ドア施錠

知識

n キー連動機能



- 1 ドアガラスが開く (まわし続ける) ※
- 2 ドアガラスが閉まる (まわし続ける) ※

※ トヨタ販売店ででの設定が必要です。

警告

n メカニカルキーを使ってドアガラスを操作するとき

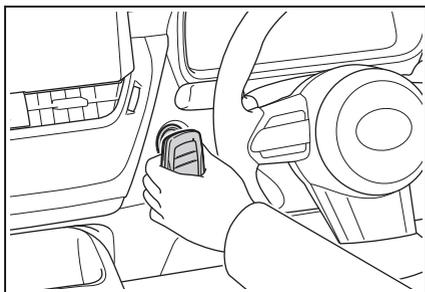
ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

エンジン始動の方法

- 1 オートマチック車：シフトレバーがPの状態ブレーキペダルを踏む
マニュアル車：シフトレバーがNの状態クラッチペダルを踏む
- 2 電子キーのトヨタエンブレム面で、エンジンスイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ONへ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定が非作動になっている、かつACCカスタマイズがONのときは、ACCへ切りかわります。



- 3 オートマチック車はブレーキペダル、マニュアル車はクラッチペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに  が表示されていることを確認する
- 4 エンジンスイッチを短く確実に押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

n エンジンの停止方法

通常のエンジンの停止方法と同様に、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをオートマチック車はP、マニュアル車はNにしてエンジンスイッチを押します。

n 電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P.299)

n モードの切りかえ

エンジン始動方法の手順3で、オートマチック車はブレーキペダル、マニュアル車はクラッチペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P.123)

バッテリーがあがったときは

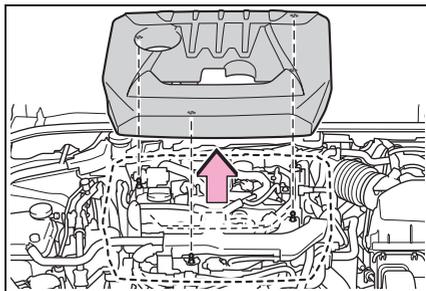
バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

エンジンを再始動するには

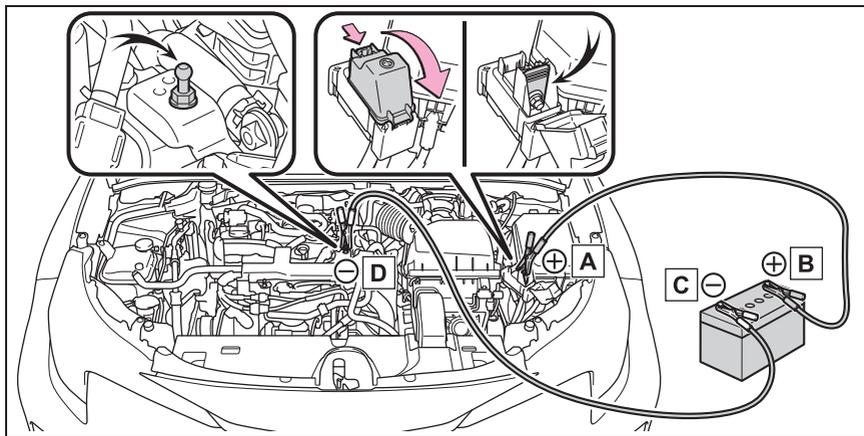
ブースターケーブルと12Vのバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始

動させることができます。

- 1 ボンネットを開ける
(→P.286)
- 2 エンジンカバーを取りはずす



- 3 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの+端子[A]につなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの+端子[B]につなぐ。その後、黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子[C]につなぎ、もう一方の端を金属部[D]につなぐ
ブースターケーブルは、指定の端子および接続箇所に届くものを使用してください。



- [A] バッテリーの+端子 (自車)
- [B] バッテリーの+端子 (救援車)
- [C] バッテリーの-端子 (救援車)
- [D] 図に示す金属部

- 4 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約5分間自

車のバッテリーを充電する

- 5 エンジンスイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する
- 6 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったん ON にしてからエンジンを始動する
- 7 エンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではまず

エンジンが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

n バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

n バッテリーあがりを防ぐために

- l エンジンが停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。
- l 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。
- l ACC カスタマイズが OFF のときは、エンジンスイッチが OFF の状態でもマルチメディアシステムに電源が供給されます。マルチメディアシステムの電源を OFF にしてください。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

n バッテリーがあがってしまったときはコンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

n バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

ターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

n バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。(バッテリーは走行中に自動で充電されます)

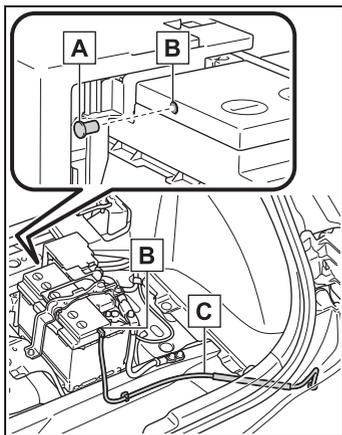
n バッテリーあがり時や取りはずし時など

- l バッテリー脱着直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。
- l バッテリー脱着後、最初の始動操作ではエンジンが始動できないことがあります。再度始動操作を行ってください。
- l 車両は常にエンジンスイッチの状態を記憶しています。バッテリーあがり時、バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチを OFF にしてから行ってください。バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

n バッテリーを交換するときは

- l 欧州規格バッテリーを使用してください。
- l 交換前と同一のケースサイズ (LN2)、20 時間率容量 (20HR) が同等 (60Ah) 以上、かつ性能基準値 (CCA) が同等 (345A) 以上のバッテリーを使用してください。

- ・大きさが異なると、バッテリーが正しく固定されません。
 - ・20時間率容量が小さいと、車両を使用していない時期が短い期間であってもバッテリーがあがって、エンジンの始動ができなくなるおそれがあります。
- ↓ 交換後は、バッテリーの排気穴に次のものを確実に取り付けてください。
- ・排気ホースは、交換前のバッテリーに取り付けられているものを使用してください。
 - ・排気穴栓は、交換したバッテリーに付属のもの、または交換前のバッテリーに取り付けられているものを使用してください。(交換するバッテリーによっては、排気穴がふさがれたものもあります。)



A 排気穴栓

B 排気穴

C 排気ホース

- ↓ 詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

n バッテリー端子をはずすときは

必ず-端子を先にはずしてください。
+端子を先にはずすと、+端子が周辺の金属部分に付いた場合、火花が発生し火災につながるおそれがある他、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ↓ ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- ↓ +端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ↓ ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接触させない
- ↓ バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起さない

n バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- ↓ バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、バッテリー液(酸)が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- ↓ 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近づけない

警告

- l 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあっておく
- l 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- l バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う
- l お子さまをバッテリーに近付けない

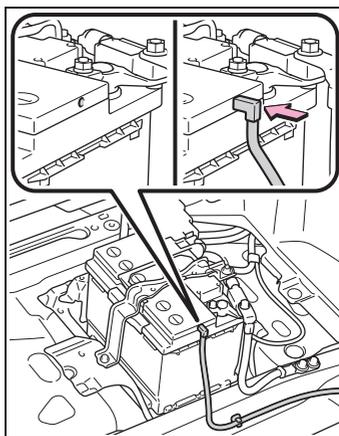
n バッテリーあがりの処置をしたあと

- l 早めにトヨタ販売店でバッテリーの点検を受けてください。バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けるとバッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあります。

n バッテリーを交換するときは

- l バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

交換後は、交換したバッテリーの排気穴に排気ホースと排気穴栓を確実に取り付けてください。正しく取り付けられていないと、可燃性ガスが車内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあります。



n バッテリーのマイナス端子について

ボデーに接続されたバッテリーのマイナス端子をはずさないでください。誤ってはすとプラス端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

n ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

 注意**n ブースターケーブルを接続するときは**

指定の端子および接続箇所以外にブースターケーブルを接続しないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、破損につながったりするおそれがあります。

n 救援用端子について

この車の救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

オーバーヒートしたときは

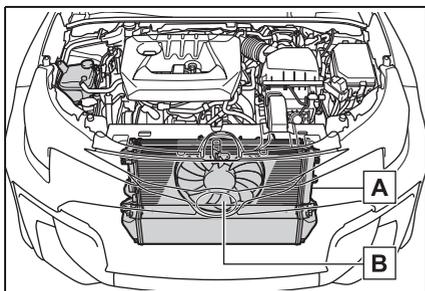
次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 1 水温計（→P.56）の表示がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する（スピードが出ないなど）
- 1 マルチインフォメーションディスプレイに“エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください”が表示される
- 1 エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

- 1 安全な場所に停車し、エアコンをOFFにしてから、エンジンを停止する
- 2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける
- 3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）

やホースなどからの冷却水もれを点検する

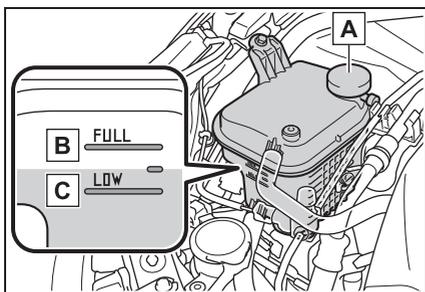


A ラジエーター

B ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する



A リザーバータンク

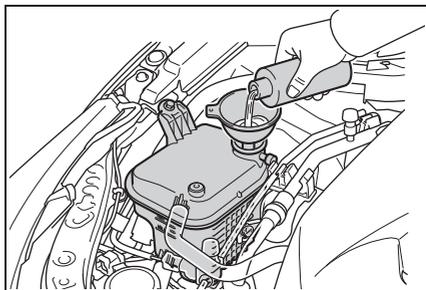
B “FULL”（上限）

C “LOW”（下限）

5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水

を補給してください。



6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風を確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

7 ファンが作動していない場合：すぐにエンジンを停止し、トヨタ販売店に連絡する
ファンが作動している場合：最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

⚠ 警告

n エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

l エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。

警告

- I 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- I エンジンおよびラジエーターが熱いうちはリザーバタンクキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

注意**n 冷却水を入れるとき**

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

n 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- I 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- I 冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

脱出するには

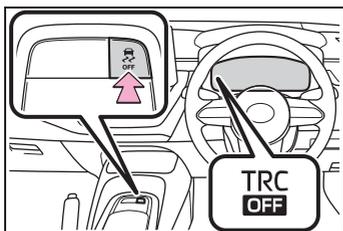
- 1 パーキングブレーキをかけシフトレバーをP（オートマチック車）もしくはN（マニュアル車）にして、エンジンを停止する

オートマチック車：シフトレバーをPにしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。

- 2 前輪周辺の土や雪などを取り除く
- 3 前輪の下に木や石などをあてがう
- 4 エンジンを再始動する
- 5 シフトレバーを確実にDまたはR（オートマチック車）もしくは1速またはR（マニュアル車）にし、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識**n 脱出しにくいとき**

-  スイッチを押してTRCをOFFにしてください。

**⚠ 警告****n 脱出するとき**

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

n シフトレバーを操作するとき（オートマチック車）

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。

車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意**n トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

l 前輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。

l 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... **352**

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧
..... **357**

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。

お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 無鉛プレミアムガソリン ・ バイオ混合ガソリン（プレミアム）※ 	50

※ エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

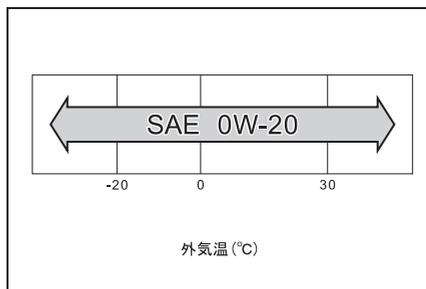
エンジンオイル

指定銘柄	容量 [L]（参考値 ※）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： トヨタ純正モーターオイル SP 0W-20 — API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20	4.0	4.3

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、8分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

n エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



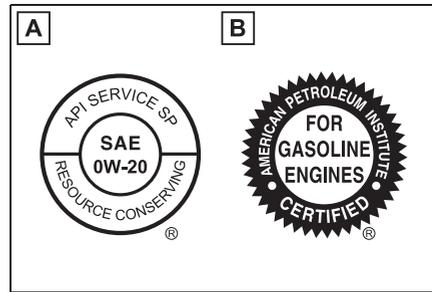
オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- ・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。

n 指定エンジンオイル

API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC か、ILSAC 規格 GF-6A に合致したオイルをご使用ください。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イル

サックサーティフィケーション）マークがついています。



A API マーク

B ILSAC CERTIFICATION マーク

V リブドベルト

指定銘柄

V リブドベルト（弊社純正高強度アラミドベルト）

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L]（参考値）	
	オートマチックトランスミッション	マニュアルトランスミッション
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント		
凍結保証温度	5.8*1	5.5*1
濃度 30% - 12° C	6.9*2	6.6*2
濃度 50% - 35° C		

*1サブラジエーター非装着車

*2サブラジエーター装着車

マニュアルトランスミッション

オイルタイプ・推奨粘度	容量 [L] (参考値)
次のいずれかをご使用ください。 <ul style="list-style-type: none"> ・ “トヨタ純正マニュアルトランスミッションギヤオイル LV” ・ API GL-4 SAE 75W の規格に適合する他のオイル 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ LSD 装着車 2.0 ▶ LSD 非装着車 2.1



注意

n マニュアルトランスミッションギヤオイル

使用されるギヤオイルの特性や使用環境により、アイドリング音、シフトレバーの操作感や燃費が影響を受けることがあります。最適な性能を実現するため、“トヨタ純正マニュアルトランスミッションギヤオイル LV” のご使用をおすすめします。

オートマチックトランスミッション

指定銘柄	容量 [L] (参考値 ※)
トヨタ純正オートフルード WS	7.4

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。



注意

n トランスミッションフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

トランスファー

オイルタイプ・推奨粘度	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5, SAE 75W-85)	0.45

リヤディファレンシャル

オイルタイプ・推奨粘度	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LX (API GL-5, SAE 75W-85)	0.5

クラッチ (マニュアル車)

n クラッチフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード DOT4, CLASS6*

* トヨタ純正ブレーキフルード DOT4、CLASS6 が入手できない場合は、トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A を使用することもできます。

n クラッチペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	3 ~ 15
クラッチ切れ残り代*	25 以上

* クラッチが切れた位置からクラッチペダルを床いっぱいまで踏み込んだ位置までの動き量

ブレーキ

n ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード DOT4, CLASS6*

* トヨタ純正ブレーキフルード DOT4、CLASS6 が入手できない場合は、トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A を使用することもできます。

n ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 6
踏み込んだときの床板とのすき間*	120 以上

* エンジン回転時に 300N (30.6kgf) の踏力をかけたときのコラムホールカバーとのすき間の最小値

n パーキングブレーキ

項目	基準値 (回数)
引きしろ操作力 200N (20.4 kgf) のときのノッチ※ 数	5 ~ 8

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度 (“カチッ” という音) のことです。

ウォッシャータンク

容量 [L] (参考値)
2.5

タイヤ・ホイール

n サイズ・空気圧

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
		前輪	後輪
235/40R18 91W	18 × 8 1/2J	240 (2.4)	230 (2.3)

n ホイールナット締め付けトルク

トルク [N · m (kgf · cm)]
103 (1050)

電球 (バルブ) ※

電球 番号灯	W (ワット) 数
	5

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
GZE14H	G16E-GTS (1.6L ガソリン)	AWD (4 輪駆動)

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチメディアシステム・マルチインフォメーションディスプレイの操作により設定を変更することができる機能もあります。

設定を変更するには

n マルチメディアシステムで設定するには

- 1 メインメニューの  を選択する
- 2 「車両カスタマイズ」を選択する
- 3 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、

(作動) ・ (非作動) を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、バー上のアイコンをスライドしてレベルを調整します。

n マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

- 1 マルチインフォメーションディスプレイの  を選択する
- 2  または  を押して設定変更したい項目にカーソルを合わせる
- 3 OK スイッチを短押しまたは長押しする

OK スイッチの短押し・長押しで設定できる内容が異なります。画面に表示されている内容に従って操作してください。

警告

n カスタマイズ設定を行うとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気しないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素 (CO) により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

n カスタマイズを行うときは

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

- A** マルチメディアシステムの画面操作で設定変更可能
- B** マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能
- C** トヨタ販売店で設定変更可能

n メーター、マルチインフォメーションディスプレイ (→P.52, 56, 61)

機能の内容 ※ ¹	初期設定	変更後	A	B	C
言語 ※ ²	日本語	英語	—	○	—
単位	km/L	L/100km	—	○	—
メータータイプ ※ ²	ドライブモード連動	ダイヤル表示無し	—	○	—
		ダイヤル表示有り	—	○	—
REV インジケーター	表示	非表示	—	○	—
REV セットアップ	6500rpm	2000 ~ 7200rpm	—	○	—
REV ピーク	表示	非表示	—	○	—
エコドライブインジケーターランプ★ ※ ²	あり	なし	—	○	—
燃費グラフ	リセット後平均燃費	始動後平均燃費	—	○	—
ドライブインフォ項目 (1 行目) ※ ²	走行距離	平均車速	—	○	—
		走行時間	—	○	—
ドライブインフォ項目 (2 行目) ※ ²	走行時間	平均車速	—	○	—
		走行距離	—	○	—
トリップ A 項目 (1 行目) ※ ²	走行距離	平均車速	—	○	—
		走行時間	—	○	—
トリップ A 項目 (2 行目) ※ ²	平均車速	走行距離	—	○	—
		走行時間	—	○	—
トリップ B 項目 (1 行目) ※ ²	走行距離	平均車速	—	○	—
		走行時間	—	○	—
トリップ B 項目 (2 行目) ※ ²	平均車速	走行距離	—	○	—
		走行時間	—	○	—
割込表示 ※ ²	あり	なし	—	○	—
時計 ※ ²	12 時間表示	24 時間表示	—	○	—
メーター輝度調整 ※ ²	標準	任意の照度	—	○	—
制動灯表示灯	あり	なし	—	○	—

※¹機能についての詳しい説明は P.61 を参照してください

※²マイセッティングと連動して設定が変更されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

n ヘッドアップディスプレイ★ (→P.69)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ヘッドアップディスプレイ表示*	あり	なし	—	○	—
ヘッドアップディスプレイ表示タイプ*	スタンダード	フル	—	○	—
		ミニマム	—	○	—
ヘッドアップディスプレイの明るさ*	標準	任意の照度	—	○	—
ヘッドアップディスプレイの表示位置	標準	任意の位置	—	○	—
ヘッドアップディスプレイの傾き調整*	標準	任意の傾き	—	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

* マイセッティングと連動して設定が変更されます。

n ドアロック (→P.82, 86, 341)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
メカニカルキーによる解錠	1回で全ドア解錠	1回で運転席ドア解錠、連続2回で全ドア解錠	—	—	○
ドアロック連動バックドア	あり	なし	—	—	○

n リヤシートリマインダー機能 (→P.84)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
リヤシートリマインダー機能	あり	なし	—	○	—

n スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通 (→P.82, 89)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
作動の合図 (ブザー音量調整)*	レベル5	OFF	○	—	○
		レベル1~7	○	—	○

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
作動の合図（非常点滅灯）※	あり	なし	○	—	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間※	30 秒	60 秒	—	—	○
		120 秒			
半ドア警告ブザー	あり	なし	—	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

n スマートエントリー&スタートシステム（→P.82, 89）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし	○	—	○
解錠されるドアの選択※	全席解錠	運転席のみ解錠	○	—	○
全席解錠までのドアハンドル保持時間※	非作動	1.5 秒			
		2.0 秒	—	—	○
		2.5 秒			
連続ロック操作の有効回数	2 回	無制限	—	—	○
降車オートロック機能	なし	あり	—	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

n ワイヤレスドアロック（→P.76, 82）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ワイヤレス機能	あり	なし	—	—	○
解錠時の操作※	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	○	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

n ドアミラー (→P.101)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
オート電動格納作動	ドアの施錠・解錠と連動	OFF	—	—	○
		エンジンスイッチと連動			

n パワーウィンドウ (→P.103)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
メカニカルキー連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉作動の合図 (ブザー)	あり	なし	—	—	○

n マイセッティング (→P.106)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
マイセッティング機能	あり	なし	—	○	—
ドライバーの切りかえ	ゲスト	ドライバー 1	○	○	—
		ドライバー 2			
		ドライバー 3			

n エンジンスイッチ (→P.120)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ACC カスタマイズ ACC の ON / OFF を切りかえる	ON / OFF	○	—	○

n ランプ自動点灯・消灯システム (→P.133)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ライトセンサーの感度調整*	より暗い	より明るい	○	—	○
		明るい			
		標準			
		暗い			
ランプ消し忘れ防止機能	エンジンスイッチと連動	運転席ドアと連動	—	—	○
ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能	なし	あり	—	—	○

* マイセッティングと連動して設定が変更されます。

n ランプ (→P.133)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
LED デイライト	あり	なし	—	—	○

n PCS (プリクラッシュセーフティ) (→P.153)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
プリクラッシュセーフティ* ¹	ON / OFF	—	○	—
警報タイミング* ²	遅い / 標準 / 早い	—	○	—

*¹ エンジンスイッチを ON にすると設定を「OFF」にしても「ON」に戻ります。

*² マイセッティングと連動して設定が変更されます。

n レーンディパーチャーアラート (LDA) (→P.166)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
レーンディパーチャーアラート (LDA)*	ON / OFF	—	○	—
警報タイミング*	標準 / 早い	—	○	—
警報手段*	ハンドル振動 / ブザー	—	○	—
低車速支援*	ON / OFF	—	○	—

* マイセッティングと連動して設定が変更されます。

n レーダークルーズコントロール (DRCC) (→P.179、188)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
加速度設定 *	弱 / 中 / 強	—	○	—
速度設定 (短押し) *	1km/h / 5km/h / 10km/h	—	○	—
速度設定 (長押し) *	1km/h / 5km/h / 10km/h	—	○	—
ガイド文言表示 *	ON / OFF	—	○	—
カーブ速度抑制 *	OFF / 弱 / 中 / 強	—	○	—

* マイセッティングと連動して設定が変更されます。

n プロアクティブドライビングアシスト★ (→P.171)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
プロアクティブドライビングアシスト (PDA) *	ON / OFF	—	○	—
支援感度 *	低い / 中間 / 高い	—	○	—
減速アシスト (DA) *	ON / OFF	—	○	—
障害物先読みアシスト (OAA) *	ON / OFF	—	○	—

* マイセッティングと連動して設定が変更されます。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

n ロードサインアシスト (→P.176)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ロードサインアシスト *	ON / OFF	—	○	—
速度標識超過告知方法 *	無 / 表示 / 表示とブザー	—	○	—
その他告知方法 *	無 / 表示 / 表示とブザー	—	○	—
速度超過告知車速 *	10 km/h / 5 km/h / 2 km/h	—	○	—

* マイセッティングと連動して設定が変更されます。

n 休憩提案 (→P.166)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
休憩提案	ON / OFF	—	○	—

n 発進遅れ告知 (→P.199)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
先行車*	ON / OFF	—	○	—
信号*	ON / OFF	—	○	—
告知タイミング*	早い/標準/遅い	—	○	—

* マイセッティングと連動して設定が変更されます。

n BSM (ブラインドスポットモニター)★ (→P.200)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ブラインドスポットモニター機能	あり/なし	—	○	—
ドアミラーインジケータの明るさ*	暗い/明るい	—	○	—
接近車両を知らせるタイミング(感度)*	遅い/標準/早い	—	○	—

* マイセッティングと連動して設定が変更されます。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

n クリアランスソナー★ (→P.205)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
クリアランスソナー機能* ¹	あり/なし	—	○	—
ブザー音量* ^{1, 2}	レベル1 / レベル2 / レベル3	—	○	—

*¹ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

*² クリアランスソナー、リヤクロストラフィックアラートの音量調整は連動していません。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

n RCTA (リヤクロストラフィックアラート) ★ (→P.211)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
リヤクロストラフィックアラート機能	ON / OFF	—	○	—
リヤクロストラフィックアラート作動時のブザー音量 ※1、2	レベル 1 / レベル 2 / レベル 3	—	○	—

※1マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※2クリアランスソナー、リヤクロストラフィックアラートの音量調整は連動していません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

n PKSB (パーキングサポートブレーキ) ★ (→P.216)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
PKSB (パーキングサポートブレーキ) 機能	ON / OFF	—	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

n 安心降車アシスト★ (→P.223)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
安心降車アシスト機能	On / Off	—	○	—
ドアミラーインジケータ表示 ※	あり / なし	—	○	—
接近車両検知の感度 ※	低い / 中間 / 高い	—	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

n ドライブモードセレクトスイッチ (→P.227)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
カスタムモード時のパワートレーン制御	NORMAL	SPORT	○	—	—
		ECO			

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
カスタムモード時のシャシー制御	NORMAL	SPORT	○	—	—
カスタムモード時のエアコン制御	NORMAL	ECO	○	—	—

n ドライブスタートコントロール★ (→P.117)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
後退速度の抑制制御	あり	なし*	—	○	—

*「なし」に変更しても、エンジンスイッチを ON にするたびに「あり」に戻ります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

n エアコン (→P.244)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる*	する	しない	○	—	○

*マイセッティングと連動して設定が変更されます。

n イルミネーション (→P.251)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
室内灯の消灯までの時間*	15 秒	OFF	○	—	○
		7.5 秒			
		30 秒			
エンジンスイッチ OFF 後の照明の点灯	あり	なし	—	—	○
解錠時の照明の点灯	あり	なし	—	—	○
接近時の照明の点灯	あり	なし	—	—	○

*マイセッティングと連動して設定が変更されます。



知識

n 車両カスタマイズについて

解錠後、ドアを開けなかったときの自動

施錠が作動したときの合図は、“作動の合図（非常点滅灯）”・“作動の合図音量（ブザー音量調整）”の設定に依存します。

n 車両カスタマイズ画面について

次の状態になるとマルチインフォメーションディスプレイの車両カスタマイズ画面は自動的に終了します。

- | 車両カスタマイズ画面表示後に警告メッセージが表示された
- | エンジンスイッチが OFF になった
- | 車両カスタマイズ画面表示中に走行し始めた

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）	370
車から音が鳴ったときは（音さくい ん）.....	372
アルファベット順さくいん.....	374
五十音順さくいん	376

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- Ⅰ メカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→P.340）
- Ⅰ 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→P.340）



施錠・解錠できない

- Ⅰ キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.299）
- Ⅰ エンジンスイッチが ON になっていませんか？

施錠するときは、エンジンスイッチを OFF にしてください。（→P.123）

- Ⅰ 電子キーを車内に置き忘れていませんか？

施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。

- Ⅰ 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。

（→P.90）



リヤドアが開かない

- Ⅰ チャイルドプロテクターがかかっていませんか？

チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→P.85）

故障かな？と思ったら



エンジンがかからない

- Ⅰ オートマチック車：ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→P.120）
- Ⅰ マニュアル車：クラッチペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→P.120）
- Ⅰ オートマチック車：シフトレバーは P になっていませんか？（→P.120）
- Ⅰ キーが車内の検知される場所にありますか？（→P.89）
- Ⅰ ステアリングロック装着車：ステアリングロックされていますか？（→P.121）
- Ⅰ キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？

このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。

（→P.342）

- 1 バッテリーがあがっていませんか？（→P.343）



ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーがPから動かない（オートマチック車）

- 1 エンジンスイッチはONになっていますか？

エンジンスイッチがONでブレーキを踏んでも解除できないときは（→P.126）を参照してください。



エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった（ステアリングロック装着車）

- 1 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→P.121）



パワーウィンドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- 1 ウィンドウロックスイッチが押されていませんか？

ウィンドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウィンドウは操作できなくなります。（→P.105）



エンジンスイッチが自動的にOFFになった

- 1 一定時間 ACC または ON（エンジンがかかっていない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→P.123）



警告音が鳴りだした

- 1 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→P.372）をご確認ください。



警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 1 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P.318、324 をご確認ください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

- 1 車を安全な場所に止め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→P.329）



立ち往生した

- 1 むかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→P.349）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	シフトポジションがP以外になっている★	P.324
	後方から自動車・自転車が接近している★	P.223
エンジンスイッチをOFFにしたとき	リヤシートリマインダー機能が作動した	P.84
エンジンを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P.299
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P.89
	電子キーを車内に置き忘れている	P.324

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・バックドアが確実に閉まっていない	P.85
	パーキングブレーキが解除されていない	P.132
	シートベルトを着用していない※	P.320
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した★	P.128
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P.114
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロールを使用している	P.193
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P.153
車線から逸脱しそうになったとき	LTA（レーントレーシングアシスト）を使用している	P.162
	LDA（レーンディパーチャーアラート）を使用している	P.166

状況	原因	詳細
前の車が発進または信号が青に替わっても停車し続けたとき	発進遅れ告知機能が作動した	P.199
制限速度より一定の速度を超過したとき	RSA（ロードサインアシスト）が作動した	P.176
進入禁止区域に進入したとき		
赤信号の交差点に進入しようとしたとき		
障害物との距離が近付いたとき	クリアランスソナー★が作動した	P.205
後退時に左右からの車を検知したとき	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★が作動した	P.211

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アルファベット順さくいん

- A/C**
(エアコン).....244
- ABS**
(アンチロックブレーキシステム)
.....233
- AWD**
(オールホイールドライブ).....356
- BSM**
(ブラインドスポットモニター)
.....200
- EDR**
(イベントデータレコーダー).....7
- EPS**
(電動リックパワーステアリン
グ).....234
- HUD**
(ヘッドアップディスプレイ).....69
- ILSAC CERTIFICATION**
(イルサックサーティフィケーショ
ン).....353
- iMT スイッチ**
(インテリジェントマニュアルトラ
ンスミッションスイッチ).....130
- ISOFIX**
(アイソフィックス/イソフィッ
ク).....36
- LDA**
(レーンディパーチャーアラート)
.....166
- LED**
(ライトエミッティングダイオード)
.....133
- LTA**
(レーントレーシングアシスト)
.....162
- PCS**
(プリクラッシュセーフティ)..153
- PDA**
(プロアクティブドライビングアシ
スト).....171
- PKSB**
(パーキングサポートブレーキ)
.....216
- RCTA**
(リヤクロストラフィックアラート)
.....211
- REV インジケーター**.....58
- REV ピーク**.....58
- RSA**
(ロードサインアシスト).....176
- SRS**
(サブリメンタルレストレイントシ
ステム).....28
- S-VSC**
(ステアリングアシステッドビー
クルスタビリティコントロール)233
- SYNC スイッチ**
(シンクロスイッチ).....244
- Toyota Safety Sense**
LDA (レーンディパーチャーア
ラート).....166
LTA (レーントレーシングアシ
スト).....162
PCS (プリクラッシュセーフティ)
.....153
PDA (プロアクティブドライビン
グアシスト).....171
RSA (ロードサインアシスト)176
オートマチックハイビーム.....136
クルーズコントロール.....196
ソフトウェアアップデートを確認す
る.....145
発進遅れ告知機能.....199
レーダークルーズコントロール
.....179, 188

TRC

(トラクションコントロール) 233,
349

VSC

(ビークルスタビリティコントロー
ル) 233

五十音順さくいん

あ

アースポイント (バッテリーあがりの処 置).....	343
アームレスト.....	265
アウトミラー (ドアミラー)	
RCTA (リヤクロストラフィックアラート)	211
安心降車アシスト.....	223
格納のしかた.....	102
操作.....	101
BSM (ブラインドスポットモニター).....	200
ミラーヒーター.....	245
アクセサリースocket.....	264
アクセサリーモード.....	123
アクティブトルクスプリット4WD.....	234
アシストグリップ.....	265
アラーム	
音さくいん.....	372
警告ブザー.....	318
安心降車アシスト.....	223
アンチロックブレーキシステム (ABS)	233
警告灯.....	319
アンテナ (スマートエントリー&スター トシステム).....	89

い

イグニッションスイッチ (エンジンス イッチ)	
エンジンのかけ方.....	120
自動電源 OFF 機能.....	123
車両を緊急停止するには.....	310
モードの切りかえ.....	123
位置交換 (タイヤローテーション).....	291
イベントデータレコーダー (EDR).....	7
イルミネーテッドエントリーシステム	252

インジケーター (表示灯).....	53
インテリアランプ.....	251
インナーミラー.....	100

う

ウインカー (方向指示灯)	
電球 (バルブ) の交換.....	303
方向指示レバー.....	131
ウインドウ	
ウォッシャー.....	140
パワーウインドウ.....	103
リヤウインドウデフォグガー.....	245
ウインドウロックスイッチ.....	105
ウォッシャー	
液の補給.....	289
スイッチ (フロント).....	140
スイッチ (リヤ).....	141
タンク容量.....	356
冬の前の準備・点検.....	240
フロント.....	140
リヤ.....	141
動けなくなったときは (スタック).....	349
運転	
雨の日の運転.....	111
運転を補助する装置.....	233
寒冷時の運転.....	240
正しい運転姿勢.....	23
手順.....	110
運転支援機能情報表示.....	62, 65
運転席シートベルト非着用警告灯... ..	320

え

エアコン	
オートエアコン.....	244
曇り取り (フロントガラス).....	245
フィルターの清掃.....	297
エアコン・デフォグガー.....	244

エアバッグ

SRS エアバッグ警告灯	319
改造・廃棄	33
警告ブザー	319
作動条件	29
正しい姿勢	23
配置	28

エキスパートモード 235**エコドライブインジケータ** 65, 72**LED デイライト** 134**エレクトリックパワーステアリング****(EPS)** 234

警告灯	320
-----------	-----

エンジン

イグニッションスイッチ (エンジンスイッチ)	120
------------------------------	-----

エンジンイモビライザーシステム	50
-----------------------	----

エンジンがかからない (エンジンが始動できない)	339
--------------------------------	-----

エンジンスイッチ	120
----------------	-----

エンジンの始動方法	120
-----------------	-----

オーバーヒート	347
---------------	-----

緊急時の停止方法	310
----------------	-----

タコメーター	56
--------------	----

フューエルポンプシャットオフシステム	317
--------------------------	-----

ボンネット	286
-------------	-----

エンジンイモビライザーシステム 50**エンジンオイル**

警告灯	318
-----------	-----

冬の前の準備・点検	240
-----------------	-----

メンテナンスデータ	352
-----------------	-----

容量	352
----------	-----

エンジン回転計 (タコメーター) 56**エンジンスイッチ**

エンジンのかけ方	120
----------------	-----

自動電源 OFF 機能	123
-------------------	-----

モードの切りかえ	123
----------------	-----

エンジンフード (ボンネット)

開け方	286
-----------	-----

エンジンルーム 286

エンジンルームから蒸気が出ている	347
------------------------	-----

お**オイル (エンジンオイル)**..... 352**オーディオシステム連携表示**..... 66**オートエアコン** 244**オートマチックトランスミッション**

オートマチックトランスミッション	125
------------------------	-----

メンテナンスデータ	354
-----------------	-----

オートマチックハイビーム..... 136**オーバーヒート**..... 347**オープナー**

給油扉	144
-----------	-----

バックドア	87
-------------	----

ボンネット	286
-------------	-----

オープントレイ 255**おくだけ充電 (ワイヤレス充電器)** .258**お子さまを乗せるとき**

ウインドウロックスイッチ	105
--------------------	-----

お子さまの安全のために	35
-------------------	----

キーの電池	300
-------------	-----

シートベルトの着用	25, 26
-----------------	--------

ステアリングヒーター・シートヒーターに関する警告	249
--------------------------------	-----

チャイルドシート	36
----------------	----

チャイルドシートの取り付け	36
---------------------	----

チャイルドプロテクター	85
-------------------	----

発炎筒の取り扱いに関する警告	310
----------------------	-----

バッテリーに関する警告	345
-------------------	-----

パワーウインドウに関する警告	104
----------------------	-----

オドメーター／トリップメーターディスプレイ 59

表示切りかえボタン	59
-----------------	----

表示項目	60
------------	----

か

カーテンシールドエアバッグ	28
カーペット	
洗浄	272
フロアマットの取り付け方	22
外気温度表示	56
外装の電球（バルブ）	
交換要領	303
ワット数	356
買い物フック	256
カスタマイズ機能	357
型式	356
カップホルダー	254
カメラ	
前方カメラ（PCS）	148
白線認識用カメラ（LTA）	162
ガラスの曇り取り（リヤウインドウデ フォグガー）	245
ガレージジャッキ	288
冠水路走行	117
寒冷時の運転	240

き

キー	
エンジンが始動できない	339
キーナンバープレート	76
キーの構成	76
キーレスエントリー	77, 89
キーをなくした	340
正常に働かない	341
施錠・解錠ができない	341
電子キー	76
電池が切れた	299
メカニカルキー	78
ワイヤレスリモコン	77

キーレスエントリー

スマートエントリー&スタートシステム	89
ワイヤレスドアロック	77

給油

給油のしかた	143
メンテナンスデータ	352

緊急時シートベルト固定機構

緊急時の対処

エンジンが始動できない	339
オーバーヒートした	347
キーの電池が切れた	299, 341
キーをなくした	340
警告灯がついた	318
警告メッセージが表示された	324
けん引	313
故障したときは	308
車中泊が必要なときは	312
車両を緊急停止する	310
水没・冠水したときは	311
スタックした	349
電子キーが正常に働かない	341
発炎筒	309
バッテリーがあがった	343
パンクした	329

緊急ブレーキシグナル



空気圧（タイヤ）

メンテナンスデータ	356
-----------	-----

区間距離計（トリップメーター）

曇り取り

フロントガラス	245
ミラーヒーター	245
リヤウインドウデフォグガー	245

クラクション（ホーン）

クラッチ

メンテナンスデータ	355
-----------	-----

クラッチフルード	355
クリアランスソナー	205
操作	206
クリアランスランプ (車幅灯)	
スイッチ	133
電球 (バルブ) の交換	303
クリップ	
フロアマット	22
クルーズコントロール	
レーダークルーズコントロール 179, 188	
グローブボックス	254

け

警音器 (ホーン)	99
計器類 (メーター)	56
警告灯	318
運転支援情報表示灯	322
ABS & ブレーキアシスト	319
SRS エアバッグ	319
LTA 表示灯	321
LDA 表示灯	321
エンジン	319
クリアランスソナー OFF 表示灯	321
クルーズコントロール表示灯	322
高水温	318
シートベルト非着用	320
充電	318
スリップ表示灯	322
燃料残量	320
パワーステアリング	320
PCS	321
PDA 表示灯	321
ブレーキ	318
ペダル誤操作	319
油圧	318
レーダークルーズコントロール表示灯	322
警告ブザー	
ABS & ブレーキアシスト	319

SRS エアバッグ	319
LDA (レーンディパーチャーアラート)	
.....	321
LTA (レーントレーシングアシスト) 162,	
321	
エンジン	319
クリアランスソナー	321
クルーズコントロール	322
高水温	318
シートベルト非着用	320
衝突警報	153
接近警報 (レーダークルーズコントロー	
ル)	185, 193
手放し運転警告 (LDA)	168
手放し運転警告 (LTA)	163
パワーステアリング	320
半ドア	83
半ドア走行時	85
PDA (プロアクティブドライビングアシス	
ト)	321
プリクラッシュセーフティシステム	321
プリクラッシュブレーキ	154
ブレーキ	318
ペダル誤操作	319
窓開	104
油圧	318
リバース	125
レーダークルーズコントロール	322
警告メッセージ	324
化粧ミラー (バニティミラー)	266

こ

交換

キーの電池	299
タイヤ	292
電球 (バルブ)	303
ヒューズ	301

航続可能距離	73
後退速度の抑制制御（ドライブスタート コントロール）.....	117
後退灯（バックアップランプ）	
電球（バルブ）の交換.....	303
コートフック	265
子供専用シート	
取り付け方	37
コンライト（自動点灯・消灯装置）.....	133

さ

サーキットモード	231
サイドエアバッグ	28
サイド方向指示灯	
電球（バルブ）の交換.....	303
方向指示レバー	131
サイドミラー（ドアミラー）	
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）	211
安心降車アシスト.....	223
格納のしかた.....	102
操作	101
BSM（ブラインドスポットモニター）.....	200
ミラーヒーター.....	245
サンバイザー	266

し

シート	
正しい運転姿勢.....	23
チャイルドシート.....	36
調整.....	94
手入れ.....	272, 274
ヘッドレスト.....	96
シートヒーター	249
シートベルト	25
お子さまの着用.....	25, 26
緊急時シートベルト固定機構	26

正しく着用するには	26
着け方・はずし方	26
手入れ	272
妊娠中の方の着用	25
非着用警告灯.....	320
シートベルト非着用警告灯.....	320
シートベルトプリテンショナー	
機能	27
プリテンショナー警告灯	319
Gモニター	67
室内灯（インテリアランプ）.....	251
始動のしかた	120
シフトポジション	125
シフトレバー	
シフトポジションの切りかえ.....	126
シフトレンジの切りかえ	127
操作	125, 129
リバース警告ブザー	125
車中泊が必要なときは	312
ジャッキ	
ガレージジャッキ	288
車幅灯	
電球（バルブ）の交換	303
ランプスイッチ	133
車両型式.....	356
車両仕様（スペック）	352
車両データの記録	6
車両を緊急停止するには.....	310
充電用 USB 端子.....	258
瞬間燃費.....	64, 73
仕様（車両仕様）.....	352
衝突時の急加速抑制	234
初期化	
パワーウインドウ	103
助手席シートベルト非着用警告灯	320

す

水温計.....	56
スイッチ	
車間距離切りかえスイッチ	183
スイッチ	
イグニッション.....	120
iMT スイッチ	130
ウインドロック.....	105
LTA (レーントレーシングアシスト).....	164
エンジンスイッチ.....	120
オートマチックハイビーム.....	136
クルーズコントロール.....	196
シートヒーター.....	250
車間距離切りかえ (レーダークルーズコン トロール)	182
車間距離切りかえスイッチ	191
SYNC (シンクロ) スイッチ	244
ステアリングヒーター.....	250
TRC OFF.....	234
ドアミラー.....	101
ドアロック	85
ドライブモードセレクト.....	227
パドルシフト.....	127
パワーウインドウ.....	103
表示切りかえ.....	59
VSC OFF.....	235
フロントウォッシャー.....	140
フロントワイパー.....	140
フロントワイパーデアイサー	247
方向指示レバー.....	131
ホーン (警音器).....	99
ミラーヒーター.....	244
メーター操作.....	61
4WD モードセレクトスイッチ	230
ランプ.....	133
リヤウインドウデフォグガー.....	244
リヤウォッシャー.....	141

リヤフォグランプ.....	139
リヤワイパー.....	141
レーダークルーズコントロール.....	179, 188, 190
スタック.....	349
ステアリングヒーター.....	249
ステアリングホイール (ハンドル)	
位置調整	99
ステアリングヒーター.....	249
メーター操作スイッチ	61
ステアリングロック.....	121
解除できないとき.....	121
警告メッセージ.....	121
ストップランプ (制動灯)	
電球 (バルブ) の交換.....	303
スノータイヤ (冬用タイヤ).....	240
スピードメーター.....	56
スペック (車両仕様).....	352
スマートエントリー&スタートシステム	
アンテナの位置.....	89
エンジンの始動.....	120
カスタマイズ設定.....	357
緊急始動機能.....	339
作動範囲	89
正常に働かないとき.....	341
節電機能	90
電波がおよぼす影響について.....	93
ドアの解錠・施錠.....	82
バックドアの解錠・施錠.....	87
スモールランプ (車幅灯)	
電球 (バルブ) の交換.....	303
ランプスイッチ.....	133
スリップ表示灯.....	234

せ

清掃

ウルトラスエード®	274
外装.....	268

シートベルト.....	272
内装.....	272, 274
ホイール・ホイールキャップ.....	268
マットクリア塗装.....	276
レーダー.....	149
制動灯	
電球 (バルブ) の交換.....	303
セカンダリーコリジョンブレーキ ...	234
積算距離計 (オドメーター).....	59
セキュリティインジケター.....	50
接近警報 (レーダークルーズコントロー ル).....	185, 193
センサー	
LDA (レーンディパーチャーアラート)	166
LTA (レーントレーシングアシスト).	162
後側方レーダーセンサー.....	201
ライトセンサー.....	134
レーダー.....	148, 224
洗車.....	268, 280
前照灯 (ヘッドランプ)	
電球 (バルブ) の交換.....	303
マニュアルレベリングシステム.....	135
ライトセンサー.....	134
ランプ消し忘れ防止機能.....	134
ランプスイッチ.....	133

そ

走行距離.....	66
走行時間.....	66
走行モード (ドライブモード).....	127, 227
速度計 (スピードメーター).....	56

た

ターニングナルランプ (方向指示灯)	
電球 (バルブ) の交換.....	303

方向指示レバー.....	131
タイヤ	
空気圧.....	296, 356
交換.....	292
チェーン.....	240
点検.....	290
パンク応急修理キット.....	329
パンクしたときは.....	329
冬用タイヤ.....	240
ホイールサイズ.....	356
ローテーション (位置交換).....	291
タイヤが空まわりする (スタックした)	349
タイヤチェーン.....	240
タコメーター.....	56
REV インジケター.....	58
REV ピーク.....	58

ち

チェーン (タイヤチェーン).....	240
チケットホルダー.....	255
チャイルドシート	
ISOFIX ロアアンカレッジでの取り付け	47
シートベルトでの固定.....	45
選択方法.....	36
駐車ブレーキ (パーキングブレーキ)	132
操作.....	132
冬季の注意.....	240
未解除走行時警告ブザー.....	132
メンテナンスデータ.....	356

て

ディスプレイ	
ヘッドアップディスプレイ.....	69
マルチインフォメーションディスプレイ	61

ディファレンシャル	
リヤディファレンシャル	355
手入れ	
外装	268, 276, 280
シートベルト	272
内装	272, 274
ホイール・ホイールキャップ	268
マットクリア塗装	276
レーダー	149
テールランプ (尾灯)	
電球 (バルブ) の交換	303
ランプスイッチ	133
デジタルキー	79
デフォッガー (リヤウインドウデフォッ ガー)	245
電球 (バルブ)	
交換要領 (外装バルブ)	303
ワット数	356
点検基準値 (メンテナンスデータ)	352
電子キー	76
作動範囲	89
正常に働かないとき	341
節電機能	90
電池が切れた	341
電池交換	299
電池交換 (キー)	299

と

ドア	82
スマートエントリー&スタートシステム	
	89
チャイルドプロテクター	85
ドアガラス	103
ドアロックスイッチ	85
バックドア	86
ロックレバー	85
ワイヤレスリモコン	82

ドアポケット	253
ドアミラー	
RCTA (リヤクロストラフィックアラート)	211
安心降車アシスト	223
格納のしかた	102
操作	101
BSM (ブラインドスポットモニター)	200
ミラーヒーター	245
盗難防止装置	
エンジンイモビライザーシステム	50
時計	56, 60
トップテザーアンカレッジ	48
ドライブスタートコントロール	
急発進の抑制制御	117
ドライブモードセレクトスイッチ	227
トラクションコントロール (TRC)	233
トランスファー	
メンテナンスデータ	354
トランスミッション	
オートマチックトランスミッション	125
操作	126
パドルシフトスイッチ	127
マニュアルトランスミッション	129
トリップメーター	59

な

内装	
収納装備	253
手入れ	272, 274

に

ニーエアバッグ	28
荷物	
積むときの注意	118
バックドア	86
ラゲージルーム内装備	256

ぬ

ぬかるみにはまった (スタック)349

ね

燃費

給油後平均燃費 73
 瞬間燃費 64, 73
 平均燃費 64, 73

燃料

給油 143
 種類 352
 燃料計 56
 燃料残量警告灯 320
 フューエルポンプシャットオフシステム
 317
 容量 352

燃料計 56

は

パーキングサポートブレーキ (後方接近
車両) 222パーキングサポートブレーキ (前後方静
止物) 220パーキングサポートブレーキ (PKSB)
..... 216

パーキングブレーキ 132

操作 132
 冬季の注意 240
 未解除走行時警告ブザー 132
 メンテナンスデータ 356

パーソナルランプ 252

排気ガス 34

ハイビーム (ヘッドランプ)

オートマチックハイビーム 136
 電球 (バルブ) の交換 303
 ランプスイッチ 133

ハイマウントストップランプ

電球 (バルブ) の交換 303

ハザーランプ (非常点滅灯)

電球 (バルブ) の交換 303

挟み込み防止機能

パワーウィンドウ 103

発炎筒 309

バックアップランプ (後退灯)

電球 (バルブ) の交換 303

バックドアオープナー 87

発進遅れ告知機能 199

バッテリー

警告灯 318

バッテリーがあがった 343

パドルシフトスイッチ 127

バニティ (化粧用) ミラー 266

バニティミラーランプ

装備について 266

バルブ (電球)

交換要領 (外装のバルブ) 303

ワット数 356

パワーウィンドウ

ウィンドウロックスイッチ 105

閉めることができないときは 103

初期化 103

操作 103

ドアロック連動ドアガラス開閉機能 ... 104

挟み込み防止機能 103

巻き込み防止 103

パワーステアリング 234

警告灯 320

パンク応急修理キット 329

番号灯 (ライセンスプレートランプ)

電球 (バルブ) の交換 303

ランプスイッチ 133

ワット数 356

ハンドル (ステアリングホイール)

位置調整 99

ステアリングヒーター	249
メーター操作スイッチ	61

ひ

ビークルスタビリティコントロール (VSC)	233
ヒーター	
エアコン・デフォグガー	244
シートヒーター	249
ステアリングヒーター	249
ミラーヒーター	245
非常点滅灯	
緊急ブレーキシグナル	234
非常点滅灯 (ハザードランプ)	
電球 (バルブ) の交換	303
尾灯 (テールランプ)	
電球 (バルブ) の交換	303
ランプスイッチ	133
ヒューズ	301
表示切りかえボタン	59
表示灯	53
日よけ (サンバイザー)	266
ヒルスタートアシストコントロール	234

ふ

ブースターケーブルのつなぎ方	343
ブザー	
接近警報 (レーダークルーズコントロー ル)	185, 193
手放し運転警告 (LDA)	168
手放し運転警告 (LTA)	163
パーキングブレーキ未解除走行時警告	132
半ドア走行時警告	85
窓開警告	104
リバース警告	125
フック	
買い物フック	256

けん引フック	314
コートフック	265
フロアマット固定フック	22
フューエルポンプシャットオフシステム	317
フューエルメーター	56
フューエルリッド (給油口)	
給油のしかた	143
冬の前の準備 (寒冷時の運転)	240
冬用タイヤ	240
ブラインドスポットモニター (BSM)	200
ブリクラッシュセーフティ (PCS)	
機能	153
PCS 警告灯	321
ブレーキ	
緊急ブレーキシグナル	234
警告灯	318
パーキングブレーキ	132
メンテナンスデータ	355
ブレーキアシスト	233
ブレーキフルード	355
フロアマット	22
フロントシート	
シートヒーター	249
正しい運転姿勢	23
調整	94
手入れ	272, 274
ヘッドレスト	96
フロント方向指示灯	
電球 (バルブ) の交換	303
方向指示レバー	131
フロントワイパーデアイサー	247

へ

平均車速	66, 73
平均燃費	64, 73

ヘッドアップディスプレイ	69
運転支援システム表示	71
エコドライブインジケーター	72
設定	71
割り込み表示	72
ヘッドランプ	
電球（バルブ）の交換	303
マニュアルレベリングシステム	135
ライトセンサー	134
ランプ消し忘れ防止機能	134
ランプスイッチ	133
ヘッドレスト	96

ほ

ホイール	
交換（タイヤ）	292
メンテナンスデータ	356
方向指示灯	
電球（バルブ）の交換	303
方向指示レバー	131
ホーン（警音器）	99
保証	8
ボトルホルダー	254
ボンネット	286
開け方	286

ま

マイセッティング	106
マットクリア塗装のお手入れ	276, 280, 283
マニュアルトランスミッション	129
メンテナンスデータ	354
マルチインフォメーションディスプレイ	
運転支援機能情報表示	62, 65
エコドライブインジケーター	65
オーディオシステム連携	66
警告メッセージ	324

G モニター	67
設定	68
時計	60
ドライブインフォメーション	66
燃費グラフ	64
ブーストメーター	67
メーター操作スイッチ	61

み

ミラー	
アウトターミラー	101
インナーミラー	100
ドアミラー	101
パニティミラー	266
ミラーヒーター	245

め

メーター	
計器類	56
警告灯	318
警告メッセージ	324
照度調整	60
設定	68
時計	56
表示灯	53
マルチインフォメーションディスプレイ	61
メーター操作スイッチ	61
メーター照度調整	59
メカニカルキー	78
メンテナンスデータ	352

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能	357
雪道ですべて動けない（スタックした）	349

油脂類.....352

方向指示レバー.....131

ら

ライセンスプレートランプ (番号灯)

電球 (バルブ) の交換.....303

ランプスイッチ.....133

ラゲージルーム.....86, 256

ラゲージルーム内の装備.....256

ラゲージルームランプ.....88

ラジエーター

オーバーヒート.....347

メンテナンスデータ.....353

ランプ

室内灯.....251

電球 (バルブ) の交換.....303

非常点滅灯 (ハザードランプ).....309

ヘッドランプ (前照灯).....133

方向指示灯 (ターンシグナルランプ/ウィンカー).....131

ライトセンサー.....134

ランプ消し忘れ防止機能.....134

リヤフォグランプ.....139

ランプ消し忘れ防止機能.....134

り

リヤウインドウデフォグガー.....245

リヤクロストラフィックアラート

(RCTA).....211

リヤシート.....95

ヘッドレスト.....96

リヤシートリマインダー機能.....84

リヤ席シートベルト非着用警告灯...320

リヤフォグランプ.....139

電球 (バルブ) の交換.....303

ランプスイッチ.....139

リヤ方向指示灯

電球 (バルブ) の交換.....303

る

ルームミラー (インナーミラー).....100

れ

冷却水

冬の前の準備.....240

メンテナンスデータ.....353

冷却装置 (ラジエーター)

オーバーヒート.....347

メンテナンスデータ.....353

レーダークルーズコントロール

接近警報.....185, 193

レーダー.....148

レーンディパーチャーアラート (LDA)

.....166

レントレーシングアシスト (LTA)

.....162

レバー

シフト.....125, 129

方向指示.....131

ボンネット解除.....286

ろ

ロードサインアシスト (RSA).....176

ローンチコントロール.....228

ロック

ウインドウロック.....105

スマートエントリー&スタートシステム

.....89

チャイルドプロテクター.....85

ドア.....82

ワイヤレスリモコン.....77

わ

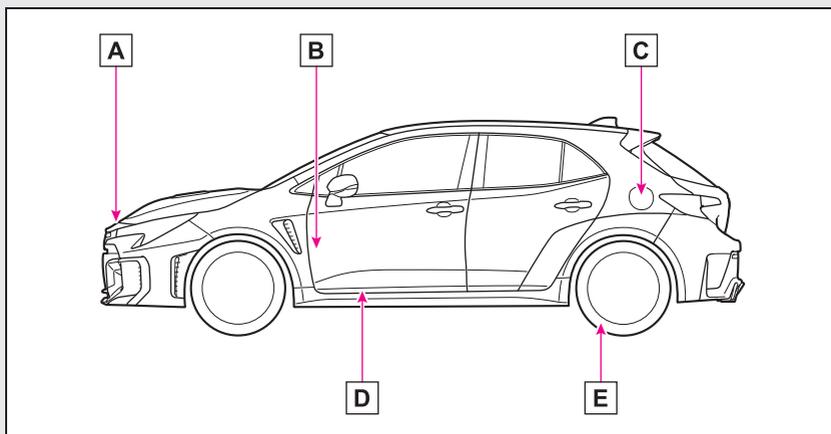
ワイパー&ウォッシャー	
ウォッシャー液の補充	289
フロント	140
リヤ	141
ワイパーブレード (寒冷地用)	241
ワイヤレス充電器 (おくだけ充電)	258
ワイヤレスリモコン	
作動の合図	83
操作	77
電池の交換	299
半ドア警告ブザー	83
ワックス	268
ワット数	356

次の装備は、別冊「マルチメディア取扱説明書」をお読みください。

- ・ オーディオ
- ・ ナビゲーションシステム
- ・ 音声操作システム
- ・ ハンズフリー
- ・ T-Connect
- ・ ETC2.0 システム

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要な項目をまとめてあります。



- A** ボンネットフック (→P.286)
- B** ボンネット解除レバー (→P.286)
- C** 給油口 (→P.144)
- D** 給油扉オープナースイッチ (→P.144)
- E** タイヤ空気圧 (→P.356)

燃料の容量 (参考値)	50L	
燃料の種類	<ul style="list-style-type: none"> ・ 無鉛プレミアムガソリン ・ バイオ混合ガソリン (プレミアム) ※ ※ エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン (酸素含有率 3.7%以下) を使用することができます。	P.352
タイヤが冷えているときの空気圧		P.356
エンジンオイル容量 (参考値)		P.352
エンジンオイルの種類	トヨタ純正キャスルモーターオイル	P.352

お車の取り扱い方法、故障、修理に関するご相談については、お買い上げいただきましたトヨタ販売店、または最寄りのトヨタ販売店へお問合せください。また、リコール情報については、右記の QR コードからご確認ください。

販売店検索



リコール等情報



トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号



お電話によるお問い合わせ



全国共通・フリーコール

0800-700-7700



WEBページからのお問い合わせ



インターネットフォーム
によるお問い合わせ



チャットによる
お問い合わせ



手話通訳サービス
によるお問い合わせ

各お問い合わせサービスのご利用・受付時間など詳細につきましては右記の QR コードからご確認ください。

「個人情報保護方針」については、https://toyota.jp/privacy_statement/にて掲載しております。



●ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）をご用意いただくと、スムーズな対応が可能です。

●QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

トヨタ自動車株式会社
<https://toyota.jp>

